
JD Edwards EnterpriseOne 買掛 管理 9.0 製品ガイド

2008 年 12月

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理 9.0 製品ガイド
SKU E190AAP-B 1208JPN

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993–2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999–2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.

Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.

Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.

This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).

This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com). All rights reserved.

This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

目次

はじめに

この PeopleBook について	xvii
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xvii
アプリケーションの基礎.....	xvii
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xviii
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xviii
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xviii
追加情報.....	xviii
表記規則.....	xx
表記規則.....	xx
注意事項の表示.....	xxi
国、地域、業種の表記.....	xxi
通貨コード.....	xxii
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xxii
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxii

まえがき

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理 – まえがき.....	xxv
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xxv
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xxv
この製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxvi

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理 – はじめに.....	1
買掛管理システムの概要.....	1
買掛管理のビジネス・プロセス.....	1
買掛管理の統合.....	2
買掛管理の導入.....	4
グローバル導入の手順.....	5
買掛管理の導入手順.....	5

第 2 章

買掛管理システムの設定.....	7
------------------	---

買掛管理のシステム設定について.....	7
買掛管理の固定情報の設定.....	8
買掛管理の固定情報について.....	8
買掛管理固定情報の設定に使用するフォーム.....	9
買掛管理固定情報の設定.....	9
買掛管理のユーザー定義コード(UDC)の設定.....	10
買掛管理の自動採番の設定.....	15
買掛管理の自動採番について.....	15
買掛管理の自動採番の設定に使用するフォーム.....	16
買掛管理の自動採番の設定.....	16
買掛管理のAAI(自動仕訳)の設定.....	17
買掛管理のAAIについて.....	17
買掛管理のAAIの設定.....	21
 第 3 章	
買掛管理システムの自動支払処理の設定.....	23
自動支払処理の設定について.....	23
受取人制御の設定.....	24
受取人制御について.....	24
受取人制御の設定に使用するフォーム.....	26
受取人制御サーバー – 処理オプション (A/P Payee Control Server – Processing Options) (X0450) の処理オプションの設定.....	26
支払手段と印刷プログラムの設定.....	27
支払手段への印刷プログラムの割当について.....	27
事前設定.....	28
支払手段と印刷プログラムの設定に使用するフォーム.....	28
支払手段への印刷プログラムの割当.....	28
支払印刷順序の設定.....	29
印刷順序について.....	29
支払印刷順序の設定に使用するフォーム.....	29
支払順序の設定.....	29
ビジネスユニット別支払情報の設定.....	30
ビジネスユニット別支払情報の印刷方法について.....	30
ビジネスユニット別支払情報の設定に使用するフォーム.....	31
ビジネスユニット別支払情報の印刷設定.....	31
支払への会社名出力の設定.....	31
支払への会社名出力の設定方法について.....	32
支払への会社名出力の設定に使用するフォーム.....	32
支払への会社名出力の設定.....	32

EFT支払の設定.....	33
EDI支払の設定.....	34

第 4 章

支払フォーマットの設定.....	37
支払フォーマットについて.....	37
事前設定.....	37
標準支払フォーマットの設定.....	37
標準支払フォーマットについて.....	38
自動支払(小切手 - 標準形式)(R04572)の処理オプションの設定.....	38
自動支払 - 手形フォーマット(R04572N)の処理オプションの設定.....	39
銀行テープ作成 - PPD形式(R04572T1)の処理オプションの設定.....	39
銀行テープの作成 - CTXフォーマット(R04572T2)の処理オプションの設定.....	41
銀行テープの作成 - EDIフォーマット(R47052T)の処理オプションの設定.....	42
自動支払 - 下請処理(R04572J)の処理オプションの設定.....	43

第 5 章

仕入先情報の入力.....	45
仕入先マスター情報について.....	45
この章で使用する共通フィールド.....	47
仕入先マスター情報の入力.....	48
仕入先マスター情報について.....	48
「仕入先マスターの改訂」フォームの「事前通知コード」チェックボックスについて.....	49
源泉徴収対象の仕入先の設定方法について.....	49
(ARG)アルゼンチン用の事前設定.....	50
仕入先マスター・レコードの入力に使用するフォーム.....	51
仕入先マスターの改訂(P04012)の処理オプションの設定.....	51
仕入先マスターMBF(P0100043)の処理オプションの設定.....	52
仕入先マスター・レコードの入力.....	52
(ARG)アルゼンチンの仕入先情報の入力.....	55
仕入先への銀行口座の設定.....	55
サプライヤ・セルフサービス・プログラムの使い方.....	56
サプライヤ・セルフサービス・プログラムについて.....	57
サプライヤ・セルフサービスを使用して仕入先情報を更新する際に使用するフォーム.....	57
サプライヤ・セルフサービス(P04012SS)の処理オプションの設定.....	57
サプライヤ・セルフサービス・プログラムの使い方.....	57
仕入先の複数銀行口座の設定.....	59
仕入先に対して複数の銀行口座を設定する処理について.....	59

銀行口座を仕入先レコード・タイプとして使用方法について.....	60
仕入先に複数の銀行口座を設定する際に使用するフォーム.....	60
仕入先の複数銀行口座の設定.....	60
支払手段と勘定科目の関係の設定.....	61
支払手段と勘定科目の関係の設定処理について.....	61
支払手段と勘定科目の関係の設定に使用するフォーム.....	61
支払手段と勘定科目の関係の設定.....	61
(JPN) 日本の仕入先情報の設定.....	62
日本の仕入先情報について.....	62
事前設定.....	63
日本の仕入先情報の設定に使用するフォーム.....	64
日本の仕入先情報の設定.....	64
承認者フィールドとカテゴリ・コード7フィールドの更新.....	65
承認者/カテゴリ・コード7レポートについて.....	65
承認者/カテゴリ・コード7レポートの実行.....	66
承認者/カテゴリ・コード7(R04802)の処理オプションの設定.....	66
年累計伝票金額の確認.....	66
年累計伝票金額について.....	66
計算方法について.....	67
年累計伝票金額の更新プログラム(R04820A)の実行.....	68
年累計伝票金額の更新(R04820A)の処理オプションの設定.....	68

第 6 章

買掛管理伝票の処理.....	69
伝票の処理について.....	69
標準伝票の入力.....	73
標準伝票について.....	73
その他の伝票入力方法について.....	76
伝票入力マスター・ビジネス関数(MBF)について.....	78
事前設定.....	79
標準伝票の入力に使用するフォーム.....	79
標準伝票入力(P0411)の処理オプションの設定.....	80
伝票入力MBF(P0400047)の処理オプションの設定.....	87
標準伝票の入力.....	89
勘定科目情報の入力.....	93
(POL) ポーランドの追加伝票情報の入力.....	94
栽培契約の追加情報の入力.....	94
スピード伝票入力(P0411SV)の処理オプションの設定.....	94
スピード伝票の入力.....	95

単一仕入先に対する複数伝票の入力.....	96
複数仕入先に対する複数伝票の入力.....	96
複数会社および単一仕入先に対する伝票の入力.....	97
仮伝票の処理.....	97
仮伝票の処理について.....	98
事前設定.....	99
仮伝票の処理に使用するフォーム.....	100
仮伝票の入力.....	100
仮勘定の振替 (P042002) の処理オプションの設定.....	101
仮伝票の振替.....	101
経費勘定の入力.....	102
定期伝票の処理.....	103
定期伝票について.....	104
再作成処理について.....	106
事前設定.....	107
定期伝票の入力に使用するフォーム.....	107
定期伝票情報の入力.....	108
定期伝票の再作成レポートの実行.....	108
定期伝票の再作成レポート (R048101) の処理オプションの設定.....	108
定期伝票レポートの実行.....	108
定期伝票レポート (R04305) の処理オプションの設定.....	108
前払処理.....	109
前払について.....	109
事前設定.....	111
前払処理に使用するフォーム.....	112
前払伝票の入力.....	112
前払伝票のマイナスの支払項目の決済.....	113

第 7 章

バッチ伝票の処理.....	115
バッチ伝票の処理について.....	115
事前設定.....	116
バッチ伝票の処理.....	116
バッチ伝票の処理について.....	116
事前設定.....	119
バッチ伝票処理レポートの実行.....	119
バッチ伝票処理レポート (R04110ZA) の処理オプションの設定.....	119
バッチ伝票の利用.....	121
バッチ伝票の改訂プログラムについて.....	121

バッチ伝票の利用に使用するフォーム.....	122
バッチ伝票の改訂 (P0411Z1) の処理オプションの設定.....	122
処理済バッチ伝票の除去.....	123
処理済バッチ伝票の除去について.....	124
バッチ伝票入力の除去レポートの実行.....	124

第 8 章

EDI受信による伝票の処理.....	125
EDI伝票の処理について.....	125
EDI受信伝票トランザクションの転送.....	127
伝票の編集/作成プログラムについて.....	127
伝票の編集/作成プログラムの処理オプションの実行.....	128
伝票の編集/作成 (R47041) の処理オプションの設定.....	128
処理済EDI受信伝票データの削除.....	129
受信伝票の削除レポートについて.....	129
受信伝票の削除レポートの実行.....	129

第 9 章

支払伝票の準備.....	131
売掛金/買掛金相殺について.....	131
制御データに対する変更の検討と承認.....	132
制御データに対する変更の検討および承認プロセスについて.....	132
制御データに対する変更の検討と承認に使用するフォーム.....	133
制御データに対する変更の検討と承認.....	133
制御データに対する変更の印刷.....	134
承認済受取人制御レコードの除去.....	134
源泉徴収税の計算.....	134
源泉徴収税の計算について.....	134
源泉徴収金額の支払処理について.....	135
事前設定.....	135
源泉徴収税の計算レポートの実行.....	136
源泉徴収税の計算 (R04580) の処理オプションの設定.....	136
支払予定の決定.....	136
支払予定レポートについて.....	137
支払予定レポートの実行.....	137
支払予定レポートのデータ選択の設定.....	137
支払予定レポート (R04431) の処理オプションの設定.....	137
スピード・リリース・プログラムを使用した伝票の検討と改訂.....	138

スピード・リリース・プログラムについて.....	138
スピード・リリースを使用した伝票の検討と改訂に使用するフォーム.....	140
スピード・リリース(P0411S)の処理オプションの設定.....	140
個別の支払項目の改訂.....	141
複数伝票の改訂.....	142
支払伝票の分割.....	143

第 10 章

自動支払処理.....	145
自動支払処理について.....	145
支払グループの作成.....	147
支払グループの作成プログラムについて.....	147
割引が適用される伝票について.....	150
支払グループの自動採番について.....	150
事前設定.....	151
支払グループの作成プログラムの実行.....	151
支払グループの作成のデータ順序の設定.....	151
支払グループの作成(R04570)の処理オプションの設定.....	153
支払グループの処理.....	158
支払処理のプロセスについて.....	158
支払グループの確認プロセスについて.....	159
未処理の支払の改訂プロセスについて.....	159
書込みプロセスについて.....	160
支払のリセット・プロセスについて.....	162
処理済の支払の削除プロセスについて.....	163
支払の更新プロセスについて.....	163
支払グループの処理に使用するフォーム.....	166
支払グループの処理(P04571)の処理オプション.....	167
支払の分割.....	171
支払の決済日付の改訂.....	171
支払グループの管理情報の改訂.....	172
支払の書込み.....	172
自動支払と伝票の無効化.....	173
自動支払と伝票の無効化プロセスについて.....	173
自動支払と伝票の無効化に使用するフォーム.....	174
自動支払と伝票の無効化.....	174
ディスクへの支払のコピー.....	175
支払をディスクにコピーするプロセスについて.....	175
ディスクへの支払のコピーに使用するフォーム.....	176

銀行テープ・ファイルのテープへのコピー (P0457) の処理オプションの設定.....	176
銀行ファイルのフロッピーディスクへのコピー (P0457D) の処理オプションの設定.....	177
テープ・テーブルの状況と詳細の確認および変更.....	178
テープ・テーブルのディスクへのコピー.....	178

第 11 章

EDI送信による支払の処理.....	181
EDI送信による支払処理について.....	181
送信支払トランザクションの転送.....	182
EDI送信ファイルへのコピー・プログラムについて.....	182
EDI送信ファイルへのコピーレポートの実行.....	182
EDI送信ファイルへのコピーレポートのデータ選択の設定.....	182
処理済トランザクションの更新.....	183
送信データの更新プログラムについて.....	183
送信データの更新プログラムの実行.....	184
処理済EDI送信支払データの削除.....	184
EDIファイル削除レポートについて.....	184
EDIファイル削除レポートの実行.....	184

第 12 章

支払手形の処理.....	185
手形の処理について.....	185
事前設定.....	187
支払済手形の決済.....	188
支払済手形の決済方法について.....	188
支払済手形の決済に使用するフォーム.....	188
支払済手形の決済.....	188
決済済手形の転記.....	188
決済済手形の転記処理について.....	188
支払手形の転記プログラムの実行.....	188
支払手形の転記 (R04803) の処理オプションの設定.....	188

第 13 章

手入力支払の処理.....	191
手入力支払の処理について.....	191
手入力支払 (伝票照合あり) の入力.....	193
手入力支払 (伝票照合あり) について.....	193

手入力支払(伝票照合あり)の入力に使用するフォーム.....	194
支払入力(伝票照合あり)(P0413M)の処理オプションの設定.....	194
手入力支払(伝票照合あり)の入力.....	197
手入力支払の支払項目の選択.....	199
手入力支払(伝票照合なし)の入力.....	200
既存伝票のない支払の入力について.....	200
事前設定.....	201
手入力支払(伝票照合なし)に使用するフォーム.....	201
手入力支払(伝票照合なし)の入力.....	201
手入力支払の印刷.....	202
手入力支払の印刷方法について.....	202
手入力支払の印刷に使用するフォーム.....	203
手入力支払の印刷.....	203
手入力支払の削除および無効化.....	203
手入力支払の削除および無効化方法について.....	203
事前設定.....	205
手入力支払(伝票照合あり/なし)の削除および無効化に使用するフォーム.....	205
手入力支払の無効化.....	205

第 14 章

プラス支払の使い方.....	207
プラス支払について.....	207
事前設定.....	207
プラス支払テキスト・ファイルの作成.....	207
プラス支払テキスト・ファイルの作成プログラムについて.....	208
プラス支払テキスト・ファイルの作成プログラムの実行.....	209
プラス支払テキスト・ファイルの作成(R04586)の処理オプションの設定.....	209
プラス支払テキスト・ファイルのコピー.....	210
テキスト・ファイル処理プログラムについて.....	210

第 15 章

基準日レポートの作成.....	211
基準日処理について.....	211
日付ファイルの作成.....	211
日付ファイルの作成レポートについて.....	211
日付ファイルの作成レポートの実行.....	212
日付ファイルの作成(R04901A)の処理オプションの設定.....	212
基準日未決済買掛金集計レポートの実行.....	213

事前設定.....	213
基準日未決済買掛金集計レポートの作成.....	213
基準日未決済買掛金集計レポート(R04413C)の処理オプションの設定.....	213
基準日買掛金明細(備考付き)レポートの実行.....	215
基準日買掛金明細(備考付き)レポートについて.....	215
事前設定.....	215
基準日買掛金明細(備考付き)レポートの作成.....	215
基準日買掛金明細(備考付き)(R04423C)の処理オプションの設定.....	215
基準日未決済買掛金明細(年齢調べ付き)レポートの実行.....	216
基準日未決済買掛金明細(年齢調べ付き)レポートについて.....	216
事前設定.....	216
基準日未決済買掛金明細(年齢調べ付き)レポートの作成.....	216
基準日未決済買掛金明細(年齢調べ付き)(R04423D)の処理オプションの設定.....	216

第 16 章

買掛管理データの整合性検証.....	219
買掛管理の整合性レポートについて.....	219
買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)レポートの実行.....	219
買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)レポートについて.....	220
買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)レポートの印刷.....	220
買掛金元帳 - 総勘定元帳(支払)レポートの実行.....	220
買掛金元帳 - 総勘定元帳(支払)レポートについて.....	221
買掛金元帳 - 総勘定元帳(支払)レポートの印刷.....	221
買掛金元帳 - 総勘定元帳(勘定科目)レポートの実行.....	221
買掛金元帳 - 総勘定元帳(勘定科目)レポートについて.....	221
買掛金元帳 - 総勘定元帳(勘定科目)レポートの印刷.....	222
支払 - 買掛金(更新)レポートの実行.....	222
支払 - 買掛金(更新)レポートについて.....	222
支払 - 買掛金(更新)レポートの印刷.....	222
支払 - 買掛金(更新)(R04713)の処理オプションの設定.....	222
貸借不一致の訂正.....	223

第 17 章

買掛金レコードの除去.....	227
支払済レコードを買掛管理システムから除去する方法について.....	227
事前設定.....	228
支払済買掛金レコードの除去.....	228
支払済買掛金レコードの除去プログラムの実行.....	228

支払済買掛金レコードの除去のデータ選択とデータ順序の設定.....	228
支払済買掛金レコードの除去 (R04800) の処理オプションの設定.....	229

付録 A

バッチ入力テーブルへの伝票取引のマッピング.....	231
伝票アップロード・テーブル (F0411Z1) のフィールドのマッピング.....	231
仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1) のフィールドのマッピング.....	247

付録 B

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理の標準ワークフロー.....	251
JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理の標準ワークフロー.....	251
伝票のバッチ承認.....	251

付録 C

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理レポート.....	253
JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理のすべてのレポート.....	253
JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理の主なレポート.....	256
R04305 - 伝票仕訳帳.....	256
伝票仕訳帳 (R04305) の処理オプション.....	256
R04311 - 支払仕訳帳.....	256
支払仕訳帳のデータ選択.....	257
支払仕訳帳 (R04311) の処理オプション.....	257
R04413 - 買掛金集計レポート.....	257
買掛金集計レポート (R04413) のデータ順序.....	258
買掛金集計レポート (R04413) の処理オプション.....	258
R04423A - 仕入先別買掛金明細 - 備考/金額付き.....	259
仕入先別買掛金明細 - 備考/金額付きのデータ選択.....	259
仕入先別買掛金明細 - 備考/金額付きのデータ順序.....	259
仕入先別買掛金明細 - 備考/金額付き (R04423A) の処理オプション.....	260
R04423B - 買掛金明細 - 年齢調べ付き.....	260
買掛金明細 - 年齢調べ付きのデータ選択.....	260
買掛金明細 - 年齢調べ付きのデータ順序.....	260
買掛金明細 - 年齢調べ付き (R04423B) の処理オプション.....	261
R04424 - 支払明細.....	262
支払明細のデータ順序.....	262
支払明細 (R04424) の処理オプション.....	262
R04428A - 買掛金明細 - 承認者別備考付き.....	262

買掛金明細 – 承認者別備考付き (R04428A) の処理オプション.....	263
R04428B – 買掛金明細 – 承認者別年齢調べ付き.....	263
買掛金明細 – 承認者別年齢調べ付き (R04428B) の処理オプション.....	263
R04578 – 支払分析レポート.....	264
支払分析レポート (R04578) の処理オプション.....	264
R04601 – 重複と考えられる支払.....	264
重複と考えられる支払のデータ順序.....	264
重複と考えられる支払 (R04601) の処理オプション.....	265
R04602 – 仕入先分析.....	265
仕入先分析のデータ順序.....	265
仕入先分析 (R04602) の処理オプション.....	265
R09313 – 支払記録.....	265
支払記録のデータ順序.....	266
支払記録 (R09313) の処理オプション.....	266
R09450 – 仕入先/顧客合計 – 勘定科目別.....	266
仕入先/顧客合計 – 勘定科目別 (R09450) の処理オプション.....	266
 JD Edwards EnterpriseOne用語集.....	 267
 索引	 283

この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

注意: 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお薦めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）
- ドキュメンテーションのダウンロード

最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

重要: アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html

ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒()で区切られています。
[] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

注意事項の表示

表記規則

注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

注意: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

国の表記

国際標準化機構(ISO)が定める国コードを使って表記しています。

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF(米国連邦政府)

- E&G(教育/公的機関)

通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合があります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	<p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/1C)のコードが表示されます。値は次のとおりです。</p> <p>空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。</p> <p>A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。</p> <p>D: バッチが正常に転記されています。</p> <p>E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。</p> <p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。</p>

	U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。
事業所	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
ビジネスユニット	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
カテゴリ・コード	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
会社	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
通貨コード	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
伝票会社	<p>伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
伝票番号	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
伝票タイプ	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票 R: 売掛金伝票 T: 時間および給与伝票 I: 在庫伝票 O: 購買オーダー伝票 S: 受注オーダー伝票</p>
有効日付	<p>住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住所の変更が有効になる日付 • 賃貸契約が有効になる日付

- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

会計期間、会計年度

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

元帳日付

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 製品
- JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎
- この製品ガイドで使用する共通フィールド

JD Edwards EnterpriseOne 製品

この製品ガイドには、オラクル社の次の JD Edwards EnterpriseOne 製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne 住所録
- JD Edwards EnterpriseOne 収益性分析
- JD Edwards EnterpriseOne 固定資産管理
- JD Edwards EnterpriseOne 一般会計
- JD Edwards EnterpriseOne Grower Management
- JD Edwards EnterpriseOne 調達管理

JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド』に記載されています。

JD Edwards EnterpriseOne の最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOne は、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて <http://oracle.com/contracts/index.html> のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 – はじめに」、「JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 – 導入」

この製品ガイドで使用する共通フィールド

銀行勘定科目

総勘定元帳の勘定科目を識別する値を入力します。勘定科目コードの入力には、次のいずれかの形式を使用します。

標準勘定科目コード(ビジネスユニット.主科目.補助科目または任意形式)
第3勘定科目(最大25桁)

勘定科目ID番号。8桁の数字です。

スピード・コード(AAI項目SPに付ける2文字のコード)。勘定科目コードのかわりにこのコードを入力できます。

最初の文字は勘定科目コードの形式を示します。勘定科目コードの形式は、一般会計固定情報で定義します。

レコード・タイプと銀行勘定の関係を設定する場合は、銀行勘定フィールドにのみ値を入力します。

次の支払状況

ユーザー定義コード(UDC)“支払状況コード(00/PS)”に定義されている各コードを使用して、伝票や請求書に対して次に割り当てられる状況を示すコードを入力します。コードは次のとおりです。

P: 支払済。伝票または請求書は全額支払済です。

A: 承認済。伝票または請求書は支払承認済で未払いです。

H: 承認保留中。

R: 留保金。

%: 源泉徴収適用。

?: その他のコード。その他の理由で支払が滞留している状況です。

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでは、“その他のコード”の支払の印刷は行われません。

支払手段

UDC “支払手段(00/PY)”に定義されているコードを使用して、仕入先への支払方法や顧客からの入金方法を指定するコードを入力します。支払手段の例として、小切手、電子資金決済、ロックボックス、EDIなどがあります。

税ID

各種の納税先によって指定されている税IDを入力します。社会保障番号、連邦または州の法人税ID、売上税番号などがこれに該当します。TAXC(個人/法人コード)の値に応じて、番号が検証され、区切り文字が適切なフォーマットで印刷されます。TAXCの値が存在しない場合は、法人が使用されます。

買掛管理のレコードの1099処理に使用する税IDのデフォルト値は仕入先マスターから取得されます。

源泉徴収税率

仕入先への支払から差し引く源泉徴収税の税率を入力します。この値は、小数を使って表します。たとえば、20%の場合は、「.2000」と入力します。

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理 – はじめに

この章では、次の内容について説明します。

- 買掛管理システムの概要
- 買掛管理のビジネス・プロセス
- 買掛管理の統合
- 買掛管理の導入

買掛管理システムの概要

買掛金を管理する部署には、仕入先への支払を常に滞りなく行い、組織の業務要件に柔軟に対応するための様々な業務があります。

仕入先関係の管理

買掛管理部門には、各仕入先との関係を確立し、それらを維持して、関係に伴うすべての条件が満たされるように管理する責任があります。

請求書の処理

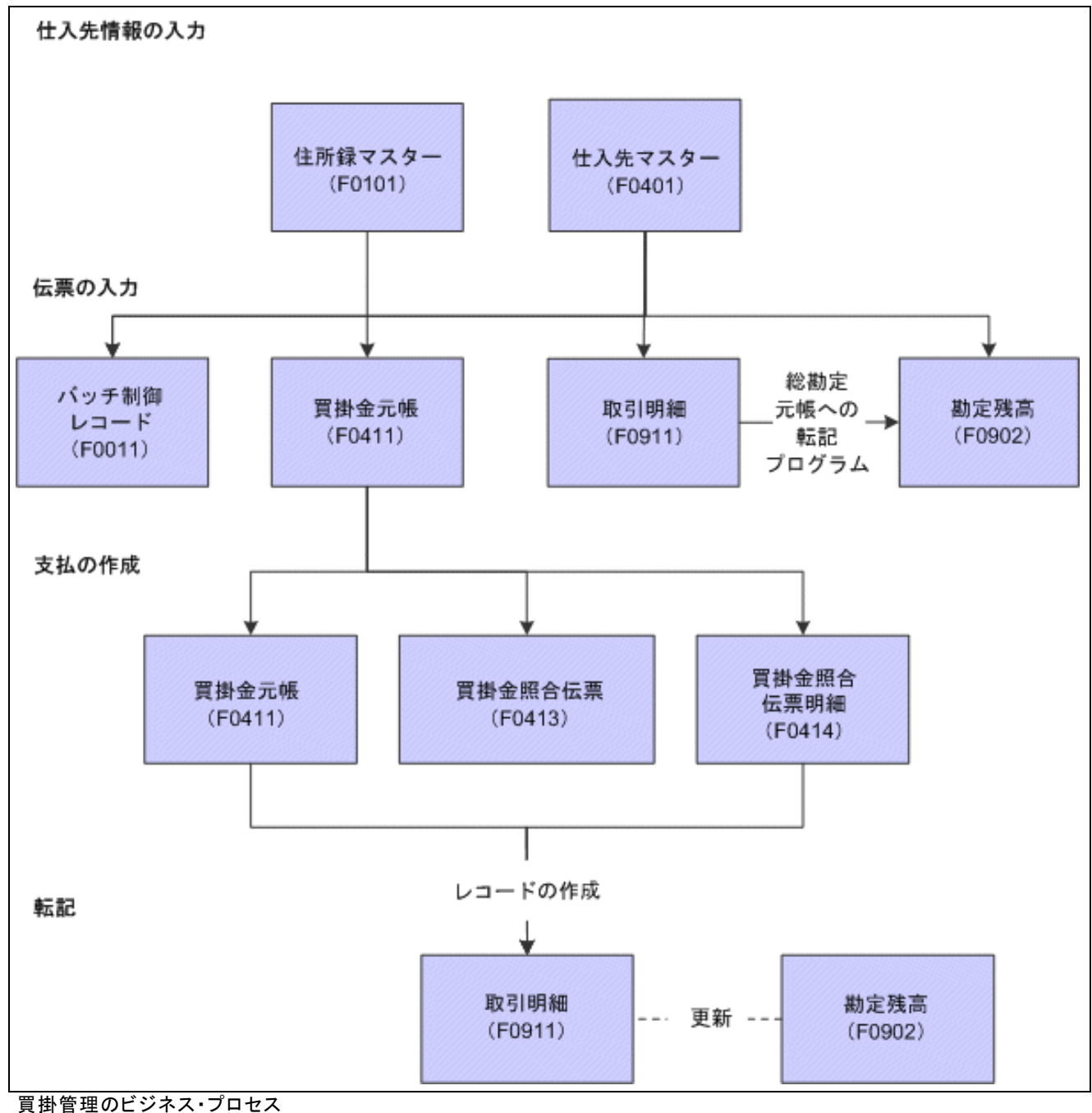
買掛管理部門は、請求書を受領し、負債および対応する費用または資産を記録します。買掛管理部門では、仕入先からの請求書や、購買部門などの他部門で入力された購買オーダーと伝票との照合を行う場合もあります。

支払処理

買掛管理部門では、支払が最も適時に、正確に、効率的に行われるように処理されます。仕入先への支払の前に、請求書の支払期日、値引の可/不可、仕入先への支払予定金額に対する現在の手許現金額など、複数の要素について確認する必要があります。

買掛管理のビジネス・プロセス

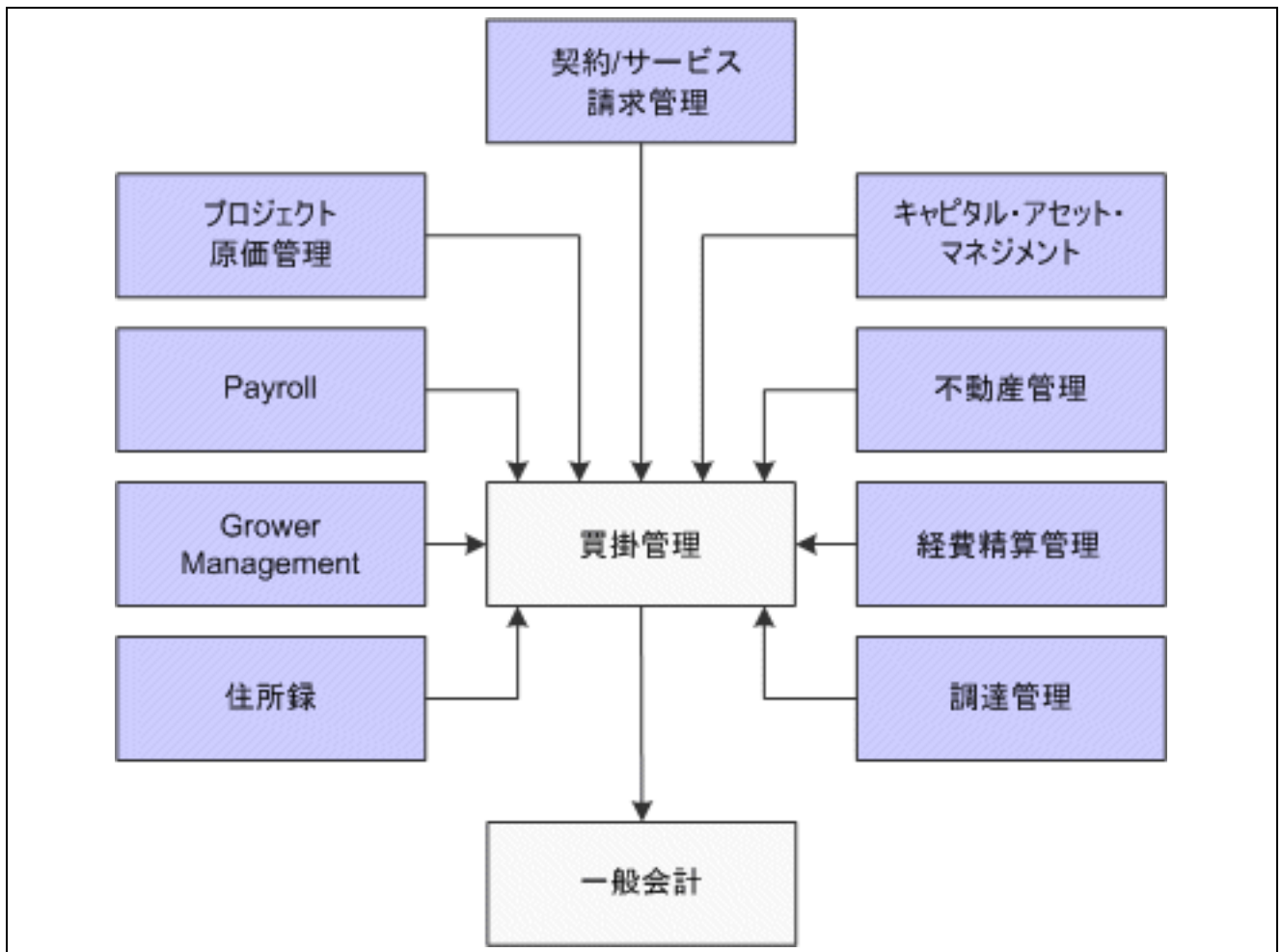
次のプロセス・フローは、買掛管理のビジネス・プロセスを表しています。



買掛管理の統合

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでは、JD Edwards EnterpriseOneのその他のシステムとの連動によって、すべての買掛金取引や買掛金情報がシステム内に統合されます。

次の図は、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムとその他のシステムとの統合を示しています。



JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムの統合

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムは、次のシステムとの統合が可能です。

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計

伝票や支払の処理時に、このシステムによって総勘定元帳の様々な勘定科目の貸方/借方仕訳が行われます。伝票を入力すると、総勘定元帳の費用科目が借方に仕訳され、買掛金勘定が貸方に仕訳されます。伝票の支払時には、買掛金勘定が借方に仕訳され、銀行勘定が貸方に仕訳されます。仕入先からの請求書と入荷確認書が照合されると、JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムで伝票が作成されます。

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理

仕入先からの請求書と入荷確認書が照合されると、このシステムによって伝票が作成されます。

JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理

このシステムによって原価トランザクションが累計され、その情報がJD Edwards EnterpriseOneシステムに記録されます。

JD Edwards EnterpriseOne キャピタル・アセット・マ ネジメント(CAM)および JD Edwards EnterpriseOne 固定資産管理:

設備料金を入力すると、JD Edwards EnterpriseOne キャピタル・アセット・マネジメント・システムによって、伝票の購買オーダーから設備番号が自動的に取得されます。

資産を取得したり、既存の資産を維持するために商品を購入すると、JD Edwards EnterpriseOne キャピタル・アセット・マネジメント・システムの一部であるJD Edwards EnterpriseOne 固定資産管理システムによって伝票が作成されます。

JD Edwards EnterpriseOne 経費精算管理	経費レポートが承認され、JD Edwards EnterpriseOne経費精算管理システム内の監査プロセスが完了すると、このシステムによって伝票が作成されます。
JD Edwards EnterpriseOne Grower Management	契約に定められた支払が処理されると、このシステムによって伝票が作成されます。
JD Edwards EnterpriseOne プロジェクト原価管理	作業の契約に対して支払が行われると、このシステムによって伝票が作成されます。
JD Edwards EnterpriseOne Payroll	サード・パーティに支払う必要がある給与関連税、保険料、その他の未払給与金額の伝票を自動的に作成するには、このシステムでそれらを事前に設定します。
JD Edwards EnterpriseOne 不動産管理	このシステムによって、JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理システムのデータで伝票が作成され、それらがJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムに転記されます。
Oracle Demantra Predictive Trade Planning	JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでは、バッチ処理を使用してOracle Demantra Predictive Trade Planningソフトウェアからデータをアップロードできます。
多国籍対応機能	<p>国際的な仕入先のネットワークを構築し、価格、条件、商品の入手可能性を最適化できます。JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムには次のような多国籍対応機能が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none">• 通貨処理 <p>オーストラリア・ドル、日本円、ユーロなど、各国の通貨を使用して、国内通貨、外貨、代替通貨のいずれでも支払を処理できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 複数言語 <p>仕入先に合せた言語で情報を交換することで、仕入先との関係を強化し、伝票やその他の通信に関して誤解が起こる可能性を抑えることができます。</p>

買掛管理の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの導入に必要な手順の概要を説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOneに関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理について、どのESU(電子ソフトウェア更新)をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistantを使用します。JavaベースのツールであるEnterpriseOne and World Change Assistantを使用すると、必要となるESUを検索してダウンロードするためにかかる時間を75%以上削減できます。さらに、複数のESUを一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理を導入するためのEnterpriseOne Oracle Business Acceleratorソリューションの詳細は、公開されているドキュメンテーションを参照してください。

参照: http://www.peoplesoft.com/corp/en/iou/implement/rapid_start/rapid_start_prtr_notes.jsp

グローバル導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムの推奨導入手順を示します。

手順	参照
1. 会社、会計期間パターンおよびビジネスユニットを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」
2. 勘定科目と勘定科目表を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「勘定科目表の作成」
3. 一般会計固定情報を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「一般会計システムのセットアップ」
4. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	
5. 元帳タイプ規則を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムの元帳タイプ規則の設定」
6. 住所録レコードを入力します。	JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」

買掛管理の導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムのアプリケーション別の推奨導入手順を示します。

手順	参照
1. 固定情報、ユーザー定義コード(UDC)、自動採番、AAI(自動仕訳)を設定します。必要に応じて、アルゼンチン、ブラジル、日本、イギリス、イタリア、ペルー、ポーランド、ベネズエラにそれぞれ対応する情報を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> JD Edwards EnterpriseOne Country-Specific Setup and Processes for Europe 9.0 Implementation Guide <u>第 2 章、「買掛管理システムの設定」、7 ページ</u> JD Edwards EnterpriseOne Country-Specific Setup and Processes for the Americas 9.0 Implementation Guide
2. 受取人制御、支払手段、印刷プログラム、印刷順序、支払情報をビジネスユニット別に設定します。	<u>第 3 章、「買掛管理システムの自動支払処理の設定」、23 ページ</u>
3. 必要に応じて、電子資金決済(EFT)、電子データ交換(EDI)、BACS、国別の情報(アルゼンチン、イギリス、日本、ノルウェー、スウェーデン)を処理できるようにシステムを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> JD Edwards EnterpriseOne Country-Specific Setup and Processes for the Americas 9.0 Implementation Guide JD Edwards EnterpriseOne Country-Specific Setup and Processes for Europe 9.0 Implementation Guide

手順	参照
4. 標準の支払フォーマットと国別の支払フォーマットを設定します。	<ul style="list-style-type: none">• <u>第 4 章、「支払フォーマットの設定」、37ページ</u>• JD Edwards EnterpriseOne Country-Specific Setup and Processes for the Americas 9.0 Implementation Guide• JD Edwards EnterpriseOne Country-Specific Setup and Processes for Europe 9.0 Implementation Guide• JD Edwards EnterpriseOne 国別機能の設定と処理 (アジアおよびオーストラリア) 9.0 製品ガイド

第 2 章

買掛管理システムの設定

この章では、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの設定の概要と、次の方法について説明します。

- 固定情報の設定
- ユーザー定義コード(UDC)の設定
- 自動採番の設定
- AAI(自動仕訳)の設定

注意: アルゼンチン、イタリア、日本、ポーランドおよびロシアには、それぞれの国に固有の買掛管理の設定が用意されています。

買掛管理のシステム設定について

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムを使用する前に、処理に必要な情報を定義する必要があります。この情報を定義して、業務要件に合わせてシステムをカスタマイズできます。

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの設定情報をまとめたものです。

機能	設定タスク
固定情報	次のようなシステムの基本を設定します。 <ul style="list-style-type: none">• 伝票のバッチの金額および伝票数と、ユーザーが入力した値の合計とを自動的に照合するかどうか• バッチを転記する前に、管理者による承認を必須とするかどうか• 相殺入力の自動作成方法• 仕入先請求書番号の重複チェックを行うかどうか• 年齢調べレポートの間隔日数
UDC	伝票タイプや支払状況などのコードを、業務要件に合わせてカスタマイズし、定義します。
自動採番	伝票番号の自動採番を設定します。

機能	設定タスク
AAI	取引に対する仕訳の自動作成時に、適切な勘定科目コードを識別するためのAAIテーブルを設定します。
支払条件	伝票を簡単に入力できるように、受取時払いなどの支払条件コードを定義します。 参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「支払条件の設定」

買掛管理の固定情報の設定

この項では、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムの固定情報の概要と、その設定方法について説明します。

買掛管理の固定情報について

固定情報は、業務要件に合わせて JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムを運用するための基盤です。通常、1人のユーザーが、すべての固定情報の設定を行います。予期せぬ問題が発生するのを防ぐために、設定された固定情報は変更しないでください。また、権限を与えられたユーザーのみが、買掛管理固定情報へアクセスしたり、変更を加えることができるようにしてください。

注意: 固定情報の設定は、ソフトウェア起動時にロードされます。したがって、固定情報を定義したときには、システムを再起動して設定を有効にする必要があります。

買掛管理固定情報は、一般会計固定情報テーブル (F0009) に保管されます。

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムの固定情報情報には、次のオプションがあります。

- バッチ制御必須

“バッチ制御必須”固定情報により、バッチ伝票の合計数や金額をトラッキングするかどうかを指定できます。このチェックボックスを選択すると、バッチ入力の直後に、予測合計金額を実際の合計金額と照合できます。

- 管理者承認

“管理者承認”固定情報により、バッチ転記前に管理者によるバッチ承認が必須かどうかを指定できます。

- 自動集計方式

“自動集計方式”固定情報により、伝票を総勘定元帳に転記する際の、買掛金負債勘定と割引勘定に対する相殺入力の作成方法を指定できます。

次の3つの集計方式が使用可能です。

B: バッチによる集計

S: 支払項目ごとに集計

Y: 伝票ごとに集計

集計方式の選択に際しては、一般会計固定情報で選択された会社間決済方式を考慮する必要があります。

会社間決済方式1(ハブ会社間決済)では、前述の集計方式の中のどれでも使用できます。

会社間決済方式2(詳細会社間決済)では、前述の集計方式の中のどれでも使用できます。

会社間決済方式3(構成ハブ会社間決済)では、「S」または「Y」の集計方式は使用できますが、「B」は使用できません。

- 重複した請求書番号の編集

“請求書番号の編集”固定情報により、請求書の重複が発生した場合、ユーザーに通知が送信されるように設定できます。請求書の重複は、誤って仕入先請求書が2度入力された場合などに発生する場合があります。次のコードのいずれか1つを入力します。

- H: 重複の場合はエラー

Hを入力すると、ユーザーによる各伝票への請求書番号の入力が必須となります。

- N: 重複チェックなし

- Y: 重複の場合は警告メッセージ

- 買掛管理の経過日数

年齢調べレポートのカラムは、設定した各間隔の日数に基づいて計算されます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「バッチ承認と転記セキュリティの設定」

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「入力処理を管理するためのバッチ制御の使い方」

買掛管理固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
システム・セットアップ	W0000A	「買掛管理システム・セットアップ」(G0441)、「買掛管理固定情報」	買掛管理固定情報を選択します。
買掛管理固定情報	W0000E	「システム・セットアップ」フォームで、「買掛管理固定情報」を選択します。	固定情報を設定します。

買掛管理固定情報の設定

「買掛管理固定情報」フォームにアクセスします。

バッチ制御必須

このチェックボックスを選択すると、バッチ入力の際に、追加のフォームが表示されます。バッチに含まれると予測される伝票総数および合計金額を入力します。各バッチの入力を完了してプログラムを終了すると、予測値と実際に入力した値が異なる場合には、その差異が表示されます。このチェックボックスの選択を解除すると、追加のフォームは表示されません。

管理者承認

管理者によるバッチの承認を必要とする場合には、このチェックボックスを選択します。バッチに保留の状況が割り当てられ、バッチが転記される前

に管理者による承認が必要となります。このチェックボックスの選択を解除すると、バッチには承認済の状況が割り当てられ、管理者承認は不要となります。

集計方式

コードを入力して、伝票、請求書、および手形などを総勘定元帳に転記する際にF0911テーブルに相殺入力(伝票タイプAE)を作成する方法を指定します。システムの処理により、実績金額(AA)元帳と外貨(CA)元帳のみに対する相殺入力を作成されます。値は次のとおりです。

B: バッチのすべての取引が国内通貨の場合、各バッチに対して勘定科目ごとに相殺入力を作成されます。転記プログラムでは、1つ以上の外貨または代替通貨を含む取引のバッチを転記できないため、この方法は多通貨処理には使用できません。

Y: 各伝票に対して相殺を1件作成します。

S: 各支払項目に対して相殺を1件作成します。

重複した請求書No.の編集

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムによる請求書番号の検証を行って重複のチェックをするかどうかを指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

H: 請求書番号を検証します。番号が重複している場合、エラー・メッセージが表示され、重複しない請求書番号の入力が要求されます。

Y: 請求書番号を検証します。番号が重複している場合、警告メッセージが表示されますが、請求書番号を入力する必要はありません。重複は許可されます。

N: 入力した請求書番号が重複しているかどうかにかかわらず、請求書番号の検証は行われず、エラー・メッセージも表示されません。

重複した請求書番号を検索するには、“重複と考えられる支払レポート”(R04601)を実行します。

注意: 伝票タイプNOの伝票の請求書番号は検証されません。タイプNOの伝票は、払戻しの作成プログラム(R03B610)によって作成されます。

経過日数1

買掛管理レポートの年齢調べデータに使用される最初の間隔日数を指定します。

経過日数2

買掛管理レポートの年齢調べデータに使用される2番目の間隔日数を指定します。

買掛管理のユーザー定義コード(UDC)の設定

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの多くのプログラムでは、情報を処理する際にユーザー定義コード(UDC)が使用されます。JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムのほとんどのユーザー定義コードには、事前に定義済のデータが用意されています。定義済のデータは、ハードコード化されていない場合には、変更や削除が可能です。また、必要に応じて、独自のUDCを追加することも可能です。JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムのユーザー定義コードの製品コード、コード・タイプ、記述名称は、変更しないでください。

注意: 多数の国向けに、各国固有の買掛金取引用UDCが用意されています。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Country-Specific Setup and Processes for the Americas 9.0 Implementation Guide

参照: JD Edwards EnterpriseOne Country-Specific Setup and Processes for Europe 9.0 Implementation Guide

参照: JD Edwards EnterpriseOne 国別機能の設定と処理(アジアおよびオーストラリア) 9.0 製品ガイド

買掛伝票タイプ・コード

伝票タイプ・コードは、伝票番号、伝票会社、および元帳日付と同様にキー・フィールドの1つであり、様々なシステム間で同じ取引の一部であるレコードをリンクします。伝票タイプ - 買掛伝票のみ(00/DV)のユーザー定義コードは、伝票用のコードで設定してください。

買掛伝票タイプ・コードおよび照合伝票タイプ・コードは、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムによって管理されます。買掛伝票タイプ・コードが割り当てられた取引は、単独で存在できます。つまり、別の伝票タイプ・コードを持つ伝票との関連付けを必要としません。買掛伝票タイプ・コードは、ハードコード化されていません。

次のコードは、ソフトウェアに含まれています。変更や追加が可能です。

ユーザー定義コード(UDC)	用途
PV(伝票 - 仕入先請求書)	伝票入力で仕入先の請求書を入力する際に、このコードで伝票が作成されます。
PR(定期伝票)	支払回数と支払間隔が指定されている伝票は、このコードで作成されます。
PM(手入力伝票)	伝票と支払が同時に作成される場合、このコードで伝票が作成されます。
PD(デビット・メモ)	仕入先に貸方を入力する際に、このコードで伝票が作成されます。
PL(伝票記録)	仮伝票を入力する際に、このコードで伝票が作成されます。

00/DV UDCテーブルには、手形用のコードも設定します。手形は、債務に対する支払を約束するものです。手形処理は自動支払処理の一種で、それと同じ設定を使用します。

手形処理には、次のユーザー定義コードが必要です。

必須のユーザー定義コード	用途
伝票タイプ - 買掛伝票のみ(00/DV)	<ul style="list-style-type: none"> • PV(伝票 - 仕入先請求書) • P1(支払手形)

必須のユーザー定義コード	用途
支払状況コード(00/PS)	<ul style="list-style-type: none"> • D(手形受取済) • #(支払処理中) • P(全額支払済) • 必要に応じて、その他の支払状況
支払手段(00/PY)	使用する各支払手段に対するコード

照合伝票タイプ・コード

伝票タイプ - すべての伝票(00/DT)ユーザー定義コード・テーブルで、照合伝票の伝票タイプを設定します。照合伝票タイプ・コードは、単独では存在できない伝票を表します。このタイプの伝票は、それぞれ対応する買掛伝票に添付する(または照合する)必要があります。すべての照合伝票タイプ・コードは、ハードコード化されています。

伝票入力の際に使用する照合伝票のコードは、次のとおりです。

ユーザー定義コード(UDC)	用途
PE(支払金額の変更)	転記済伝票の金額を変更したり、伝票を無効にする際に、このコードでレコードが作成されます。
PK(自動支払)	自動支払処理を使用して伝票の支払を行う際に、このコードで支払レコードが作成されます。
PN(手入力支払)	伝票の支払を手動で処理する際に、このコードで支払レコードが作成されます。
PO(無効小切手)	支払を無効にして、後日支払を行えるように当初の伝票を未決済に戻す場合に、このコードでレコードが作成されます。
PT(電子資金決済 - 銀行振込)	電子資金決済(銀行振込)を使って伝票の支払を行う際に、このコードでレコードが作成されます。

支払状況コード(00/PS)

支払状況コードは、承認済、保留、支払済などの伝票の状況を示します。システムによって割り当てられた状況を変更する必要がある場合は、伝票に支払状況コードを割り当てます。一部の支払状況コードはハードコード化されています。

次の支払状況コードが用意されています。

- A: 支払承認済
- H: 支払承認保留中(ハードコード化されていません)

伝票の保留状況のタイプごとに追加コードを設定できます。

- P: 全額支払済
- R: 留保金
- %: 源泉徴収税適用

- #: 支払処理中

前払処理中に選択したすべての伝票には「#」コードが割り当てられます。これにより、支払処理完了前に伝票が変更されるのを防止できます。

- Z: 手動での支払処理中に伝票を選択済

伝票に手動での支払処理を割り当て、「支払の手動入力」フォームでまだ「OK」をクリックしていない場合に、その伝票の状況はこのコードで表示されます。

支払手段コード(00/PY)

支払手段コードは、手形や小切手、電子資金決済などの様々な支払手段を表します。支払手段コードは、それぞれの伝票に手動で割り当てます。使用する支払手段のタイプごとにコードを設定します。デフォルトでは、支払手段コードはブランクです。

次のハードコード化された支払手段コードが用意されています。

- X: 電子データ交換(EDI)小切手
- Y: EDI為替
- Z: EDI

また、次のハードコード化されていない支払手段コードも用意されています。

- C: 小切手(8.75インチ)
- D: 手形
- N: 小切手の印刷 – ブラジル
- T: 電子資金決済(EFT)
- W: 小切手(8.5インチ)

特殊取扱コード – 支払(00/HC)

送金時の添付など、様々なタイプの特特殊取扱指示を表すコードを割り当てます。特殊取扱コードは、ハードコード化されていません。必要な特殊取扱指示ごとにコードを設定します。

次に特殊取扱コードの例を示します。

- 送金票の添付
- 送金申請書の添付
- 税担当部署へ小切手を返送

1099処理コード(04/TRおよび01/07)

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでは、ユーザー定義コードを使用して、IRSフォーム1099の処理を行う伝票が選択されます。これらのユーザー定義コードにより、伝票に対して該当するIRS 1099フォームとフォーム上のボックスが指定されます。

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの1099処理用ユーザー定義コード・テーブルは、次のとおりです。

- 申告タイプ – 1099(04/TR)

• 1099レポート・コード(01/07)

ソフトウェアは、申告タイプ - 1099(04/TR) ユーザー定義コードが設定された状態でインストールされます。ただし、1099レポート・コード(01/07)については、コードを指定する必要があります。F045143テーブルを使って、指定したコードの伝票が選択され、処理されます。

銀行タイプ・コード(00/BT)

仕入先に対して複数の銀行口座を設定するために、銀行タイプ・コード(00/BT)を定義します。銀行タイプ・コードを定義する際、ハードコード化されているV、C、D、P、G、M、Bを除くすべてのコードを使用できます。

仕入先に銀行タイプ・コードを割り当てると、複数仕入先銀行口座状況テーブル(F0401M)にその仕入先のレコードが作成されます。このレコードには、デフォルトの事前通知状況「P」が設定され、仕入先が支払先銀行口座を複数所有していることが示されます。

置換文字(04/RC)

転送するテキスト・ファイルに銀行が認識しない文字や特殊文字が含まれている場合は、UDC 04/RCで置換文字を設定できます。

ほとんどのUDCと異なり、このUDCに指定するコードはシステム内の処理では使用されません。システム内の処理には「記述1」フィールドの先頭文字が使用され、「記述2」フィールドの先頭文字に置き換えられます。たとえば、文字Zを数値0に置き換えることができます。「記述2」フィールドに値を入力しなかったり、誤ってフィールドの2番目のスペースに値を入力したりした場合は、「記述1」フィールドで指定した文字がブランクに置換されます。

このテーブルは、P0457Dプログラムで該当する処理オプションが有効になっている場合にのみ使用されます。

システム内の処理では、UDC 04/RCで「記述1」フィールドに指定した文字のテキスト・ファイルが検索されます。次に、それらの文字は、「記述2」フィールドに指定した代替文字に置換されます。これによって、テキスト・ファイルに含まれている使用不可能な文字が使用可能な文字に置き換えられます。たとえば、銀行のシステムではウムラウト文字が認識されない場合には、「ä」を「ae」、「ö」を「oe」などの2文字に置換できます。

注意: ドイツ向けのプログラム“German Bank File Format and Statement Diskette”と“銀行テープの作成 - ドイツ”を使用している場合にのみ、1文字を2文字に置換できます。他のプログラムで置換文字UDCを使用する場合、「記述1」フィールド内の文字は、「記述2」フィールドの先頭文字のみに置換されます。

1文字を1文字の代替文字で置換するか、複数の代替文字で置換するかを選択できます。複数の代替文字を使用しても、文字列長は変わりません。たとえば、元の文字列が3文字であれば、置換された後の文字列も3文字です。すべての代替文字を挿入すると変更後の文字列長が規定の範囲を超える場合は、自動的に文字列内の特定の文字が省略されます。

1つの文字から複数の文字への置換がどのように行われるかを次の例で説明します。

置換	元の文字列	変更された文字列	結果
AをFGで置換	ABC	FGB	フィールド長を3に保つために、Cが文字列から削除されます。

置換	元の文字列	変更された文字列	結果
AをFGで置換	ABCxxx (xは空白)	FGBCxx (xは空白)	フィールド長を6に保つために、末尾の空白が文字列から削除されます。
BをFGHIで置換	ABC	AFG	フィールド長を3に保つために、Bが置換文字列の最初の2文字のみと置き換えられます。

特殊文字 (04/SC)

転送するテキスト・ファイルに銀行が認識しない文字や特殊文字が含まれている場合は、それらをUDC 04/SCに追加し、銀行ファイルのディスクへのコピー・プログラム (P0457D) の処理オプションで指定されている値と置き換えることができます。

ほとんどのUDCと異なり、このUDCに指定したコードはシステム内の処理では使用されません。システムでは、「記述1」フィールドに定義した文字が使用されます。「記述1」フィールドには最大で30文字指定できます。さらに文字を入力する必要がある場合は、別のコードを追加して、そのコードの「記述1」フィールドに追加の文字を指定できます。すべてのコードの「記述1」フィールドのすべての値が、処理オプションで指定されている値で置換されます。

たとえば、「記述1」フィールドに「!@#%\$」と入力し、対応する処理オプションの値に「/」を入力すると、システムの内部処理によってテキスト・ファイル内の!、@、#、\$、%のすべてのインスタンスが「/」で自動的に置き換えられます。

注意: 文字を空白に置き換えるには、置換文字の処理オプションを空白にします。置換文字を使用しない場合は、UDC 04/SCにコードを一切設定しないでください。

買掛管理の自動採番の設定

この項では、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの自動採番の概要と、その設定方法について説明します。

買掛管理の自動採番について

プログラムの処理において自動採番テーブル (F0002) から番号が取り込まれる際には、テーブル内の該当するシステムに対応する特定の行が参照されます。自動採番テーブルのデータが破損した場合や、誤ってレコードを削除した場合には、その行で該当するプログラムの自動採番の番号を設定する必要があります。次の表に、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システム用の自動採番レコードの作成に必要な情報を示します。

行番号	記述	機能
1	伝票入力	伝票に割り当てる次の番号が指定されます。

行番号	記述	機能
2	将来使用	この行は現在使用されていません。しかし将来、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムがこの行を使用するように拡張された場合に備えて、未使用のまま維持することをお薦めします。
3	将来使用	この行は現在使用されていません。しかし将来、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムがこの行を使用するように拡張された場合に備えて、未使用のまま維持することをお薦めします。
4	デビット・メモ小切手番号	デビット・メモの小切手番号が指定されます。
5	小切手番号 - ACH	自動決済機関 (ACH) を使用するときの小切手番号が指定されます。
6	EFTテープ・メンバー	電子資金決済 (EFT) の番号が指定されます。

買掛管理の自動採番の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
システム別自動採番の設定	W0002C	「略式コマンド」に「NN」と入力します。 「自動採番の処理」フォームで、「買掛管理」選択します。	JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムの自動採番を設定します。

買掛管理の自動採番の設定

「システム別自動採番の設定」フォームにアクセスします。

チェック・ディジット

自動採番で割り当てられた各番号の末尾に数字を追加する場合には、チェックボックスを選択します。たとえば、次の番号が「2」で、チェック・ディジットが有効に設定されている場合、7などのチェック・ディジットが追加され、最後の2つの番号が「27」になります。チェック・ディジットを使うと、番号が無作為に増分され、転置された番号の割当を防ぐことができます。この例では、チェック・ディジットが有効なかげり、「72」という番号が自動採番で割り当てられることはありません。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「自動採番の設定」

買掛管理のAAI(自動仕訳)の設定

この項では、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムのAAIの概要と、その設定方法について説明します。

買掛管理のAAIについて

仕訳入力が必要な取引の入力を行うたびに、適切な勘定科目コードが特定される必要があります。該当する取引に対応するAAIテーブルが検索され、適切なコードが特定されます。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムで伝票を入力すると、買掛金勘定の勘定科目コードを持つ項目が検索されます。

「PC」などのAAI項目の名称は、ハードコード化されています。JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムで使用されるAAIはすべてPで始まります。たとえば、PCは買掛金勘定用、PBは支払を記録する銀行勘定用のAAIです。各AAI項目には、ビジネスユニット、主科目、補助科目で構成される勘定科目コードが設定されていて、コードは勘定科目表にマッピングされています。ビジネスユニットをAAIに含めない場合、伝票のビジネスユニットは、指定の勘定科目コードの一部として使用されます。

一部のAAIに対しては、開始および終了AAI項目を指定して完全な範囲を定義する必要があります。たとえば、1099フォームの処理に使用する項目「PX」の最初の範囲は「PXyy01」で始まり、次の数、つまり「PXyy02」で終わる必要があります。必要に応じて、次の範囲は「PXyy03」で始まり「PXyy04」で終わるように、順番に定義します。

各AAIには、勘定科目コードを検索する階層順序があります。たとえば、会社00100、相手勘定コード30の伝票を入力した場合、次の検索階層に従って、使用する買掛金勘定が決定されます。

- 買掛金勘定を特定するために、会社00100のAAI項目PC30が検索されます。
- このAAI項目が見つからない場合、会社00000のAAI項目PC30が検索されます。
- このAAI項目が見つからない場合には、AAIがないという内容のエラー・メッセージが表示されます。

次の各項では、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムで使用するAAIについて説明します。

支払銀行勘定(PB)

デフォルトの銀行勘定(PB)のAAI項目は必須項目です。この項目により、伝票入力時に銀行勘定科目コードを入力しなかった場合に割り当てられるデフォルトの銀行勘定が指定されます。

1つの会社に対して複数の銀行勘定を定義している場合、「PByyyy」(支払銀行勘定)を使用して、1つの相手勘定を定義できます。「PByyyy」を使用する場合は、同じ相手勘定に対して「PCyyyy」(買掛金勘定)も定義する必要があります。

たとえば、会社1には、1.1110.BEARと1.1110.FIBの2つの銀行勘定があるとします。この場合、AAI項目「PBBEAR」と「PBFIB」を定義します。また、「PCBEAR」と「PCFIB」は、AAIテーブルに設定されている必要があります。ただし、2つのAAIを設定するかわりに、「PCyyyy」で定義された同一の勘定を指定することもできます。伝票入力では、詳細グリッドの「相手勘定」フィールドにyyyyと入力して勘定科目を指定します。

たとえば、仕入先Universal Incorporatedに対して、支払用のデフォルト銀行口座ではないOMNIナショナル・バンクの口座に支払を行うとします。この場合、仕入先マスターまたはUniversal Incorporatedに対する各伝票に相手勘定コード「OMNI」を設定し、さらに、次のAAIを設定します。

項目	記述	会社	ビジネスユニット	主科目	補助科目	順序番号
PBOMNI (PByyyy)	OMNIバンク固有コード	ブランク	100	1110	OMNI	4.015
PCOMNI (PCyyyy)	OMNIバンク固有の相手勘定コード	ブランク	100	4110	ブランク	4.020

買掛金勘定 (PC)

買掛金勘定 (PC) のAAI項目は必須です。買掛金勘定は、伝票の支払を行うまで使用する保留勘定または仮勘定です。このAAI項目により、伝票入力時に相手勘定に対する買掛金勘定を入力しなかった場合に割り当てられるデフォルトの買掛金勘定が指定されます。

伝票入力時に、仕入先マスターに設定されている相手勘定がロードされるように、支払相手勘定コードは仕入先ごとに設定できます。

買掛金勘定には、次の設定が必要です。

- 会社00000のデフォルトAAI項目
- 会社固有のAAI項目
- 会社00000の相手勘定コードPCyyyy (PCNOTE)
- 会社固有の相手勘定コード

この設定に必要な情報を次に示します。

項目	記述	会社	ビジネスユニット	主科目	補助科目	順序番号
PC (PC ____)	買掛金勘定	ブランク	100	4110	ブランク	4.020
PC (PC ____)	会社200固有の買掛金勘定	200	200	4110	ブランク	4.020
PCNOTE (PCyyyy)	デフォルトの支払手形勘定	ブランク	100	4110	ブランク	4.020
PCNOTE (PCyyyy)	会社200固有の買掛金勘定	200	200	4110	ブランク	4.020

(PER) 納税義務支払 (Sistema de Pago de Obligaciones Tributarias [SPOT]) 伝票を自動転記するために、このAAIを設定する必要があります。伝票タイプがSPOT伝票のAAIを、会社法務固定情報 (P76P002) プログラムで定義されているように設定します。たとえば、IGという伝票タイプを設定した場合、このAAIをPCIGと設定します。

割引可能額/割引損失 (PKD/PKL)

割引を適用する場合、割引可能額(PKD)と割引損失(PKL)のAAI項目は必須です。これらのAAI項目により、割引可能額および割引損失額を計上する損益勘定が指定されます。割引は、支払が転記されるまでは認識されません。支払が転記されると、相殺が作成され、PKDとPKLが設定されます。

割引実施額は、割引可能額と割引損失の差し引き正味額です。PKDとそれに関連するPKLの両方のAAI項目に、同じ総勘定元帳の勘定科目コードを設定できます。支払時に、PKDに関連する勘定の割引可能額が貸方に仕訳されます。支払時に割引を実施しない場合は、PKLに関連する勘定の割引可能額が貸方に仕訳されます。

会社000001に対してデフォルトのPKDおよびPKLの勘定科目を設定するか、または会社ごとに固有のPKDおよびPKLの勘定科目を設定します。

費用仮勘定/買掛金仮勘定(PP/PQ)

仮伝票を使用する場合、費用仮勘定(PP)と買掛金仮勘定(PQ)のAAI項目の設定は任意です。JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの仮伝票の機能を使うと、伝票を入力しても、通常は仮勘定である元帳の費用勘定への振替を保留できます。

PPとPQにより、仮伝票を入力する際に、デフォルトの費用仮勘定と買掛金仮勘定が指定されます。PPを設定していない場合、仮伝票入力時に、有効な仮勘定を入力する必要があります。PQを設定していない場合、仮伝票を転記する際に、AAI項目PCの勘定科目が自動的に使われます。

仮勘定を使用するかどうかは、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの会社名および番号プログラム(P0010)で指定します。

- 買掛金勘定(PC)のAAI項目を使って負債を通常の買掛金勘定に転記する場合は、「会社の設定」フォームの「仮勘定の使用」チェックボックスの選択を解除します。
- 買掛金仮勘定(PQ)のAAI項目を使って負債を買掛金仮勘定に転記する場合は、「会社の設定」フォームの「仮勘定の使用」チェックボックスを選択します。

費用仮勘定が実際の費用勘定に再配賦されると、買掛金仮勘定(PQ)が買掛金勘定(PC)に振り替えられます。

伝票の転記先の費用勘定が既知である場合には、仮勘定の振替を使って伝票を転記します。費用勘定は手動で入力する必要があります。システムによって次の処理が行われます。

- 費用仮勘定(PP)の貸方レコードが作成されます。
- 買掛金仮勘定(PQ)の借方レコードが作成されます。
- 買掛金勘定(PC)の貸方レコードが作成されます。

仮伝票の例

仮伝票入力プログラムで、金額100の伝票を入力します。AAI項目PPの費用仮勘定の借方と、AAI項目PQの買掛金仮勘定の貸方に金額が計上されます。次の図は、買掛金勘定(PC)のかわりに買掛金仮勘定(PQ)が使用された場合の最初の仕訳を示しています。

費用仮勘定 (PP)		買掛金仮勘定 (PQ)	
100			100

AAI項目PPおよびPQの使用

伝票を振り替える際、費用勘定の借方に金額を入力します。買掛金仮勘定の借方と、費用仮勘定および買掛金勘定の貸方に金額が計上されます。次の図は、費用勘定の借方計上の方法を示しています。

費用仮勘定 (PP)		買掛金仮勘定 (PQ)	
100			100
	100	100	

伝票の振り替え

次の図は、完了した仕訳を示しています。

費用勘定		買掛金勘定 (PC)	
100			100

システムによる仕訳入力

支払手形 (PD)

AAIによって、自動的に仕訳入力を作成するプログラムのルールが定義されます。勘定科目が異なる会社ごとに、手形のAAIを設定する必要があります。同じ勘定科目を使用する会社に対しては、個別にAAIを設定する必要はありません。特定の会社のAAIが見つからない場合、会社00000のAAIが使用されます。

手形は、債務に対する支払を約束するものです。手形処理は自動支払処理の一種で、それと同じ設定を使用します。

手形処理では、支払手形勘定を定義する単一のAAIが使用されます。この勘定は、手形が決済されるまで、保留勘定または仮勘定として機能します。手形を作成すると、次の処理が実行されます。

- 買掛金勘定の借方レコードが作成されます。
- 支払手形勘定の貸方レコードが作成されます。

手形が決済されると、次の処理が実行されます。

- 支払手形勘定の借方レコードが作成されます。
- 銀行勘定の貸方レコードが作成されます。

支払手形勘定用にAAI項目 (PD) を1つ設定します。このAAIはデフォルトとして使用されます。支払手段ごとに1つのAAI項目「PDx」(xは支払手段のユーザー定義コード)を設定することもできます。

総勘定元帳方式の1099 (PX)

総勘定元帳方式では、AAIを使って1099フォームの処理の元帳勘定科目の範囲が決定されます。1099 AAI項目を編集して、IRSのフォームおよびボックスと対応するように勘定科目表を調整します。

処理する1099フォームのタイプに応じて、次のAAI項目を定義する必要があります。

- PXAxxx
1099-MISC (その他) フォーム
- PX1xxx
1099-DIV (配当および配賦) フォーム
- PX6xxx

1099-INT (利子所得) フォーム

AAI項目は、それぞれ1099フォームのボックスと関連付けられています。たとえば、ユーザー定義コード04/TRの値A1からA9 (AAI項目PXA1xxからPXA9xx) は、1099 MISCフォームの1から9のボックスに対応しています。ただし、ユーザー定義コード04/TRの値AA (AAI項目PXAAxx) はボックス10に対応し、ABとAC (AAI項目PXABxxとPXACxx) はどちらもボックス13に対応しています。また、1099 DIVフォームには2a、2b、2c、および2dのボックスがあり、それぞれユーザー定義コード04/TRの値1A、1B、1C、および1D (AAI項目PX1AxxからPX1Dxx) と対応しています。

AAI項目の各ペアによって、主勘定科目の範囲の開始と終了が定義されます。たとえば、弁護士費用 (1099 MISCフォームのボックス13) は、AAI項目PXAC01とPXAC02に関連付けられた勘定科目の範囲で識別できます。他の勘定を識別する場合は、PXAC03とPXAC04などの組合せによって定義される別の範囲を使用します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「AAI (自動仕訳) の設定」

買掛管理のAAIの設定

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「AAI (自動仕訳) の設定」

第 3 章

買掛管理システムの自動支払処理の設定

この章では、自動支払処理の設定の概要と次の方法について説明します。

- 受取人制御の設定
- 支払手段と印刷プログラムの設定
- 支払印刷順序の設定
- ビジネスユニット別支払情報の設定
- 支払への会社名出力の設定
- 電子資金決済(EFT)支払の設定
- 電子データ交換(EDI)支払の設定

注意: アルゼンチン、ドイツ、イギリス、日本、ノルウェーおよびスウェーデンには、それぞれの国に固有の自動支払処理の設定が用意されています。

自動支払処理の設定について

自動支払処理を行う前に、次の設定を行う必要があります。

設定項目	説明
ユーザー定義コード	(DEU)置換文字(04/RC)UDCを設定します。このUDCでは、テキスト・ファイル内の使用不可能な文字を自動置換するための使用可能な文字を指定することができます。
銀行勘定科目情報	支払処理を行う銀行勘定科目を設定します。会社の銀行勘定科目を設定する場合は、次の情報を指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none">• 次の支払番号• 配列フォーム数• 支払控えの明細行の数 参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「銀行口座の設定」
受取人制御	不正な支払活動を実行できないように、受取人制御を設定します。
支払手段	支払手段を設定し、支払プログラムに割り当てます。

設定項目	説明
印刷順序	支払を印刷する順序を設定します。
ビジネスユニット別支払情報の設定	ビジネスユニットごとに支払を行う場合、各ビジネスユニットに支払情報を設定します。
支払への会社名出力の設定	印刷済の小切手にすでに会社名が印刷されている場合に、会社名が印刷されないようにします。

支払の先送りや、EFT支払、EDI支払を行う場合は、追加設定が必要です。

受取人制御の設定

この項では、受取人制御の概要、受取人制御の設定に使用するフォーム、受取人制御サーバー - 処理オプション (A/P Payee Control Server - Processing Options) (X0450) の処理オプションの設定方法について説明します。

受取人制御について

受取人制御は、特定の重要な受取人情報に対して、ミスや不正行為を犯したり隠したりできないようにする監査機能です。変更がモニタリングされるとこの機能が働き、変更された情報の確認と承認が行われるまで支払が保留になります。受取人制御を使用して、特定の重要な受取人情報および銀行口座情報への変更を制御します。変更が入力されると、入力者以外の人間がそれを承認します。このように、支払に影響する変更には必ず2人の人間が関わります。

変更が承認されるまでは、制御情報が変更された受取人への自動支払は行われません。支払グループ作成プログラムでは、未承認の受取人制御レコードを持つ受取人は無視され、編集レポートにエラー・メッセージが印刷されます。支払書込みプログラムでは、受取人の名称、郵送宛名、またはSWIFTコードの変更が未承認の場合、エラー・メッセージが印刷されます。

制御情報が変更されても、支払を手動で入力することはできます。

制約

受取人制御は、すべてのリスクを排除するわけではありません。管理制御と合せて使用され、エラーや不正を防ぎます。受取人制御に関する次のテーブルやプログラムにセキュリティを導入する必要があります。

- 受取人制御テーブル (F0450)

このテーブルを削除すると監査証跡を残すことができません。

- 受取人制御サーバー - 処理オプション (A/P Payee Control Server - Processing Options Only) プログラム

このサーバーの処理オプションを変更すると、システムによるモニタリング方法に影響を与えます。

- 買掛金支払プログラムおよび手入力支払がある伝票入力プログラム

制御情報が変更された受取人には、手入力支払を書き込むことができます。

設定

受取人制御サーバー - 処理オプション (A/P Payee Control Server - Processing Options Only) プログラム (X0450) の処理オプションで受取人制御を設定します。受取人制御サーバー - 処理オプション (A/P Payee Control Server - Processing Options Only) プログラムの処理オプションを設定することで、次のフィールドに対する変更や追加を制御できます。

制御フィールド	説明
住所録マスター (F0101) の名称	受取人の名称を変更すると、実際の支払をスキップできます。名称は、「住所録の改訂」フォームで変更できます。
F0030テーブルの銀行口座番号	受取人の銀行口座番号を変更すると、自動支払がスキップされます。銀行口座番号は、「住所別銀行口座設定」フォームで変更できます。
銀行/支店マスター (F0030) の銀行/支店コード	受取人の銀行/支店コードを変更すると、自動支払がスキップされます。銀行/支店コードは、「住所別銀行口座設定」フォームで変更できます。
F0030テーブルの銀行口座タイプ	受取人の銀行口座タイプを変更すると、自動支払がスキップされます。銀行口座タイプは、「住所別銀行口座設定」フォームで変更できます。
住所録 - 人名録テーブル (F0111) の郵送宛名	受取人の郵送宛名を変更すると、実際の支払をスキップできます。郵送宛名の変更は、「住所録の改訂」フォームおよび「人名録」フォームで変更できます。 注意: 受取人制御処理では、最初の人名録レコード (行ID 0) に対する変更のみが検出されます。人名録の他のレコードに加えられた変更は、F0450テーブルには書き込まれません。
F0411テーブルの受取人	伝票の受取人を変更すると、伝票の入力中または入力後の支払をスキップできます。受取人は、「伝票入力 - 支払情報」フォームなどの伝票入力フォーム、および「単一支払項目の更新」フォーム (スピード・リリース・プログラム) で変更できます。
F0101テーブルの代替受取人	仕入先の代替受取人を変更すると、伝票が入力されたときに支払をスキップできます。代替受取人は、「住所録の改訂」フォームの「関連住所」タブおよび「仕入先マスターの改訂」フォームで変更できます。
F0030テーブルのSWIFTコード	受取人のSWIFTコードを変更すると、自動支払をスキップできます。SWIFTコードは「住所別銀行口座設定」フォームで変更できます。

制御フィールドへの変更が検知されると、F0450テーブルにレコードが書き込まれます。このレコードには、変更前の情報、変更後の情報、変更日時、および変更者のユーザーIDが含まれます。

たとえば、ある会社の仕入先番号が4344で、代替受取人番号が3610だとします。仕入先番号4344の伝票を追加して、代替受取人番号5910を入力します。受取人制御機能が有効な場合、伝票の受取人番号 (5910) が仕入先番号 (4344) とも代替受取人番号 (3610) とも一致していないため、受取人制御レコードが作成されます。このレコードは、支払が行われる前に別の担当者により承認される必要があります。

注意: ZJDE0001は、受取人制御プログラムの唯一のバージョンです。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 System Administration Guide

受取人制御の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
買掛管理固定情報	W0000E	<p>「買掛管理システム・セットアップ」(G0441)、「買掛管理固定情報」</p> <p>「システム・セットアップ」フォームで、「買掛管理固定情報」を選択します。</p> <p>「買掛管理固定情報」フォームで、「フォーム」メニューの「受取人」を選択します。</p>	受取人制御サーバー(A/P Payee Control Server)プログラムにアクセスします。

受取人制御サーバー - 処理オプション(A/P Payee Control Server - Processing Options) (X0450) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

レベル

買掛金元帳(F0411): 受取人	各テーブルの制御レベルを指定します。変更のみの場合は「1」を入力し、追加と変更の場合は「2」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、制御レコードは書き込まれません。
銀行/支店マスター(F0030): 口座番号、銀行/支店コード、SWIFTコード	各テーブルの制御レベルを指定します。変更のみの場合は「1」を入力し、追加と変更の場合は「2」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、制御レコードは書き込まれません。
住所録(F0101): 名称、特別受取人	各テーブルの制御レベルを指定します。変更のみの場合は「1」を入力し、追加と変更の場合は「2」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、制御レコードは書き込まれません。
人名録(F0111): 郵送宛名	各テーブルの制御レベルを指定します。変更のみの場合は「1」を入力し、追加と変更の場合は「2」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、制御レコードは書き込まれません。

オプション

仕入先マスターの検証	仕入先マスター(F0401)にレコードがあるかどうかに関係なく、受取人制御レコードを作成する場合は「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、受取人制御レコードの作成は、仕入先マスター・レコードに登録されているレコードに制限されます。
------------	--

支払手段と印刷プログラムの設定

この項では、支払手段への印刷プログラムの割当の概要、事前設定、支払手段への印刷プログラムの割当方法について説明します。

支払手段への印刷プログラムの割当について

支払手段には、小切手、銀行テープ、手形、BACS処理など様々な方法があります。支払手段ユーザー定義コード・テーブル(00/PY)には複数の支払手段が用意されています。既存の手段を使用することも、各自で追加することもできます。他の国でビジネスを行っている場合、すべての支払手段が国別に設定されていることを確認する必要があります。支払を構成するレポートを印刷するプログラムとバージョンを選択することによって、各支払手段で適切なフォーマットのレポートを印刷できます。レポートの種類は次のとおりです。

- 支払

支払内容が印刷された用紙またはテープです。

- 支払記録

支払の一覧が記載されます。

- 添付

支払控えに収まらない明細情報が記載されます。

- デビット・メモ

デビット・メモには、仕入先に支払い過ぎたことを示すプラス残高の一覧が印刷されます。正味金額はマイナスまたはゼロになります。デビット・メモにプログラムを割り当てると、支払レポートとは別のレポートとしてデビット・メモを印刷できます。支払レコードにはデビット・メモ番号が支払番号として割り当てられます。また、すべての未決済金額がゼロに変更され、支払状況は支払済に変更されます。

支払手段のデフォルト・プログラム(P0417)には、前述の各レポートに関連付けられたデフォルトのプログラムがすべて含まれています。デフォルトのプログラム情報は、支払 - デフォルト印刷/更新テーブル(F0417)に保存されます。

各支払手段のレポートごとにプログラム番号を割り当てます。たとえば、ある支払手段の添付に対してプログラムP04573(標準添付印刷用)を割り当てます。このプログラムによって適切な添付が作成されます。

各支払手段には、あらかじめ割り当てられたプログラム以外のプログラムを割り当てすることもできます。たとえば、通常フランス向けの小切手を印刷する場合は、デフォルトの支払手段の支払印刷プログラムを小切手印刷(標準)プログラム(P04572)から支払の印刷 - フランス・プログラム(P04572F2)に変更できます。

これらのレポートを印刷する各プログラムのバージョンを選択することによって、対象とするレコードをさらに絞り込むこともできます。この利点は、必要に応じてバージョンの処理オプションやデータ選択を変更できる点です。

支払手段を特定の銀行勘定科目に割り当てることによって、その用途を制限できます。たとえば、手形用の支払手段を2種類設定して、それぞれに異なる銀行勘定科目を指定できます。

支払を印刷する際には、伝票に割り当てられた支払手段が使用されます。仕入先ごとに支払手段を設定しなくて済むように、最も頻繁に使用する支払手段をデフォルト値に設定します。伝票入力時に変更しないかぎり、仕入先に割り当てられた支払手段が使用されます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 必要に応じて、支払手段ユーザー定義コード・テーブル(00/PY)で支払手段コードを追加設定します。
- 必要に応じて、銀行ファイルの作成ユーザー定義コード・テーブル(04/PP)で印刷プログラムを追加設定します。
- 支払手段を仕入先に割り当てます。

支払手段と印刷プログラムの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
デフォルト支払手段の処理	W0417A	「自動支払設定」(G04411)、「支払手段デフォルト」	既存の支払手段とそのデフォルトのプログラムを確認します。
デフォルト支払手段の設定	W0417B	「デフォルト支払手段の処理」フォームで、「選択」または「追加」をクリックします。	印刷プログラムを既存の支払手段に割り当てます。 印刷プログラムを新しい支払手段に割り当てます。

支払手段への印刷プログラムの割当

「デフォルト支払手段の設定」フォームにアクセスします。

支払手段デフォルト - デフォルト支払手段の設定

OK(O) 取消(L) ツール(T)

支払手段

デフォルト

銀行勘定科目

1.1110.BEAR

Bear Creek National Bank

印刷プログラム

支払	P04572	小切手印刷(標準)	支払印刷のバージョン	
支払記録	P04576	支払記録(標準)	支払記録のバージョン	
添付	P04573	添付印刷(標準)	添付のバージョン	
デビット・メモ	P04574	デビット・メモ印刷(標準)	デビットのバージョン	

「デフォルト支払手段の設定」フォーム

支払

支払の印刷に使用するプログラムを入力します。銀行ファイルの作成ユーザー定義コード・テーブル(04/PP)にある値を入力する必要があります。

支払記録

支払記録の印刷に使用するプログラムを入力します。銀行ファイルの作成ユーザー定義コード・テーブル(04/PP)にある値を入力する必要があります。

添付	支払処理で添付の印刷に使用するプログラムを入力します。添付プログラム - 支払ユーザー定義コード・テーブル(04/PA)にある値を入力する必要があります。
デビット・メモ	支払処理でデビット・メモの印刷に使用するプログラムを入力します。デビット・メモ印刷プログラム・ユーザー定義コード・テーブル(04/PD)にある値を入力する必要があります。

支払印刷順序の設定

この項では、印刷順序の概要と設定方法について説明します。

印刷順序について

支払順序オプションによって、支払を印刷する順番を制御できます。必要に応じた順序で支払を印刷できます。たとえば、最も金額の大きい支払が最初に印刷されるように金額の大きい順に印刷したり、アルファベット順に印刷したりすることができます。これには、「自動支払設定」メニューの順序IDを設定するプログラムを使用します。順序IDには、買掛金支払ワークテーブルのフィールドを最高6つまで設定できます。

使用するそれぞれの印刷順序に順序IDを定義する必要があります。支払グループを作成する際、使用する順序IDと印刷順序(昇順/降順)を処理オプションで指定します。

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システム以外の条件に基づいて支払を印刷するには、特殊取扱コードを使用します。特殊取扱コードはユーザーが自由に定義できるコードで、伝票入力時に指定します。順序IDにこの特殊取扱コードを追加すると、その順序で支払を印刷できます。

支払印刷順序の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
支払順序の設定	W0415B	「自動支払設定」(G04411)、「支払順序」 「支払順序の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	支払順序を設定します。

支払順序の設定

「支払順序の設定」フォームにアクセスします。

支払順序 - 支払順序の設定

OK(O) 取消(L) ツール(T)

順序ID ★ DEMO

記述 ★ Demo sequence

順序の設定

			昇順	降順
順序1	CO	会社	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
順序2	ALPP	受取人名称	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
順序3	AN8	住所番号	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
順序4		.	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
順序5		.	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
順序6		.	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

「支払順序の設定」フォーム

順序ID

買掛管理システムで支払を処理する際の処理順序を指定する値を入力します。ユーザーが順序を定義する際に付けた名前を指定します。

順序1

買掛金支払の出力順序を指定する値を入力します。

注意: 1番目の順序フィールドに支払取扱コード(CRC)を指定する場合、特殊取扱コード用のユーザー定義コード(00/HC)を設定して、伝票入力時に指定する必要があります。

ビジネスユニット別支払情報の設定

この項では、ビジネスユニット別支払情報の印刷方法の概要と設定方法について説明します。

ビジネスユニット別支払情報の印刷方法について

ビジネスユニットごとに支払を行う場合、各ビジネスユニットの支払情報を設定する必要があります。この場合、支払は次の情報を基に処理されます。

- 伝票のビジネスユニット情報
- ビジネスユニットの銀行勘定科目情報

支払グループを作成する際、処理オプションでビジネスユニット別に支払を処理するよう設定している場合のみビジネスユニット支払情報が使用されます。ビジネスユニット別に支払を処理するように設定しなかった場合は、「銀行勘定科目の処理」フォームで設定した銀行勘定科目情報が使用されます。

自動採番などを設定して各ビジネスユニットにそれぞれ重複しない支払番号を使用していれば、各ビジネスユニットに同じ銀行勘定科目を指定できます。

ビジネスユニット別支払情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
ビジネスユニット支払情報の処理	W0030BA	「自動支払設定」(G04411)、「ビジネスユニット情報」	既存のレコードを表示します。
ビジネスユニット支払情報の設定	W0030BB	「ビジネスユニット支払情報の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	ビジネスユニット別支払情報の印刷設定を行います。

ビジネスユニット別支払情報の印刷設定

「ビジネスユニット支払情報の設定」フォームにアクセスします。

「ビジネスユニット支払情報の設定」フォーム

支払番号 - 自動採番

特定の銀行勘定科目に対して処理される、自動採番による支払番号を示す数字を入力します。買掛管理の支払処理で、このフィールドは自動的に更新されます。

配列フォーム数

小切手の印刷を開始する際に印刷する小切手の数を入力して、小切手が適切に並べ替えられるようにします。

各控えの明細行

買掛金支払控えに出力する明細行の数を入力します。

支払への会社名出力の設定

この項では、支払への会社名出力の設定の概要とその方法について説明します。

支払への会社名出力の設定方法について

自動支払書込み/リセット・プログラム (P04572) の処理オプションで会社名を印刷するように設定されている場合は、会社名が印刷されないように会社ごとに設定できます。この処理オプションでは、会社名を印刷するかどうかを指定します。

P04572の処理オプションが会社名を印刷するように設定されていても、自動支払設定プログラム (P0410) のオプションを選ぶことで、個別に会社名が印刷されないように設定できます。会社の支払情報は、会社固定情報テーブル (F0010) に格納されます。

支払への会社名出力の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
支払会社情報の改訂	W0410B	「自動支払設定」 (G04411)、「会社情報」 「支払会社情報の処理」フォームでレコードを選択して、「選択」をクリックします。	会社名を支払に出力するかどうかを指定します。

支払への会社名出力の設定

「支払会社情報の改訂」フォームにアクセスします。

会社情報 - 支払会社情報の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)





会社

00001

Financial/Distribution Company

会社名の印刷

☐ 会社名を印刷しない

将来使用

署名人

代替会社名

「支払会社情報の改訂」フォーム

会社名を印刷しない

このチェックボックスを選択すると、自動支払 (小切手 - 標準形式) プログラム (R04572) の会社情報処理オプションが1に設定されていても、この会社の会社名は印刷されなくなります。

EFT 支払の設定

EFT 支払を処理するには、次のプログラムを追加設定する必要があります。

プログラム	必須の設定
仕入先マスター情報 (P04012)	<ul style="list-style-type: none"> 「事前通知コード」チェックボックスの選択/選択解除を確認します。初めて EFT 支払を処理するときは、「事前通知コード」チェックボックスを必ず選択します。このオプションが選択されていると、仕入先に対する支払が印刷され、電子支払を行う前に仕入先の銀行口座情報が正しいかどうかを確認できます。初回の支払を作成すると、次回の支払が電子決済されるように、「事前通知コード」チェックボックスの選択が解除されます。 「支払手段」フィールドに支払手段を指定します。通常は、EFT 支払を指定する「T」を入力しますが、独自の支払手段を指定することもできます。
銀行勘定科目情報 (P0030G)	<ul style="list-style-type: none"> 「銀行/支店コード」フィールドと「銀行口座番号」フィールドに銀行口座情報を入力します。 「仕入先マスターの改訂」フォームの「事前通知コード」の設定を上書きするには、「銀行情報の改訂」フォームで「仕入先事前通知コードの一時変更」チェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、「仕入先マスターの改訂」フォームの「事前通知コード」チェックボックスが選択されているかどうかに関係なく、すべての仕入先に対する EFT 支払が作成されます。 取引銀行の X12 情報を入力します。この情報に基づき、F04572OW テーブルに追加レコードが作成されます。これにより、取引銀行の X12 情報を得ることができます。
銀行口座相互参照 (P0030A)	「銀行/支店コード」フィールドと「口座番号」フィールドに仕入先の銀行口座情報を入力します。
支払手段のデフォルト (P0417)	<p>支払印刷プログラム P04572T2 と明細印刷プログラム P04576 を使用するように、支払手段に T または独自に指定した値が設定されていることを確認します。P04572T2 では、銀行テープの作成 - CTX フォーマット・プログラム (R04572T2) を使用して、CTX フォーマットで支払テープ・テーブル (F04572OW) にレコードを作成します。</p> <p>CTX フォーマットのかわりに、アメリカ用の電子支払フォーマット (R04572T1) を使用することもできます。</p>

関連項目:

第 5 章、「仕入先情報の入力」、「仕入先マスター情報の入力」、48ページ

JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」、「住所録レコードの入力」

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「銀行口座の設定」

EDI 支払の設定

EDI送信処理用の買掛金支払トランザクションを作成する際には、X12標準フォーマットで作成する必要があります。また、EDI支払処理に対応したシステムの設定が必要です。EDI支払処理を行うには、次の表のプログラムを設定する必要があります。

プログラム	必須の設定
仕入先マスター情報 (P04012)	<ul style="list-style-type: none"> 「事前通知コード」チェックボックスの選択/選択解除を確認します。初めてEFT支払を処理するときは、「事前通知コード」チェックボックスを必ず選択します。このオプションが選択されていると、仕入先に対する支払が印刷され、電子支払を行う前に仕入先の銀行口座情報が正しいかどうかを確認できます。初回の支払を作成すると、次回の支払が電子決済されるように、「事前通知コード」チェックボックスの選択が解除されます。 <hr/> <p>注意: 仕入先の銀行口座情報を変更すると、「事前通知コード」チェックボックスが再び選択されます。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 「支払手段」フィールドに支払手段を指定します。EDI支払の場合、通常はX、Y、またはZを指定しますが、独自の支払手段を指定することもできます。
銀行勘定科目情報 (P0030G)	<ul style="list-style-type: none"> 「銀行/支店コード」フィールドと「銀行口座番号」フィールドに銀行口座情報を入力します。 「仕入先マスターの改訂」フォームの「事前通知コード」の設定を上書きするには、「銀行情報の改訂」フォームで「仕入先事前通知コードの一時変更」チェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、「仕入先マスターの改訂」フォームの「事前通知コード」チェックボックスが選択されているかどうかに関係なく、すべての仕入先に対するEDI支払が作成されます。 取引銀行のX12情報を入力します。この情報に基づき、F04572OWテーブルに追加レコードが作成されます。これにより取引銀行のX12情報を得ることができます。
銀行口座相互参照 (P0030A)	<p>「銀行/支店コード」フィールドと「口座番号」フィールドに仕入先の銀行口座情報を入力します。</p>

プログラム	必須の設定
支払手段のデフォルト(P0417)	EDI処理で使用するX12フォーマットの電子支払を作成するには、支払印刷プログラムにP47052Tが使用されるように、支払手段にX、Y、Z、または独自に指定した値が設定されていることを確認します。この支払印刷プログラムが指定されていないと、EDIで使用するX12フォーマットで支払情報は書き込まれません。
自動採番(P0002)	システム47の1行目、EDI伝票番号に次の番号を指定します。
支払グループの作成(R04570)	支払グループの作成プログラム(R04570)の「銀行テープ」タブの処理オプションを設定して、受取人銀行口座またはX12銀行勘定の情報が間違っている場合にエラーになるように指定します。

関連項目:

第 3 章、「買掛管理システムの自動支払処理の設定」、「支払手段と印刷プログラムの設定」、27ページ

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「自動採番の設定」

第 4 章

支払フォーマットの設定

この章では、支払フォーマットの概要、事前設定、および標準支払フォーマットの設定方法について説明します。

注意: 多数の国向けに、各国固有の支払フォーマットが用意されています。次のブックの国別支払フォーマットの設定方法に関する項を参照してください。

JD Edwards EnterpriseOne 国別機能の設定と処理(アジアおよびオーストラリア) 9.0 製品ガイド

JD Edwards EnterpriseOne Country-Specific Setup and Processes for Europe Localization 9.0 Implementation Guide

JD Edwards EnterpriseOne Country-Specific Setup and Processes for the Americas 9.0 Implementation Guide

支払フォーマットについて

支払印刷プログラムを支払手段に割り当てたら、支払印刷プログラムで使用されているフォーマットの処理オプションを確認し、必要に応じて修正する必要があります。

支払印刷プログラムを支払手段に割り当てると、支払を処理するときに該当する支払フォーマット・プログラムのバージョンが起動されます。たとえば、P04572ではR04572プログラムが起動されます。支払フォーマットの処理オプションに変更を加えるには、支払フォーマット・プログラム名の最初の文字PのかわりにRを入力して、バッチ・バージョン・プログラム(P98305)から変更する処理オプションにアクセスします。処理オプションで、支払手段の各レポートのフォーマットを細かく定義します。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 印刷プログラムを支払手段に割り当てます。

参照: 第 3 章、「買掛管理システムの自動支払処理の設定」、「支払手段と印刷プログラムの設定」、27ページ

- 銀行ファイルの作成ユーザー定義コード(UDC)テーブル(04/PP)に、取引を行っている国の支払フォーマットのコードがあることを確認します。

標準支払フォーマットの設定

この項では、標準支払フォーマットの概要と次の処理オプションの設定方法について説明します。

- 自動支払 (小切手 - 標準形式) (R04572)
- 自動支払 - 手形フォーマット (R04572N)
- 銀行テープ作成 - PPD形式 (R04572T1)
- 銀行テープの作成 - CTXフォーマット (R04572T2)
- 銀行テープの作成 - EDIフォーマット (R47052T)
- 自動支払 - 下請処理 (R04572J)

標準支払フォーマットについて

JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアには、次の標準支払フォーマットが用意されています。

形式	説明
R04572	標準フォーマットで自動支払を印刷します。
R04572N	手形フォーマットで自動支払を印刷します。
R04572T1	アメリカ仕様の電子支払を印刷します。
R04572T2	CTX (corporate trade exchange) フォーマットで銀行テープを作成します。
R47052T	電子データ交換 (EDI) フォーマットで銀行テープを作成します。
R04572J	下請処理用自動支払を印刷します。

自動支払 (小切手 - 標準形式) (R04572) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

変換

1. 変換プログラム

小切手金額文字変換UDCテーブル (98/CT) にある値を入力して、支払金額を文字に変換する際に使用する変換プログラムを指定します。この処理オプションをブランクにすると、支払通貨に関連付けられている変換プログラムが使用されます。

デフォルト

1. 住所形式 (将来使用)

この処理オプションは使用しません。

選択

1. 会社情報

1を入力すると、支払控えに会社名と住所が印刷されます。

2. 受取人情報

1を入力すると、支払控えに受取人名と受取人番号が印刷されます。

3. 購買オーダー 1を入力すると、購買オーダー番号が印刷されます。ブランクにすると、仕入先請求書番号が印刷されます。
4. 代替控え情報 支払控えに印刷する代替情報を指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 備考を印刷する。
1: 仕入先名を印刷する。
2: 仕入先請求書番号を印刷する。

印刷

1. フォーム・タイプ(将来使用) この処理オプションは使用しません。

自動支払 - 手形フォーマット(R04572N)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

住所

- 住所フォーマット(将来使用) この処理オプションは使用しません。

支払

- 印刷情報 1を入力すると、仕入先名が印刷されます。2を入力すると、仕入先請求書番号が印刷されます。ブランクにすると、備考が印刷されます。

印刷

- フォーム・タイプ(将来使用) この処理オプションは使用しません。

銀行テープ作成 - PPD形式(R04572T1)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

EFT

- ファイルID修飾子 同じ日付に作成された複数のファイルを区別するためのファイルID修飾子を指定します。この処理オプションをブランクにすると、「1」が使用されます。
- テープ支払明細記述 テープ支払明細の説明を10文字以下で入力します。たとえば、経費精算の場合はEXP REIMBと入力します。この記述は銀行で使用され、仕入先の銀行取引明細に印刷されます。
- 直接の発行元 直接の発行元の説明を10文字以下で入力します。この記述は、見出しレコード1のポジション14から23に使用されます。10文字未満の文字を入力すると、入力した文字は右に寄せられ、左側の余白がブランクになります。この処理オプションをブランクにすると、銀行勘定を作成している会社の税IDが使用されます。

IDコード指定子

注意: この処理オプションがblankで税IDを使用できない場合、このテープは決済機関によって拒否されます。

10桁の会社ID番号を入力します。この値は、レコード5のポジション41から50とレコード8のポジション45から54に使用されます。任意で、次のIDコード指定子(ICD)のいずれか、またはユーザーが独自に割り当てる値をID番号の先頭に付けることができます。

1: IRS従業員ID番号(EIN)を指定する。

3: D-U-N-S Number(ダンズナンバー)を指定する。

9: ユーザー割当番号を指定する。

この処理オプションをblankにすると、銀行勘定を作成している会社の税IDが使用されます。

注意: この処理オプションがblankで税IDを使用できない場合、または入力した値が10桁未満の場合、このテープは決済機関によって拒否されます。

任意データ

ファイルの会社/バッチ見出しレコードの任意データ部分(レコード5のポジション21から40)にセットする20文字までの値を入力します。この処理オプションをblankにすると、レコードのこの部分はblankになります。

銀行口座参照ロール番号

1を入力すると、個別ID番号(レコード6のポジション40から54)に仕入先の銀行口座参照ロール番号が使用されます。この処理オプションをblankにすると、受取人名が使用されます。

借方残高

1を入力すると、現在の銀行勘定に借方残高(レコード6)が使用されます。この処理オプションをblankにすると、残高レコードは書き込まれません。

残高レコードが書き込まれる場合、F0030テーブルの銀行勘定の銀行/支店コードと勘定科目コードが使用されます。

印刷

印刷プログラム

事前通知状況がPの場合に使用する支払印刷プログラムを指定します。

印刷プログラム・バージョン

「印刷プログラム」処理オプションで指定した印刷プログラムのバージョンを指定します。

テープ

デバイス名

デバイス名を指定します。

テープ密度

テープ密度を指定します。

ラベル名

ラベル名を指定します。

ブロック・サイズ

ブロック・サイズを指定します。

新ボリューム名

新ボリューム名を指定します。

新規所有者ID

新所有者IDを指定します。

ファイル名

ファイル名を指定します。

銀行テープの作成 – CTXフォーマット(R04572T2)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

1. **ファイルID修飾子** 1文字のファイルID修飾子を指定します。この値は、同じ日付にテープ上に作成された複数のファイルを区別するために使用されます。英数字であれば、どの文字でも入力できます。2文字以上を指定すると、最初の文字だけが使用されます。デフォルト値は1です。
2. **テープ支払明細記述** テープの支払明細を説明する記述を入力します。10文字まで入力できます。たとえば、支払が経費精算であることを示すには、EXP REIMBと入力します。銀行は、この記述を仕入先の銀行取引明細書に印刷できます。
3. **直接の発行元** 直接の発行元を10文字で指定します。この値は、見出しレコード1のポジション14から23にセットされます。9文字(桁)しか入力しないと、入力データが右に寄せられ、1文字目がブランクになります。この処理オプションをブランクにすると、銀行勘定を作成している会社の住所録レコードに含まれる税IDが使用されます。この処理オプションがブランクで、銀行勘定を作成している会社の住所録レコードに税IDが含まれていない場合、決済機関はテープを受け付けません。
4. **IDコード指定子** 会社のID番号を10桁で指定します。この値は、レコード5のポジション41から50とレコード8のポジション45から54に入力されます。IDコード指定子(ICD)として、ユーザー定義の値または次のいずれかの値を会社のID番号の先頭に付けることができます。
 - 1: IRS従業員ID番号を指定する。
 - 3: D-U-N-S Number(ダズナンバー)を指定する。
 - 9: ユーザー割当番号を指定する。
 この処理オプションをブランクにすると、銀行勘定を作成している会社の住所録レコードに含まれる税IDが使用されます。この処理オプションがブランクで、会社の住所録レコードに税IDが含まれていない場合や、税IDが10文字未満の場合、決済機関はテープを受け付けません。
5. **任意データ** ファイルの会社/バッチ見出しレコードの任意データ部分(レコード5のポジション21から40)にセットする内容を入力します。20文字まで入力できます。この処理オプションをブランクにすると、レコードのこの部分はブランクになります。

印刷

1. **印刷プログラム** 仕入先マスター・レコードの「事前通知コード」チェックボックスが選択されている場合に使用する支払印刷プログラムを指定します。

テープ

この処理オプションを使用して、銀行テープのデフォルトの値を指定します。

デバイス名 デバイス名を指定します。

テープ密度 テープ密度を指定します。

ラベル名	ラベル名を指定します。
ブロック・サイズ	ブロック・サイズを指定します。
新ボリューム名	新ボリューム名を指定します。
新所有者ID	新所有者IDを指定します。
ファイル名	ファイル名を指定します。

銀行テーブルの作成 – EDIフォーマット(R47052T)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

1. EDIトランザクション・セット	EDI – トランザクション・セット番号UDCテーブル(40/ST)にある値を入力して、デフォルトのEDIトランザクション・セットを指定します。
2. EDI変換フォーマット	EDI – トランザクション・セット番号UDCテーブル(40/ST)にある値を入力して、デフォルトのEDI変換フォーマットを指定します。
3. EDI伝票タイプ	EDI伝票タイプを指定します。任意の英数字を入力します。次のテーブルのEDI伝票タイプ・フィールド(EDCT)にこの値が自動入力されます。 <ul style="list-style-type: none"> • EDI支払オーダー見出し – 送信(F47056) • EDI支払オーダー銀行名称と住所 – 送信(F470561) • EDI支払オーダー仕入先名称と住所 – 送信(F470562) • EDI支払オーダー受取人名称と住所 – 送信(F470563) • EDI支払オーダー送金通知 – 送信(F47057)
4. EDI取引先ID	EDI取引先IDを指定します。EDI支払オーダー見出し – 送信(F47056)、およびEDI支払オーダー送金通知 – 送信(F47057)テーブルの取引先IDフィールド(PNID)に、この値が自動入力されます。
5. EDIトランザクション取扱コード	EDIトランザクション取扱コードを指定します。トランザクション取扱コードUDCテーブル(47/TH)にある有効なコードを入力します。
6. IDコード指定子	<p>会社のID番号を指定します。10桁のID番号を指定する必要があります。先頭のIDコード指定子(ICD)と後に続く9桁のID番号からなります。有効なICDは次のとおりです。</p> <p>1: IRS従業員ID番号を指定する。</p> <p>3: D-U-N-S Numberを指定する。</p> <p>9: ユーザー割当番号を指定する。</p> <p>この処理オプションを空白にすると、銀行勘定を作成している会社の税ID番号が使用されます。テーブルのこの処理オプションが空白の場合、銀行決済機関はテーブルを受け付けません。</p>
7. ファイル名	支払テーブル・テーブル(F0457)のファイル名フィールド(FILE)に自動入力するファイル名を指定します。

印刷

1. 印刷プログラム

仕入先マスターの事前通知コード設定がオンで、小切手を印刷する必要がある場合に使用する支払印刷プログラムを指定します。

自動支払 - 下請処理 (R04572J) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

変換

変換プログラム

小切手金額文字変換UDCテーブル (98/CT) にある値を入力して、支払金額を文字に変換する際に使用する変換プログラムを指定します。この処理オプションをブランクにすると、支払通貨に関連付けられている変換プログラムが使用されます。

住所

住所

受取人住所、会社住所、またはその両方に使用する一時変更住所形式を指定します。この処理オプションをブランクにすると、国形式が使用されます。

支払

会社名

1を入力すると、支払に会社名と住所が印刷されます。この処理オプションをブランクにすると、会社情報は印刷されません。

印刷

フォーム・タイプ

支払スプール・ファイルのフォームの種類を指定します。この処理オプションをブランクにすると、SUBCHECKSが使用されます。

第 5 章

仕入先情報の入力

この章では、仕入先情報の概要と次の方法について説明します。

- 仕入先マスター情報の入力
- サプライヤ・セルフサービス・プログラムの使い方
- 仕入先の複数銀行口座の設定
- 支払手段と勘定科目の関係の設定
- (ARG) アルゼンチンの仕入先情報の設定
- (JPN) 日本の仕入先情報の設定
- 承認者フィールドとカテゴリ・コード7フィールドの更新
- 年累計伝票金額の確認

注意: アルゼンチン、中国、日本、チェコおよび台湾には、それぞれの国に固有の仕入先情報が用意されています。

仕入先マスター情報について

伝票入力や仕入先に対する支払を実行する前に、その仕入先の仕入先マスター・レコードを作成する必要があります。仕入先マスター・レコードは、すべての仕入先情報の中心的な格納場所です。仕入先レコードを作成する際には、住所録や郵送先情報の他に、伝票や支払の処理方法なども設定します。住所録の改訂プログラム(P01012)や仕入先マスター・プログラム(P04012)を使用して、仕入先レコードを作成します。

仕入先レコードに入力した情報は次のテーブルに保存されます。

テーブル名	保存される情報
住所録マスター (F0101)	名称およびファクタ/代替受取人
住所録 - 人名録 (F0111)	郵送宛名
仕入先マスター (F0401)	仕入先情報
住所録 - 連絡先電話番号 (F0115)	電話番号
日付別住所 (F0116)	郵送先住所
銀行/支店マスター (F0030)	銀行口座情報

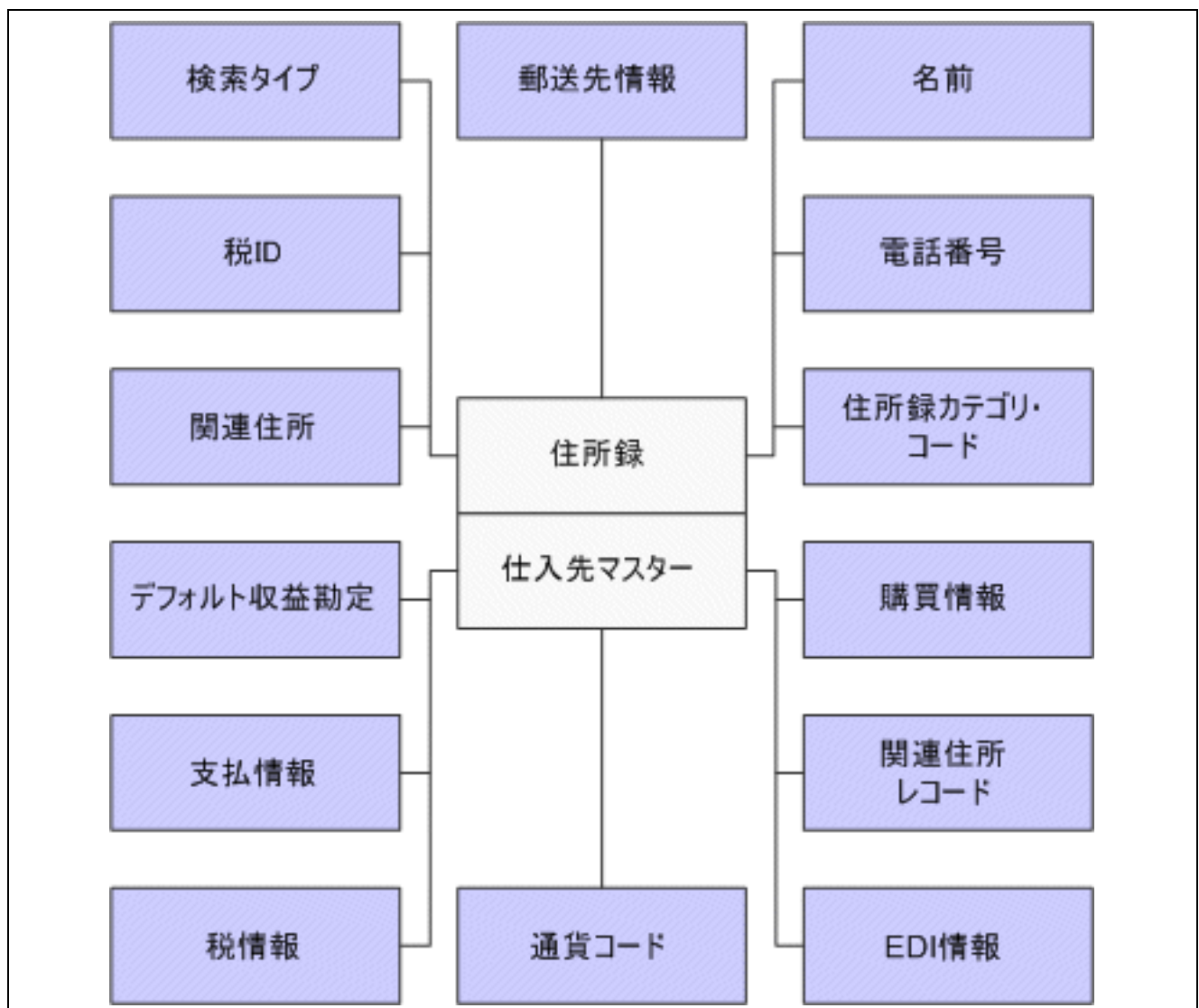
システムを通じて、各仕入先に対して管理する必要がある住所録番号は1つのみです。たとえば、「仕入先元帳照会」フォームで情報を確認したり、売掛金/買掛金相殺レポートなどのレポートを実行したりする場合、同じ住所録番号が使用されます。

次のフォームのどちらでも仕入先レコードを作成できます。

- 住所の処理
- 仕入先マスターの処理

注意: 仕入先マスター・プログラムには処理オプションがあり、仕入先マスター・プログラムで仕入先マスター・レコードを作成する際に使用する住所録の改訂プログラムのバージョンを指定できます。仕入先マスターの処理オプションで指定するバージョンが、新しい住所録情報を入力する際に使用するJD Edwards EnterpriseOne住所録プログラムのバージョンと同じであることを確認してください。

次の図は、住所録の改訂プログラムと仕入先マスター・プログラムに入力する情報を示しています。



住所録と仕入先マスター情報

仕入先の残高情報を記載したレポートを作成できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理 9.0 製品ガイド、「売掛管理レポートの印刷」、「顧客/仕入先残高レポートの印刷」

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」

この章で使用する共通フィールド

銀行口座No.	会社、顧客または仕入先の銀行口座を識別するために銀行によって割り当てられた番号を入力します。 (DNK、FIN、NORおよびSWE) 自社の銀行 (BankgiroまたはPostgiro) 口座番号を入力してください。
国コード - 銀行	国コード・ユーザー定義コード・テーブル (00/CN) にある、国を識別する値を入力します。国コードは、通貨換算には影響しません。 JD Edwards EnterpriseOne住所録システムでのデータ選択と住所形式の設定に、この国コードが使用されます。
銀行/支店コード	資金決済を円滑にするために連邦準備制度により特定の銀行に割り当てられた番号を入力します。
預金種別	銀行口座のタイプを指定するコードを入力します。このコードは、自動支払用の銀行テープ処理で使用されます。ユーザー定義コードH00/CKに設定されているコードを指定する必要があります。
チェック・ディジット	銀行口座番号のチェック・ディジットを示す番号を入力します。これは任意の番号であり、銀行/支店マスター (F0030) のキーの一部ではありません。 (DNK、FIN、NORおよびSWE) このフィールドは、北欧の電子決済には使用されません。
IBAN (国際銀行口座番号)	IBANは、電子フォーマットで入力します。電子フォーマットは国コード、チェック・ディジットおよび基本的な銀行口座番号で構成され、スペースや各国固有の文字は使用できません。
事前通知コード	仕入先に対する電子資金決済が準備段階にあることを指定する場合に、このチェックボックスを選択します。チェックボックスの選択を解除すると、仕入先への振込が完了したことになります。
振込依頼人No.	受取人の参照番号を入力します。このフィールドは、すべての国の銀行で使用されているわけではありません。次の国では次のような目的で使用されています。 (ITA) SIAコードの入力 (NOR) DNB Telebankが指定する番号 (FIN) 受取人ビジネス・コードの入力
SWIFTコード	受取人銀行のSWIFT (国際銀行間電気通信協会) コードを入力します。

仕入先マスター情報の入力

この項では、仕入先マスター情報、「事前通知コード」チェックボックス、源泉徴収対象の仕入先の設定の概要、アルゼンチン向けの事前設定、および次の方法について説明します。

- 仕入先マスター情報 (P04012) の処理オプションの設定
- 仕入先マスターMBF (P0100043) の処理オプションの設定
- 仕入先マスター・レコードの入力
- (ARG)アルゼンチンの仕入先情報の入力
- 仕入先への銀行口座の設定

仕入先マスター情報について

各仕入先マスター・レコードは、住所録番号と呼ばれる番号で固有に識別されます。仕入先レコードを作成する前に、仕入先の住所録レコードが作成されている必要があります。住所録レコードの作成には、仕入先マスター情報プログラムを使用することも、住所録の改訂プログラム (P01012) を使用することもできます。

住所録レコードを作成する前に、その仕入先の住所録レコードがないことを確認します。住所録レコードとそれに対応する取引を結合する機能はありません。

住所録と仕入先マスターの情報を入力すると、仕入先の銀行口座情報を指定できます。支払を電信で行う場合は、仕入先の銀行口座を指定する必要があります。この情報は、電子資金決済によって伝票の支払を行う際に仕入先の銀行口座を識別するために使用されます。

仕入先マスター情報の改訂

仕入先マスター情報はいつでも変更できます。仕入先マスター情報は、仕入先マスター情報プログラム、または住所録の改訂プログラムを使用して変更します。

「仕入先マスターの改訂」フォームでは、「仕入先No.」以外のフィールドを変更できます。ただし、仕入先マスター・レコードを変更しても、その仕入先の既存の伝票には変更が反映されません。その仕入先の住所録マスター・レコードに加えられた変更のみが、伝票に反映されます。たとえば、仕入先の伝票を入力して、仕入先マスター・レコードの支払手段と住所録マスター・レコードの郵送宛先を変更すると、郵送宛先の変更のみが支払に反映されます。この場合、変更後の支払手段を伝票の支払に反映させるには、スピード・リリース・プログラム (P0411S) を使用します。

注意: 「承認者No.」フィールドまたは「カテゴリ・コード07」フィールドに設定された値を変更する場合は、プログラムを実行して、F0411テーブルのこれらのフィールドの値を更新します。

参照: 第 5 章、「仕入先情報の入力」、「承認者フィールドとカテゴリ・コード7フィールドの更新」、65ページ

仕入先の住所録情報がユーザーによって不正に変更される心配がある場合は、受取人制御と呼ばれる処理を有効にします。この処理を有効にしている場合に名称やファクタ/代替受取人などのフィールドの仕入先情報が変更されると、担当者がその変更を承認するまで支払先への伝票の支払が行われません。

仕入先マスター・レコードの削除

仕入先マスター・レコードを削除する際に、次のテーブルにその仕入先のトランザクションがないことが確認されます。

テーブル	名称
F0411	買掛金元帳
F0413	買掛金照合伝票
F0414	買掛金照合伝票明細
F0911	取引明細
F0902	勘定残高(住所録番号が補助元帳として使用されている場合)

検証の結果、前述のテーブルのいずれかに仕入先のトランザクションがある場合、他のテーブルの該当レコードを削除しないと仕入先マスター・レコードは削除できません。

転記された伝票または支払があって仕入先を削除できない場合、「仕入先マスターの改訂」フォームの「支払保留」フィールドに「1」を入力して、仕入先のトランザクションが新しく作成されないようにすることができます。値「1」は、仕入先に対して伝票や支払の入力ができないことを示します。

「仕入先マスターの改訂」フォームの「事前通知コード」チェックボックスについて

事前通知コードは、仕入先への電子資金決済(EFT)が処理中かまたは完了しているかを示します。EFT情報の設定段階を事前通知状況と呼び、電子資金決済情報の作成と検証が行われます。検証が済むと事前通知状況は“完了”に変更されます。

銀行テーブルで支払を処理する際に、銀行勘定(支払人)が事前通知編集を行うよう設定されている場合は、それが実行されます。銀行テーブルでの支払を実行すると、テスト・レコードが銀行テーブルに書き込まれる際に、事前通知状況のすべての新規仕入先に対する支払が印刷されます。受取人に割り当てられた事前通知状況は、仕入先マスター(F0401)に保管されます。銀行テーブルが銀行に到着すると、銀行ではテスト・レコードを一部処理して、銀行口座情報が正しいかどうかを確認します。

注意: 銀行勘定科目プログラム(P0030G)の「銀行情報の改訂」フォームには、「仕入先事前通知コードの一時変更」チェックボックスがあります。このチェックボックスが選択されている場合、フォーム上の銀行勘定に対する銀行テーブルの支払が処理される際に、事前通知編集は実行されません。

仕入先にユーザー定義の銀行口座を設定すると、事前通知状況が設定されたレコードが作成されます。レコードは、複数仕入先銀行口座状況テーブル(F0401M)に独立したレコードとして作成されます。ユーザー定義レコード・タイプの事前通知の編集を行う場合、複数仕入先銀行口座状況テーブルから仕入先の事前通知状況が読み込まれます。ユーザー定義レコード・タイプが設定された銀行口座がない場合、または銀行口座にハードコード化されたレコード・タイプのデフォルト値「V」(仕入先)が設定されている場合は、F0401テーブルから仕入先の事前通知状況が読み込まれます。

源泉徴収対象の仕入先の設定方法について

特定の仕入先に対する支払から一定率の源泉徴収を行う必要がある場合は、その仕入先に対して源泉徴収情報を設定する必要があります。たとえば、契約先の税IDがない場合に、税を源泉徴収し、国税庁に直接納税する必要があります。指定した税率で、入力した伝票から税額が差し引かれます。また、指定した納税先にその税額が支払われます。

仕入先に対して源泉徴収設定を行うには、「仕入先マスターの改訂」フォームの「税情報」タブで源泉徴収に関する情報を入力します。源泉徴収を停止するには、「源泉徴収税率」フィールドと「納税先」フィールドの情報を削除します。

源泉徴収が設定されている仕入先に対する伝票を入力すると、伝票の支払状況に、源泉徴収が設定されていることを示す%が設定されます。

伝票入力後に源泉徴収を設定する場合は、源泉徴収額が計算されるように、伝票の支払状況を手作業で%に変更する必要があります。

参照: 第 9 章、「支払伝票の準備」、「スピード・リリース・プログラムを使用した伝票の検討と改訂」、138 ページ

多数の国向けに、各国固有の仕入先源泉徴収の設定が用意されています。

関連項目:

第 3 章、「買掛管理システムの自動支払処理の設定」、「受取人制御の設定」、24 ページ

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「仕入先情報の設定」、「仕入先および品目情報の設定」

(ARG)アルゼンチン用の事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 「ユーザー・プロファイルの改訂」フォームの「ローカライゼーション国コード」フィールドがAR(アルゼンチン)に設定されていることを確認してください。
- 番号の重複を許可するように住所録追加情報プログラム(P760101A)を設定します。この処理オプションをブランクにすると、CUIT番号を重複して入力できません。
- 外国の仕入先を設定する場合、その国のCUIT(76A/FJ)UDCテーブルにその国におけるCUIT番号を設定し、ARG - 住所録法的書類タイプ(76A/A0)UDCテーブルに外国税IDの書類タイプを設定します。

仕入先マスター・レコードの入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕入先マスターの処理	W04012D	「仕入先および伝票の入力」(G0411)、「仕入先マスター情報」	既存のレコードを確認したり、選択したりします。
仕入先マスターの改訂	W04012A	「仕入先マスターの処理」フォームで「追加」をクリックします。	仕入先マスター・レコードを入力します。
住所別銀行口座設定	W0030AD	「仕入先マスターの改訂」フォームで、「フォーム」メニューの「銀行口座」を選択します。 「住所別銀行口座処理」フォームで「追加」をクリックします。	既存の仕入先に銀行口座情報を指定します。
A/B Additional Information – Revision	W04012B	「仕入先および伝票の入力」(G0411)、「仕入先マスター情報」 仕入先マスターと住所録情報を入力します。 「住所録の改訂」フォームで「OK」をクリックします。 または、アルゼンチンの仕入先の既存のレコードを選択し、「ロー」メニューの「地域情報」を選択します。	(ARG)アルゼンチン用のマスター情報を入力します。
A/B Withholding Information – Revision	W04012C	「A/B Additional Information – Revision」フォームで「OK」をクリックします。	(ARG)アルゼンチン用の源泉徴収情報を入力します。

仕入先マスターの改訂 (P04012) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

入力

1. 税ID

この処理オプションをブランクにすると、「仕入先マスターの改訂」フォームに「税ID」フィールドが表示されます。「1」を入力すると、「税ID」フィールドは表示されません。「2」を入力すると、「税ID」フィールドは表示されますが、使用できません。フィールドを使用できないようにすると、データを入力できません。

デフォルト値

1. 検索タイプ

「仕入先マスターの処理」フォームの「検索タイプ」フィールドのデフォルト値を指定します。検索タイプ・ユーザー定義コード・テーブル(01/ST)にあ

る値を入力します。この処理オプションをblankにすると、「V」(仕入先)がデフォルトとして使用されます。

2. 住所録通貨コード

「住所録通貨コード」フィールドのデフォルト値を指定します。この処理オプションをblankにすると、「仕入先マスターの改訂」フォームの「住所録通貨コード」フィールドをblankにした場合に、「住所録の改訂」フォームの「ビジネスユニット」フィールドに割り当てられている会社の通貨コードが使用されます。

一般会計固定情報プログラムで多通貨の設定が有効な場合にのみ、「住所録通貨コード」フィールドが「仕入先マスターの改訂」フォームに表示されます。

バージョン

1. 仕入先マスターMBF (P0100043) バージョン

仕入先マスターMBF(マスター・ビジネス関数)のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、デフォルトのバージョンZJDE0001が使用されます。

2. 住所録(P01012) バージョン

使用する住所録プログラム(P01012)のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、デフォルトのバージョンZJDE0001が使用されます。

仕入先マスターMBF (P0100043) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

アウトバウンド

1. トランザクション・タイプ

インタオペラビリティ機能を使用する場合は、トランザクション・タイプ・ユーザー定義コード・テーブル(00/TT)にある値を入力します。この処理オプションをblankにすると、送信インタオペラビリティ処理は実行されません。

2. 変更トランザクションの書込み

「1」を入力すると、変更前トランザクションと変更後トランザクションが書き込まれます。変更前トランザクションとは変更前のレコードのことです。変更後トランザクションとは変更後のレコードのことです。

blankにすると、変更後トランザクションのみが書き込まれます。

仕入先マスター・レコードの入力

「仕入先マスターの改訂」フォームにアクセスします。

注意: 「購買1」タブと「購買2」タブのフィールドについては、『JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 製品ガイド』で説明しています。

伝票

仕入先No.

指定した仕入先の名前がフィールドの横に表示されます。仕入先名のリンクをクリックすると、その仕入先の「住所録の改訂」フォームが表示されます。

与信メッセージ

住所録与信メッセージ・ユーザー定義コード(00/CM)にある、顧客または仕入先の与信状況を示す値を入力します。次に例を示します。

- 1: 与信限度額超過
- 2: 購買オーダー必要
- 3: メンテナンス契約上にない

与信メッセージは、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne 受注管理、JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムの照会およびトランザクション入力フォームに表示されます。JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムでは一時与信メッセージが表示されます。

ファクタ/代替受取人

買掛管理で特定の支払先住所を識別する住所録番号を入力します。

認証の必要があるため、F0101テーブルにある番号を指定する必要があります。入力フォームでこの処理オプションをブランクにすると、「住所No.」フィールドの基本住所が使用されます。

親住所No.

親会社の住所録番号を入力します。この番号は、特定の住所を親会社または所在地と関連付けるために使用されます。ここに入力した値は、住所組織構造マスター (F0150) の構造タイプがブランクのレコードに反映されます。検証の必要があるため、F0101テーブルにある住所番号を指定する必要があります。親番号のある住所録レコードの例を次にあげます。

- 親会社のある子会社
- 本社のある支店
- 請負業者の作業現場

このフィールドの値によって設定された親子関係は、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムのレポートでのみ使用されます。伝票と支払の処理では、「親住所No.」フィールドや親子関係は使用されません。

承認者No.

仮伝票入力の承認権限を持つユーザーの住所番号を入力します。検証の必要があるため、F0101テーブルにある住所番号を指定する必要があります。

通貨コード

仕入先が使用する通貨を示すコードを入力します。このコードは、仕入先の伝票を入力するときにデフォルトの通貨として使用されます。このデフォルト通貨は、伝票の入力時に一時変更できます。このフィールドをブランクにした場合は、伝票の入力時に通貨コードを割り当てることも、伝票の会社の通貨コードを自動的に割り当てることもできます。

住所録通貨コード

住所録レコードに保存されている金額の通貨を入力します。たとえば、与信限度額、今年度請求額、前年度請求額などの通貨を入力します。指定した通貨を使って取引履歴レコードが作成、保管されます。

支払保留

未処理の伝票の支払を保留し、該当の仕入先に対して新しい伝票を作成できないようにするかどうかを指定するコードを入力します。支払保留コードは、伝票上の仕入先にのみ適用されます。支払保留コードは、仕入先が別の仕入先勘定で受取人になっている場合は適用されません。値は次のとおりです。

1またはY: 未処理伝票の支払が保留され、この仕入先に対する新しい伝票は作成できない。

2: 未処理伝票の支払は保留されるが、この仕入先に対する新しい伝票は作成できる。

N: 支払も伝票の作成も可能。この値がデフォルト値です。

	未処理伝票すべてではなく、個々の伝票の支払を保留するには、伝票入力時に支払状況コードをHに設定します。
浮動日数	仕入先に対して発行した小切手の振出日付から銀行口座への入金日までの日数を入力します。値は手作業で入力し、あくまでも参考情報です。この値は自動的に計算されません。
仕入先別、支払項目別、伝票別、契約別	仕入先別、支払項目別、伝票別、または契約別のどれを基準に小切手を発行するかを指定します。
勘定科目情報	
モデル仕訳伝票タイプ /No./会社	特定の仕入先に対して使用するモデル仕訳タイプを入力します。
デフォルト費用勘定	仕入先の伝票を入力する際、費用をコード化する勘定科目を入力します。このフィールドをblankにすると、仕入先の伝票で費用勘定を入力する必要があります。
税情報	
税目コード	税目コード・ユーザー定義コード・テーブル(00/EX)にある値を入力し、仕入先に適用する税の種類を指定します。
税率/税域	F4008テーブルにある値を入力して、仕入先に適用する税率と税域を指定します。
納税者区分	<p>納税者のタイプを示すコードを入力します。米国やその他の海外の仕入先用の1099レポートの場合、コードがPまたはNのレコードのみが選択されます。米国の事業体に指定できる値は、次のとおりです。</p> <p>blankまたはC: 法人(税IDが12-3456789の形式で印刷されます)</p> <p>P: 個人(税IDが123-45-6789の形式で印刷されます)</p> <p>N: 自営業(税IDが12-3456789の形式で印刷されます)</p> <p>米国以外の事業体に指定できる値は、次のとおりです。</p> <p>1: 個人</p> <p>2: 法人</p> <p>3: 個人と法人の両方</p> <p>4: 自営業</p> <p>5: 税務署</p>
税申告者ID(個人)	<p>基本の税ID(TX1)の他に納税先から個人納税者に割り当てられたID番号を入力します。</p> <p>(FIN)受取人ビジネス・コードを入力します。このコードは、フィンランド国内の支払にのみ必要です。</p>
納税先	仕入先から源泉徴収を行った税を収める政府機関を指定します。有効な住所録番号を入力する必要があります。
源泉徴収税率	仕入先への支払から源泉徴収を行う際の税率を入力します。パーセントで入力します。

(ARG)アルゼンチンの仕入先情報の入力

「A/B Additional Information - Revision」フォームにアクセスします。

A/B Additional Information - Revision

OK(O) 取消(L) ツール(T)

Address Number

76431

Supplier, Porto Alegre

Tax Information

A/B Legal Document Type - Argentina

Tax ID

58268087000162

Additional Information

Customs Code - Argentina

No Customs

Check - Pay to Order

Vendor/Customer Location

.

Category Code - Argentina 13

.

Category Code - Argentina 14

.

Category Code - Argentina 15

.

「A/B Additional Information - Revision」フォーム



- | | |
|--|---|
| A/B Legal Document Type - Argentina | ARG - 住所録法的書類タイプ(76A/A0)UDCテーブルにある値を入力して、法的書類タイプ(CUIT、DNI、DNRPなど)を指定します。 |
| Customs Code - Argentina | ARG - 関税コード(76/08)UDCテーブルにある値を入力して、仕入先に通関手数料を適用するかどうかを指定します。 |
| Check - Pay to Order | 支払の記述を入力します。 |
| Vendor/Customer Location | VAT源泉徴収の概念を入力します。値は次のとおりです。
カテゴリ・コード・アルゼンチン93 - 利益源泉徴収条件
カテゴリ・コード・アルゼンチン94 - 利益源泉徴収概念 |

仕入先への銀行口座の設定

「住所別銀行口座設定」フォームにアクセスします。

仕入先マスター情報 - 住所別銀行口座設定

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

住所No. *Digger Enterprises*

レコード・タイプ

☒ 仕入先 ☐ 顧客 ☐ 受取手形、自動引落し ☐ 自動入金支払人

銀行情報

銀行/支店コード	<input type="text" value="3009878962"/>
銀行口座No. *	<input type="text" value="261253"/>
チェック・ディジット	<input type="text"/>
IBAN	<input type="text"/>
名称	<input type="text"/>
預金種別	<input type="text" value="4"/> 貯蓄
SWIFTコード	<input type="text"/>
振込依頼人No.	<input type="text"/>
銀行住所No.	<input type="text"/>
国コード - 銀行	<input type="text"/>

「住所別銀行口座設定」フォーム

銀行住所No. 銀行の住所録番号を入力します。

「レコード・タイプ」セクション オプション・ボタンを1つ選択して、銀行口座のレコード・タイプを指定します。選択できる値は次のとおりです。

- 仕入先番号
- 顧客
- 受取手形、自動引落し
- 自動入金支払人

サプライヤ・セルフサービス・プログラムの使い方

この項では、サプライヤ・セルフサービス・プログラム(P04012SS)の概要と次の方法について説明します。

- サプライヤ・セルフサービスの処理オプションの設定
- サプライヤ・セルフサービス・プログラムの使い方

サプライヤ・セルフサービス・プログラムについて

仕入先は、サプライヤ・セルフサービス・プログラムを使用して、購買に関する様々な情報を確認したり更新したりすることができます。仕入先は、次の情報を更新できます。

- 最小オーダー値
- 単位 - 重量
- 単位 - 容量
- 貨物取扱
- 最大オーダー値
- 配送指示

仕入先は、住所録セルフサービス・プログラム (P01012SS) を使用して、住所録の情報も更新できます。住所のセルフサービス・プログラムを使用すると、郵送宛名や連絡先情報、電話番号、電子メール・アドレス、税情報などを変更できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録セルフサービスの使い方」

サプライヤ・セルフサービスを使用して仕入先情報を更新する際に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
サプライヤ・セルフサービス	W4012SSA	「セルフサービス・アプリケーション」(4/G01101)、 「サプライヤ・セルフサービス」	仕入先マスター情報を更新します。

サプライヤ・セルフサービス (P04012SS) の処理オプションの設定

この処理オプションでは、仕入先マスターMBFのデフォルトのバージョンを指定します。

バージョン

1. 仕入先マスターのマスター・ビジネス関数 (P0100043) のバージョン

仕入先マスターMBF (マスター・ビジネス関数) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、デフォルトのバージョンZJDE0001が使用されます。仕入先マスターMBFは、電子データ交換 (EDI) 送信で仕入先マスター・レコードを処理するために必要な情報を提供します。

参照: 第 5 章、「仕入先情報の入力」、「仕入先マスターMBF (P0100043) の処理オプションの設定」、52 ページ

サプライヤ・セルフサービス・プログラムの使い方

「サプライヤ・セルフサービス」フォームにアクセスします。

サプライヤ・セルフサービス - サプライヤ・セルフサービス

サプライヤ・レコードの変更

保存して閉じる(O)

取消(L)

会社名: AB Common

住所録No.: 1001

税情報

税ID 66595263000170
法人コード 法人追加税ID 492.028.480.114
税目コード .

伝票情報

支払条件 Net 30 Days
通貨コード

支払方法 デフォルト

EDI情報

バッチ処理モード 処理禁止
数量小数点以下桁数品目タイプID デフォルト品目タイプID 40/11
金額小数点以下桁数

購買特記事項

運送業者

貨物取扱

「サプライヤ・セルフサービス」フォーム (1/2)

EDI情報

バッチ処理モード 処理禁止
数量小数点以下桁数品目タイプID デフォルト品目タイプID 40/11
金額小数点以下桁数

購買特記事項

運送業者

貨物取扱

最小オーダー値

最大オーダー値

単位 - 重量

-- 1つ選択 --

配送指示

単位 - 容量

-- 1つ選択 --

「サプライヤ・セルフサービス」フォーム (2/2)

「サプライヤ・セルフサービス」フォームに表示される変更可能なフィールドは、「仕入先マスターの改訂」フォームの「購買1」タブと「購買2」タブにも表示されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「仕入先情報の設定」、「仕入先購買指示の定義」

仕入先の複数銀行口座の設定

この項では、仕入先に対する複数の銀行口座の設定の概要とその方法、および仕入先レコード・タイプとしての銀行口座の使用について説明します。

仕入先に対して複数の銀行口座を設定する処理について

銀行テープを使用して支払を電信で行う場合、仕入先に複数の銀行口座を設定できます。複数の銀行口座を設定すると、その中のどの口座にも支払を行うことができます。複数の銀行口座を設定し、受取人と同じ銀行から支払を行うと、振込手数料が節約できるという利点があります。

複数の銀行口座を設定する際に、すべての銀行口座に同じユーザー定義レコード・タイプを割り当てることも、銀行口座ごとに個別のユーザー定義レコード・タイプを割り当てることもできます。すべての銀行口座に同じユーザー定義レコード・タイプを割り当てるには、銀行タイプ・コード(00/BT)UDCテーブルの同じ値を割り当てます。どちらの方法で設定するかは、支払時の銀行口座の選択方法に基づいて決定します。

注意: レコード・タイプV(仕入先)は、仕入先の1つの銀行口座にのみ割り当てることができます。

支払に使用する銀行口座を手動で指定する場合、すべての銀行口座に同じユーザー定義レコード・タイプを割り当てることができます。支払に使用する銀行口座には、レコード・タイプV(仕入先)を指定します。

ユーザー定義レコード・タイプ、支払手段、勘定科目の間に設定された関係に基づいて銀行口座を自動的に選択する場合は、各銀行口座に個別のユーザー定義レコード・タイプを設定します。この場合、ユーザー定義レコード・タイプの事前通知状況を確認して、支払が正しく行われるかを確認する必要があります。

すべての銀行口座に同じユーザー定義レコード・タイプを割り当てる場合は、銀行口座を仕入先レコード・タイプとして使用する必要があります。ただし、勘定科目または支払手段とレコード・タイプとの関係を設定したり、ユーザー定義レコード・タイプの事前通知状況を確認したりする必要はありません。銀行口座を仕入先レコード・タイプとして有効にするには、00/BT UDCテーブルの値Vをその口座に割り当てます。

銀行口座ごとに異なるユーザー定義レコード・タイプを割り当てる場合は、支払手段または勘定科目とレコード・タイプとの関係を設定して、レコード・タイプの事前通知状況を確認する必要があります。この場合、銀行口座を仕入先レコード・タイプとして使用する必要はありません。

仕入先の複数の銀行口座に関する情報は、次のテーブルに保存されます。

テーブル	保存される情報
銀行/支店マスター (F0030)	仕入先銀行口座情報
仕入先の複数銀行口座タイプ (F0417M)	ユーザー定義レコード・タイプ、支払手段、銀行勘定科目(任意)の関係を指定する銀行口座タイプの情報
複数仕入先銀行口座状況 (F0401M)	ユーザー定義の銀行タイプの仕入先銀行口座の状況

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」、「住所録レコードの入力」
 第 5 章、「仕入先情報の入力」、「仕入先マスターの改訂」フォームの「事前通知コード」チェックボックスについて」、49 ページ

銀行口座を仕入先レコード・タイプとして使用する方法について

次の場合に、仕入先レコード・タイプとして銀行口座を使用します。

- 仕入先が複数の銀行口座に設定された同じユーザー定義レコード・タイプを持っている場合
- 支払手段と銀行勘定の関係がユーザー定義レコード・タイプに指定されていない場合

1つの仕入先に対して複数の銀行口座を設定して、すべての口座に同じユーザー定義レコード・タイプを割り当てることができます。たとえば、ある仕入先に5つの銀行口座を設定して、5つの口座すべてに共通のレコード・タイプZを割り当てることができます。

複数の銀行口座に同じユーザー定義レコード・タイプを割り当てる場合は、電子送金を行う支払先の口座を手作業で指定する必要があります。指定しない場合は、デフォルトの検索条件に合う最初の銀行口座が使用されます。たとえば、5つの銀行口座にレコード・タイプZが割り当てられている仕入先に対して電子支払を行うと、その仕入先の口座の中で最初に見つけられたレコード・タイプZの口座に支払われます。このような支払先口座の自動選択を行わずに、銀行テーブル処理を行うたびに銀行口座を指定できます。

たとえば、5つのZタイプの口座のうち1つをV(仕入先)タイプの口座として指定します。この場合、Zタイプのうち選択した口座がVタイプに変更されます。レコード・タイプを指定して、これをレコード・タイプVに変更してから、Vレコード・タイプを使用する標準の銀行テーブル処理を実行します。

また、銀行口座に手形(D)レコード・タイプを指定することもできます。この処理は、仕入先(V)レコード・タイプを使用した場合とほぼ同じです。

仕入先に複数の銀行口座を設定する際に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
住所別銀行口座処理	W0030AD	「自動支払設定」(G04411)、「銀行口座相互参照」	複数の銀行口座を設定する仕入先番号の仕入先銀行口座を選択します。 銀行口座を選択し、「ロー」メニューの「支払先として使用」を選択して、銀行口座に仕入先レコード・タイプを設定することもできます。
複数仕入先銀行口座の設定	W0030AC	「住所別銀行口座処理」フォームで、「フォーム」メニューの「複数口座」を選択します。	仕入先の銀行口座のうち1つの情報を入力します。

仕入先の複数銀行口座の設定

「複数仕入先銀行口座の設定」フォームにアクセスします。

レコード・タイプ

銀行タイプ・コード(00/BT)テーブルにある値を入力して、銀行口座のタイプを指定します。

支払手段と勘定科目の関係の設定

この項では、支払手段と勘定科目の関係の設定の概要とその方法について説明します。

支払手段と勘定科目の関係の設定処理について

手動で口座のユーザー定義レコード・タイプをV(仕入先)に設定して使用する場合、この処理は必要ありません。

支払手段をレコード・タイプ、またはレコード・タイプと銀行勘定に割り当てると、自動支払処理で銀行口座を自動選択する規則が設定されます。この規則に基づいて正しい銀行口座が自動的に選択されます。

仕入先に対して設定した複数の銀行口座のうちの1つに支払を行う場合、次のレコード・タイプの関係のどちらかの設定を行う必要があります。

- 銀行タイプ(00/BT)に対して作成したレコード・タイプと支払手段との関係を設定します。この場合、支払手段は特定のレコード・タイプに関連付けられます。

たとえば、支払手段Tにレコード・タイプZを指定すると、特に定義していないすべての銀行勘定科目に対して支払手段Tの処理が適用されます。レコード・タイプZを使って、受取人の銀行口座情報が取得されます。受取人にレコード・タイプZの銀行情報が設定されていない場合は、ハードコード化されたデフォルト・レコード・タイプVが使用されます。

- 銀行タイプ(00/BT)に対して作成したレコード・タイプ、銀行勘定、支払手段の関係を設定します。この場合、銀行勘定と支払手段の両方が特定のユーザー定義レコード・タイプに関連付けられます。

たとえば、銀行勘定科目が1.1110、支払手段Tにレコード・タイプYを指定すると、銀行勘定科目1.1110に対して支払手段Tの処理が適用されます。レコード・タイプYを使って、受取人の銀行口座情報が取得されます。また受取人にレコード・タイプYの銀行情報が設定されていない場合は、ハードコード化されたデフォルト・レコード・タイプVが使用されます。

支払手段と勘定科目の関係の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
複数仕入先銀行口座タイプの設定	W0417MB	「自動支払設定」(G04411)、「複数仕入先銀行勘定タイプ」 「複数仕入先銀行口座タイプの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	支払手段と勘定科目の関係をレコード・タイプに設定します。

支払手段と勘定科目の関係の設定

「複数仕入先銀行口座タイプの設定」フォームにアクセスします。

複数仕入先銀行勘定タイプ - 複数仕入先銀行口座タイプの設定

OK(O) 取消(L) ツール(T)

支払手段	T	電子資金決済(A/R & A/P)
銀行勘定科目	1.1110.BEAR	
レコード・タイプ	Y	仕入先銀行口座 - 複数

「複数仕入先銀行口座タイプの設定」フォーム

レコード・タイプ

銀行タイプ・コード(00/BT)UDCテーブルにある値を入力して、内部用の銀行口座と外部用の銀行口座を区別します。値は次のとおりです。

B: 有効な銀行/支店コード

C: 顧客銀行口座

D: 受取手形または自動引落とし用のデフォルトの銀行口座

G: 内部用銀行勘定科目

H: オランダの銀行口座

M: 買掛金支払の印刷情報の定義に使用される銀行勘定科目/ビジネスユニット

P: 自動入金支払人

V: 銀行テープを使って支払を行う仕入先銀行口座

X: 仕入先の代替銀行口座

Y: 仕入先の複数の銀行口座

注意: 銀行タイプBを指定すると、他の銀行タイプは使用できません。銀行タイプVを指定すると、他で銀行タイプVは指定できません。銀行タイプDを指定すると、他で銀行タイプDは指定できません。

(JPN) 日本の仕入先情報の設定

この項では、日本で必要な仕入先補足情報の概要、事前設定、および仕入先補足情報の入力方法について説明します。

日本の仕入先情報について

日本では、標準的な仕入先情報の他に、手形と銀行振込の処理に必要となる情報を設定する必要があります。これには、次の情報が含まれます。

- 受取人の住所番号
- 銀行振込タイプ
- 支払条件

- 源泉区分
- 手形の割合

仕入先に関する情報は次のテーブルに保存されます。

テーブル	保存される情報
仕入先マスター (F0401)	仕入先情報
日付別住所 (F0116)	郵送先住所情報
銀行/支店マスター (F0030)	銀行口座情報
日本住所録タグ・テーブル (F750401)	日本用のカントリーサーバーで管理される住所録補足情報

新しい仕入先を追加したり、既存の仕入先の情報を変更する場合は、「仕入先マスター情報」フォームを使用します。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 手形用の支払条件を設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「支払条件の設定」

- 振込指定区分 (75/TT) UDCテーブルに振込タイプを設定します。

日本の仕入先情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕入先マスターの改訂	W04012A	「仕入先および伝票の入力」(G0411)、「仕入先マスター情報」 「仕入先マスターの処理」フォームで「追加」をクリックします。	標準の仕入先情報を入力します。
住所録の改訂(日本)	W01054JPA	「フォーム」メニューの「地域情報」を選択します。	日本で必要な仕入先情報を入力します。

日本の仕入先情報の設定

「住所録の改訂(日本)」フォームにアクセスします。

「住所録の改訂(日本)」フォーム

銀行振込タイプ

銀行振込のタイプを指定します。銀行振込タイプは、振込指定区分UDC (75/TT) で定義します。値は次のとおりです。

E: 電信振込(振込手数料あり)

L: 文書振込(振込手数料あり)

7: 電信振込(振込手数料なし)

8: 文書振込(振込手数料なし)

支払条件(手形サイト)

手形を作成するときに満期日の計算に使用する、デフォルトの支払条件のコードを入力します。

源泉区分

仕入先に対する源泉徴収税額を決定する税金カテゴリ・コードを入力します。

手形の割合

日本の自動分割(半金半手)処理で支払を分割する際の手形支払の割合を入力します。この割合は、小数点以下すべての桁数を使って表されます。たとえば、20%は「0.2000」と表されます。

承認者フィールドとカテゴリ・コード7フィールドの更新

この項では、承認者フィールドとカテゴリ・コード7フィールドの更新の概要と次の方法について説明します。

- 承認者/カテゴリ・コード7レポートの実行
- 承認者/カテゴリ・コード7レポートの処理オプションの設定

承認者/カテゴリ・コード7レポートについて

必ず最新の情報を処理するために、買掛金元帳 (F0411) テーブルを更新する必要があります。次の値を変更した場合は必ず更新します。

- 仮伝票入力時の承認者番号
- 1099情報とともに伝票を入力する際のカテゴリ・コード7

仕入先レコードの承認者番号またはカテゴリ・コード7を変更しても、F0411テーブルの既存の取引は自動的に変更されません。変更した内容に従って、買掛金元帳テーブルを更新する必要があります。

承認者番号とカテゴリ・コード7の更新例

次の例では、買掛金元帳テーブルを更新しないと発生する問題について説明します。

A & D Parts (仕入先番号 4005) の伝票に対して、住所録番号 4002 の Dominique Abbott を承認者として設定しました。6月1日に、この仕入先に仮伝票入力で2件の伝票を入力しました。A & D Parts の仕入先マスター情報には、Dominique Abbott が伝票の承認者として表示されます。6月2日、Dominique Abbott は入力された伝票を処理せずに退職しました。

後任者は住所録番号 6000 の Melvyn Easter に決まりました。仕入先マスター情報で、A & D Parts の伝票の承認者番号を 4002 (Dominique Abbott) から 6000 (Melvyn Easter) に変更します。6月10日に、同じ仕入先に対してもう1件伝票を入力しました。この伝票の承認者は Melvyn Easter です。

6月15日に、Melvyn Easter は仮勘定を振り替えようとします。次の表に、買掛金元帳テーブルの情報を示します。

日付	取引レコード	承認者番号
1998/06/01	PV 3285	4002 Dominique Abbott
1998/06/01	PV 4267	4002 Dominique Abbott
1998/06/10	PV 5342	6000 Melvyn Easter

Melvyn Easter は、「伝票仕訳の処理」フォームで自分の承認者番号 6000 を入力します。このとき表示される Melvyn Easter が承認者の伝票は、承認者/カテゴリ・コード7を更新したかどうかによって、次のようになります。

- 承認者とカテゴリ・コード7を更新しないと、承認者が Melvyn Easter (番号 6000) の伝票は PV 5342 しかないため、「伝票仕訳の処理」フォームにはこの伝票しか表示されません。PV 3285 と PV 4267 の承認者は Dominique Abbott のままです。
- 承認者とカテゴリ・コード7を更新すると、「伝票仕訳の処理」フォームに3件すべての伝票が表示されます。これは、A & D Parts の仕入先レコードが読み込まれ、未決済伝票すべての承認者番号が 6000 (Melvyn Easter) に変更されたためです。

注意: この更新プログラムは、ピークの時間帯を避け、他のユーザーがシステムを使用していないときに実行します。

承認者/カテゴリ・コード7レポートの実行

「買掛管理システムの上級/技術的操作」(G0431)の「承認者/カテゴリ・コード7の更新」を選択します。

承認者/カテゴリ・コード7(R04802)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

プロセス

1. カテゴリ・コード07

F0411テーブルのカテゴリ・コード07(AC07)フィールドを更新するかどうかを指定します。この処理オプションをブランクにすると、カテゴリ・コード07フィールドはF0101テーブルの値に更新されます。値は次のとおりです。

ブランク: カテゴリ・コード07フィールドを更新する。

1: カテゴリ・コード07フィールドを更新しない。

年累計伝票金額の確認

この項では、年累計伝票金額の概要と次の方法について説明します。

- 年累計伝票金額の更新プログラム(R04820A)の実行
- 年累計伝票金額の更新(R04820A)の処理オプションの設定

年累計伝票金額について

資金管理の一環として、仕入先からの合計請求金額を照会できます。伝票を入力するたびに年累計伝票金額は自動的に更新されますが、正確な合計額を確認するためにこの更新プログラムを実行することをお勧めします。正確な合計額を確認するには、まず必要な修正を行ってから、仕入先の年累計伝票金額を更新する必要があります。通常、毎月更新処理を行うか、またはカレンダー年の最終日あるいは会計年度末にシステム全体の年度締め処理の一環として行います。

仕入先の年累計伝票金額を更新する前に、仕入先レコードのエラーを修正します。エラーを検索するには、テスト・モードで年度締めプログラムを実行します。ワーク・センター・プログラム(P012501)にワークフロー・メッセージが送信されます。エラー・メッセージと対応する伝票番号とともに、エラーのある仕入先が表示されます。年累計伝票金額を更新する前に、これらのエラーを修正する必要があります。

エラーがなくなるまで、テスト・モードで更新プログラムを繰り返し実行します。テスト・モードでプログラムを再実行する場合、データ選択でエラーのあった仕入先のみを選択して、エラーが解決されたかどうかを確認します。

年累計伝票金額の更新

通常、年度締め処理の一環として買掛管理取引の年度締めを行い、その後すぐに年累計伝票金額を更新します。年累計伝票金額は、伝票の総額に基づいて計算されます。年累計伝票金額を更新する際、日付オプション処理オプションで指定した開始/終了日付に基づいて、すべての仕入先に対し次の処理が行われます。

- F0411テーブルの合計伝票金額が計算されます。
- F0401テーブルの次の金額が更新されます。
 - 前年度伝票金額
 - 年累計伝票金額

これらの伝票金額を更新する際、現行年度の取引だけが対象となるように前年度累計額は除外されます。

年累計伝票金額の更新時にエラーが発生した場合、ワークフロー管理システムにエラー・メッセージが送信されます。

年に2度以上買掛金レコードを除去する場合は、除去するたびに仕入先の年累計伝票金額を更新する必要があります。

計算方法について

F0401テーブルは、年累計伝票金額の更新プログラムの計算処理オプションで指定した計算方法を使用して更新されます。

計算方法1

この方法では、日付オプション処理オプションで指定した日付を使って前年度の伝票金額が計算され、前年度支払金額フィールドが更新されます。このため、前年度の買掛取引データが残っていることが重要です。日付オプション処理オプションで指定した日付より後の元帳日付の取引はすべて、年累計請求金額フィールドに反映されます。

たとえば、現行年度が2008年でカレンダー年に基づいて年累計伝票金額を計算する場合、開始日付に「2007/01/01」、終了日付に「2007/12/31」と入力します。この日付指定で前年度が認識され、2007年12月31日より後のすべての取引は現行年度に更新されます。開始日付に「2008/01/01」、終了日付に「2008/12/31」と入力した場合は、前年度支払金額フィールドが更新され、2009年1月1日以降の取引は年累計請求金額フィールドに反映されます。

この処理は必要なだけ実行できます。ただし、開始日付から現在の日付までの買掛伝票がF0411テーブルから除去されていない場合のみ正確な情報を得ることができます。

計算方法2

この方法は、前年度の取引が除去されているか、またはレコードが残っていないことを前提としています。計算方法1と同じように前年度の日付を入力しますが、情報の使われ方が異なります。前年度のレコードが存在しないため、日付オプション処理オプションで指定した終了日付より後の元帳日付を持つ伝票の金額を加算することによって年累計伝票金額が計算されます。次に、既存の年累計伝票金額からこの合計が差し引かれます。計算結果は、前年度支払金額フィールドに反映されます。年累計請求金額フィールドは、新しく計算された年累計額に更新されます。

たとえば、現行年度が2008年でカレンダー年に基づいて年累計伝票金額を計算する場合、開始日付に「2007/01/01」、終了日付に「2007/12/31」と入力します。元帳日付が2007年1月1日以降のすべての伝票の合計金額が、新しい年累計伝票金額になります。前年度の金額は、計算前の年累計伝票金額の合計から新しい年累計金額を差し引いて新たに計算されます。

重要: 計算方法2でこの処理を2回以上実行すると、前年度支払金額にはゼロが表示されます。

年累計伝票金額の更新プログラム(R04820A)の実行

「買掛管理システムの上級/技術的操作」(G0431)の「年累計伝票金額の更新」を選択します。

年累計伝票金額の更新(R04820A)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

日付オプション

日付範囲に対して計算された金額を使用して、仕入先マスターの前年度伝票金額が更新されます。「終了日付」処理オプションで指定した日付より後の日付の伝票の合計金額が、仕入先マスターの年累計伝票金額になります。

開始日付 決済の日付範囲の開始日付を入力します。

終了日付 決済の日付範囲の終了日付を入力します。

処理

1. 前年度伝票金額計算方法 前年度伝票金額を計算するときに使用する方法を指定します。値は次のとおりです。

1: 計算方法1。開始日付処理オプションと終了日付処理オプションで指定した日付範囲を使用する。

2: 計算方法2。既存の年累計伝票金額から新たに計算された年累計伝票金額を差し引いた値を使用する。終了日付処理オプションで指定した日付のみを使用します。

2. 仕入先マスターの更新 「1」を入力すると、プログラムを最終モードで実行したときにF0401テーブルが更新されます。空白にすると、F0401テーブルは更新されません。

注意: 計算方法2を使用する場合は、空白にすることをお勧めします。

通貨

通貨コード - 住所録金額 計算方法1を使用して最終モードでプログラムを実行する際、F0401テーブルに反映する通貨を入力します。この処理オプションを空白にすると、F0401テーブルは更新されません。

第 6 章

買掛管理伝票の処理

この章では、伝票処理の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 標準伝票の入力
- 仮伝票の処理
- 定期伝票の処理
- 前払処理

注意: アルゼンチン、ブラジル、チリ、ポーランド、ペルー、ロシアおよびベネズエラには、それぞれの国に固有の伝票機能が用意されています。

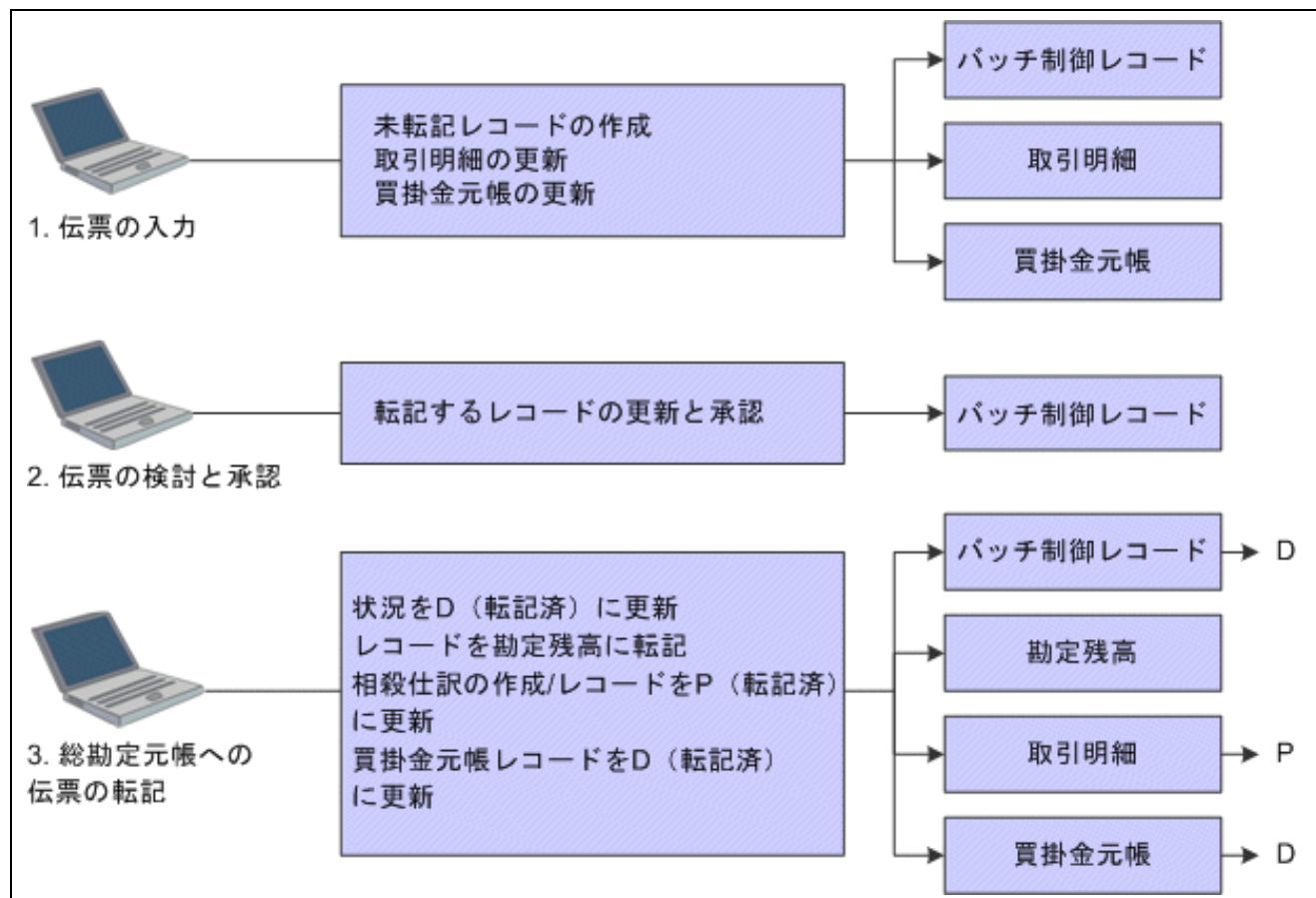
伝票の処理について

仕入先に対して支払をする前に、伝票を作成する必要があります。買掛管理部門では、伝票処理を効率的に進めることが非常に重要です。

伝票処理には3つのステップがあります。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのシステムでは、取引のバッチを3つのステップで処理します。処理の3つのステップは次のとおりです。

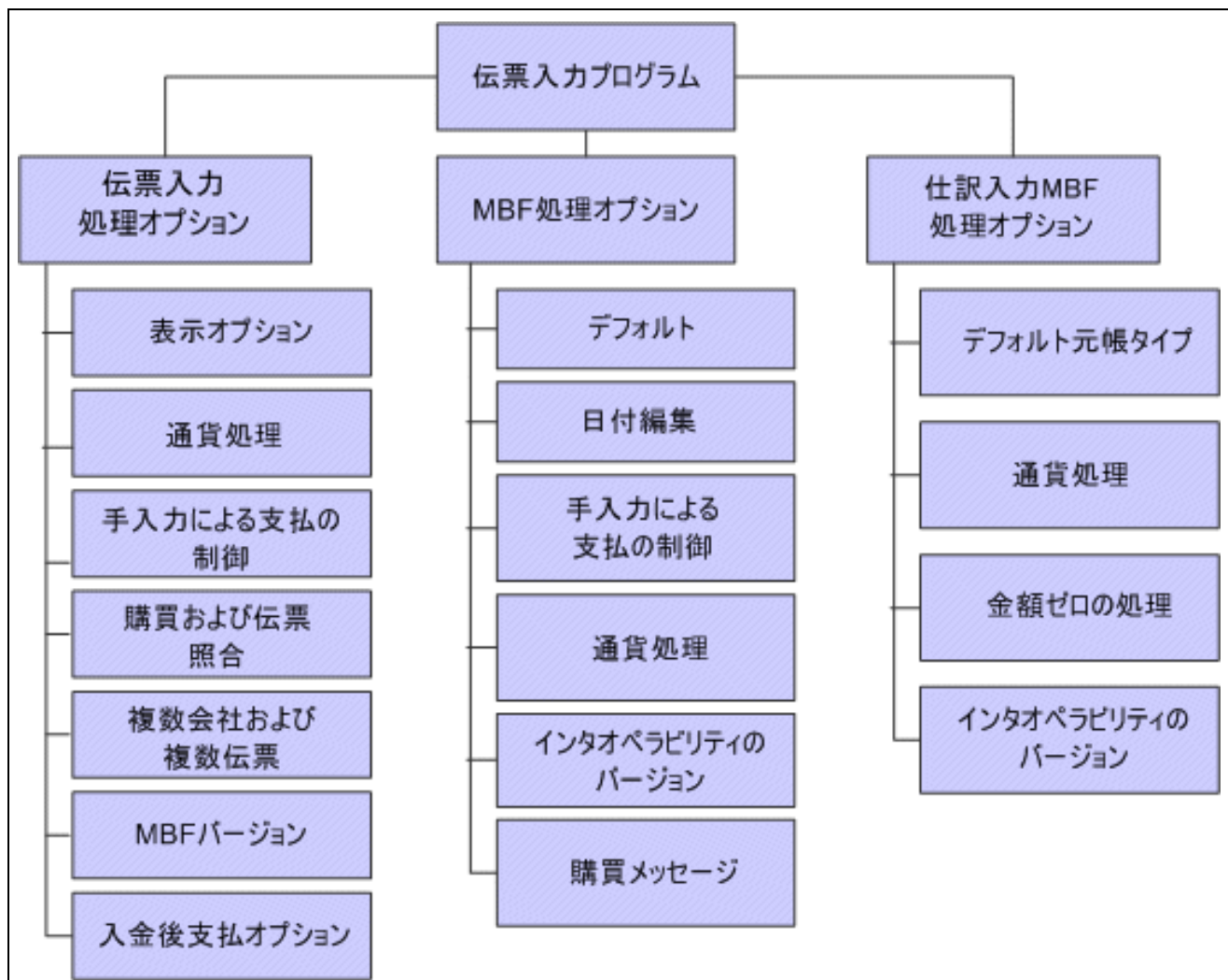
- 取引の入力
- 転記のための取引の検討と承認
- 総勘定元帳への取引の転記

次のフローチャートは、伝票の3ステップ処理を示しています。



伝票の3ステップ処理

伝票の入力方法に影響する多くの処理オプションがあります。次の図は、伝票入力の際に考慮する必要のある処理オプションを示しています。



伝票入力の処理オプション

伝票の転記

総勘定元帳への転記プログラム(P09801)を使用して伝票を転記すると、設定したAAIと処理オプションに従って伝票の自動仕訳が作成されます。

総勘定元帳への転記プログラムでは、買掛金元帳テーブル(F0411)から選択されたバッチに対して未転記の取引が選択されます。次に、自動相殺金額についての取引が作成されます。税金や会社間決済など、その他の関連入力も作成されます。

自動相殺金額は、買掛金勘定の借方または貸方に記入され、AAI項目PCによって制御されます。AAI項目PCの検索には、各伝票に入力されている会社番号と相手勘定を使用します。検索対象には相手勘定も含まれます。

注意: バッチごと(B)の集計方式を選択した場合、会社間決済の詳細方式(2)は使用できません。

転記プロセスの間、自動相殺について次の情報が取得されます。

- 自動集計方式

この方式は、買掛管理固定情報の集計方式に基づいています。

- 伝票タイプ

伝票タイプはAE(自動仕訳)で、会社間決済と、買掛金および売掛金に対する自動相殺仕訳を含みません。

注意: 貸借不一致のバッチを転記した場合、会社間決済は作成されませんが、買掛金および売掛金に対してAE伝票タイプは作成されます。

- 伝票番号

この番号は、買掛管理固定情報の集計方式に基づいています。詳細に(集計方式Yで)転記した場合、伝票番号ごとに相殺伝票が作成されます。伝票番号をバッチで(集計方法B)転記した場合、伝票番号はバッチ番号に対応します。

- 次のような勘定科目名/摘要

- 買掛金勘定/バッチV(バッチ番号)ごとの転記の集計
- 買掛金勘定/伝票V(伝票番号)ごとの転記の集計

税額が含まれている伝票の場合、同様に自動仕訳が作成されますが、勘定科目名はAAI項目PT(買掛金にかかる税)に基づきます。プロセスの後半で、処理オプションに基づいて、税額が税テーブル(F0018)に記録されます。

転記済伝票の改訂

転記済で未払いの伝票の改訂が必要な場合があります。たとえば、勘定科目情報への行の追加が必要な場合があります。

転記済の伝票を変更すると、監査証跡が維持されます。新規取引に伝票タイプPE(総額の変更)を使用して、転記済取引が調整されます。この新規取引は、F0411テーブルに保存されます。

次のキー・フィールドは変更できません。

- 伝票番号
- 伝票タイプ
- 伝票会社
- 仕入先番号
- 元帳日付
- 会社
- 相手勘定

会社フィールドと相手勘定フィールドは、伝票が転記されるとキー・フィールドになります。キー・フィールドの情報を変更するには、次の作業を行います。

- 伝票を無効にして再入力する。
- 伝票をコピーして、該当のフィールドを変更してからその伝票を受け入れ、元の伝票を無効にする。

伝票の入力フォームで伝票に変更を加えると、バッチが未処理に戻され、バッチの再転記を求められます。期日などの勘定科目情報を変更しないように情報を変更するには、スピード・リリースを使用することを検討してください。スピード・リリースではバッチが未処理に戻されません。

特定の種類の変更を行うと、バッチ状況が転記済から未転記に変更されます。バッチを再転記する必要があります。この状況は、次の場合に発生します。

- 伝票の合計金額を変更したとき
- バッチの伝票番号を変更したとき
- 仕訳を変更したとき

バッチの再転記が必要な場合、転記の前にバッチの承認が必要となることがあります。当初伝票のデフォルト入力状況が保留だった場合、この作業が必要になります。

標準伝票の入力

この項では、標準伝票の入力、その他の伝票入力方法の使用、およびマスター・ビジネス関数(MBF)の概要と次の方法について説明します。

- 標準伝票入力(P0411)の処理オプションの設定
- 伝票入力MBF(P0400047)の処理オプションの設定
- 標準伝票の入力
- (POL)ポーランドの伝票の入力
- 栽培契約の追加情報の入力
- スピード伝票入力(P0411SV)の処理オプションの設定
- スピード伝票の入力
- “複数伝票 – 単一仕入先”伝票の入力
- “複数伝票 – 複数仕入先”伝票の入力
- “複数会社 – 単一仕入先”伝票の入力

標準伝票について

仕入先から請求書を受け取ったら、支払を行う前に伝票を作成する必要があります。仕入先からの請求書の情報を入力して伝票を作成します。支払伝票の処理方法については、情報を手入力することも、仕入先レコードから自動的に取り込むようにすることもできます。

標準伝票入力プログラム(P0411)は、仕入先からの請求書に対する伝票を入力する際に、その機能を柔軟かつ十分に発揮します。伝票を追加、変更、削除、無効にする場合、標準伝票入力を使用してください。

標準伝票入力プログラムを使用して伝票を入力するには、次のタスクを実行します。

- 伝票情報の入力
- 総勘定元帳情報の入力

総勘定元帳情報を入力する際は、通常、経費勘定の借方に情報を入力します。伝票を転記すると、負債勘定に相殺仕訳が作成されます。

伝票の作成が終わると、割り当てられた伝票タイプと伝票番号が表示されます。この情報を使用して、伝票を検索、検討できます。

伝票には、バッチ・タイプ「V」が割り当てられます。伝票は状況が未転記として作成され、取引明細テーブル(F0911)に総勘定元帳情報が、買掛金元帳テーブル(F0411)に伝票情報が追加されます。伝票を転記すると勘定残高テーブル(F0902)が更新され、取引明細テーブルおよび買掛金元帳テーブルの伝票データは転記済に変更されます。また、AAI(自動仕訳)で指定された負債勘定に相殺仕訳が作成されます。

伝票入力の前に、仕入先レコードが住所録マスター(F0101)および仕入先マスター(F0401)に存在している必要があります。一般的に、まず仕入先レコードを作成してから、次に伝票を入力します。ただし、伝票入力時に仕入先レコードを作成することもできます。そうするには、「伝票入力 - 支払情報」フォームで「フォーム」メニューの「住所録」を選択して、仕入先レコードを入力するステップに従います。

伝票の見出し領域と詳細グリッド

一般的に、伝票の見出し領域に情報を入力してから、詳細グリッドに移ります。支払条件のような情報は仕入先マスター・レコードと関連しており、見出し領域と詳細グリッドのデータは自動的に入力されます。

カーソルを伝票の詳細グリッドに移動させて、仕入先番号または会社番号を変更する必要があるかどうかを確認します。その後、詳細グリッドに情報を入力していなければ、見出し領域に戻ることができます。仕入先マスター・レコードまたは会社マスター・レコードの仕入先番号または会社番号に関連する情報は、見出し領域と詳細グリッドでリフレッシュされます。

「総額」フィールドなどの詳細グリッドの情報を入力すると、見出し情報はロックされ、変更できなくなります。作成した伝票を保存する前に見出し情報に間違いがあると判断した場合は、取引を取り消してやりなおすことができます。

支払条件

伝票入力の際、見出し領域のデフォルト支払条件は、仕入先の仕入先マスター・レコードからデフォルト値が取り込まれます。伝票の詳細グリッドにある個々の支払項目のデフォルトの支払条件は修正できます。

支払条件によって、伝票の支払項目の支払期日、割引可能額、および割引期日が決まります。支払期日は、支払項目の支払期間(たとえば、請求書の日付から30日)の最終日を意味します。伝票入力フォームのDDNJフィールドに割引期日を入力します。伝票入力フォームのDDJフィールドに支払期日を入力します。割引期日とは、仕入先からの割引を受けられる支払期間の最終日です。割引期日は、F0411テーブルの割引期日フィールド(データ項目DDNJ)で指定しますが、伝票入力フォームには表示されません。

支払項目の支払条件を変更するには、伝票の詳細グリッドの支払項目行で、見出し領域から引き継がれたデフォルトの支払条件を希望する支払条件で上書きします。見出し領域のデフォルト支払条件は変わりませんが、詳細グリッドで変更した支払条件は、個々の支払項目と関連付けられます。

モデルに基づく勘定科目情報の入力

入力処理を簡単にするために、モデル仕訳を設定して使用できます。計上する勘定科目が同じ伝票および請求書がある場合、モデル仕訳を設定すると便利です。取引の勘定科目情報を入力するときにモデルを選択するか、仕入先または顧客レコードに対してデフォルトのモデルを設定できます。

割引が適用される伝票の入力

早期の入金や支払に対する特典として割引付きの伝票を入力できます。割引付きの伝票を入力すると、取引に設定した支払条件に従って割引期日と支払期日が計算されます。

割引の入力には、次の3つの方法があります。

• 支払条件

支払条件を指定して、伝票を入力します。支払条件に従って、割引可能額と支払期日、割引期日が自動的に計算されます。自動計算された割引額をゼロに変更する場合は、割引額を計算しない支払条件を設定し、「伝票入力 - 支払情報」フォームでその支払条件を指定します。

支払条件を変更して新たに割引額または期日を計算しなおす場合は、次のフィールドをクリアして、自動計算された情報を削除してください。

- 割引可能額
- 割引期日

- 支払期日

支払条件を変更してもこれらのフィールドをクリアしないと、割引情報は再計算されません。

- 割引額

伝票入力時に割引可能額を指定します。同時に割引期日と支払期日を指定することもできます。

- 割引率

伝票入力時に割引率を指定します。同時に割引期日と支払期日を指定することもできます。

デビット・メモの入力

仕入先から返金がある場合に、デビット・メモとして伝票を入力します。仕入先に支払を立てると、未決済伝票にその返金が適用されます。

デビット・メモを入力するには、標準伝票入力のステップを実行しますが、「伝票入力 - 支払情報」フォームではマイナスで総額を入力します。

その伝票で割引するための支払条件が使われている場合は、デビット・メモを入力する際にマイナスの割引額が計算されます。したがって、支払条件と割引可能額をクリアして、伝票にマイナスの割引が含まれないようにする必要があります。

デビット・メモを入力すると、伝票入力MBFプログラム(P0400047)の「デビット・メモの伝票タイプ」処理オプションで指定された伝票タイプが割り当てられます。通常、デビット・メモには伝票タイプ「PD」が割り当てられます。

デビット・メモの支払期日は、伝票入力MBFプログラムの処理オプションによって決まります。支払期日は、伝票元帳日付または伝票の支払条件の日付になります。

貸借不一致の請求書および伝票の入力

通常、請求書または伝票を入力する場合、請求書または伝票の情報と勘定科目情報の2つの情報を入力します。取引を保存するには、この2つの情報の金額を一致させる必要があります。「勘定科目情報」フォームにデータを入力しないで終了した場合、請求書または伝票の情報は失われ、もう一度最初から取引を入力する必要があります。

途中まで入力した内容を保存するために、貸借不一致のまま請求書または伝票の入力を終了して、後で勘定科目情報を入力できます。転記プログラムではバッチの全取引において貸借が一致していることが必須となるため、貸借不一致の取引を誤って転記することを防ぐことができます。

重要: 貸借不一致でも取引を転記できるように設定することは可能ですが、この手順を使用することはお勧めしません。貸借が一致しない取引を転記すると必要な勘定科目がすべては更新されず、整合性の問題が発生します。

未転記の伝票の改訂

転記前であれば、未払伝票は変更したり削除したりできます。ただし、次のキー・フィールドは変更できません。

- 伝票番号
- 伝票タイプ
- 伝票会社
- 会社
- 仕入先番号

- 元帳日付
- 請求書日付

キー・フィールドの情報を変更するには、次のどちらかの操作を行います。

- 伝票を削除し再入力する。
- 伝票をコピーして必要な変更を加えたら、「OK」をクリックして元の伝票を削除する。

未転記の伝票でも、承認されていれば支払が可能になります。ただし、支払済の支払項目は、支払を無効にしないかぎり変更できません。

未転記の伝票の削除

「仕入先元帳照会」フォームでの未転記の伝票の削除は、伝票全体でも未払いの支払項目のみでも可能です。

また、「伝票仕訳の検討」フォームで未転記の伝票を削除することもできます。このフォームの機能は、「仕入先元帳照会」フォームに似ています。主な違いは、「伝票仕訳の検討」フォームでは集計情報のみが表示されるということです。したがって、伝票全体は削除できますが、支払項目を個別に削除することはできません。

「伝票仕訳の検討」フォームで未転記の伝票を削除すると、このフォームが更新され、削除した伝票は表示されなくなります。「バッチの処理」フォームに戻って「検索」をクリックしてフォームを更新し、伝票が削除されているかを確認します。

「仕入先元帳照会」フォームまたは「伝票仕訳の検討」フォームのどちらを使用して未転記伝票を削除した場合でも、監査証跡は残りません。監査証跡を残すには、バッチを転記した後で伝票を無効にする必要があります。

多通貨を使用した伝票を削除すると、外貨と国内通貨両方のデータが同時に削除されます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「仕訳の処理」、「モデル仕訳の処理」

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「丸めとソフト丸めについて」

その他の伝票入力方法について

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでは、標準伝票入力プログラムに加え、次のような伝票入力方法を提供しています。

スピード伝票入力(P0411SV)

単純な内容の伝票を大量に入力する場合、スピード伝票プログラムを使用します。スピード伝票入力では、伝票情報と勘定科目情報を単一のフォーム上で入力します。この方法は、次のような伝票の場合に便利です。

- 支払項目（支払期日と税率/税域）が1つしかない伝票
- 仕訳が単純

複数の支払項目がある場合や、伝票の変更や削除にはスピード伝票入力は使用できません。このような場合は、標準伝票入力またはスピード・リリース・プログラムを使用する必要があります。

標準伝票と同様、スピード伝票情報はF0411およびF0911テーブルに保存されます。

次の図は、スピード伝票入力プログラムの特徴を示しています。



スピード伝票入力プログラム

複数伝票入力プログラム

1つまたは複数の仕入先に対して、大量の伝票をスピーディに入力する場合、複数伝票入力方法のうちいずれか1つを選択します。2つの処理ステップを必要とする標準伝票入力とは異なり、複数伝票入力を使用した場合、1つのステップで処理できます。次のどちらかの複数伝票入力プログラムを使用してください。

- 複数伝票 - 単一仕入先 (P0411)
- 複数伝票 - 複数仕入先 (P0411)

複数伝票の入力では、伝票の追加のみを行うことができます。伝票を変更、削除、無効にする場合、標準伝票入力プログラム (P0411) を使用する必要があります。

複数伝票入力には、他にも制約があります。次のような情報は入力できません。

- 複数支払項目
- 複数行の勘定科目情報
- 資産ID
- 資産IDスピード・コード
- 支払項目の分割
- 特殊な銀行勘定
- 特殊な相手勘定
- 特殊な支払取扱

- 自動逆仕訳
- 割引
- 税
- 金額がゼロの請求額
- 前払伝票
- 仮伝票
- 定期伝票

各明細行に対して伝票が作成され、買掛金元帳 (F0411) と取引明細 (F0911) テーブルが更新されます。

複数会社 - 単一仕入先

複数の関連会社から発生した経費からなる伝票を作成して、様々な相手勘定や銀行勘定に配賦する必要がある場合は、複数会社 - 単一仕入先プログラムを使用します。この方法では、各勘定科目情報と買掛金は1対1になります。

標準伝票入力との違いは、複数の会社に対する伝票には会社を入力しない点にあります。

複数の会社に対する伝票には、次のような特徴があります。

- 勘定科目情報の明細行によって相手勘定科目の会社が決まります。
- 勘定科目コードは、支払項目に関連した経費を表します。
- 各明細行に対してそれぞれの支払項目が作成されます。

支払時に、買掛金勘定、銀行勘定、会社に関連した割引勘定の相手勘定科目を使って処理が行われます。

複数の会社の伝票情報は、買掛金元帳 (F0411) と取引明細 (F0911) テーブルで管理されます。

注意: 複数の会社に対する伝票を入力した場合、会社間決済を行うことはできません。

複数の会社に対する伝票を入力する場合、次のガイドラインに従ってください。

- 「複数会社 - 単一仕入先」フォームで伝票を入力した場合、伝票の変更はこのフォームで行う必要があります。
- 複数の会社に伝票を配賦する際には、国内通貨はすべての会社で共通である必要があります。
- 伝票を転記する場合、自動相殺仕訳の経費勘定や負債勘定が異なる会社のものであれば、会社間仕訳が自動的に作成されます。

注意: 異なる相手勘定や銀行勘定に金額を配賦するために作成された伝票は、自動支払処理を使用して処理する必要があります。手入力支払処理は使用できません。

伝票入カマスター・ビジネス関数 (MBF) について

マスター・ビジネス関数 (MBF) の目的は、請求書や伝票、仕訳などの伝票入力に関する標準ビジネス・ルールをセントラル・ロケーションに置いて使用することです。マスター・ビジネス関数には処理オプションがあります。MBFの処理オプションを設定してから、入力プログラムの処理オプションで使用するMBFのバージョンを指定します。

伝票入力MBF処理オプション・プログラム (P0400047) の処理オプションは、次の伝票入力プログラムに使用されます。

- 標準伝票入力 (P0411)
- スピード伝票入力 (P0411SV)
- 複数会社 - 単一仕入先 (P0411)
- 複数伝票 - 単一仕入先 (P0411)
- 複数伝票 - 複数仕入先 (P0411)
- バッチ伝票処理 (R04110Z)

どのバージョンを使用するかは、伝票入力MBF処理オプション・プログラムを使用するプログラムに委ねられています。バージョンを指定しない場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- 割引が適用される伝票を入力する前に、次のAAI(自動仕訳)が適切に設定されているかを確認してください。
 - PKD(割引可能額)
 - PKL(無効割引額)
- (POL) 関税カテゴリ(74P/IM)UDCテーブルに、輸入品の税率/税域と税タイプまたは手数料タイプとの間に相互参照を確立するためのエントリがあることを確認してください。

標準伝票の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
伝票入力 - 支払情報	W0411A	「仕入先および伝票の入力」(G0411)、「標準伝票入力」 「仕入先元帳照会」フォームで、「追加」をクリックします。	伝票情報を入力します。
勘定科目情報	W0411K	「伝票入力 - 支払情報」フォームで「OK」をクリックします。 「フォーム」メニューの「貸借不一致で終了」を選択し、貸借不一致時の勘定科目情報を終了します。	勘定科目情報を入力します。 貸借不一致で終了します。
追加情報	W0411F	「伝票入力 - 支払情報」フォームで支払を選択し、「フォーム」メニューの「追加情報」を選択します。	支払の追加情報を入力します。栽培契約および収穫情報のフィールドは、システム設定にJD Edwards EnterpriseOne Grower Managementシステム(システム40G)が含まれている場合にのみ表示されます。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
モデル仕訳の検索/選択	W0411S	「勘定科目情報」フォームで、「フォーム」メニューの「モデル仕訳」を選択します。	伝票配賦のためのモデル仕訳を選択します。
スピード伝票入力	W0411SVA	「仕入先および伝票の入力」(G0411)、「スピード伝票入力」	スピード伝票入力を使用して伝票を入力します。
複数伝票の入力	W041017A	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「複数伝票 - 単一仕入先」または「その他の伝票入力方式」(G04111)、「複数伝票 - 複数仕入先」 「仕入先元帳照会」フォームで、「追加」をクリックします。	“複数伝票 - 単一仕入先”または“複数伝票 - 複数仕入先”プログラムのいずれかを使用して、伝票を入力します。
複数会社 - 単一仕入先	W041016A	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「複数会社 - 単一仕入先」 「仕入先元帳照会」フォームで、「追加」をクリックします。	“複数会社 - 単一仕入先”伝票を入力します。
Work with Voucher Additional Information	W74P411HB	「Accounts Payable」(G74P04)、「Voucher Additional Information」	追加情報を追加する伝票を選択します。
Entry Voucher Additional Information	W74P411HA	「Work with Voucher Additional Information」フォームでレコードを選択して、「選択」をクリックします。 レコードを選択して、「Enter Voucher - Payment Information」フォームの「ロー」メニューから「地域情報」を選択します。	(POL) ポーランド固有の伝票情報を入力します。

標準伝票入力(P0411)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

表示

この処理オプションでは、「仕入先元帳照会」フォームのデータのグループ化と表示の方法を指定します。

1. 定期伝票

「1」を入力すると、定期伝票のみが表示されます。「1」を入力すると、「仕入先元帳照会」フォームの「定期伝票」チェックボックスが自動的に選択されます。

ブランクにすると、すべての伝票が表示されます。

2. 集計伝票

集計伝票のみを表示するようにするかどうかを指定します。

値は次のとおりです。

ブランク: すべての伝票が表示される(デフォルト条件なし)。

1: 集計伝票のみが表示される。

「1」を入力すると、「仕入先元帳照会」フォームの「集計」チェックボックスが自動的に選択されます。

3. 国内通貨と外貨フィールドの表示

伝票入力用の「伝票入力 - 支払情報」フォームおよび「複数会社 - 単一仕入先」フォームの詳細グリッドに、国内通貨と外貨両方の金額フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 国内通貨と外貨フィールドを表示しない。

1: 国内通貨と外貨フィールドを表示する。

「1」を入力すると、フォームに次のフィールドが表示されます。

- 総額(国内通貨)
- 割引可能額(国内通貨)
- 課税対象額(国内通貨)
- 税額(国内通貨)
- 非課税対象額(国内通貨)
- 総額(外貨)
- 割引可能額(外貨)
- 課税対象額(外貨)
- 税額(外貨)
- 非課税対象額(外貨)

通貨

この処理オプションでは、システムに保管されている金額の通貨以外の通貨で金額を表示できます。別通貨で表示される金額は一時的なもので、標準伝票入力プログラムを終了する際に保存されません。

1. 假定通貨

假定通貨を表示する場合の通貨コードを指定してください。たとえば、国内通貨または外貨の米ドル建ての金額をユーロで表示するには「EUR」と指定します。

この処理オプションをブランクにすると、フォームの見出しの「假定通貨コード」フィールドおよびグリッドの「假定金額」、「假定未決済額」カラムは表示されません。

注意: 假定通貨建ての金額は一時メモリーに保存され、テーブルには書き込まれません。

2. 基準日

「假定通貨」処理オプションの基準日を指定します。この基準日を使用して為替レート(F0015)テーブルから為替レートが取り込まれます。

「假定通貨」処理オプションで通貨コードを指定し、この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。

注意: 国内通貨/外貨と仮定通貨との有効な為替レート(基準日時点)が F0015テーブルに保存されている必要があります。

手作業での支払

この処理オプションでは、手入力による支払の作成を制御します。これらの処理オプションは、伝票照合なしの手入力による支払で使用する標準伝票入力プログラムのバージョンのみで使用します。

1. 支払作成

自動支払処理を行わずに手入力で支払を作成するかどうかを指定します。この処理オプションは伝票照合のない手入力支払のみに適用され、複数会社および複数伝票モードでは使用できません。値は次のとおりです。

ブランク: 支払情報を表示しない。

1: 手入力支払(伝票照合なし)を作成する。

2. 重複する支払

重複する支払番号を入力または編集しようとした場合に表示されるメッセージのタイプを指定します。「支払作成」処理オプションで「1」を入力した場合のみ、この処理オプションを設定してください。すでに同じ支払番号があることを示すメッセージが表示されます。値は次のとおりです。

ブランク: エラー

1: 警告

3. 自動支払番号の割当て

銀行勘定の自動採番に基づいて、手入力支払に対して支払番号を自動的に割り当てるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 支払番号を手入力します(デフォルト値)。

1: 銀行勘定の自動採番に基づいて、支払番号を自動的に割り当てます。

購買

この処理オプションでは、購買オーダー情報を含む伝票をどのように処理するかを指定します。

1. 伝票削除

購買オーダー情報を含む伝票を削除しようとした場合に表示されるメッセージのタイプを指定します。たとえば、「仕入先元帳照会」フォームから購買オーダーを含む伝票を削除しようとした場合に、システムがどのように処理するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 編集を許可しない(デフォルト値)。

1: 警告。

2: エラー。この処理オプションと伝票入力MBFの「伝票メッセージ」処理オプションの設定が矛盾する場合は、ここで設定した値が有効になります。

伝票照合

この処理オプションでは、標準伝票ではなくJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで照合した伝票を処理できます。

1. 照合処理

デフォルトの買掛伝票タイプを標準伝票から照合伝票に変更します。値は次のとおりです。

ブランク: 標準伝票入力プログラム(P0411)を実行する。

1: 伝票照合を行う。伝票照合プログラム(P4314)を実行します。伝票照合プログラムを実行する場合、3方向伝票照合または2方向伝票照合のいずれかを選択できます。

伝票照合プログラム(P4314)は伝票入力MBF処理オプション(P0400047)にアクセスしません。したがって、伝票照合処理は、MBFの処理オプションの設定には影響されません。

注意: JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで作成した伝票は、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでは削除しないでください。伝票を削除する場合はJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで行ってください。

2. 伝票照合バージョン

伝票照合プログラム(P4314)に使用するバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZDJE0001が使用されます。「照合処理」オプションで「1」を入力した場合に、この処理オプションを設定する必要があります。

複数会社

この処理オプションでは、標準伝票ではなく複数の会社の伝票を処理できます。

1. 複数会社の単一仕入先 複数の関連会社の経費を表す伝票を処理するかどうかを指定します。同じ仕入先に対して複数の会社で発生した経費を、様々な相手勘定や銀行勘定に配賦します。値は次のとおりです。

空白: 標準伝票を入力する。

1: “複数会社 - 単一仕入先”伝票を入力する。

注意: このタイプの伝票処理では手入力による支払処理はできません。

または、「その他の伝票入力方式」メニュー(G04111)の「複数会社 - 単一仕入先」から、この処理オプションにアクセスします。

複数伝票

この処理オプションでは、複数伝票入力か標準伝票入力かを指定します。

1. 複数伝票

1つまたは複数の仕入先に対する複数伝票の入力が可能かどうかを指定します。2つの処理ステップを必要とする標準伝票入力とは異なり、複数伝票入力を使用した場合、1つのステップで処理できます。値は次のとおりです。

空白: 標準伝票を入力する。

1: 単一仕入先の複数伝票を入力する。

2: 複数仕入先の複数伝票を入力する。

注意: 複数伝票入力では、伝票の追加のみを行うことができます。伝票を変更、削除、無効にする場合は、標準伝票入力を使用してください。

注意: このタイプの伝票処理では手入力による支払処理はできません。複数伝票入力のその他の制約、追加情報は、マニュアルまたはオンラインヘルプを参照してください。

また、「その他の伝票入力方式」メニュー(G04111)の「複数伝票 - 単一仕入先」または「複数伝票 - 複数仕入先」から、この処理オプションにアクセスすることもできます。

仮伝票

この処理オプションでは、標準伝票ではなく仮伝票を入力できます。

1. 仮伝票入力

勘定科目に割り当てる前に仮伝票を入力できるようにするかどうかを指定します。後から適切な勘定科目に仮勘定を振り替えることができます。

仮伝票の費用仮勘定、買掛金仮勘定に対してデフォルトの勘定科目を指定できます。そのためには、AAI項目PP(仮伝票の費用仮勘定)とPQ(仮伝票の買掛金仮勘定)を設定してください。AAI PQを設定するには、会社名および番号プログラム(P0010)で「仮勘定の使用」オプションを選択します。「組織と勘定科目の設定」メニュー(G09411)の「会社名および番号」を選択します。

値は次のとおりです。

ブランク: 標準伝票を入力する(デフォルト値)。

1: 仮伝票を入力する。

この処理オプションで「1」を入力すると、選択された状態の「仮伝票」チェックボックスが「仕入先元帳照会」フォームに表示され、「前払」処理オプションの設定は無視されます。

または、「その他の伝票入力方式」メニュー(G04111)の「仮伝票入力」を選択してください。

注意: この処理オプションは、伝票入力MBF(P0400047)の「仮伝票」タブの「仮伝票」処理オプションと連動して機能します。仮伝票を処理するには、これら両方の処理オプションに「1」を入力する必要があります。買掛金標準伝票入力と伝票入力MBFの両方の処理オプションで仮伝票が設定されている場合、買掛金標準伝票入力(P0411)の「前払」タブの処理オプションは無視されます。

2. 元帳日付

仮伝票のデフォルトの元帳日付にシステム日付を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: データ入力時に日付を手作業で入力する。

1: システム日付をデフォルトの元帳日付として使用する。

注意: この処理オプションに「1」を入力すると、システム日付が使用されるため、この日付を上書きすることはできなくなります。

前払

この処理オプションでは、前払処理方法を指定します。前払処理を使用すると、請求書を受け取る前に、商品やサービスに対する支払を実行できます。

1. 相手勘定

前払支払項目の作成時に使用する相手勘定コードを入力します。前払支払項目の自動作成が可能な値を入力する必要があります。この処理オプションをブランクにすると、前払伝票ではなく標準伝票が作成されます。

注意: JD Edwards WorldとJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの共存環境では、コード9999は使用しないでください。JD Edwards Worldでは、このコードは、相殺仕訳を作成しないように設定されている、転記プログラムの予約コードになっています。

2. 勘定科目

前払支払項目の作成に使用される勘定科目を指定します。

勘定科目コードには次のいずれかの形式を使用できます。

- 構造化勘定科目(ビジネスユニット.主科目.補助科目)
- 25桁の構造化勘定科目以外の番号
- 8桁の略式ID番号
- スピード・コード

勘定科目の最初の文字は、勘定科目コードの形式を示しています。

勘定科目の形式は一般会計固定情報プログラム(P000909)で定義します。

注意: この処理オプションは、「相手勘定」処理オプションに有効な値を入力した場合にのみ使用してください。

3. 支払状況コード

この処理オプションは、「相手勘定」処理オプションに有効な値を入力した場合にのみ設定してください。前払のデフォルト支払状況コードを入力します。JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでは、次に示す有効なコード以外のコードの支払は印刷されません。

P: 伝票は全額支払済です。

A: 伝票は支払承認済で未払いの状態です。伝票と自動入金消込プログラムで使用できます。

H: 伝票は承認待ちで保留の状態です。

R: 留保金。

%: 伝票が源泉徴収の対象です。

4. 日数

マイナスの前払支払項目の期日に追加する日数を入力します。この処理オプションは、JD Edwards WorldとJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアが共存環境にある場合にのみ有効です。

5. 税域フィールド

「前払税」フォームを表示するように指定するには、「1」を入力します。この処理オプションは、「相手勘定」処理オプションに有効な値を入力した場合にのみ設定してください。

「前払税」フォームを使用して、対応するプラスの支払項目とは異なる税コードを、マイナスの支払項目に割り当てます。たとえば、税法上、プラスとマイナスの支払項目の処理が異なる場合、この設定を行う必要があります。ここで設定しなければ、マイナスの支払項目には対応するプラスの支払項目と同じ税域コードと税目コードが割り当てられます。

「前払税」フォームの税域コードと税目コードを指定すると、プラスの支払項目の税域コードと税目コードが上書きされて、すべてのマイナスの支払項目に新しいコードが表示されます。たとえば、いくつかのプラスの支払項

目がありそれぞれに異なる税域コードと税目コードが指定されている場合でも、「前払税」フォームで指定した特定の税域コードと税目コードがすべてのマイナスの支払項目に割り当てられます。

6. 前払税域コード

「税域フィールド」処理オプションに「1」を入力した場合にのみ、この処理オプションを設定してください。共通の税率と税勘定の税域または地域を示すデフォルトのコードを入力します。このコードにより自動的に正しい税額が計算されます。税率/税域は納税先（たとえば、都道府県や市町村）とその税率を含むように設定してください。税率/税域テーブル（F4008）にある値を設定する必要があります。

通常、米国の売上税と使用税には税率/税域ごとに複数の納税先が必要ですが、付加価値税の場合、必要な納税先は1つだけです。

7. 前払税目コード

「税域フィールド」処理オプションに「1」を入力した場合にのみ、この処理オプションを設定してください。特定の仕入先との取引に使用するデフォルトの税目コードを指定するには、税目コード（00/EX）UDCテーブルに設定されている値を入力してください。税金の査定方法、および総勘定元帳の収益勘定や経費勘定への配賦方法は、この値で制御されます。

MBFバージョン

この処理オプションでは、標準伝票と仕訳入力処理に使用するマスター・ビジネス関数（MBF）のデフォルトのバージョンZJDE0001を一時変更できます。

1. 伝票MBFバージョン

標準伝票入力処理（アプリケーションP0400047のバージョンZJDE0001）を変更する場合のバージョン番号を指定します。

注意: システム全体のセットアップ担当者だけがこのバージョン番号を変更するようにしてください。

2. 仕訳入力MBFバージョン

仕訳入力処理（アプリケーションP0900049のバージョンZJDE0001）を一時変更する場合のバージョン番号を指定します。

注意: システム全体のセットアップ担当者だけがこのバージョン番号を変更するようにしてください。

3. 入金後支払マニュアル・リンク・バージョン

仕訳入力処理（アプリケーションP0900049のバージョンZJDE0001）を一時変更する場合のバージョン番号を指定します。

注意: システム全体のセットアップ担当者だけがこのバージョン番号を変更するようにしてください。

4. 相殺（P03B455）バージョン

使用する相殺プログラム（P03B455）のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0002が使用されます。

処理オプション

この処理オプションでは、伝票の検討の際に伝票を変更できるようにするか、および仕入先セルフサービスを有効にするかを指定します。

1. 伝票入力モード

「仕入先元帳照会」フォームで選択した伝票を変更できるようにするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 変更可。「仕入先元帳照会」フォームで選択した既存の伝票を変更できます。

1: 変更不可。「仕入先元帳照会」フォームで選択した既存の伝票は照会しかできません。

2. 仕入先セルフサービス・モード

Java/HTML環境で使用する仕入先セルフサービス機能を有効にするには、「1」を入力してください。セルフサービス機能を使用すると、仕入先が伝票と支払の照会を行うことができます。

編集

この処理オプションでは、伝票の元帳部分の仕訳で固定資産IDを必須にするかどうかを指定します。

1. 固定資産ID

勘定科目が固定資産AAIの勘定科目範囲に含まれる場合に固定資産IDを必須とするには、「1」を入力してください。

伝票入力MBF (P0400047) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、各フィールドで使用するデフォルト値を指定します。

1. サービス/税日付

商品やサービスを購入した日付または税が発生した日付に元帳日付と請求書日付のどちらを使用するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 元帳日付を使用する。

1: 請求書日付を使用する。

2. 支払状況コード

デフォルトの支払状況コードA(支払承認済)を上書きする場合は、支払状況コード(00/PS)UDCテーブルから値を入力してください。

3. 買掛伝票の伝票タイプ

デフォルトの伝票タイプを指定するには、伝票タイプ - 買掛伝票のみ(00/DV)UDCテーブルに設定されている値を入力してください。

4. デビット・メモの伝票タイプ

デビット・メモのデフォルトの伝票タイプを指定するために、伝票タイプ - すべての伝票(00/DT)UDCテーブルに設定されている値を入力してください。

5. 代替受取人

支払の代替受取人フィールドに仕入先マスター(F0401)のファクタ/代替受取人の住所を入力します。

注意: 支払は、代替受取人フィールドの住所録番号に対して行われます。

値は次のとおりです。

ブランク: 代替受取人フィールドに仕入先番号を入力する。

1: 代替受取人フィールドにファクタ/代替受取人の住所番号を入力する。

6. デビット・メモの支払期日

支払条件コードによってデビット・メモの支払期日が決定されるよう指定するには、「1」を入力してください。この処理オプションをブランクにすると、支払期日には元帳日付が使用されます。

日付編集

この処理オプションでは、請求書日付を入力する際の規則を指定します。

1. 請求書日付が今日の日付より後の場合、2. 請求書日付が元帳日付より後の場合

今日の日付または元帳日付より後の請求書日付が入力されたときに表示するメッセージを指定します。

値は次のとおりです。

ブランク: 入力された日付は無条件に承認され、警告やエラー・メッセージは表示されない。

1: 警告メッセージを表示する。

2: エラー・メッセージを表示する。

通貨

この処理オプションでは、入力された多通貨取引をシステムが検証するための規則を指定します。

1. 多通貨支払項目に対する税入力

多通貨伝票で税を入力できるようにするには、「1」を入力してください。この処理オプションをブランクにすると、多通貨伝票で税を入力できません。

2. 為替レート日付

元帳日付を使用して為替レートを取り込むよう指定するには、「1」を入力してください。この処理オプションをブランクにすると、請求書日付が使用されます。

3. 為替レートの取込み

伝票の為替レートが為替レート・テーブル (F0015) で設定されている為替レートの有効日付と異なる会計期間にある場合、警告を表示するかどうかを指定します。たとえば、会計期間パターンをカレンダーの月に合せて設定し、元帳日付が2008年12月15日の伝票を入力すると、前回の為替レート有効日付が2008年11月1日の場合、警告を表示するよう指定できます。警告メッセージは、F0015テーブルの為替レートが期限切れであることを警告します。為替レートは、必要に応じて上書きできます。値は次のとおりです。

ブランク: 生成しない。

1: 生成する。

4. 為替レート許容限度

為替レートの許容限度を指定します。伝票入力では、為替レート・テーブル (F0015) にある為替レートを手動で一時変更できます。「為替レート許容限度」処理オプションでは、F0015テーブルの為替レートの値とどれだけ異なる値を入力できるようにするかを指定します。

F0015テーブルの為替レートに対する比率(%)を示す整数を入力してください。たとえば、この処理オプションで「5」と入力した場合、F0015テーブルの為替レートより5%大きな額または小さな額に変更できます。

5. 通貨の不一致

支払の通貨が銀行勘定の通貨と異なる場合に、その異なる通貨を有効にし、エラー・メッセージを表示しないように設定するには、「1」を入力してください。この処理オプションをブランクにすると、エラー・メッセージが表示されます。

手入力支払

この処理オプションでは、重複する支払番号が入力された場合にエラーや警告を表示するかどうかを指定します。

1. 重複支払に対するメッセージ

同じ銀行勘定で重複する支払番号が入力されたときに警告を表示するには、「1」を入力してください。この処理オプションを空白にすると、エラー・メッセージが表示されます。

購買

この処理オプションでは、購買オーダーまたは契約番号を含む伝票の変更または削除を有効にするかどうかを指定します。

1. 伝票メッセージ

購買オーダーまたは契約番号を含む伝票を変更または削除しようとした場合の処理方法を指定します。値は次のとおりです。

空白: 伝票の変更と削除を可能にし、メッセージは表示しない。

1: 警告メッセージを表示する。

2: エラー・メッセージを表示する。

仮伝票

この処理オプションでは、仮伝票を入力できるようにするかどうかを指定します。

1. 仮伝票

勘定科目に割り当てる前に仮伝票を入力できるようにするには、「1」を入力してください。後から適切な勘定科目に仮勘定を振り替えることができます。

注意: この処理オプションは、標準伝票入力 (P0411) の「仮伝票」タブの「仮伝票入力」処理オプションと連動して機能します。

仮伝票を処理するには、これら両方の処理オプションに「1」を入力する必要があります。買掛金標準伝票入力と伝票入力MBFの両方の処理オプションで仮伝票が設定されている場合、買掛金標準伝票入力 (P0411) の「前払」タブの処理オプションは無視されます。

インタオペラビリティ

この処理オプションでは、実行するF0411インタオペラビリティ処理オプション・プログラム (P0400048) のバージョンを指定します。実行するバージョンを指定する場合は、そのバージョンがすでにサーバーに存在している必要があります。

1. インタオペラビリティのバージョン

送信レコードを書き込む場合のF0411インタオペラビリティ処理オプション・プログラム (P0400048) のバージョン番号を指定します。この処理オプションを空白にすると、デフォルトのバージョンZJDE0001が使用されます。

標準伝票の入力

「伝票入力 - 支払情報」フォームにアクセスします。

このフォームは伝票入力で最初に表示されます。「OK」をクリックすると、「勘定科目情報」フォームが表示されます。

標準伝票入力 - 伝票入力 - 支払情報

取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

伝票No./タイプ/会社 1504 P1 00001 バッチNo. 7256

会社番号 ★ 00001 Financial/Distribution Company

仕入先No. ★ 4319 Appliance Sales and Ser ビジネスユニット

請求書No. 割引率 デフォルト支払条件

請求書日付 2005/06/15 元帳日付 ★ 2005/06/30 サービス税日付

通貨 USD 為替レート 基本 USD

レコード 1-2

支払項目	総額	支払条件	割引可能額	備考
001	456.00	001	4.39	
002				

「伝票入力 - 支払情報」フォーム

伝票No./タイプ/会社

伝票や請求書、仕訳などの当初伝票の番号を入力します。入力フォームでの伝票番号は、ユーザーが割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使って自動的に割り当てることができます。照合伝票番号(DOCM)は、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理とJD Edwards EnterpriseOne買掛管理の両システムの関連する伝票を特定します。JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの当初伝票および照合伝票には次の例があります。

当初伝票 - 買掛伝票

照合伝票 - 支払

会社番号

伝票を担当する会社を識別するコードを入力します。このコードは、転記プログラムによって作成される仕訳に影響を与えます。AAI(自動仕訳)では会社番号を使用して買掛金勘定、現金勘定、税勘定、デフォルトの経費勘定が決められます。会社コードは会社固定情報テーブル(F0010)に設定されていて、適切な貸借対照表を保持した企業を表す番号である必要があります。このレベルでは、企業間取引を行うことができます。

注意: 日付やAAI(自動仕訳)などのデフォルト値には会社00000を使用できます。取引の入力には会社00000は使用できません。

請求書No.

伝票入力に使用する仕入先請求書番号を入力します。各伝票には1つだけ請求書番号を入力できます。1件の伝票に対して複数の請求書番号がある場合は、複数伝票にするか、請求書をまとめて1件の伝票にする必要があります。買掛管理固定情報の設定によっては、次の処理が可能です。

- エラーや警告を表示せずに、重複する請求書番号の入力を許可する。

- 警告メッセージを表示しても、重複する請求書番号の入力を可能にする。
- エラー・メッセージを表示する。

ブランクの値はその他の請求書番号と同じように扱われます。ブランクの請求書番号が2つある場合は重複として扱われます。

誤って重複した請求書番号が入力されていないかを調べるには、重複と考えられる支払レポート(R04601)を実行します。

注意: 重複する請求書番号の検証は、伝票タイプNOの伝票では実行されません。タイプNOの伝票は、払戻しの作成プログラム(R03B610)によって作成されます。

支払条件

請求書が割引期日内に支払われた場合に適用される割引率など、支払条件を指定するコードを入力します。ブランクのコードは、最も使用頻度の高い支払条件を示します。各支払条件タイプは「支払条件の改訂」フォームで定義します。

入力した支払条件は顧客の請求書に印刷されます。

詳細グリッドでこのフィールドをブランクにすると、見出しのデフォルト支払条件が使用されます。

詳細グリッドのこのフィールドに支払条件を入力すると、見出しのデフォルト支払条件は無効になります。

割引率

総額に対する割合で割引率を指定する場合、このチェックボックスを選択します。割引率の表示は小数点を使用します。たとえば、0.1は10%の割引を示します。入力された割引率で割引額が計算されます。

このチェックボックスの選択を解除すると、割引は金額で入力されます。

請求書日付

仕入先からの請求書の日付を入力します。伝票のデフォルト日付は元帳日付です。

元帳日付

取引を転記する日付を入力します。

備考

支払控えに印刷する備考を入力します。

(DNK、NORおよびSWE)北欧の外国の伝票には、正しい識別コードを入力してください。

(FIN)フィンランドの国内用伝票には、参照番号を入力してください。

期日

割引の期日を指定します。割引が行われない場合、このフィールドには支払期日が表示されます。

伝票入力時にこのフィールドをブランクにすると、請求書日付と支払条件コードを使って自動的に支払期日が計算されます。「支払条件」フィールドをブランクにすると、「仕入先マスターの改訂」フォームで仕入先に対して指定した支払条件に基づいて、自動的に割引期日と支払期日が計算されます。

支払期日は伝票入力フォームに表示されません。支払期日は、「割引期日」フィールドに入力した値に基づいて自動的に計算されるか割り当てられます。「割引期日」フィールドがブランクの場合、支払期日と割引日付は自動的に計算されます。割引期日を手入力すると、割引日付にも同じ日付が割り当てられます。支払期日が計算または割り当てられた後で割引期日をブランク以外の値に変更しても、すでに計算されている割引日付は変更されません。

	貸方支払項目では、デフォルト期日は伝票の元帳日付と同じです。
受取人No.	受取人の住所録番号を入力します。
税額	<p>入力する支払に適用される税額を入力します。支払と伝票を転記するか入金と請求書を転記すると、税勘定に計上されます。このフィールドがblankの場合、仕入先マスターの仕入先または顧客マスターの顧客に定義されている税目コードおよび税率/税域に基づいて自動的に計算されます。税額を入力すると、会社別税規則で指定した許容範囲にあるかどうかシステムにより検証されます。</p> <p>「税率/税域」フィールドで自動計算された金額と異なる税額を入力すると、警告メッセージが表示されることがあります。この警告によって、入力した税額を保存できないということはありません。</p>
調整伝票タイプ	買掛伝票の総額が変更されたことを示すには、「PE」を入力してください。
定期頻度	<p>取引を作成する間隔を指定するコードを入力します。定期頻度の有効値は次のとおりです。</p> <p>MO: 月1回 AN: 年1回 WK: 週1回 QT: 年4回 SA: 年2回 BW: 2週間に1回</p>
支払回数	定期請求書または定期伝票をシステムで処理する回数を入力します。この回数には最初に入力する取引も含まれます。たとえば「12」と入力すると、その取引は11回処理が行われます。処理を実行するたびに1ずつ回数が減っていきます。このフィールドの値が「1」になると、処理はこれ以上実行されず、フィールドがクリアされます。
取扱コード	<p>支払の印刷順序を指定するコードを入力します。ユーザー定義コード00/HCに設定されている値を入力してください。</p> <p>このコードを使用すると、仕入先別に個別に支払が印刷されます。</p>
カテゴリ07	<p>デフォルト値は、仕入先マスター(F0401)で指定します。伝票の値は変更することも、blankにして1099処理から伝票を除外することもできます。</p> <p>(BEL)「仕入先マスターの改訂」フォームでデフォルト値を設定していない場合、ベルギーの仕入先にはUDC 01/07のレポート・コードを入力してください。このフィールドをblankにすると、「銀行フロッピーディスクの作成 - ベルギー(外国)」レポート(R04572L2)のフラット・ファイルに値000が含まれます。</p>
1099処理	1099レポート処理の対象となる支払項目のみ、「1099処理」フィールドに「1」を入力してください。運賃や出荷費用など、支払項目が1099レポート処理対象外の場合、このフィールドはblankのままにします。
支払拡張	伝票または請求書の支払項目に対する調整入力を示すコードを入力します。各レコードを固有にするために、このフィールドは必須です。

- 他モジュール伝票（現金入金/請求書登録コード）

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システム以外のソフトウェア・モジュールで作成された伝票の状況を示すコードを入力します。値は次のとおりです。
P: 仮請求書（仮勘定振替なし）。
R: 仮勘定振替完了。
C: 借方のビジネスユニットと関連する貸方。
M: 伝票照合。
L: 購買オーダーの仮伝票。
T: 買掛金の支払は、Oracle Demantra Predictive Trade Planningシステムに対して確認されている。
EまたはF: 買掛金の支払は、JD Edwards EnterpriseOneに対して確認されている。
- 決済済み

支払項目が基準日時点で決済済になっており、基準日テーブルを再作成する場合その項目が無視されることを示すコードを入力します。

勘定科目情報の入力

「勘定科目情報」フォームにアクセスします。

「勘定科目情報」フォームの「代替所属ビジネスユニット」、「職務タイプ」、「職階」、「従業員プール・グループ・コード」および「職務プール・グループ・コード」フィールドは、間接費処理および遡及調整に使用されます。

標準伝票入力 - 勘定科目情報

取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

伝票No./タイプ/会社

1504

P1

00001

バッチ番号

7256

仕入先

4319

摘要

Appliance Sales and Service

元帳日付

2005/06/30

通貨

USD

為替レート

基本通貨

USD

☐ 外貨

レコード 1-1

グリッドのカスタマイズ

勘定科目 * コード	勘定 科目名	配賦値	備考	会社 番号	補助 元帳 タイプ	補助 元帳

「勘定科目情報」フォーム

- 勘定科目コード

伝票の転記先の勘定科目コードを入力します。
- 補助元帳タイプ

UDC (00/ST) のコードを入力します。このコードは、「補助元帳」フィールドとともに、補助元帳タイプと補助元帳編集の実行方法を識別するために使用されます。「ユーザー定義コード」フォームでは、記述の第2行目により編集方法が制御されます。このコードはハードコードされているか、またはユーザーが定義します。次の値があります。
A: 英数字フィールド（編集しない）
N: 数字フィールド（右に揃え、ゼロで埋める）

C: 英数字フィールド(右に揃え、blankで埋める)

補助元帳	総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類する補助的なコードを入力します。設備品目番号や住所録番号も補助元帳として使用できます。補助元帳を入力する場合は、同時に補助元帳タイプも指定する必要があります。
オブジェクト・タイプ	コスト・オブジェクトおよび編集のタイプを指定するコードを入力します。有効なタイプはコスト・オブジェクト・タイプ・テーブル(F1620)に保管されており、コスト・オブジェクト・タイプ・プログラム(P1620)を使ってタイプの追加や変更が可能です。
コスト・オブジェクト	設備品目番号や住所録番号などのコスト・オブジェクト・コードを入力します。コスト・オブジェクト・コードを入力する場合は、同時にコスト・オブジェクト・タイプも指定する必要があります。このフィールドの機能および検証方法は補助元帳フィールドと同様です。ただし、コスト・オブジェクト・コード・フィールドのデータは、勘定残高テーブル(F0902)に転記されません。

(POL) ポーランドの追加伝票情報の入力

「Entry Voucher Additional Information」フォームにアクセスします。

次のフィールドは、買掛伝票タイプの設定プログラム(P74P4010)で有効になっている場合のみ、情報の変更や値の入力が可能です。

Orig Doc Co (当初伝票会社)	この伝票の基となる伝票を発行した会社の住所録番号を入力します。たとえば、この伝票が納税用の場合、納税先の住所録番号を入力します。
当初の伝票タイプ	この伝票の基となる伝票の伝票タイプを入力します。たとえば、この伝票が仕入先に対する支払用の場合、仕入先からの請求書の伝票タイプを入力します。
当初伝票	この伝票の基となる伝票のID番号を入力します。
関連住所NO	支払先の代替住所を含む住所録番号を入力します。
請求書日付	必要に応じて請求書の日付を変更します。
サービス/税日付	必要に応じて、費用が発生した日付を変更します。

栽培契約の追加情報の入力

「追加情報」フォームにアクセスします。次のフィールドは、JD Edwards EnterpriseOne Grower Management システム(システム40G)を実行している場合にのみ「追加情報」フォームに表示されます。

栽培契約コード	契約見出し(F43C01)テーブルにある、契約を特定する値を入力します。
区画コード	栽培区画(F43C01)テーブルにある、区画を特定する値を入力します。
収穫期/サフィックス	収穫/栽培収穫(F40G03)テーブルにある、収穫期を特定する値を入力します。

スピード伝票入力(P0411SV)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

支払

1. 支払の手動作成

手入力で支払を作成するかどうかを指定します。この処理オプションは伝票照合のない手入力支払のみに適用され、複数会社および複数伝票モードでは使用できません。値は次のとおりです。

ブランク: 手入力支払を作成しない。

1: 手入力支払(伝票照合なし)を作成する。

注意: 「1」を入力した場合、「スピード伝票入力」フォームに値を入力して「OK」をクリックし、手入力支払処理の「支払情報」フォームに値を入力してください。

2. 支払番号の自動割当て

銀行勘定の自動採番に基づいて、支払番号を自動的に割り当てるには、「1」を入力してください。手動で支払番号を割り当てるには、この処理オプションをブランクにします。

MBFバージョン

1. 伝票MBFバージョン

スピード伝票入力処理に使用する伝票入力MBF処理オプション・プログラム(P0400047)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

入金後支払

入金後支払

入金後支払伝票を入力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 標準伝票を入力する(デフォルト値)。

1: 入金後支払伝票を入力する。入金後支払伝票を示すフラグがオンになります。

注意: この処理オプションは、伝票入力MBF(P0400047)の「デフォルト」タブの「支払状況コード」処理オプションと連動して機能します。入金後支払伝票と関連付ける支払状況を入力してください。

スピード伝票の入力

「スピード伝票入力」フォームにアクセスします。

スピード伝票入力 - スピード伝票入力

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

仕入先No.	76430	Supplier, Sao Paulo	前の伝票	
会社番号 *	07600	Brazilian Company	伝票No./タイプ/会社	
請求書No.	890787		購買No./タイプ/会社	
請求書金額		サービス税日付	<input type="checkbox"/> % 割引額	
請求書日付		税目コード	ビジネスユニット	
元帳日付		税率/税域	支払条件	
期日		税額	支払状況	
承認者No.		課税対象額	カテゴリ・コード7	
支払備考			バッチNo.	7861
計上金額				
通貨コード	BRL	為替レート	基本	<input checked="" type="checkbox"/> 外貨

レコード 1 - 1

勘定科目 コード	勘定 科目名	配賦値	備考

グリッドのカスタマイズ

「スピード伝票入力」フォーム

注意: 「代替所属ビジネスユニット」、「職務タイプ」、「職階」、「従業員プール・グループ・コード」および「職務プール・グループ・コード」フィールドは、間接費処理および遡及調整に使用されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「間接費の処理」、「間接費処理について」

単一仕入先に対する複数伝票の入力

「複数伝票の入力」フォームにアクセスします。

複数仕入先に対する複数伝票の入力

「複数伝票の入力」フォームにアクセスします。

複数伝票 - 複数仕入先 - 複数伝票の入力

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

バッチ番号 7862

請求書日付 2005/06/06 元帳日付 2005/06/06 サービス税日付

支払期日 支払条件

税目コード 税率/税域

通貨 為替レート

☐ 外貨

レコード 1 - 4 グリッドのカスタマイズ

請求書 No.	請求書 * 金額	仕入先 *	勘定科目 * No.	備考	種元タ
N112585	1,315.00	1001	1.1110.BEAR		
N112586	875.00	3480	1.1110.BEAR		
N112587	2,000.00	4060	1.1110.BEAR		

「複数伝票の入力」フォーム

複数会社および単一仕入先に対する伝票の入力

「複数会社 - 単一仕入先」フォームにアクセスします。

複数会社 - 単一仕入先 - 複数会社 - 単一仕入先

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

伝票No./タイプ/会社 00001 バッチNo. 7866 前の伝票

仕入先No. 3480 Digger Enterprises

請求書No. D42061 支払条件

請求書日付 2005/06/06 元帳日付 2005/06/06 サービス税日付 2105/06/06

購買No./タイプ/会社 ☐ 割引率

備考

通貨コード USD 為替レート 基本 USD ☐ 外貨

レコード 1 - 2 グリッドのカスタマイズ

勘定科目 No.	記述	金額	数量	摘要	支払状況	相手勘定
9.8720	Office Supplies Expense	1,000.00			A	

金額 1,000.00 割引率 税額 課税対象

「複数会社 - 単一仕入先」フォーム

仮伝票の処理

この項では、仮伝票処理の概要と次の方法について説明します。

- 仮伝票の入力
- 仮勘定の振替 (P042002) の処理オプションの設定
- 仮伝票の振替
- 経費勘定の入力

仮伝票の処理について

伝票を配賦する勘定科目がわかっていない場合は、仮伝票を入力できます。後で仮伝票を検討し、適切な勘定科目に振り替えてください。この処理は、仕入先から請求書を受領して迅速に伝票を入力し、正確な買掛情報を維持する際に便利です。

仮伝票入力プログラム (P0411) を使用して、仮伝票を入力します。このプログラムは、処理オプションが仮伝票の処理用に設定されている点を除いて、標準伝票入力 (P0411) と同じです。

- 「仮伝票入力」は、「1」に設定されます。
- 「伝票MBFバージョン」はZJDE0004を使用するように設定されています。バージョンZJDE0004はデフォルト伝票タイプ「PL」を使用するように設定されています。

仮伝票入力では次の処理が行われます。

1. 伝票タイプが「PL」で伝票番号が割り当てられた伝票が作成されます。
2. 伝票の総額を仮勘定に配賦します。
この仮勘定のデフォルト値は、AAI項目PPで指定されます。
3. 買掛金勘定 (AAI項目PC) または買掛金仮勘定 (AAI項目PQ) に基づいた相殺金額を記録します。
どちらのAAIを使用するかは会社名および番号プログラム (P0010) で指定します。

仮伝票の情報は、買掛金元帳テーブル (F0411) と取引明細テーブル (F0911) に保管されています。

伝票が未転記であれば、仮勘定を振り替える前に仮伝票を変更できます。転記済の仮伝票は変更できません。かわりにその伝票を無効にして新しく入力する必要があります。支払項目のみを無効にすることはできません。

仮勘定に計上した伝票を検討するには、伝票明細レポートを印刷します。レポートには2つのバージョンがあります。

- 買掛金明細 - 承認者別備考付き (R04428A)
- 買掛金明細 - 承認者別年齢調べ付き (R04428B)

このレポートでは、買掛金元帳テーブルの取引合計額、および承認者番号別の情報が印刷されます。

仮伝票の振替

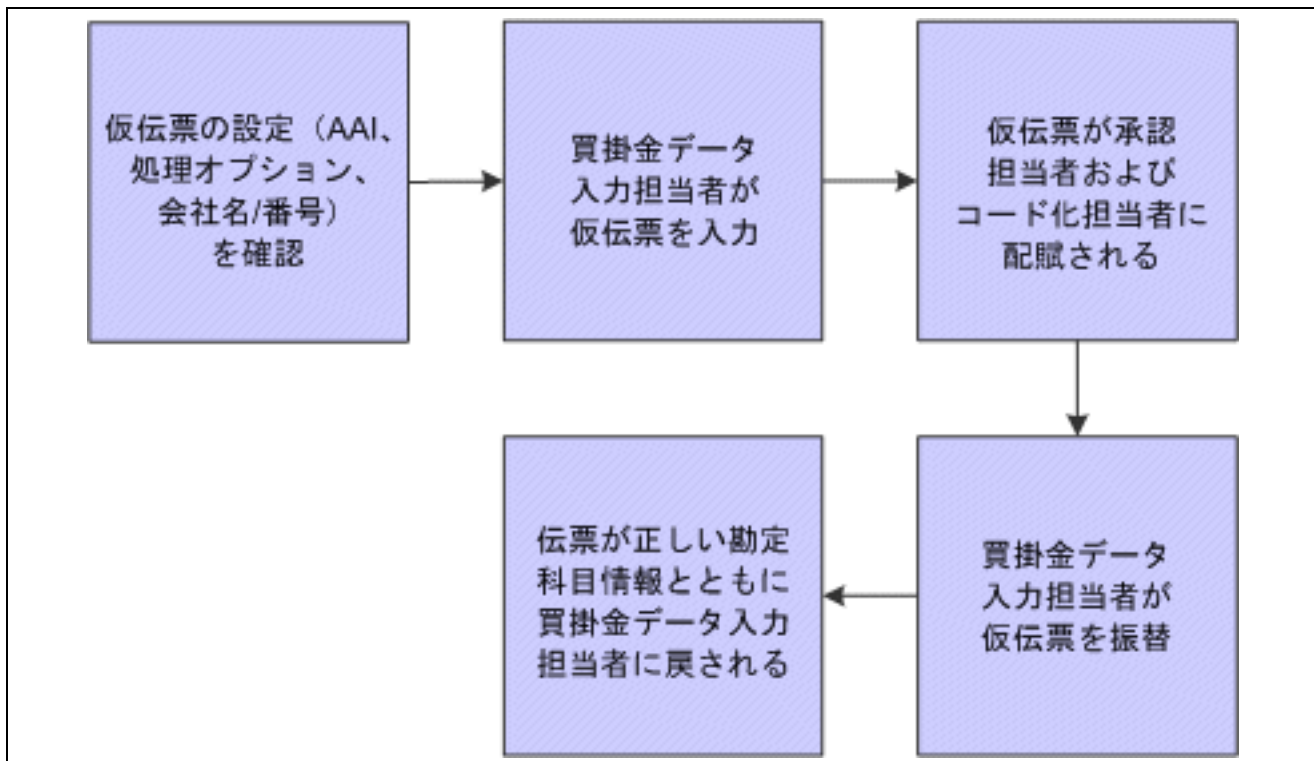
仮伝票を入力したら、仮勘定から該当勘定への金額を検討して振り替えます。振替により当初の費用仮勘定が逆仕訳され、伝票金額は指定する金額で指定する経費勘定に振り替えられます。

伝票の元帳日付より前の日付を使用して仮勘定の振替を行うことができます。このためには、振り替える前に伝票を転記する必要があります。ただし、その振替の元帳日付が費用仮勘定の日付とは別の場合は、仮伝票の費用仮勘定行の変更はできません。

処理オプションで承認者番号を入力した場合は、その番号が読み込まれ、その承認者に割り当てられた未配賦伝票を簡単に検討し振り替えることができます。

重要: 伝票を振り替えた後は、元帳日付が振替行の日付と異なる費用仮勘定行は変更できません。振替行の変更は可能です。

次の図には、仮伝票の処理の流れが示されています。



仮伝票処理

購買オーダー伝票の振替

仮購買オーダー伝票を入力した後で、適切な勘定科目に金額を振り替えることができます。このためには、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで購買オーダーが入力されている必要があります。JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで入力された購買オーダー伝票は、伝票タイプが「O」で始まります(OVなど)。

注意: 振替済の購買オーダー伝票を逆仕訳する必要がある場合があります。転記済の仮購買オーダー伝票を逆仕訳し、その振替が転記済でない場合、F0911テーブルに振替の履歴は保持されません。F0911テーブルには、仮勘定(借方)および買掛金勘定(貸方)を含む当初の転記済レコードのみが保持されます。

転記済の購買オーダー伝票を逆仕訳し、その振替も転記済の場合、当初の買掛金勘定(貸方)、仮勘定(借方)、およびこれらの逆仕訳が保持されます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 伝票入力MBF処理オプション・プログラム(P0400047)の「仮伝票」処理オプションを仮伝票入力ができるように設定してください。
- 「会社名および番号 - 会社の設定」フォームの「仮勘定の使用」チェックボックスを選択してください(任意)。

- AAI項目PP、および買掛金仮勘定を使用する場合はPQを設定します。承認者番号を各仕入先に割り当てます(任意)。

参照: 第 2 章、「買掛管理システムの設定」、「買掛管理のAAI(自動仕訳)の設定」、17ページ

- 承認者/カテゴリ・コード7の更新プログラムを実行します(任意)。

参照: 第 5 章、「仕入先情報の入力」、「承認者フィールドとカテゴリ・コード7フィールドの更新」、65ページ

仮伝票の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
伝票入力 - 支払情報	W0411A	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「仮伝票入力」 「仕入先元帳照会」フォームで、「追加」をクリックします。	伝票情報を入力します。 「仮伝票入力」メニューを選択して、仮伝票を入力する必要があります。選択しないと、伝票の費用仮勘定の入力できません。
追加情報	W0411F	「伝票入力 - 支払情報」フォームで、「フォーム」メニューの「追加情報」を選択します。	購買オーダー情報を入力します。
仕訳入力プロンプト	W0411B	「伝票入力 - 支払情報」フォームで「OK」をクリックします。	伝票の備考を入力し、費用仮勘定を確認します。
伝票仕訳振替の処理	W042002A	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「仮勘定の振替」	振り替える仮伝票を特定し、必要に応じて「振替日付」フィールドを変更します。
勘定科目情報	W0411K	「伝票仕訳振替の処理」フォームで仮伝票を選択し、「選択」をクリックします。	経費勘定を入力します。
伝票照合	W4314A	「伝票仕訳振替の処理」フォームで仮伝票を選択し、「ロー」メニューの「購買オーダーの振替」を選択します。	購買オーダー伝票の振替を行います。

仮伝票の入力

「仕訳入力プロンプト」フォームにアクセスします。

このフォームは、「伝票入力 - 支払情報」フォームに情報を入力して「OK」をクリックした場合のみ表示されます。その国固有の伝票入力フォームが存在する国の伝票を入力した場合、国固有のフォームの次に「仕訳入力プロンプト」フォームが表示されます。

仮伝票入力 - 仕訳入力プロンプト

OK(O) 取消(L) ツール(T)

...仮配賦勘定科目...

配賦値	10,000.00
勘定科目コード	9.8799
備考	
<input type="checkbox"/> 税トラッキング	
税目コード	
税率/税域	

「仕訳入力プロンプト」フォーム

勘定科目コード 伝票の転記先の勘定科目コードを入力します。

仮勘定の振替 (P042002) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

- 承認者番号** 仮伝票入力を承認する承認者の住所録番号を指定します。住所録マスター (F0101) にある住所録番号を入力してください。
- 支払状況コード** 振り替えられた後に伝票に割り当てられる支払状況コードを指定します。ユーザー定義コード 00/PS に設定されている支払状況コードを入力してください。ブランクにすると、伝票の支払状況は変更されません。この処理オプションは買掛金伝票の振替にのみ適用されます。

バージョン

- 伝票照合 (P4314)** システムで使用する伝票照合プログラム (P4314) のバージョンを指定します。有効なバージョン番号を入力してください。バージョンを指定しない場合、ZJDE0003 が使用されます。

仮伝票の振替

「伝票仕訳振替の処理」フォームにアクセスします。

仮勘定の振替 - 伝票仕訳振替の処理

選択(S) 検索(I) 開じる(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

☒
☐
☒
☐
☐
☒

承認者No.

請求書No.

会社番号

振替日付

通貨コード *

レコード 1-3

		伝票 番号	伝票 タイプ	伝票 会社	仕入先 No.	仕入先名	総額
<input checked="" type="radio"/>		1576	PL	00001	4344	Universal Incorporated	1,500.00
<input type="radio"/>		3190	PL	00001	4344	Universal Incorporated	1,125.00
<input type="radio"/>							2,625.00

「伝票仕訳振替の処理」フォーム

振替日付

取引を転記する会計期間を決定する日付を入力します。一般会計の会社固定情報テーブルにより、各会計期間の日付範囲が指定されます。

経費勘定の入力

「勘定科目情報」フォームにアクセスします。

仮勘定の振替 - 勘定科目情報

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

伝票No./タイプ/会社 3190 PL 00001 バッチ番号

仕入先 4344 摘要 Allen Supplies

元帳日付 2005/07/01 計上金額 1,125.00

通貨 USD 為替レート 基本通貨 USD

レコード 1-3 [グリッドのカスタム](#)

	勘定科目 * コード	勘定 科目名	配賦値	備考
<input type="radio"/>	9.8799	General Contra/Clearing Acct	1,125.00	Paint on Order
<input checked="" type="radio"/>	9.8799	General Contra/Clearing Acct	1,125.00-	Paint on Order
<input type="radio"/>				Paint on Order

金額 差異 1,125.00

「勘定科目情報」フォーム

定期伝票の処理

この項では、定期伝票処理の概要と次の方法について説明します。

- 定期伝票の入力
- 定期伝票の再作成
- 定期伝票レポート(R04305)の実行
- 定期伝票レポート(R04305)の処理オプションの設定

定期伝票について

月次または四半期ごとなど定期的に顧客に同じ金額を請求したり支払ったりする場合は、定期請求書または定期伝票を入力できます。このような定期的な取引を入力する場合、作成する請求書または伝票の合計件数およびその間隔を指定してください。たとえば、1年間にわたって毎月リース料の請求または支払を行う場合、支払が12回で定期頻度が月次の定期請求書または定期伝票を入力します。次に、毎月請求書または伝票を入力するかわりに、再作成プログラムを実行してオリジナルの定期請求書または定期伝票から新しい取引を作成します。この新規取引には伝票番号とバッチ番号が新たに割り当てられ、支払回数が1減らされます。支払回数が残リ1になるまで、再作成プログラムを実行して新しい取引を作成します。

定期取引を入力するには標準伝票入力プログラムを使用します。標準的な取引情報に加えて、定期頻度と支払回数フィールドにも値を入力してください。これにより、定期的に発生する取引であることがシステムに認識されます。定期取引を取り消すには、この2つのフィールドの値を削除してください。

定期伝票には、伝票タイプ「PR」が割り当てられます。ただし、定期伝票に対する伝票タイプを独自に作成し、伝票入力の際にその伝票タイプでデフォルトの伝票タイプを一時変更できます。定期伝票にカスタム伝票タイプを割り当てると、伝票が再作成されるたびにカスタム伝票タイプが保持されます。

定期伝票には、1つの支払項目しか設定できません。

次の図は、定期取引処理を示しています。



定期請求書および定期伝票の処理

定期伝票の改訂

定期伝票を再作成する前に、改訂が必要な場合があります。たとえば、仕入先が賃貸契約やサービス契約の延長または終了を決定した場合など、支払回数の変更が必要になる場合があります。

再作成した新しい伝票にはそれぞれ新しい伝票番号が割り当てられます。これにより、定期取引を改訂しても、過去の定期取引と情報が混同されずに済みます。定期伝票の改訂では、次のことが可能です。

- 一部のフィールドの変更
- 取引の定期情報の取消
- 定期取引の削除または無効化

支払をした後で再作成する前であれば、いつでも定期伝票を変更できます。再作成する前でも後でも、定期伝票は削除できますが、支払済の場合は、「定期頻度」と「支払回数」フィールドのみを更新できます。

定期伝票の取消

「定期頻度」と「支払回数」フィールドをクリアすると、定期伝票を取り消すことができます。この2つのフィールドの値を削除すると、取引は再作成されなくなります。誤って定期情報を削除した場合は、標準の入力プログラムを使って明細行に定期情報を入力しなおすことができます。

定期取引を取り消しても伝票タイプはそのままですが、元帳照会プログラムで定期伝票オプションを使って取引を検索できなくなります。

既存の取引に対する定期情報の追加

定期的ではない通常の伝票を入力した後で定期情報を追加するには、標準伝票入力プログラムを使って、詳細グリッドの定期頻度と支払回数を入力します。定期情報の追加時には、その取引の伝票タイプは変更されません。伝票を次に再作成したときに変更されます。

定期伝票の印刷

通常、再作成する伝票はオンラインで検討します。ただし、伝票の数が多い場合は定期伝票レポートを利用した方が便利です。このレポートは、内容のチェックや貸借一致の確認に使用する通常の仕訳帳です。レポートは、買掛金元帳テーブル(F0411)から取引内容を、取引明細テーブル(F0911)から関連情報をそれぞれ読み込んで出力します。

(COL)外貨で保存される伝票

外貨で保存される伝票の場合、再作成プロセスでは、その伝票のマスター・ビジネス関数(MBF)に定義された請求書または会計日付に対応する為替レーが使用されます。伝票再作成UDC(76C/RC)の値が読み込まれ、使用するバージョンが特定されます。

再作成処理について

定期請求書および定期伝票の入力、検討、改訂を行ったら、再作成して、来月、来四半期、来年用の取引のバッチを新規に作成します。再作成プログラムを実行すると、当初の定期取引の作成時に指定した支払回数と定期頻度に基づいて新しい取引が作成されます。請求書または伝票を再作成すると、前回の取引をコピーして必要なフィールドが更新されます。支払回数が1になるまで、再作成プログラムを実行するたびにこの処理が繰り返されます。支払回数が残りの1になった時点で、取引の再作成は終了します。たとえば、1年間の定期請求書または定期伝票を設定する場合、支払回数を12と指定します。当初の取引が最初の支払になるため、支払回数が残りの1になった取引は再作成の対象とみなされません。

既存の請求書または伝票に対して支払をしなくても、次の定期取引を作成できます。

この処理を実行すると、次のテーブルの情報が更新されます。

- F0011
- F03B11 (請求書)
- F0411 (伝票)
- F0911

再作成処理

定期請求書および定期伝票を再作成すると、次の処理が行われます。

- 当初の取引または最新の取引から定期頻度と支払回数を削除する。

- 新しく請求書と伝票を作成して次のフィールドを更新する。
 - 伝票番号(新規)
 - バッチ番号(新規)
 - 支払回数(1減らす)
 - 元帳日付と支払期日(定期頻度を使って次回の日付を計算)
 - 請求書日付(処理オプションの設定による)
 - 請求書番号(伝票のみ。処理オプションの設定による)
- 再作成された請求書と伝票の件数、およびエラーのため再作成できなかった取引の件数を示す例外レポートを作成する。

エラー・メッセージは、ワーク・センターで見ることができます。エラーには次のようなものがあります。

- 勘定科目レコードが作成されていない。
これは、定期請求書または定期伝票のレコードが取引明細テーブルに見つからない場合に発生します。
- 元帳日付が過去の会計年度(PYEB)。
- 元帳日付が過去の期間(PBCO)で、一般会計固定情報(P0000)のPBCO(過去期間)転記の許可オプションが有効になっていない。
- 元帳日付が会社の会計期間パターンの範囲外。

定期請求書および定期伝票を再作成したら、総勘定元帳に転記する必要があります。

顧客が既存の請求書または伝票に対して支払をしなくても、次の定期取引を作成できます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 月次、四半期、年次など、使用する定期頻度ごとにプログラムのバージョンを設定します。
データ選択で特定の頻度の伝票だけを選択します。
- 定期伝票に自動採番を設定します(任意)。

定期伝票の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
伝票入力 - 支払情報	W0411A	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「伝票入力」 「仕入先元帳照会」フォームで、「追加」をクリックします。	定期伝票情報を入力します。
勘定科目情報	W0411K	「伝票入力 - 支払情報」フォームで「OK」をクリックします。	定期伝票の勘定科目情報を入力します。
定期伝票情報の改訂	W04120B	「仕入先元帳照会」フォームで「定期伝票の改訂」を選択します。	定期伝票の情報を改訂します。

定期伝票情報の入力

「伝票入力 - 支払情報」フォームにアクセスします。

定期頻度	取引を作成する間隔を指定します。定期頻度の有効値は次のとおりです。 MO: 月1回 AN: 年1回 WK: 週1回 QT: 年4回 SA: 年2回 BW: 2週間に1回
支払回数	定期請求書または定期伝票をシステムで処理する回数を入力します。この回数には最初に入力する取引も含まれます。たとえば、「12」と入力すると、その取引は11回処理が行われます。処理を実行するたびに1ずつ回数が減っていきます。このフィールドの値が「1」になると、処理はこれ以上実行されず、フィールドがクリアされます。

定期伝票の再作成レポートの実行

「その他の伝票入力方式」(G04111)の「定期伝票の再作成」を選択します。

定期伝票の再作成レポート(R048101)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

請求書番号フラグ	請求書番号をブランクにするには、「1」を入力してください。ブランクにすると、請求書番号がコピーされます。
請求書日付フラグ	現在の日付を請求書日付として使用するには、「1」を入力してください。請求書日付をコピーするには、「2」を入力してください。ブランクにすると、請求書日付が増加されます。

定期伝票レポートの実行

「その他の伝票入力方式」(G04111)の「定期伝票レポート」を選択します。

定期伝票レポート(R04305)の処理オプションの設定

参照: 付録 C、「JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理レポート」、「伝票仕訳帳 (R04305) の処理オプション」、256 ページ

前払処理

この項では、前払の概要と次の方法について説明します。

- 前払伝票の入力
- マイナスの前払項目の決済

前払について

請求書を受け取る前に商品またはサービスに対する支払を済ませなければならない場合があります。たとえば次のような場合に前払が必要です。

- 社員の出張費を事前に支払う。
- 後日受けるサービスの保証金を支払う。
- 前払に対する割引を受ける。

請求書をまだ受け取っていない場合でも、事前に支払をするために前払伝票を入力できます。前払伝票を入力すると、伝票の各支払項目についてマイナスの支払項目が作成されます。前払伝票の作成には、標準伝票入力プログラム(P0411)しか使用できません。

「勘定科目」処理オプションに勘定科目コードが入力されていない場合は、前払伝票の入力処理でAAIを使用して勘定科目情報を決定します。AAI項目PGxxxx(xxxxは標準伝票入力プログラムの処理オプションの相手勘定)が使用されます。

通常、前払伝票には金額がゼロの支払項目があります。この場合、前払伝票の入力時には「勘定科目情報」フォームは表示されません。「勘定科目情報」フォームは、総勘定元帳に配賦金額がある場合に表示されます。これは通常、伝票の支払項目の税率および税域が異なる場合に発生します。

前払伝票の支払は、自動支払処理でも手入力でも行うことができます。自動支払の次のバッチで支払を作成する場合は、前払伝票を入力して通常の自動支払処理する手順に従います。手入力で支払を行うには、前払伝票を作成してから伝票照合を伴う手入力の支払を行います。

後で実際の金額の伝票を入力する際は、標準伝票と同じ手順で入力します。次に、保留になっているマイナスの支払項目を実際の伝票で手動で消し込み、仕入先に対する買掛金を前払伝票の金額分減らします。または、マイナスの支払項目の支払状況を承認済に変更して自動支払処理を実行し、該当の仕入先の未払伝票の消込に使用します。手入力による支払方法の利点は、特定のマイナスの支払項目を決済する伝票を選択できることです。一方、自動支払方法の利点は、同じ仕入先の伝票にマイナスの支払項目が自動的に合算されることです。手入力による方法では、前払選択プログラム(P0411P)を使用して、送信済の実際の費用の伝票と相殺する前払伝票の支払項目を照合します。

前払伝票の入力と支払の例

1,000の出張費の前払申請があるとします。1,000の前払伝票を入力すると、-1,000の保留支払項目が自動的に作成されます。

この伝票を転記すると、AAIで指定した前払費用勘定の借方と買掛金勘定の貸方にそれぞれ金額1,000で仕訳が作成されます。支払を転記すると、買掛金勘定の借方と現金勘定の貸方に仕訳が作成されます。

次のT勘定は、仕訳を示しています。

伝票の入力	
	経費
	9.8740
1000	

伝票の入力

前払伝票の転記（マイナスの支払項目）			
	前払費用		買掛金
	1.1890		1.4110
1000			1000

前払伝票の転記

前払伝票の支払および支払の転記			
	買掛金		現金
	1.4110		1.1110.BEAR
1000			1000

前払伝票の支払および支払の転記

後日、出張した従業員が実際に2,200使用したことを報告しました。これは標準伝票として入力します。保留のマイナスの支払項目1,000で支払の2,200を消し込むと、未決済金額は1,200になります。

次のT勘定は、仕訳を示しています。

実際の伝票の入力と転記			
	費用		買掛金
	9.8740		1.4110
2200			2200

実際の伝票の入力と転記

マイナスの支払項目の消込と実際伝票の残高の支払、支払の転記

買掛金	前払費用
1.4110	1.1890
1000	1000

マイナスの支払項目の消込

買掛金	現金
1.4110	1.1110.BEAR
1200 (2200 - 1000)	1200 (2200 - 1000)

支払の転記

関連項目:

第 13 章、「手入力支払の処理」、「手入力支払(伝票照合あり)の入力」、193ページ

第 2 章、「買掛管理システムの設定」、「買掛管理のAAI(自動仕訳)の設定」、17ページ

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 前払伝票の入力プログラム(P0411)の処理オプションで前払処理を有効にします。
前払処理を有効にするには、「前払」タブに相手勘定を入力します。支払入力(伝票照合あり)プログラム(P0413M)を使って前払伝票は入力できません。
- 前払伝票の入力時に「前払税」フォームを表示する場合は、前払伝票の入力プログラムの「前払」タブで「税域フィールド」に「1」を入力します。
- AAI項目PCyyyyを設定して、デフォルトの前払費用勘定を指定します。
標準伝票入力プログラムの処理オプションの「前払」タブで入力した相手勘定が、前払仕訳の作成に使用されるAAI項目PCyyyyになります。

前払処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
伝票入力－支払情報	W0411A	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「前払伝票の入力」 「仕入先元帳照会」フォームで、「追加」をクリックします。	前払伝票情報を入力します。
前払税	W0411X	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「前払伝票の入力」 「仕入先元帳照会」フォームで、「追加」をクリックします。	前払伝票の税率/税域および税目コードを入力します。 「税域フィールド」処理オプションに「1」を入力した場合にのみ、このフォームは表示されます。
勘定科目情報	W0411K	「伝票入力－支払情報」フォームで「OK」をクリックします。	伝票の勘定科目情報を入力します。
前払選択の処理	W0411PA	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「前払の選択」	決済するマイナス支払項目を選択します。 照合されていないマイナスの支払項目だけがフォームに表示されます。 マイナスの前払項目を表示するには、そのマイナスの前払項目を承認し、前払伝票を支払う必要があります。
支払の手動入力	W0413MA	「前払選択の処理」フォームで、「ロー」メニューの「支払の入力」を選択します。	マイナスの前払項目と実際の伝票を合算します。
未払項目の選択	W0413ME	「支払の手動入力」フォームで、「フォーム」メニューの「支払項目」を選択します。	マイナスの前払項目に合算する実際の伝票を選択します。
支払の分割	W0411SC	「前払選択の処理」フォームで、「ロー」メニューの「支払の分割」を選択します。	支払の分割を入力します。




前払伝票の入力

「前払税」フォームにアクセスします。

前払伝票の入力プログラム(P0411)の「税域フィールド」処理オプションに「1」を入力した場合にのみ、このフォームは表示されます。

前払伝票の入力 - 前払税

OK(O) 取消(L) ツール(T)

税率/税域	CO	Colorado State & Regional Tax
税目コード	E	GST 免税

「前払税」フォーム

前払伝票のマイナスの支払項目の決済

「前払選択の処理」フォームにアクセスします。

第 7 章

バッチ伝票の処理

この章では、バッチ伝票の処理の概要と次の方法について説明します。

- バッチ伝票の処理
- バッチ伝票の利用
- 処理済バッチ伝票の除去

バッチ伝票の処理について

伝票のバッチ処理は、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェア以外の外部システムから入力されたバッチ伝票を、JD Edwards EnterpriseOneの取引として処理できるように変換する方法です。PCデータ入力、サード・パーティや顧客のシステム、電子データ交換(EDI)などの外部ソースからバッチ伝票をアップロードできます。

バッチ伝票をアップロードするには、最初に、伝票アップロード・テーブル(F0411Z1)と仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)の特定のフィールドに適切なデータを入力するカスタム・プログラムを作成する必要があります。基本的な伝票アップロード処理を実行するには、特定のフィールドへの入力が必要です。割引、税額、支払情報などを指定するその他のフィールドを使用して、アップロードする伝票に関する詳しい情報を記述することもできます。これ以外のフィールドは、無視されるか、ユーザー用として予約されています。JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムを使用する場合は、F0911Z1テーブルのその他のフィールドへの入力が必要となります。

外部システムからの伝票情報をF0411Z1およびF0911Z1テーブルの適切なフォーマットに変換した後、バッチ伝票処理レポート(R04110ZA)を実行します。このプログラムの処理は次のとおりです。

- 変換されたデータのチェック
- デフォルト値の設定
- 買掛金元帳テーブル(F0411)での伝票情報の作成
- 取引明細テーブル(F0911)での関連する勘定科目情報の作成
- バッチ伝票レコードの支払情報を指定した場合は、買掛金照合伝票(F0413)および買掛金照合伝票明細(F0414)での関連する支払レコードの作成

外部伝票はF0411およびF0911テーブルにアップロードされた後は、JD Edwards EnterpriseOneの取引として処理できます。

バッチ処理とZファイルを使わずに買掛金元帳テーブル(F0411)または取引明細テーブル(F0911)を更新しようとすると、JD Edwards EnterpriseOneの伝票情報の整合性が失われる可能性があります。

Oracle Demantra Predictive Trade Planningとの統合

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理を Oracle Demantra Predictive Trade Planning と統合すると、Oracle Demantra システムで請求を受信し、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システム内に支払リクエストを作成するというプロセスを実行できるようになります。インバウンド買掛金請求プログラム (R04110ZB) のレコードを Oracle Demantra システムで実行してから、バッチ伝票処理レポート・プログラムを実行します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Applications Integration with Oracle Demantra

事前設定

伝票取引をバッチ入力テーブルにマッピングします。

参照: 付録 A、「バッチ入力テーブルへの伝票取引のマッピング、」231 ページ

バッチ伝票の処理

この項では、バッチ伝票の処理の概要と次の方法について説明します。

- バッチ伝票処理レポートの実行
- バッチ伝票処理レポートの処理オプションの設定

バッチ伝票の処理について

カスタム・プログラムにより伝票アップロード・テーブル (F0411Z1) と仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1) に取引情報をロードした後、バッチ伝票処理レポート (R04110ZA) を実行します。このプログラムを実行すると、F0411Z1 および F0911Z1 テーブルの情報が処理され、その情報が買掛金元帳テーブル (F0411) と取引明細テーブル (F0911) にロードされます。

また、インバウンド買掛金請求プログラム (R04110ZB) でも、伝票アップロード・テーブル (F0411Z1) および仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1) にレコードが作成されます。インバウンド買掛金請求プログラムは、JD Edwards EnterpriseOne システムに Oracle Demantra Predictive Trade Planning ソフトウェアを統合した場合に実行します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Applications Integration with Oracle Demantra

伝票は、テスト・モードまたは最終モードで送信できます。

テスト・モードでは、次の処理が実行されます。

- データの検証、エラーのあった取引の件数を示すレポートの作成、およびワークフロー・メッセージの作成を行う。

テスト・モードでの処理は、元帳には反映されません。

- 最終モードでバッチ伝票を処理する前に、ワークフロー・メッセージからのエラーを修正できるようにする。

最終モードでは、次の処理が実行されます。

- 買掛金元帳テーブル (F0411) に伝票を、取引明細テーブル (F0911) に関連する仕訳を作成する。

- 支払番号および日付が入力されている場合、買掛金照合伝票 (F0413) および買掛金照合伝票明細 (F0414) に支払を作成する。
- 取引明細テーブル (F0911) に収益性分析情報を作成する。

この処理は、収益性分析固定情報テーブル (F1609) の “コスト・オブジェクトを使用可能にする” フラグがオンで、伝票に収益性分析情報が含まれている場合にのみ実行されます。

- 伝票アップロード・テーブル (F0411Z1) の伝票番号とバッチ番号がブランクの場合、これらの番号を割り当てる。

最終処理時に自動採番を使用して、伝票番号とバッチ番号が自動的に割り当てられます。自動採番プログラムを使用することをお勧めします。

- ブランクのフィールドに情報を入力する。
- 正常に処理された取引とエラーのあった取引の数を示すレポートが作成されます。
- ワークフロー・メッセージを作成する。
- 処理オプションを設定している場合は、処理済伝票を除去する。

取引の処理に必要なその他の情報は、他のソースからロードされるか、既存の情報を基にして計算されます。次に例を示します。

- 伝票番号は、自動採番の改訂プログラム (P0002) により自動採番される。
- 会計年度と期間は、元帳日付と会社の設定プログラム (P0010) から計算される。
- F0911 テーブルの摘要は、仕入先番号の仕入先名から取り込まれる。
- F0911 テーブルの会社番号は、仕訳の最初の明細行にあるビジネスユニットに基づいて割り当てられる。

処理オプションを使用して、データ選択を決定します。他のデータ選択は使用できません。

2つのプログラム・バージョンは、給与計算処理専用です。そのバージョンとは、ZJDE0003 および ZJDE0004 です。

処理中のエラー

処理中にエラーが発生した場合、エラーは編集レポートに記載されます。エラーを修正した後、バッチを再処理できます。ある取引にエラーがあっても、バッチ処理は中止されません。バッチの取引にエラーがあると、その取引は残りのバッチでは処理されません。

バッチが正常に処理されると、VLEDSP フィールドが 0 から 1 に更新されます。正常に処理されたレコードは除去されるまで、伝票アップロード・テーブル (F0411Z1) および仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1) に残ります。これらのテーブルを自動的に除去するよう処理オプションで設定することもできます。

次に、エラーを減らしたり、エラー発生時にエラーを特定し修正するのに役立つヒントを示します。

- 最初に少数のレコードでバッチを処理します。1つのレコードで頻繁に発生するエラーは、ほとんどの場合他のレコードでも発生します。少ない件数のレコードでエラーを修正してから、同じ手順に従って、バッチ上の多数のレコードを処理します。
- エラーの場合のみバッチ処理が中止されます。警告メッセージは正常ではない事態に対して警告を発しますが、処理が中止されることはありません。処理オプションで警告メッセージをオフに設定できます。
- テスト・モードでバッチを実行できます。ただし、転記前に取引を検討 (削除も可) できるため、必ずテスト・モードで実行する必要はありません。また、エラーが1つでもあるとバッチ処理は中止されます。

- ワーク・センターからのエラー・メッセージでエラーの原因と解決方法がわかります。すべてのエラー・メッセージはデータ辞書にも収められており、エラー番号を調べたり用語解説を確認したりすることができます。
- エラーを解決できない場合、バッチ仕入先マスターの改訂プログラム (P0401Z1) を使用して取引を手入力し、正常に実行されるように処理します。手入力した F0411Z1 のデータとバッチ伝票処理レポート (R04110ZA) を使用して入力した F0411Z1 のデータを比較します。差異を比較することで、矛盾点が見つかり、エラーの解決に役立てることができます。

処理時間の改善

最初の変換エラーを解決したら、次のガイドラインを使用してバッチ伝票処理の処理時間を改善できます。

- データをより大きなバッチに編成します。

処理時間は、プログラムがバッチを開いたり閉じたりする必要がなければ改善できます。

重要: 大きなバッチを作成すると、バッチ処理のパフォーマンスは向上しますが、バッチの転記にかかる処理時間が長くなる場合があります。また、バッチ処理ではあるレコードにエラーがあっても残りのバッチ処理は中止されませんが、バッチ転記時にエラーが発生した場合はバッチのレコードは一切転記されません。

- バッチ伝票処理レポートのバージョンを複数作成して、同時に実行します。

このためには、バッチ・トランザクション・テーブルのデータを変更して、バッチをいくつかの大きなバッチにまとめます。次に、プログラムのバージョンを新規に作成し、処理オプションでバッチの 1 つを指定します。最後に、プログラムのすべてのバージョンを同時に実行します。

注意: バッチ処理プログラムのバージョンを複数作成した場合のパフォーマンスの向上は、処理するデータのタイプに応じて大きく異なります。レコードのロックなどの技術的な問題により、複数のバージョンを同時に実行することで実際の処理時間が長くなる場合もあります。使用データに適したソリューションを把握するには、テストを行う必要があります。

- システムがデフォルト情報を取り込む時間を短縮するために、できるだけ多くの情報を入力します。

たとえば、F0911Z1 テーブルの備考フィールド (VNEXA) に顧客名称を入力すると効果があります。システムが取り込むその他の情報には、支払条件や為替レート、会社番号などがあります。これらのフィールドに入力してバッチ処理プログラムを実行すると、デフォルト情報を取り込まずにデータの妥当性チェックのみが行われるため、処理時間が短縮されます。

- JD Edwards EnterpriseOne 収益性分析システム (システム 16) を使用していない場合、収益性分析固定情報プログラム (P1609) で「コスト・オブジェクトをアクティブにする」(CO01) と「ABC 有効」(CO03) フィールドが選択されていないことを確認してください。

「システム・セットアップ」メニュー (G1641) から「収益性分析固定情報」を選択して確認できます。

- バッチ・テーブル (F0411Z1、F0911Z1) およびその他の関連テーブル (仕入先マスター (F0401)、為替レート (F0015)、税域 (F4008) など) が存在するサーバー上で、バッチ伝票処理レポートを実行します。

また、適用可能なマスター・ビジネス関数 (P0400047、P0900049) とその他の関連プログラムも同じサーバー上に置きます。

処理済バッチ伝票の転記

バッチ伝票を処理したら、総勘定元帳に転記する必要があります。

「仕入先および伝票の入力」メニュー(G0411)から手入力で総勘定元帳に伝票を転記できます。または、バッチ伝票処理レポート(R04110ZA)の次の2つの処理オプションを設定することにより、処理時に自動的に処理済バッチ伝票を転記できます。

- 「バッチ承認」タブの「バッチ承認」フィールドに「1」を入力すると、処理済のバッチの状況が自動的に「承認済」に設定されます。
- 「自動転記」タブの「バージョン」フィールドに総勘定元帳転記レポート(R09801)プログラムのバージョンを入力します。

事前設定

この項のタスクを実行する前に、仕入先マスター(F0401)に税情報などの最新情報が含まれていることを確認します。

バッチ伝票処理レポートの実行

「バッチ伝票処理」(G04311)の「バッチ伝票処理レポート」を選択します。

バッチ伝票処理レポート(R04110ZA)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

選択

- | | |
|---------------------|--|
| 1. EDI - ユーザーID | 有効なユーザーIDを入力して、データ選択を1人のEDIユーザーに絞り込みます。ブランクにすると、すべてのユーザーIDが対象となります。 |
| 2. EDI - バッチ番号 | バッチ番号を入力して、EDIバッチ番号のデータ選択を設定します。このデータ選択には、存在するバッチ番号のみを使用してください。 |
| 3. EDI - トランザクション番号 | EDIトランザクション番号でデータを選択するために、トランザクション番号を入力します。ブランクにすると、すべてのEDIトランザクション番号が対象となります。 |
| 4. EDI - アップロード日付 | EDI伝送日付でレコードを選択するために、伝送日付を入力します。ブランクにすると、すべてのEDI伝送日付が対象となります。 |

処理

- | | |
|-----|--|
| モード | 最終モードでプログラムを実行するには、「1」を入力します。最終モードでは、レポートが印刷されるだけでなく、入力した情報に基づいてF0411とF0911テーブルが更新されます。

この処理オプションをブランクにすると、テスト・モードでプログラムが実行されます。テスト・モードでは、レポートは作成されますがどのテーブルも更新されません。 |
|-----|--|

- | | |
|----------|---|
| 貸借不一致の許可 | 伝票の合計金額と対応する仕訳の合計金額が一致しない場合に、F0411およびF0911テーブルを更新するかどうかを指定します。伝票と仕訳のどちらの金額を決定する場合においても、税額は考慮されます。値は次のとおりです。 |
|----------|---|

ブランク: 金額が一致しない伝票は処理しない。

1: 金額が一致しない伝票も処理する。旧システムからデータをアップロードする場合など、伝票レコードを対応する仕訳とは切り離して変換する場合のみこのオプションを選択してください。

注意: 金額が一致しない伝票を処理すると、他のアプリケーションで予期せぬ結果が生じる可能性があります。

除去

伝票アップロード・テーブル (F0411Z1) および仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1) から正常に処理された伝票レコードを自動的に除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 伝票レコードを除去しない。

1: 伝票レコードを除去する。

メッセージ

警告メッセージの非表示

処理中に発生した警告メッセージを従業員ワーク・センターに送信するかどうかを指定します。この処理オプションの設定にかかわらず、エラー・メッセージはすべて従業員ワーク・センターに送信されます。警告メッセージが表示されても伝票の処理は正常に行うことができます。値は次のとおりです。

ブランク: 警告メッセージを従業員ワーク・センターに送信する。

1: 従業員ワーク・センターに警告メッセージを送信しない。

ワークフロー・メッセージ のユーザーID

ワークフローの警告メッセージを受け取るユーザーを指定します。この処理オプションをブランクにすると、警告メッセージはトランザクションを入力したユーザーに送信されます。

デフォルト

税デフォルト設定をしない

正常に処理された仕入先元帳レコードの税目コードと税率/税域を、住所録マスター (F0101) およびビジネスユニット・マスター (F0006) で指定された値に更新するかどうかを指定します。両方のテーブルの税率/税域フィールドに値がある場合、仕入先マスター (F0401) の値が使用されます。値は次のとおりです。

ブランク: 税情報を更新する。

1: 税情報を更新しない。

バージョン

バージョン

F0411テーブルに対する伝票取引の処理に使用する、伝票入力MBF処理オプション・プログラム (P0400047) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

バージョン

F0911テーブルに対する伝票取引の処理に使用する仕訳入力MBF処理オプション・プログラム (P0900049) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

バッチ承認

バッチ承認

正常に処理された伝票バッチに割り当てる状況を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 買掛管理固定情報の管理者承認の設定に基づいて値を割り当てる。

1: 正常に処理された伝票バッチに“承認済”(A)を割り当てる。

自動転記

バージョン

正常に処理された伝票取引を自動的に勘定残高テーブル(F0902)に転記するかどうかを指定します。実行する転記プログラムのバージョンを指定する必要があります。ブランクにすると、取引は転記されません。

バッチ伝票の利用

この項では、バッチ伝票の利用の概要と、バッチ伝票の改訂の処理オプションの設定方法について説明します。

バッチ伝票の改訂プログラムについて

バッチ伝票処理レポート(R04110ZA)を実行した後で、エラーになっているレコードが見つかる場合があります。ワーク・センターのエラー・メッセージを検討し、レコードを改訂してから、再度バッチ伝票処理レポートを実行します。

バッチ伝票の改訂プログラム(P0411Z1)を使用して、レコードを検討します。未処理のレコードはバッチ伝票の改訂プログラムを使用して改訂できます。ただし、このプログラムでは、標準伝票入力プログラム(P0411)で実行される編集のうち一部実行されないものがあるため、改訂はスプレッドシートで行う必要があります。

注意: バッチ伝票の改訂プログラムを使用して、正常に処理されたレコードは改訂できません。レコードが正常に処理された時点で、買掛金元帳(F0411)と取引明細(F0911)テーブルにデータが書き込まれているので、これらのレコードは標準伝票入力プログラムを使用して改訂する必要があります。

また、バッチ伝票の改訂プログラムを使用して、伝票アップロード・テーブル(F0411Z1)にレコードを追加することもできます。処理対象のバッチに伝票は追加できません。ただし、新たにバッチを作成して伝票を追加することは可能です。通常は、バッチ伝票を追加する必要はありません。例外として、取引の処理を正常に処理できない場合があげられます。エラー箇所を検出して訂正するには、バッチ伝票の改訂プログラムを使用してバッチ伝票を手動で追加し、取引を処理します。取引が正常に処理されたら、その伝票とエラーになったバッチ伝票とを比較します。

「オフライン伝票処理」フォームからは未処理の伝票のみ削除できます。バッチ伝票が正常に処理された場合、バッチ伝票入力の除去プログラム(R0411Z1P)を使用してその伝票を除去する必要があります。

バッチ伝票情報は、伝票アップロード・テーブル(F0411Z1)と仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)に保管されます。

バッチ伝票の利用に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オフライン伝票処理	W0411Z1A	「バッチ伝票処理」(G04311)、「バッチ伝票の改訂」	バッチ伝票を検索、選択、削除します。
伝票入力 - 支払情報	W0411Z1D	「オフライン伝票処理」フォームで伝票を選択し、「選択」をクリックします。	バッチ伝票を検討、改訂、または追加します。
伝票入力 - 勘定科目情報	W0411Z1C	「伝票入力 - 支払情報」フォームで、「フォーム」メニューの「勘定科目情報」を選択します。	バッチ伝票の勘定科目情報を検討します。このフォームを使用して、バッチ伝票に勘定科目情報を追加することもできます。
勘定科目情報 - 明細	W0411Z1G	「伝票入力 - 勘定科目情報」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューの「明細」を選択します。	税情報や補助元帳情報など、伝票の勘定科目情報の明細を検討します。
計上税額	W0000209A	「伝票入力 - 勘定科目情報」フォームで、「フォーム」メニューの「計上金額」を選択します。	計上する税額を検討します。

バッチ伝票の改訂(P0411Z1)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

サービス/税日付

この処理オプションをブランクにすると、サービス/税日付に元帳日付が使用されます。サービス/税日付に請求書日付を使用するには、「1」を入力します。

デフォルト支払状況

伝票または請求書のデフォルト支払状況を指定するには、ユーザー定義コード(00/PS)に設定されている値を入力します。

デフォルトのファクタ/代替受取人住所

この処理オプションをブランクにすると、仕入先マスター(F0401)の仕入先の住所番号が支払の代替受取人フィールドにロードされます。代替受取人フィールドにファクタ/代替受取人番号をロードするには、「1」を入力します。

注意: 支払は、代替受取人フィールドの住所録番号に対して行われます。

日付

請求書日付 > 本日の日付

請求書日付が今日の日付より後の場合に表示するメッセージを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: メッセージを表示しない。編集は実行されません。処理は続行できます。

1: 警告メッセージを表示する。処理は続行できます。

	2: エラー・メッセージを表示する。エラーが訂正されるまで処理は続行できません。
請求書日付 > 元帳日付	請求書日付が元帳日付より後の場合に表示するメッセージを指定します。値は次のとおりです。 ブランク: メッセージを表示しない。編集は実行されません。処理は続行できます。 1: 警告メッセージを表示する。処理は続行できます。 2: エラー・メッセージを表示する。エラーを訂正するまで処理は続行できません。
デビット・メモ/クレジット・メモの支払期日	この処理オプションをブランクにすると、デビット・メモの支払期日に元帳日付が使用されます。支払条件に基づいて支払期日を決定するには、「1」を入力します。
通貨	
VAT入力可	通貨入力でVATを入力できるようにするには、「1」を入力します。
小切手の手動作成	
小切手の手動作成	手入力により小切手を作成するには、「1」を入力します。
仕訳入力	
貸借不一致を検証しない	この処理オプションをブランクにすると、取引の貸借一致が必須になります。取引の貸借一致を必須としないように指定する場合は、「1」を入力します。
表示	
集計	「オフライン伝票処理」フォームに集計伝票を表示するには、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、集計伝票は表示されません。
入力タイプ	
オフラインで入力された伝票ではない	この処理オプションをブランクにすると、オフライン伝票入力プログラムで取引が入力されたことが示されます。オフライン伝票入力プログラムで取引が作成されていない場合は、「1」を入力します。

処理済バッチ伝票の除去

この項では、処理済バッチ伝票の除去の概要と、バッチ伝票入力の除去レポート(R0411Z1P)の実行方法について説明します。

処理済バッチ伝票の除去について

バッチ伝票は検討、処理、転記後、除去する必要があります。処理済バッチ伝票は除去されるまで、伝票アップロード・テーブル (F0411Z1) と仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1) に保管されます。バッチ伝票は、次のどちらかの方法で除去できます。

- 最終モードでバッチ伝票を処理する際にバッチが自動的に除去されるように、バッチ伝票処理レポート (R04110ZA) の処理オプションを設定する。
- 個別のタスクとして除去する。

バッチ伝票を除去すると、すべての処理済伝票が特定のテーブルから削除されます。伝票が正常に処理されていると、EDSPフィールドの値は「1」になっています。どのバッチの伝票でも、正常に処理された伝票は、次のテーブルから除去されます。

- 伝票アップロード・テーブル (F0411Z1)
- 仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1)

除去を実行して削除されるのはバッチ伝票だけです。買掛金元帳 (F0411) の伝票に影響はありません。

バッチ伝票入力の除去レポートの実行

「バッチ伝票処理」(G04311) の「バッチ伝票入力の除去」を選択します。

第 8 章

EDI受信による伝票の処理

この項では、インバウンド(受信)電子データ交換(EDI)による伝票の概要と次の方法について説明します。

- EDI受信伝票トランザクションの転送
- 処理済EDI受信伝票データの削除

EDI伝票の処理について

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでは、受信伝票を処理できます。受信伝票の処理では、EDI標準に基づいて、請求書の集計トランザクション(EDI伝送810)を受信します。

受信伝票を取り込むには、取引先からEDI受信テーブルに受信したEDI情報のフォーマットを、伝票アップロード・テーブル(F0411Z1)と仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)の各テーブルで使用するフォーマットに変換、転送するプログラムを実行します。EDI受信伝票の処理が正常に完了すると、バッチ伝票処理を行うことができます。

EDI受信伝票処理ためのマッピング要件について

EDIを介して受信した伝票データを処理するには、トランザクション受信時に適用される伝票のマッピング要件について理解しておく必要があります。

次のEDIテーブルを使用して、EDI伝票の伝送を受信します。

- EDI請求書見出し - 受信(F47041)
- EDI請求書明細 - 受信(F47042)
- EDI請求書集計 - 受信(F47044)

1回のEDI伝送で複数の伝票を受信したり、各伝票に複数の支払項目が含まれていたりすることがあります。次のキー・フィールドによって、各伝票とそれに関連する支払項目が区別されます。

- EDI伝票キー会社(EDKCO)
- EDI伝票番号(EDOC)
- EDI伝票タイプ(EDCT)

EDI伝票を正しく処理するには、次のテーブルの各フィールドに値を入力する必要があります。

- EDI請求書見出し - 受信(F47041)
 - EDI伝票キー会社(SYEDKCO)
 - EDI伝票番号(SYEDOC)
 - EDI伝票タイプ(SYEDCT)

- EDI行番号 (SYEDLN)
- EDIトランザクション・セット番号 (SYEDIST)
受信伝票トランザクション・セットの「810」と入力します。
- EDI送受信インディケータ (SYEDER)
EDI受信伝票トランザクションの「R」と入力します。
- 会社 (SYCO)
- 住所番号 (SYAN8)
- 元帳日付 (SYDGJ)
- EDI請求書明細 - 受信 (F47042)
 - EDI伝票キー会社 (SZEDKCO)
 - EDI伝票番号 (SZEDOC)
 - EDI伝票タイプ (SZEDCT)
 - EDI行番号 (SZEDLN)
 - EDIトランザクション・セット番号 (SZEDIST)
受信伝票トランザクション・セットの「810」と入力します。
 - EDI送受信インディケータ (SZEDER)
EDI受信伝票トランザクションの「R」と入力します。
 - 会社 (SZCO)
 - 勘定科目コード (SZANI)
勘定科目コードを入力します。勘定科目コードを自動的に割り当てる場合は、このフィールドを空白にしておきます。1つの伝票支払項目に複数の勘定科目コードは入力できません。
 - 総額 (SZAG)
 - 伝票支払項目の金額を入力します。
 - 未決済金額 (SZAAP)
伝票支払項目の金額を入力します。未決済金額と総額の値は等しくなる必要があります。一部のみ支払済の伝票は、処理できません。
- EDI請求書集計 - 受信 (F47044)
 - EDI伝票キー会社 (SWEDKCO)
 - EDI伝票番号 (SWEDOC)
 - EDI伝票タイプ (SWEDCT)
 - EDI行番号 (SWEDLN)
 - EDIトランザクション・セット番号 (SWEDIST)
受信伝票トランザクション・セットの「810」と入力します。
 - EDI送受信インディケータ (SWEDER)
EDI受信伝票トランザクションの「R」と入力します。
 - 会社 (SWCO)
 - 住所番号 (SWAN8)

- 総額 (SWAG)

伝票の合計金額を入力します。

- 未決済金額 (SWAAP)

伝票の合計金額を入力します。未決済金額と総額の値は等しくする必要があります。一部のみ支払済の伝票は、処理できません。

EDI受信伝票トランザクションの転送

この項では、伝票の編集/作成プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 伝票の編集/作成プログラムの実行
- 伝票の編集/作成 (R47041) の処理オプションの設定

伝票の編集/作成プログラムについて

伝票の編集/作成プログラムを実行して、伝票と購買オーダーの照合は行わずに、伝票アップロード・テーブル (F0411Z1) と仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1) にEDI受信伝票を転送します。

このプログラムは、テスト・モードと最終モードのどちらでも実行できます。

テスト・モードの場合は、EDI受信伝票の編集/作成レポートが作成されます。このレポートを使用してトランザクションの検討やエラーの修正を行ってから、最終モードでプログラムを実行します。

最終モードでは、次の処理が実行されます。

- EDIインターフェイス・テーブルからF0411Z1テーブルに伝票情報がコピーされます。
- F0911Z1テーブルに対応するトランザクションが作成されます。
- 指定したレベルに基づく勘定科目コードが決定されます。
- EDI受信伝票の編集/作成レポートが印刷されます。このレポートでは、各伝票の総額と未決済金額が印刷されます。検出されたエラーもレポートに印刷されます。
- EDI受信インターフェイス・テーブルのトランザクションの処理済 (Y/N) フィールド (EDSP) が更新されます。

次のレベルに基づいて、最終モードでプログラムを実行する際の勘定科目コードが決定されます。

1. EDI伝送データで勘定科目コードが指定されている場合、この勘定科目コードが使用されます。
勘定科目コードが指定されていない場合は、F0401テーブルにある仕入先のデフォルトの勘定科目コードが検索され、そのコードが使用されます。
2. 処理オプションで仮伝票が指定されていると、AAI項目PPが検索されます。
EDI伝送データに入力されている勘定科目コードは、このAAI項目で設定した勘定科目コードにより上書きされます。AAI項目PPが設定されていない場合は、レポートにエラーが印刷されます。
3. 仮伝票が指定されていない場合で、EDI伝送データでも勘定科目コードが指定されていないうえ、F0401テーブルにデフォルトの経費勘定がない場合は、AAI項目PPが検索され、この項目に設定された勘定科目コードが使用されます。
AAI項目PPが設定されていない場合は、レポートにエラーが印刷されます。

伝票の編集/作成プログラムの処理オプションの実行

「請求書(集計)」(G47261)の「伝票の編集/作成」を選択します。

伝票の編集/作成(R47041)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

1. 処理モード 最終モードで処理するには「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、テスト・モードで処理されます。

デフォルト・オプション

1. 伝票の元帳日付 伝票日付にEDIトランザクション・データの請求書日付を使用するには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、システム日付が使用されます。
2. 伝票元帳日付の一時変更 伝票に使用される元帳日付を指定します。この処理オプションに値を入力すると、その値によって「伝票の元帳日付」処理オプションが上書きされます。
3. 仕入先番号 仕入先の識別番号にEDI伝送データの税IDを使用するには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、識別番号にフラット・ファイルの参照フィールドの値が使用されます。

デフォルト値

1. 支払手段コード 支払手段ユーザー定義コード・テーブル(00/PY)に設定されている値を入力して、支払手段コードを指定します。この処理オプションを空白にすると、デフォルト値Zが使用されます。
2. 銀行勘定コード 入出金に使用する銀行勘定科目コードを割り当てる際に使用されるデフォルト値を指定します。この銀行勘定科目コードは、バッチに含まれるすべての伝票に割り当てられます。銀行勘定科目コードの略式IDを入力してください。この処理オプションを空白にすると、会社00000のAAI項目PBまたはRBが使用されます。
3. 元帳日付 トランザクションの元帳日付の割当に使用される日付を指定します。
4. 会社コード 特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。

ログ

1. ログ 請求書の処理時にログを作成するように指定するには、「1」を入力します。

自動処理

1. バッチ伝票処理バージョンの自動実行 自動的に実行するバッチ伝票処理レポート(R04110ZA)のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バッチ伝票処理レポートは実行されません。

処理済EDI受信伝票データの削除

この項では、受信伝票の削除プログラム(R47041P)の概要とその実行方法について説明します。

受信伝票の削除レポートについて

EDI受信伝票トランザクションの処理が正常に完了すると、削除プログラムを実行してEDI受信テーブルから該当するトランザクションを削除できます。処理済のEDI伝票トランザクションは、削除されるまでシステム47テーブルに保存されています。

EDI受信伝票トランザクションを削除すると、処理済のレコードがすべて削除されます。つまり、処理済(Y/N)フィールド(EDSP)がYのレコードが、次のEDI受信テーブルから削除されます。

- EDI請求書見出し - 受信(F47041)
- EDI請求書明細 - 受信(F47042)
- EDI請求書集計 - 受信(F47044)

重要: このプログラムの実行では、削除されたトランザクションは除去テーブルにコピーされません。トランザクションは、システムから完全に消去されます。

受信伝票の削除レポートの実行

「請求書(集計)」(G47261)の「受信伝票の削除」を選択します。

第 9 章

支払伝票の準備

この章では、伝票および請求書の相殺処理の概要と、次の方法について説明します。

- 制御データに対する変更の検討および承認
- 源泉徴収税の計算
- 支払予定の決定
- スピード・リリース・プログラム (P0411S) を使用した伝票の検討と改訂

注意: 日本、ブラジル、デンマーク、フィンランド、ノルウェーおよびスウェーデンには、それぞれの国に固有の伝票機能が用意されています。

売掛金/買掛金相殺について

取引先との間に仕入れと販売の両方に大量の取引がある場合、売掛金相殺および買掛金相殺(売掛金/買掛金相殺)を行って JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムと JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムでの取引を集約することにより、業務効率を上げ、運用コストを削減できます。

JD Edwards EnterpriseOne ソフトウェアで売掛金/買掛金相殺を実行する場合、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムの取引を JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理に、また売掛管理の取引を買掛管理に再分類します。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムのデビット・メモを JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの請求書に再分類したり、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムのクレジット・メモを JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムの伝票に再分類できます。

次に示すとおり、どちらのシステムに再分類するかによって、売掛金相殺または買掛金相殺のどちらかを実行することになります。

- 売掛金相殺を行う場合は、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムの取引を JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムに再分類します。
- 買掛金相殺を行う場合は、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムの取引を JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムに再分類します。

売掛金/買掛金相殺は JD Edwards EnterpriseOne ソフトウェアの払戻し処理に似ていますが、売掛金/買掛金相殺の処理は手動で行う点、また、次の追加機能がある点が異なります。

- 仮受金 (RU) の相殺機能
- JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムと JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムとの間での取引の再分類機能
- 相殺取引の監査証跡機能

参照: JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理 9.0 製品ガイド、「売掛金と買掛金の相殺」

制御データに対する変更の検討と承認

この項では、制御データに対する変更の検討と承認の概要と、次の方法について説明します。

- 制御データに対する変更の検討および承認
- 制御データに対する変更の印刷
- 承認済受取人制御レコードの除去

制御データに対する変更の検討および承認プロセスについて

支払制約を解除するには、変更を承認する必要があります。変更の承認は、入力者以外が行います。

検討プロセスの一環として、変更が行われたフォーム上で変更データを検討できます。また、次のような変更に関する詳細情報も確認できます。

- 変更前のデータ
- 変更後のデータ
- 変更を行ったユーザーのID
- 変更日時

「受取人制御の承認」フォームで変更するレコードを選択して、「ロー」メニューの「取引」を選択すると、変更を行うためのフォームが表示されます。

変更を承認すると、次の情報が記録されます。

- 変更を承認したユーザーのID
- 変更が承認された日時

このプログラムでは受取人制御テーブル(F0450)の情報が読み込まれます。

制御データに対する変更の印刷

制御データへの変更をオンラインで承認する前または後に、レポート形式で変更を検討できます。この受取人制御承認レポート(R04505)には次の情報が含まれます。

- 変更前のデータ
- 変更後のデータ
- 変更を行ったユーザーのID
- 変更を承認したユーザーのID
- 変更日時
- 変更が承認された日時

受取人制御承認レポートには、F0450テーブルの情報が取り込まれます。

承認済受取人制御レコードの除去

受取人制御の変更を承認した後、その制御レコードを削除します。F0450テーブルのレコードを選択して削除するには、受取人制御ファイルの除去プログラム(R0450P)を使用します。制御レコードを削除すると受取人制御の監査証跡も削除されます。

制御データに対する変更の検討と承認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受取人制御の承認	W0450A	「買掛管理システムの上級/技術的操作」(G0431)、 「受取人制御の検討/承認」	すべての受取人制御レコードを検討します。 受取人制御レコードを承認します。
受取人制御明細	W0450B	「受取人制御の承認」フォームで「ロー」メニューの「明細」を選択します。	「フォーム」メニューの「承認」を選択し、「OK」をクリックして承認を確定します。 「OK」をクリックする前に承認を取り消す場合は、「フォーム」メニューの「リセット」を選択します。 承認しない場合は、「取消」をクリックして「受取人制御明細」フォームを閉じます。この操作をすると自動的に「受取人制御の承認」フォームに戻ります。

制御データに対する変更の検討と承認

「受取人制御明細」フォームにアクセスします。

受取人制御の検討/承認 - 受取人制御明細

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

受取人No.	4317	Appliance Parts and Supply
住所No.	4317	Appliance Parts and Supply
変更データ項目	ABALPH	住所録名称(漢字)
変更前データ		
変更後データ	APPLIANCE PARTS AND SUPPLY	
ユーザーID	MR5482029	
プログラムID	EP01012	
ワークステーションID	DEN-MR5482	
更新日付	2003/03/03	
更新時間	145614	

「受取人制御明細」フォーム

変更データ項目

制御テーブルで変更したフィールドのエイリアスを識別するコードが表示されます。

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 変更前データ | データベースの詳細を変更する前のデータが表示されます。 |
| 変更後データ | データベースの詳細が変更された後の改訂データが表示されます。 |

制御データに対する変更の印刷

「買掛管理システムの上級/技術的操作」(G0431)の「受取人制御承認レポート」を選択します。

承認済受取人制御レコードの除去

「買掛管理システムの上級/技術的操作」(G0431)の「受取人制御ファイルの除去」を選択します。

源泉徴収税の計算

この項では、源泉徴収税の計算の概要と次の方法について説明します。

- 源泉徴収税の計算レポートの実行
- 源泉徴収税の計算(R04580)の処理オプション設定

源泉徴収税の計算について

源泉徴収税の計算(R04580)プログラムを実行すると、次の処理が行われます。

- 支払状況が%(源泉徴収適用)の伝票支払項目が選択されます。
- 仕入先マスター・レコードの源泉徴収率を使用して源泉徴収額が計算されます。
- 当初の伝票の支払項目の支払状況が%から処理オプションで指定した値に更新されます。
「支払状況」処理オプションをブランクにした場合は、データ辞書の値が割り当てられます。データ辞書の値がブランクの場合は、A(承認済)が割り当てられます。
- 当初の伝票の支払項目と同じ受取人、支払状況、および支払期日の源泉徴収額分のマイナスの支払項目が作成されます。
 - 当初の支払項目のデフォルト支払状況を変更すると、マイナスの支払項目のデフォルト支払状況が変更されます。
 - 当初およびマイナスの支払項目の支払を処理すると、当初の支払項目の金額がマイナスの支払項目によって相殺されます。
- 仕入先マスター・レコードの納税先を使用して、源泉徴収額分の支払項目が作成されます。
この値は処理オプションで一時変更できます。新しい支払項目が作成される際、仕入先番号は納税先番号に変更されません。かわりに、「受取人No.」フィールド(データ項目PYE)が更新されます。支払項目は当初の仕入先に関連付けられたままで、納税先に対して支払が行われます。新しい支払項目には、当初の支払項目と同じ支払期日と銀行勘定が含まれます。
- 「源泉徴収税の支払状況」処理オプションをブランクにすると、源泉徴収の支払項目に支払状況H(保留)が割り当てられ、源泉徴収を累積して定期的に納税できます。
- 次の2つのレポートのどちらかが作成されます。
 - 新しい支払項目と各項目の支払状況の一覧
PSはレポートの支払状況を示します。

- 支払のためにリリースされなかった伝票と、各伝票または各支払項目に関連するエラーの一覧

注意: このバッチ・プロセスを実行するかわりに、支払グループの作成プログラムの処理オプションを変更することで、支払グループ作成時に源泉徴収を自動的に計算できます。この方法を選択した場合は、支払グループの作成のデータ選択が未転記の支払項目を除外しない設定になっていること確認してください。転記済支払項目のみを処理すると、転記済の当初支払項目(001)は処理されますが、源泉徴収額に対するマイナスの支払項目は未転記のため処理されません。

参照: 第 10 章、「自動支払処理」、「支払グループの処理」、158ページ

源泉徴収金額の報告

納税先に納める源泉徴収額のレポートを作成するには、備考付き明細レポート(R04423A)を印刷します。備考付き明細レポートに対するデータ選択で受取人住所番号を含めるように設定し、受取人住所番号に納税先の住所番号を入力します。このレポートには源泉徴収額のみが表示され、当初伝票の支払項目の金額は表示されません。

参照: 付録 C、「JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理レポート」、253ページ

源泉徴収金額の支払処理について

源泉徴収計算時に仕入先の税情報があるかどうかによって、源泉徴収額を納税先または仕入先に支払います。

源泉徴収額を支払う際には、伝票は転記済でも未転記でもかまいません。

伝票のタイプ	説明
転記済伝票	<p>転記済伝票のみを支払う場合は、源泉徴収計算後すぐにかつ支払グループの作成前に、マイナスの支払項目を転記します。転記済伝票の源泉徴収計算時には、次の処理が実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 転記コードがブランクの支払項目が、F0411テーブルに作成されます。 • F0911テーブルに金額ゼロ(ブランク)のレコードが作成され、買掛金元帳テーブルの新しい支払項目を転記できます。これらのブランク・レコードには、処理オプションで指定した勘定科目が使用されます。
未転記伝票	<p>未転記の伝票で源泉徴収が計算される際には、F0911テーブルに金額ゼロ(ブランク)のレコードは作成されません。</p>

源泉徴収計算時には、納税先に対する支払項目が作成されます。処理オプションを設定して、支払項目を保留にできます。支払項目を保留にしないで、源泉徴収額を計算する際に承認した場合、その項目は累積され定期的に支払われるのではなく、次の自動支払サイクルで支払われます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- AAI(自動仕訳)項目PCyyyyに源泉徴収金額に対する相手勘定コード(ブランク以外)を設定します。

参照: 第 2 章、「買掛管理システムの設定」、「買掛管理のAAI(自動仕訳)の設定」、17ページ

- 源泉徴収計算の対象となるすべての伝票の支払状況が%に設定されていることを確認します。

参照: 第 9 章、「支払伝票の準備」、「スピード・リリース・プログラムを使用した伝票の検討と改訂」、138ページ

源泉徴収税の計算レポートの実行

「自動支払処理」(G0413)の「源泉徴収税の計算」を選択します。

源泉徴収税の計算(R04580)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

支払状況

1. 支払状況
支払状況コード・ユーザー定義コード(00/PS)に設定されている値を入力して、伝票に割り当てる支払状況を指定します。この処理オプションをblankにすると、データ辞書のデフォルト値が割り当てられます。データ辞書の値がblankの場合は、伝票の支払が承認済であることを示す支払状況A(承認済)が割り当てられます。
2. 源泉徴収税の支払状況
支払状況コード・ユーザー定義コード(00/PS)に設定されている値を入力して、源泉徴収支払項目に割り当てられる支払状況を指定します。この処理オプションをblankにすると、支払状況Hが割り当てられます。

相手勘定

1. 相手勘定
源泉徴収支払項目の相手勘定を指定します。指定した相手勘定のAAI(自動仕訳)項目PCは、源泉徴収勘定を示します。
この処理オプションへの入力必須です。
2. 勘定科目の略式ID
残高が0のレコードに使用する勘定科目の略式ID番号を指定します。

注意: この処理オプションの入力は必須です。

納税先

1. 一時変更納税先
源泉徴収支払項目の受取人住所番号に割り当てる一時変更納税先を指定します。この処理オプションをblankにすると、F0401テーブルで設定された仕入先の納税先が割り当てられます。

支払予定の決定

この項では、支払予定レポートの概要と、次の方法について説明します。

- 支払予定レポート・プログラムの実行
- 支払予定レポート・プログラムのデータ選択の設定

- ・ 支払予定レポート(R04431)の処理オプションの設定

支払予定レポートについて

支払予定レポートを使用して、支払に必要な金額および銀行口座残高を調べることができます。また、次の支払予定を検討することもできます。

このレポートには、3つの年齢調べカラムに仕入先別伝票が一覧表示され、仕入先および銀行勘定ごとの合計と、未決済伝票の支払に必要な合計金額が表示されます。

このバッチ・レポートには、F0411テーブルの取引が表示されます。

支払予定レポートでは、支払状況はPS、支払手段はPIのコードで表されます。

支払予定レポートの実行

「自動支払処理」(G0413)の「支払予定レポート」を選択します。

支払予定レポートのデータ選択の設定

支払手段を指定するには、データ選択に支払手段を追加します。未払の支払項目のみを指定するには、未決済金額をゼロ以外(NE)に変更します。

支払予定レポート(R04431)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷

受取人番号の印刷

受取人番号を印刷するには1を入力します。

勘定科目コードの形式

略式IDを印刷するには、この処理オプションに1を入力するか、または空白にします。勘定科目コードを印刷するには2を入力します。自由形式の勘定科目コードを印刷する場合は3を入力します。

請求書番号の印刷

1を入力すると、仕入先請求書番号が印刷されます。

年齢調べ

基準日

処理の基準日を入力するか、空白にして現行日付を使用します。

経過日数

経過日数を入力するか、空白にして基本経過日数7を適用します。

処理

割引期日

割引適用の期限を入力します。支払期日がこの日付より前の支払項目は、割引の対象外です。この処理オプションを空白にすると、支払期日に関係なく、すべての割引が適用されます。

保留中の仕入先の除外

支払が保留中の仕入先を除外するには1を入力します。

注意: 仕入先マスターの支払保留コードは、Y、1、または2に設定されています。

スピード・リリース・プログラムを使用した伝票の検討と改訂

この項では、スピード・リリース・プログラム (P0411S) の概要と、次の方法について説明します。

- スピード・リリースの処理オプションの設定
- 個別の支払項目の改訂
- 複数伝票の改訂
- 支払伝票の分割

スピード・リリース・プログラムについて

支払グループを作成する前に伝票を検討し、変更を加えるか、または支払のためにリリースできます。

伝票の検討

通常、検討する伝票を仕入先、業務/ビジネスユニット、または銀行勘定科目別にグループ化して検出し、現行の支払サイクルに対して効率的に変更を加えることができます。伝票は、次の項目別に検討できます。

- 仕入先番号
- 銀行勘定科目
- 支払状況

伝票を検討する際には、支払状況が“承認済”または“保留”の未払支払項目が支払期日の昇順で表示されます。支払状況が“支払済”、“手形受取済”、“支払処理中”の伝票は表示されません。

また、特定の金額分の伝票を検討することもできます。合計額が指定した金額と等しくなるように伝票が検索されます。ただし、伝票と指定金額が正確に一致しない場合は、伝票がもう1つ加えられ、合計照会金額は指定金額より大きくなります。

たとえば、金額55,000に等しい伝票を検討するとします。この場合、指定した検索条件に基づいて、合計金額が54,000になる3つの伝票が検出されますが、指定した金額55,000には足りないため、金額5,000の4番目の伝票が追加されます。この例では、指定した金額より大きい59,000が照会金額として表示されます。

このプログラムでは、F0411テーブルの情報が表示されます。

スピード・リリース (P0411S) の処理オプションで、「スピード・リリースの処理」フォームのQBE (例示照会プログラム) ローに表示されるいくつかの検索フィールドのデフォルト値を指定できます。この設定をすると、QBEローに入力した値と処理オプションのデフォルト値が異なることがあります。その結果、指定した検索条件に基づいて表示された情報が指定条件に合っていないように見える場合があります。

「支払手段」処理オプションの値をブランクにすると、「スピード・リリースの処理」フォームにすべての支払手段の伝票が表示されます。支払手段を指定していない伝票のみを表示するには、QBEローの「支払手段」フィールドに「<0」を入力します。その後、再度、すべての支払手段の伝票を表示する場合は、「<0」を削除する必要があります。

伝票の改訂

支払を行う前に、伝票の改訂が必要な場合があります。たとえば、伝票に銀行口座を指定した後で、異なる口座から支払を行う場合などです。一般的な事例として、ある銀行口座を閉じて、現在支払に使用している銀行口座を伝票に割り当てる場合があげられます。

伝票入力プログラム (P0411) またはスピード伝票入力プログラム (P0411SV) を使って伝票を入力した場合は、スピード・リリース・プログラム (P0411S) を使用して伝票の転記に影響を与えずに変更を行うことができます。次の理由から、スピード・リリース・プログラムを使用して伝票を変更すると、伝票入力プログラムを使用するよりも作業の効率化が図れます。

- 一度に複数の伝票を検索して変更できる。
- バッチが再オープンされないため、再度転記する必要がない。

伝票の改訂は、次の2つのタスクのどちらかで行います。

- 個別の伝票の改訂
- 複数伝票の改訂

F0411テーブルの情報が更新されます。F0911テーブルは更新されません。

伝票入力またはスピード伝票入力以外の伝票入力プログラムを使用した場合、伝票を改訂するには伝票入力プログラムを使用する必要があります。スピード・リリース・プログラムは使用できません。

また、スピード・リリース・プログラムを使って支払条件を変更して伝票を分割することもできません。伝票の分割には分割機能を使用する必要があります。

伝票の分割

支払項目が1つの伝票を入力した後に分割支払を行うことに決定した場合は、異なる支払期日を持つ複数の支払項目を処理できるように伝票を変更するのではなく、スピード・リリース・プログラム (P0411S) を使用して伝票を分割し、適切な支払期日を設定できます。伝票が割引対象または税込みの場合は、次のガイドラインが適用されます。

- 伝票に割引がある場合は、各支払項目の金額に基づいて割引額が自動的に割り当てられます。割引額は必要に応じて一時変更できます。
- 伝票が税込みの場合は、各支払項目の金額に比例して税が分割されます。
- 伝票がVertex税を含んでいる場合は、すべての税は最初の支払項目に適用されます。

この伝票分割方法を使って、支払先が複数に分かれる場合に支払項目に異なる受取人を割り当てることもできます。

伝票が転記済でも未転記でも分割できます。伝票分割時に作成された各伝票支払項目には、分割前と同じ転記コードが割り当てられます。

注意: 定期情報 (定期頻度および支払回数) のある伝票は分割できません。

(ITA) 伝票の分割

源泉徴収税が課税される仕入先の伝票は分割できません。

源泉徴収のための既存伝票の設定

源泉徴収のために仕入先を初めて設定する際には、源泉徴収対象の仕入先の未払い伝票がある場合があります。支払時に源泉徴収額が計算されるように、これらの伝票の支払状況を変更する必要があります。スピード・リリース・プログラムを使用してこれらの伝票の支払状況を「%」に変更することで、源泉徴収額は自動的に計算されます。

スピード・リリースを使用した伝票の検討と改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
スピード・リリースの処理	W0411SA	「自動支払処理」(G0413)、 「スピード・リリース」	伝票を検討します。 改訂する伝票を選択します。 QBEローのフィールドをクリアするには、キーボード上の[Delete]キーまたは[Back Space]キーを使用してください。スペース・バーを使用しても、フィールドはクリアされません。それどころか、ブランクの値が検索され、正しい結果が得られない場合があります。
単一支払項目の更新	W0411SD	「スピード・リリースの処理」フォームでレコードを選択して、「ロー」メニューの「単一支払項目」を選択します。	個別の支払項目を改訂します。
一括更新	W0411SE	「スピード・リリースの処理」フォームで、「ロー」メニューの「一括更新」を選択します。	複数の支払項目を改訂します。 変更した各フィールドの右側にある「更新」チェックボックスを選択します。
支払の分割	W0411SC	「スピード・リリースの処理」フォームで、「ロー」メニューの「分割」を選択します。	支払伝票を分割します。

スピード・リリース(P0411S)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

事前ロードのデータ

支払状況コード

支払状況コード・ユーザー定義コード(00/PS)に設定されている値を入力して、作成した伝票に割り当てる支払状況コードを指定します。

伝票タイプ

伝票タイプ - すべての伝票ユーザー定義コード(00/DT)に設定されている値を入力して、変更する伝票を選択したときにQBE行に表示されるデフォルトの伝票タイプを指定します。

相手勘定	変更する伝票を選択したときにQBE行の「相手勘定」フィールドに表示されるデフォルト値を指定します。
支払手段	<p>支払手段ユーザー定義コード(00/PY)に設定されている値を入力して、変更する伝票を選択したときにQBEローに表示されるデフォルトの支払手段を指定します。</p> <p>ブランクは、支払手段の値として有効です。処理オプションでデフォルト値を(スペース・バーを使用して)ブランクに設定した場合は、「スピード・リリースの処理」フォームでQBEローの「支払手段」フィールドもブランクにする必要があります。そうでない場合は、値がブランクの支払手段ではなく、すべての支払手段が表示されます。</p>
住所番号(承認者)	住所番号(承認者)フィールドのデフォルト値を指定します。このフィールドのデフォルト値を指定すると、この設定値はプログラムのQBE行に表示され、スピード・リリース・プログラムで処理する伝票を選択する際に使用されます。
通貨コード	「通貨コード」フィールドに表示するデフォルト値を指定します。
請求書番号	変更する伝票を選択したときにQBE行に表示される請求書番号を指定します。
合計照会金額	合計照会金額フィールドのデフォルト金額を指定します。合計した際に、合計照会金額フィールドの金額に等しくなる未決済の伝票支払項目、または、最後の支払項目を加えると合計金額が同フィールドの金額を超える未決済の伝票支払項目のみが表示されます。
銀行勘定の通貨とのチェック	<p>銀行勘定の通貨を伝票の通貨と照合するかどうかを指定します。</p> <p>銀行勘定は通貨勘定(通貨あり)と非通貨勘定(通貨なし)のどちらにすることもできます。通貨勘定の場合、伝票の取引通貨が銀行勘定の通貨と同じかどうかチェックされます。通貨勘定ではない場合、伝票の会社の通貨コードが銀行勘定が属する会社の通貨と同じかどうかチェックされます。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 検証する。</p> <p>1: 検証しない。</p>

支払条件

- | | |
|------------|--|
| 1. 支払条件コード | 支払条件コードの変更を許可するには1を入力します。支払条件コードの変更を許可しない場合は、この処理オプションをブランクにします。 |
|------------|--|

個別の支払項目の改訂

「単一支払項目の更新」フォームにアクセスします。

期日	<p>割引の期日を入力します。割引が行われない場合、このフィールドには支払期日が表示されます。</p> <p>伝票入力時にこのフィールドをブランクにすると、請求書日付と支払条件コードを使って自動的に支払期日が計算されます。「支払条件」フィールドをブランクにすると、「仕入先マスターの改訂」フォームで仕入先に対して指定した支払条件に基づいて、自動的に割引期日と支払期日が計算されます。</p>
----	---

支払期日は伝票入力フォームに表示されません。支払期日は、「割引期日」フィールドに入力した値に基づいて自動的に計算されるか割り当てられます。「割引期日」フィールドがブランクの場合、支払期日と割引日付は自動的に計算されます。割引期日を手入力すると、割引日付にも同じ日付が割り当てられます。支払期日が計算または割り当てられた後で割引期日をブランク以外の値に変更しても、すでに計算された割引日付は変更されません。

割引実施額

特定の日付までに支払った場合に請求書や伝票から割引かれる金額を入力します。割引可能額と異なる金額にすることもできます。

このプロセスを使って割引額を増やすことはできません。割引額を変更するには伝票入力プログラムを使用してください。

受取人No.

受取人の住所録番号を入力します。

各伝票の受取人(サード・パーティである場合でも)を変更しても、伝票の仕入先は変更されません。

承認者No.

仮伝票入力の承認権限を持つユーザーの住所番号を入力します。検証の必要があるため、F0101テーブルにある住所番号を指定する必要があります。

銀行勘定科目

総勘定元帳の勘定科目を指定する値を入力します。勘定科目コードの入力には、次のいずれかの形式を使用します。

標準勘定科目コード(ビジネスユニット.主科目.補助科目または任意形式)
第3勘定科目(最大25桁)

勘定科目ID番号。

8桁の数字です。

スピード・コード(AAI項目SPIに付ける2文字のコード)。

最初の文字は勘定科目コードの形式を示します。勘定科目の形式は、JD Edwards EnterpriseOne一般会計固定情報プログラムで定義します。

支払手段

支払手段ユーザー定義コード(00/PY)に設定されている値を入力して、仕入先への支払方法または顧客からの入金方法を指定します。支払手段の例として、小切手、電子資金決済、ロックボックス、EDIなどがあります。

支払取扱コード

特殊取扱コード - 支払ユーザー定義コード(00/HC)に設定されている値を入力して、支払の印刷順序を指定します。

カテゴリ・コード07

ユーザー定義コード01/07に設定されている値を入力します。カテゴリ・コード7は、1099フォームで伝票または支払項目を入力するボックスを指定するために1099処理で使用されます。次のような例があります。

01: 賃貸料

13: 非課税配当

61: 利息収入

A7: 失業補償

複数伝票の改訂

「一括変更」フォームにアクセスします。

スピード・リリース - 一括更新

OK(O) 取消(L) ツール(T)

支払状況	H
承認者No.	
期日	2005/07/07
支払手段	
銀行勘定科目	1.1110.BEAR
受取人住所No.	76430
ビジネスユニット	1
相殺状況	0

「一括更新」フォーム

支払伝票の分割

「支払の分割」フォームにアクセスします。

スピード・リリース - 支払の分割

OK(O) 取消(L) ツール(T)

伝票番号/タイプ/会社	3278	PV	00050
住所No.	1538	Abernathy & Hitch	
請求書No.		請求書日付	2008/11/26

当初支払情報

未決済金額	割引可能額	備考	支払期日	状況	受取人
1.00			2008/12/26	A	1538
残金					
1.00					

レコード 1 - 2 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	未決済金額	割引可能額	備考	期日	支払状況	受取人 No.
<input type="checkbox"/>	1,000.00			2008/12/26	A	1538
<input type="checkbox"/>						

「支払の分割」フォーム

未決済金額

支払金額を入力します。詳細グリッドに入力する未決済金額の合計は、見出しの未決済金額と同額である必要があります。

割引可能額

特定の日付より前に支払うと総額から割引かれる請求書または伝票支払項目の割引金額を入力します。割引額が、取引時に入力した支払条件に基づいて計算されます。

注意: 割引額の自動計算が、指定した支払項目に正しく適用されていることを確認してください。通常、総額に含まれる運賃、消費税、労務費は割引の対象にはなりません。

伝票が税込みで、処理オプションで税額を分割するように設定している場合は、入力した未決済金額に基づいて割引可能額も再計算されます。この金額は必要に応じて一時変更できます。伝票が税込みでない場合、割引は再計算されません。

第 10 章

自動支払処理

この章では、自動支払処理の概要と次の方法について説明します。

- 支払グループの作成
- 支払グループの処理
- 自動支払と伝票の無効化
- ディスクへの支払のコピー

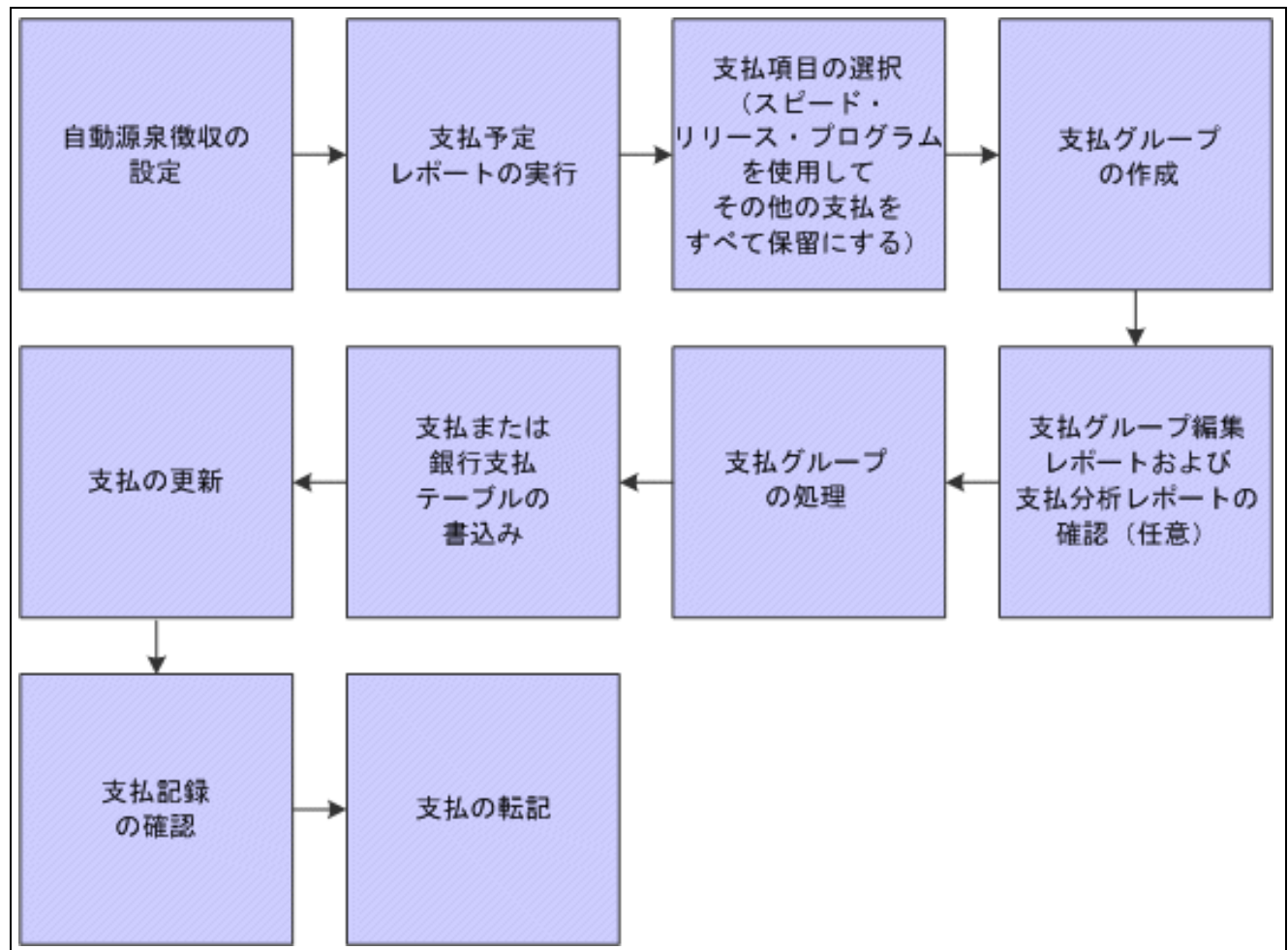
注意: ブラジル、デンマーク、エクアドル、フィンランド、ドイツ、日本、ノルウェー、ペルー、ロシアおよびスウェーデンには、それぞれの国に固有の自動支払の情報が用意されています。

自動支払処理について

自動支払処理を使用すると、伝票をグループ化し、一度に複数の支払を処理できます。

自動支払処理により、支払管理を効率的に行ったり、有利な割引条件を利用したりすることが可能です。また、月末や毎月決まった日付などの通常の支払サイクルで支払を行うことができます。

次の図は、自動支払処理のプロセスを示しています。

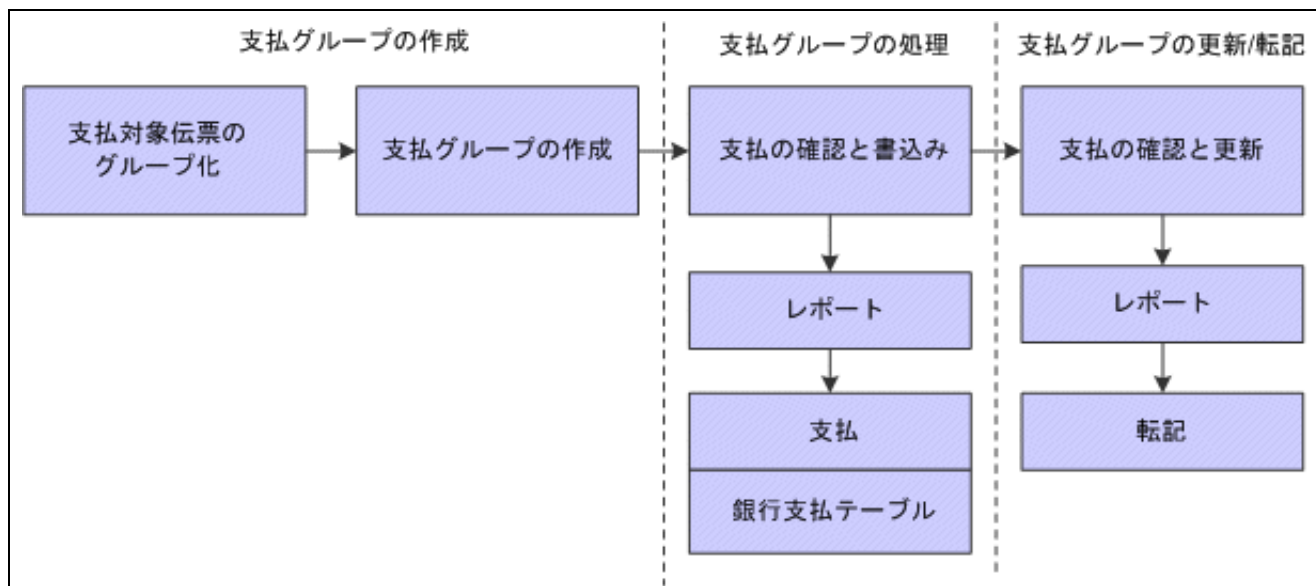


自動支払のプロセス

自動支払処理中に、次の伝票およびバッチ・タイプが処理されます。

買掛伝票タイプ	<ul style="list-style-type: none"> • PV (伝票 - 仕入先請求書) • PR (定期伝票) • PL (仮伝票) • PD (デビット・メモ) • PM (照合なし伝票) • xx (ユーザー定義の伝票タイプ)
支払伝票タイプ	PK (自動支払)
バッチ・タイプ	K (自動支払)

次の図は、支払処理に使用するプログラムを示しています。



支払処理に使用するプログラム

支払グループの作成

この項では、支払グループの作成プログラム(R04570)、割引が適用される伝票の処理、支払グループの自動採番の利用の概要と、次の方法について説明します。

- 支払グループの作成レポートの実行
- 支払グループの作成レポートのデータ順序の設定
- 支払グループの作成(R04570)の処理オプションの設定

支払グループの作成プログラムについて

伝票の処理が完了したら、支払を書き込む準備をします。具体的には、支払を書き込む前に、支払グループを作成して一括で支払を行う伝票をまとめる必要があります。たとえば、銀行勘定科目別や支払手段別にグループを作成できます。これにより、伝票に対して適切な形式で支払が行われます。支払グループは、支払の検討や作成の際に利用できます。

支払グループの作成プログラムは、支払サイクルごとに一度実行するバッチ処理です。通常、複数の支払グループが作成されます。各支払グループには、その処理方法を決定するための次の情報が含まれています。

- 銀行勘定科目
- 支払手段

また、各支払グループには次の項目で使用するプログラムを決定するための管理情報も含まれています。

- 支払
- 取引明細
- 添付
- デビット・メモ

支払グループに伝票を追加する必要がある場合は、その支払グループを取り消して、支払対象の伝票を承認し、プログラムを再度実行します。支払グループを書き込むと、グループを取り消すか、またはF0411テーブルに更新するまでその支払グループが表示されます。

支払グループを作成すると、次の処理が実行されます。

1. 支払状況が「A」(承認済)で、支払期日が指定期日以前の伝票が選択されます。
2. 次の共通情報を持つ伝票をグループ化して、選択されたすべての伝票に対する支払グループが作成されます。
 - 銀行勘定科目(任意)
 - 支払手段
 - ビジネスユニット(任意)
 - 通貨コード

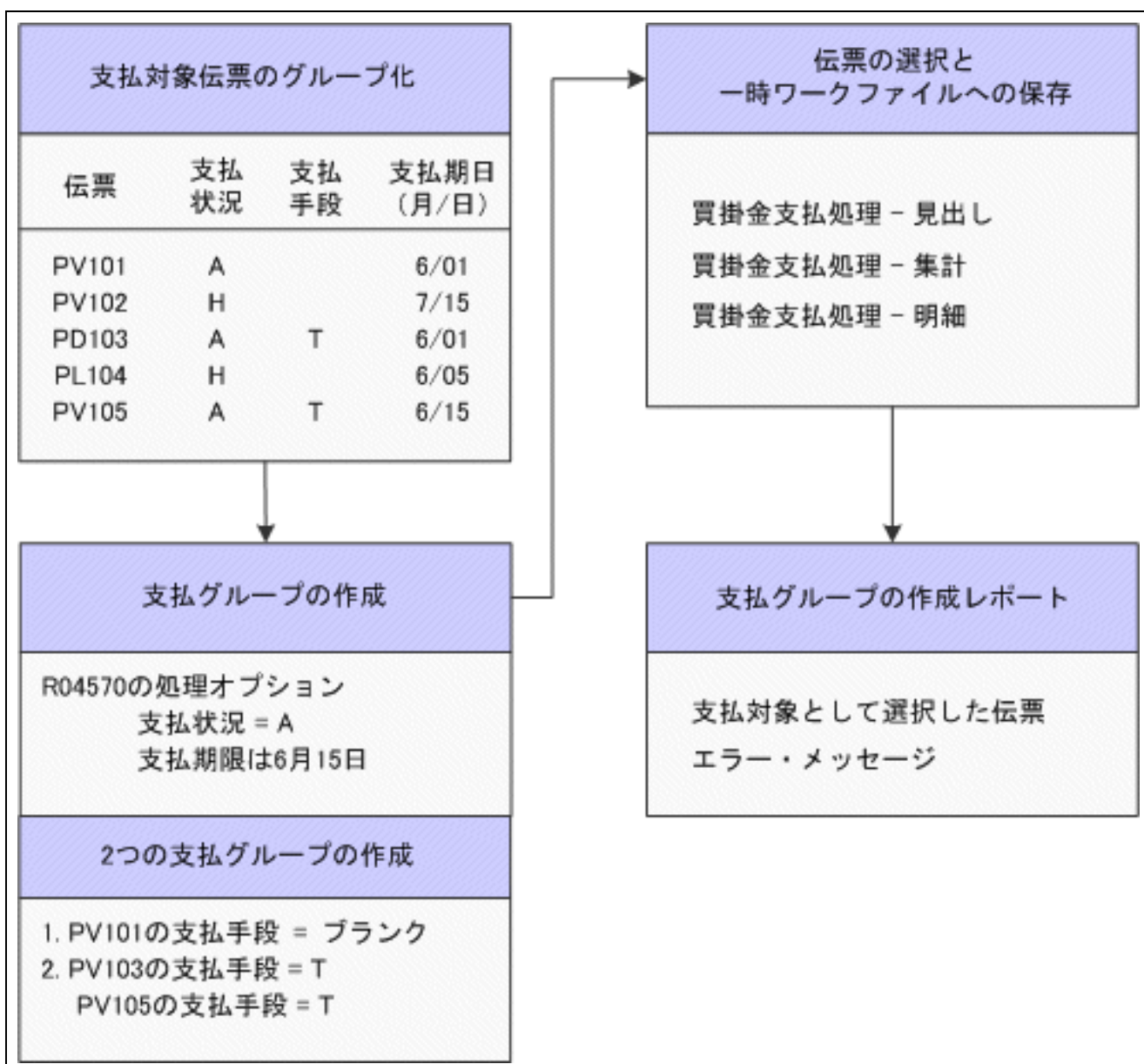
注意: 異なる銀行勘定科目がある仕入先の伝票をグループ化する場合は、処理オプションの「印刷」タブで、「銀行勘定科目」処理オプションに値を入力する必要があります。

ビジネスユニットごとに伝票をグループ化する場合は、処理オプションの「処理基準」タブにある「ビジネスユニット別」処理オプションに値を入力する必要があります。

支払グループが作成されると、各グループで次の情報が共有されます。

- バージョンID
 - ユーザー
 - 作成日付
 - 出力待ち行列
3. 各支払グループの次の状況として「WRT」(書込み)が割り当てられます。
 4. 選択した伝票の支払状況が「A」から「#」(支払処理中)に変更されます。
 5. 支払を書き込む際に使用する次のワークテーブルが作成されます。
 - 買掛金支払処理 - 見出し(F04571)テーブル。このテーブルには、各支払グループに対する1件の見出しレコードと、その支払グループに関する情報が保存されます。
 - 買掛金支払処理 - 集計(F04572)テーブル。このテーブルには、グループ内の各支払に対するレコードが保存されます。これらのレコードは、支払グループの処理プログラム(P04571)において書込みおよび更新される実際の支払情報です。この情報は、買掛金照合伝票テーブル(F0413)の基準になります。
 - 買掛金支払処理 - 明細(F04573)テーブル。このテーブルには、支払の各伝票支払項目に対するレコードが保存されます。
この情報は、支払控えに印刷され、F0411テーブルの更新に使用されます。また、この情報は、買掛金照合伝票明細テーブル(F0414)の基準になります。 6. 支払に対して選択された伝票のレポートが出力されます。このレポートには支払処理が行われなかった支払項目も出力され、合計がブランクの支払項目の横にはエラー・メッセージが印刷されます。エラー・メッセージの例は次のとおりです。
 - 支払保留コードがアクティブです
 - 仕入先マスター情報がありません
 - 支払限度額を下回っています

次の図は、支払グループの作成のプロセスを示しています。



支払グループの作成

銀行自動決済システム(BACS)を使用する支払グループを作成する場合は、「銀行テープ情報の印刷」処理オプションと、「受取人銀行口座情報エラー」処理オプションの値をそれぞれ「1」に設定します。

電子資金決済(EFT)支払形式を使用する支払グループを作成する場合は、支払グループの作成プログラムの処理オプションを設定する際に、次のガイドラインを参考にしてください。

- 「銀行テープ情報の印刷」処理オプションの値を「1」に設定すると、支払グループの作成レポートに銀行テープ情報が出力されます。
- 「受取人銀行口座情報エラー」処理オプションの値を「1」に設定すると、仕入先の銀行口座情報がない場合は、支払グループの作成レポートにエラーが出力され、その仕入先は支払グループから除外されます。

- ・「銀行勘定X12情報エラー」処理オプションの値を「1」に設定すると、支払グループを作成する対象の銀行勘定のX12情報が見つからない場合は、支払グループの作成レポートにエラーが出力され、支払グループは作成されません。

重要: システムを上位リリースにアップグレードする前に、自動支払処理を完了するか(レコードを書き込んで更新する)、レコードをリセットする必要があります。

割引が適用される伝票について

支払グループの作成プログラム(R04570)には、割引のある伝票の処理方法を管理する4つの処理オプションがあります。

伝票の処理を、伝票の割引期日のみに行う場合、または伝票の支払期日以降に行う場合は、処理オプションを次に示すとおりに設定します。

- ・「期日前の支払」処理オプションの値を「1」に設定します。
- ・「支払期日」処理オプションで、伝票処理の最終日を入力します。

この処理オプションをblankにすると、システム日付が使用されます。この処理オプションをblankにして「支払期日までの日数」処理オプションに値を入力すると、システム日付に「支払期日までの日数」処理オプションで指定した日数を足した日付が使用されます。割引期日が「支払期日」処理オプションで指定した日付の伝票すべてが支払グループに選択され、割引が適用されます。割引支払期日を過ぎた伝票のうち、支払期日が「支払期日」処理オプションで指定した日付以前の伝票はすべて支払グループに選択されますが、割引は適用されません。

一定期間にわたり、有効な割引を伝票に適用するが、支払期日以前に伝票の支払を行わない場合は、処理オプションを次のとおりに設定します。

- ・「支払期日」処理オプションに日付を入力するか、または「支払期日までの日数」処理オプションに値を入力します。
- ・「期日前の支払」処理オプションの値を「1」に設定します。
- ・「割引締め期日」処理オプションに日付を入力します。

割引が適用される期間は、「割引締め期日」処理オプションで指定した日付から、前述の最初の2つの処理オプションのどちらを使用するかに応じて、「支払期日」処理オプションで指定した日付(「支払期日」処理オプションをblankにした場合はシステム日付)またはシステム日付に支払期日までの日数を足した日付のどちらかの日付までになります。

支払グループの自動採番について

支払グループの作成プログラムの実行時に、支払グループに対し、支払処理で使用される3つのワークテーブル(F04571、F04572、およびF04573)で支払グループを識別するための番号が割り当てられます。この番号により、他の支払グループの支払が誤って処理されるのを防ぐことができます。

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでは、F0002テーブルを使用して、支払グループ番号が割り当てられます。F0002テーブルは、1つのグループに番号を割り当てている間はロックされ、番号の割当てが終わるとすぐにロックが解除されます。

F0002テーブルでは、支払グループへの採番が最高値(99,000,000)に達すると、次の番号が1にリセットされます。

注意: 支払グループの作成テーブルの自動採番は、支払グループに対して割り当てられる番号であり、グループ内の支払に対する番号ではありません。1つの支払グループには、複数の支払を含めることができます。F0002テーブルから各支払グループに割り当てられる番号は1つだけです。

事前設定

アルゼンチンまたはペルーの支払グループを作成する前に、次の作業を行います。

- (ARG)PO – PCGプロセス – ARG (P76A570) の処理オプションを設定します。
- (PER)PO – PCGプロセス – PER (P76P470) の処理オプションを設定します。

支払グループの作成プログラムの実行

「自動支払処理」(G0413)の「支払グループの作成」を選択します。

支払グループの作成のデータ順序の設定

支払グループの作成プログラムでは、デフォルト・テンプレートの順序と処理オプションの設定に基づいて支払グループ内の支払の処理順序が決定されます。正しい順序で支払処理を行うためにデータ順序を変更する必要はありません。データ順序は変更しないことをお勧めします。

支払グループの作成プログラムを実行すると、テンプレートの順序と処理オプションの設定により決定された順番で、F0411テーブルからレコードが読み込まれます。レコードを読み込む際に、次の値のいずれかが変更されている場合は、新規の支払グループが作成されます。

- 支払手段 (PYIN)
- 銀行勘定科目 (GLBA) (任意)

処理オプションの「印刷」タブで、銀行勘定科目の一時変更を入力していなければ、銀行勘定科目フィールドの値が使用されます。

- ビジネスユニット (MCU) (任意)

処理オプションの「処理基準」タブの「ビジネスユニット別」処理オプションが入力済の場合のみ、ビジネスユニット・フィールドの値が使用されます。

- 通貨コード (CRCD)

レコードを読み込む際に、支払グループ内で次の値のいずれかが変更されている場合には、新規の支払が作成されます。

- 支払取扱コード (CRC)
- 受取人 No. (PYE)
- 会社 (CO) (任意)

処理オプションの「処理基準」タブの「会社別」処理オプションが入力済の場合のみ、会社フィールドの値が使用されます。

- 計算書/No. (CTL) (任意)

次の条件のどちらか、または両方に該当する場合にのみ、計算書/No.フィールドの値が使用されます。

処理オプションの「レポート」タブの「契約番号の印刷」オプションが入力済で、かつ、受取人の仕入先マスター (F0401) レコードの支払作成オプションが契約別 (C) に設定されている。

処理オプションの「レポート」タブの「ジョブ番号の印刷」オプションが入力済で、受取人の仕入先マスター(F0401)レコードの支払作成オプションが契約別(C)に、伝票のビジネスユニットのビジネスユニット・タイプ(STYL)が作業原価(JB)に設定されている。

- 購買オーダー伝票会社(PKCO)(任意)

処理オプションの「レポート」タブの「契約番号の印刷」オプションが入力済で、かつ、受取人の仕入先マスター(F0401)レコードの支払作成オプションが契約別(C)に設定されている場合にのみ、購買オーダー伝票会社フィールドの値が使用されます。

- 住所番号(AN8)
- 支払期日(DDJ)(任意)

処理オプションの「処理基準」タブの「支払期日別」処理オプションが入力済の場合のみ、支払期日フィールドの値が使用されます。

また、支払グループ内に、受取人の仕入先マスター(F0401)レコードの支払作成オプションに基づいた支払も作成されます。たとえば、受取人の支払作成オプションで仕入先別を指定し、その受取人が支払グループ内の3つの異なる仕入先の伝票に記載されている場合、その受取人に対して3つの支払が作成されます。

1件の支払当たりの印刷可能な支払控えの数は99までです。各支払控えに印刷する明細行の数は、「銀行勘定科目の設定」フォームで設定します。たとえば、「銀行勘定科目の設定」フォームで1件の支払控え当たりの明細行の数を10に指定すると、1件の支払に印刷できる明細行数は990行になります。

1件の支払に対して99以上の控えが必要な場合には、「添付(振込依頼書)の印刷」処理オプションを入力しておけば、添付に残りの明細行が印刷されます。それ以外の場合、新規の支払が作成されて残りの明細行が出力されます。

重要: 支払グループおよび支払の作成順序は、書込み処理を使った支払の印刷順序とは区別されています。書込み処理を使った支払の印刷順序は、支払グループの作成プログラムの「順序ID」処理オプションにより決定されます。「順序ID」処理オプションにより、支払グループ作成時の支払の順序が影響を受けることはありません。書込み処理を使って、支払グループの作成に使われる順序とは異なる順序で支払を印刷できます。

ビジネスユニット別のデータ順序の例

この例では、F0411テーブルに次のレコードが保管されています。

住所	伝票	期日	金額	ビジネスユニット
1001	PV 11001 001	05/07/01	2,000.00	9
1001	PV 11003 001	05/07/01	1,500.00	1
1001	PV 11005 001	05/07/01	2,500.00	9
1002	PV 11002 001	05/07/01	3,000.00	9
1002	PV 11004 001	05/07/01	1,000.00	1
1002	PV 11006 001	05/07/01	3,500.00	9

ビジネスユニット別支払グループ処理オプションが、ビジネスユニットごとに個別の支払グループを作成するよう設定されている場合、ビジネスユニット1のレコードに対して支払グループが1つ作成され、ビジネスユニット9のレコードに対してもう1つ別の支払グループが作成されます。ビジネスユニット1の支払グループには、受取人の異なるレコードが2件あるため、支払が2件作成されます。ビジネスユニット9の支払グループには、2つの受取人のそれぞれにレコードが2件あるため、2つのレコードを持つ支払が2件作成されます。

処理オプションでビジネスユニットごとに個別の支払グループを作成するよう設定せずに同じ伝票を処理した場合、支払グループは1つだけ作成され、その支払グループには各受取人に対して1件の支払、つまり合計2件の支払が作成されます。

支払期日別のデータ順序および伝票別の支払作成の例

この例では、F0411テーブルに次のレコードが保管されています。

伝票	期日	金額
PV 12345 001	05/07/15	2,000.00
PV 12345 002	05/07/01	1,500.00
PV 23456 001	05/07/15	3,000.00
PV 23456 002	05/07/01	1,000.00

F0401テーブルで受取人が伝票ごとに支払を作成するよう設定されていて、処理オプションが支払期日ごとに個別の支払を作成するよう設定されている場合、4件の支払が作成されます。伝票は2つしかありませんが、伝票の支払項目の支払期日が異なるからです。

F0401テーブルで受取人が伝票ごとに支払を作成するよう設定されていて、処理オプションが支払期日ごとに個別の支払を作成するよう設定されていない場合は、支払項目の支払期日が異なっているも、伝票当たり1件の支払が作成されます。

F0401テーブルで受取人が伝票ごとに支払を作成するよう設定されておらず、処理オプションが支払期日ごとに個別の支払を作成するよう設定されている場合は、支払期日当たり1件の支払、つまり合計2件の支払が作成されます。この場合、支払内の支払項目は異なる伝票から取り込まれます。

支払グループの作成(R04570)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

日付

この処理オプションでは、支払グループの支払と割引日付をカスタマイズできます。「支払期日」処理オプションを空白にして、「支払期日までの日数」処理オプションを「0」に設定すると、支払期日にはシステム日付が使用されます。

1. 支払期日

支払を行うためにグループ化する伝票の支払期日の最終日を指定します。たとえば、支払期日が2009年3月15日までの日付の伝票で構成される支払グループを作成する場合、2009/03/15と入力します。この場合、支払期日が2009年3月15日以前の伝票からなる支払グループが作成されます。この処理オプションに日付を入力するか、またはこのオプションを空白にし、支払期日までの日数を指定して伝票を選択できます。

注意:「支払期日」処理オプションをブランクにして、「支払期日までの日数」処理オプションを「0」に設定すると、支払期日にはシステム日付が使用されます。

2. **支払期日までの日数** 現在の日付からの日数を指定して、支払期日とその期間中に該当する伝票の支払グループを作成します。たとえば、現在の日付が3月10日で、支払期日までの日数を3日に指定した場合、支払期日が3月13日までの日付の伝票が支払グループに含まれます。
この処理オプションに日数を入力するか、または「0」を設定して支払期日としてシステム日付を使用します。
3. **割引締め期日** 割引を適用できる最終日を入力します。支払期日が入力した日付より前の支払項目は割引の対象外となるため、これらの支払項目の割引額はゼロに設定されます。この処理オプションをブランクにすると、選択した支払項目に対して現在有効な割引がすべて適用されます。
4. **期日前の支払** 割引期日を過ぎているが支払期日がまだ来ていない伝票を支払に含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク:「支払期日」処理オプションで指定した日付が伝票の支払期日と同日かそれより後でない場合でも、その伝票は処理に含まれます。
1:「支払期日」処理オプションで指定した日付が伝票の支払期日と同日またはそれより後でない場合には、その伝票は処理されません。

金額

この処理オプションでは、支払金額範囲、通貨、および支払金額範囲の例外を指定します。

最低金額と最高金額は、伝票の金額ではなく、支払金額の範囲を表しています。データ選択を使って、選択する伝票の最低金額と最高金額を制限します。

1. **支払金額範囲の最小金額** 支払金額範囲の下限を入力します。
- 支払金額範囲の最大金額** 支払金額範囲の上限を入力します。
2. **支払金額範囲の通貨コード** 「支払金額範囲」処理オプションの各フィールドに入力した金額の通貨を指定するコードを入力します。指定した金額は、必要に応じて各支払グループの支払通貨に換算されます。たとえば、米ドルで100から5,000の範囲を指定した場合、この金額範囲は、支払通貨がユーロの支払グループではユーロに、英国ポンドの支払グループでは英国ポンドに、それぞれ換算されます。換算機能により、このプログラムを実行するたびに、作成されるすべての支払グループに対して正しい最低金額および最高金額の照合が行われます。
- 支払手段(最小金額未満)** 「支払金額範囲」処理オプションで指定した金額範囲に含まれない伝票に支払手段を割り当てます。「支払金額範囲」処理オプションで指定した最低金額より低い金額の伝票に割り当てる支払手段を入力します。
- 支払手段(最大金額超過)** 「支払金額範囲」処理オプションで指定した金額範囲に含まれない伝票に支払手段を割り当てます。「支払金額範囲」処理オプションで指定した最高金額より高い金額の伝票に割り当てる支払手段を入力します。

印刷

この処理オプションでは、支払グループの様々な印刷オプションをカスタマイズできます。

1. 順序ID

順序IDを入力して、プログラムで買掛金支払を処理、および印刷する順番を指定します。

順序IDの設定や定義を行うには、「自動支払設定」メニュー(G04411)の「支払順序」を選択します。

注意: この処理オプションの入力は必須です。

2. 添付(振込依頼書)の印刷

支払とあわせて添付を印刷するかどうかを指定します。たとえば、支払明細情報が支払控えと合わないときに添付を印刷します。1件の支払に印刷できる支払控えは99までです。各支払控えに出力される明細行数は、「銀行勘定科目の設定」フォームで設定します。1件の支払控えに対する標準の明細行数は10行です。値は次のとおりです。

ブランク: 添付は印刷されません。

1: 添付が印刷されます。

注意: この処理オプションをブランクにした場合、99より多くの支払控えがあると、複数の支払が印刷されます。ただし、処理オプションで「1」を入力している場合には、1件の支払が、添付の参照を記した1件の支払控えとともに印刷されます。添付には、すべての支払項目が印刷されます。

この処理オプションを使用する前に、支払手段デフォルト・プログラムで、支払手段に添付プログラムを割り当てる必要があります。「デフォルト支払手段の処理」フォームで、支払手段を選択し、「選択」をクリックします。「デフォルト支払手段の設定」フォームで、「添付」フィールドにプログラム番号を入力し、その支払手段で使用する添付プログラムを指定できます。デフォルトの添付プログラムはR04573です。

3. 銀行勘定科目

伝票入力時に支払項目に割り当てられた銀行勘定科目のかわりに使用する銀行勘定科目を指定します。

銀行勘定科目を指定するには、略式IDを入力します。略式IDは8桁の英数字フィールドで、特殊文字は入力できません。このため、一般会計固定情報の略式IDの識別記号に特殊文字を指定している場合、このフィールドにはその特殊文字を入力しないでください。

略式IDが8桁未満の場合、ゼロを追加して8桁にする必要があります。たとえば、使用する銀行勘定科目の略式IDが「108」の場合、「00000108」と入力します。銀行勘定科目の選択でビジュアル・アシストを使用すると、番号が自動的に正しい形式で入力されます。

一般会計固定情報情報の会社間決済固定情報が「N」に設定されている場合に、このフィールドに一時変更用の銀行勘定科目を指定すると、各伝票の会社が一時変更用銀行勘定科目の会社と照合されます。伝票の会社が一時変更用銀行勘定科目の会社と異なる場合、その伝票は支払グループに含まれません。

この処理オプションに銀行勘定科目を入力する前に、その銀行勘定科目をシステムに設定しておく必要があります。

多通貨を使用する場合は、次の点に注意してこの処理オプションを使用してください。

- 銀行勘定科目が通貨勘定科目の場合、その通貨が伝票の国内通貨または外貨のどちらかと同一である必要があります。
- 銀行勘定科目が通貨勘定科目でない場合、その会社通貨は伝票の国内通貨と同一である必要があります。

4. 支払通貨

プログラムでの支払処理に使用する通貨を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 銀行勘定科目の通貨で支払います。通貨勘定の場合、F0901テーブルで銀行勘定科目に割り当てられている通貨になります。非通貨勘定の場合、銀行勘定科目のビジネスユニットが属する会社に割り当てられている通貨になります。たとえば、銀行勘定科目1.1110.BEARの通貨は、ビジネスユニット1が属する会社00001の通貨である米ドル(USD)です。会社00001に対してユーロ(EUR)建ての伝票を入力する場合、ユーロが設定された通貨銀行勘定、または基本通貨が米ドルの会社に属する銀行勘定のどちらかで支払を処理できます。

1: 国内通貨建ての伝票金額を国内通貨で支払います。たとえば、基本通貨が米ドルである会社00001に対してユーロ建ての伝票を入力した場合、伝票は米ドルで支払われます。

2: 外貨建ての伝票金額を外貨で支払います。たとえば、基本通貨が米ドルである会社00001に対してユーロ建ての伝票を入力した場合、伝票はユーロで支払われます。外貨を持たない伝票の場合は国内通貨で支払われます。

3: 外貨建て伝票の金額を最新レートで国内通貨に換算し、国内通貨で支払います。たとえば、基本通貨が米ドルである会社00001に対してユーロ建ての伝票を入力した場合、外貨(ユーロ)建て金額は現時点で最新の為替レートに基づいて国内通貨(米ドル)に換算され、米ドルで支払われます。

4: 外貨、国内通貨以外の代替通貨で支払を行います。たとえば、基本通貨が米ドルである会社00001に対してユーロ建ての伝票を入力し、カナダ・ドル(CAD)で支払を行う場合、これは代替通貨での支払となります。「代替通貨コード」処理オプションで、支払通貨を指定してください。

注意: 最新の国内通貨額で支払をする場合、支払グループの作成プログラムでは、実行日時点の為替レートを使って、国内通貨建ての支払金額が計算されます。このレートは、実際に支払を行う日付の為替レートとは異なる可能性があります。

注意: この処理オプションで「2」、「3」、または「4」を指定すると、伝票と支払の為替レートが異なる場合には、プログラムによって損益が計算されます。

5. 代替通貨コード

代替通貨のコードを入力します。「支払通貨」処理オプションで「4」を指定した場合にのみ、この処理オプションに値を入力します。

6. 前払選択

マイナスの前払項目を支払グループに含める場合には、「1」を入力します。

処理基準

この処理オプションでは、支払のグループ化の基準となるカテゴリを指定します。

1. 会社別

会社ごとに支払を作成する場合は、「1」を入力します。

2. 支払期日別

支払期日ごとに支払を作成する場合は、「1」を入力します。

「集計」タブの「集計支払項目」処理オプションを1に設定して支払を集計する場合、1つの伝票の各行の支払期日が異なる可能性があるため、この処理オプションも1に設定します。

3. 受取人別

この処理オプションを使用して、仕入先にかかわらず、受取人を基準に支払を作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: しない。

1: する。

たとえば、次のような伝票、仕入先、受取人の組合せがあるとします。

伝票1: 仕入先1001、受取人1001

伝票2: 仕入先1001、受取人1002

伝票3: 仕入先1001、受取人1002

伝票4: 仕入先1002、受取人1002

伝票5: 仕入先1003、受取人1001

「受取人別」処理オプションをブランクにした場合、まず受取人、次に仕入先を基準に4つの支払が作成されます。

受取人1001: 仕入先1001、伝票1

受取人1001: 仕入先1003、伝票5

受取人1002: 仕入先1001、伝票2および3

受取人1002: 仕入先1002、伝票4

「受取人別」処理オプションに「1」を設定した場合、受取人だけを基準にして2つの支払が作成されます。

受取人1001: 仕入先1001の伝票1、および仕入先1003の伝票5

受取人1002: 仕入先1001の伝票2と伝票3、および仕入先1002の伝票4

4. ビジネスユニット別

ビジネスユニットごとに支払グループを作成する場合は、「1」を入力します。

集計

この処理オプションでは、支払控えに出力する情報をカスタマイズできます。

1. 集計支払項目

「1」を入力すると、伝票内の支払項目が集計され、支払控えまたは添付に出力されます。支払項目を集計するよう処理オプションを設定する場合、「処理基準」タブの「支払期日別」処理オプションを1に設定する必要があります。

2. 集計記述

「1」を入力すると、支払控えに最初の支払項目の備考が印刷されます。この処理オプションをブランクにすると、標準の請求書集計記述が支払控えに印刷されます。

レポート

この処理オプションでは、レポートに出力する情報を指定します。

1. 郵送先住所の印刷

レポートに各受取人の郵送先住所を印刷する場合は、「1」を入力します。

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| 2. 契約番号の印刷 | レポートに契約番号を印刷する場合は、「1」を入力します。 |
| 3. ジョブ番号の印刷 | レポートにジョブ番号を印刷する場合は、「1」を入力します。 |

銀行テープ

この処理オプションでは、レポートに印刷する銀行情報を指定します。

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 銀行テープ情報の印刷 | 編集レポートに銀行テープ情報を印刷する場合は、「1」を入力します。 |
| 2. 受取人銀行口座情報エラー | 「1」を入力すると、受取人の銀行口座情報が存在しない場合に、エラー・メッセージが出力されるよう指定できます。

この処理オプションを入力すると、銀行テープが処理されるかどうかにかかわらず、銀行/支店マスター(F0030)に受取人の銀行口座情報がない場合には必ずエラー・メッセージが作成されます。この処理オプションを使用する場合、支払手段の違いは認識されません。 |
| 3. 銀行勘定X12情報エラー | 「1」を入力すると、銀行勘定科目のX12情報が存在しない場合に、エラー・メッセージが出力されます。 |

源泉徴収

この処理オプションでは、支払グループの作成前に源泉徴収税の計算プログラム(R04580)を実行するかどうかを指定します。

- | | |
|----------------|---|
| 1. 源泉徴収税の計算 | 支払グループを作成する前に、源泉徴収税の計算プログラムを実行する場合は、「1」を入力します。 |
| 2. プログラム・バージョン | 源泉徴収税の計算プログラムのバージョン番号を指定します。「源泉徴収税の計算」処理オプションに「1」を入力した場合、バージョン番号を指定する必要があります。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。 |

支払グループの処理

この項では、支払グループの処理、支払の確認、未処理支払レコードの改訂、支払の書込み、支払のリセット、処理済支払レコードの削除、および支払の更新の概要と、次の方法について説明します。

- 支払グループの処理プログラム(P04571)の処理オプションの設定
- 支払の分割
- 支払の決済日付の改訂
- 支払グループの管理情報の改訂
- 支払の書込み

支払処理のプロセスについて

支払グループを作成すると、次の一時テーブルにデータがロードされます。

- 買掛金支払グループ・テーブル(F04571)
- 買掛金支払見出しテーブル(F04572)

- 買掛金支払明細テーブル (F04573)

支払グループの情報は一時ワークテーブル保存されるため、買掛金照合伝票 (F0413) および買掛金照合伝票明細 (F0414) の各テーブルに影響を与えずに、支払グループの改訂、支払の分割、および決済日付の改訂を行ったり、支払グループを取り消したりすることが可能です。

支払グループを更新すると、一時ワークテーブルの支払グループ情報は削除され、F0413 テーブルおよび F0414 テーブルにレコードが作成されます。このため、支払グループの更新前に、それ以上の変更を加える必要がないことを確認する必要があります。

支払グループの確認プロセスについて

通常、支払の確認は、次の2回行います。

- 支払グループの作成後で、かつ支払の書込み前

この時点で確認を行うことで、変更したり支払サイクルから削除したりする支払や伝票を識別できます。次の処理が可能です。

- 支払および伝票レベルでの情報の変更
- 支払サイクルからの支払グループ、支払、および伝票の削除
- 支払グループの管理情報の変更

- 支払の書込み後で、かつ買掛金元帳の更新前

この時点で確認を行うことで、無効にしたり、支払サイクルから削除したりする支払を識別できます。次の処理が可能です。

- 書込み済の支払の無効化と再書込み
- 支払サイクルからの支払グループ、支払、および伝票の削除

支払グループを処理する際に、次のいずれかの状況にある支払項目を処理します。

状況	説明
書込	支払項目は、書込み可能です。
更新	支払は書込み済で、F0411 テーブルの更新が可能です。

未処理の支払の改訂プロセスについて

書込み前に、支払、伝票、および支払グループに対して、次のような変更 (制限あり) を加えられます。

- デビット・メモ (マイナス伝票) の除外

デビット・メモは、仕入先に過剰な支払を行った場合や、仕入先から返金があった場合に発生します。支払処理から、その分の金額を除外できます。デビット・メモは、個々に除外することもできますが、別の方法として、支払グループの作成プログラムの「最小金額」処理オプションを最小の通貨単位 (たとえば 0.01) に設定することで、すべてのデビット・メモを支払グループから除外することも可能です。

- 支払の分割

支払を分割して、一部を先に支払、後で残りの金額を支払うことができます。伝票の総額を減らすと、残額分に対し新しい支払項目が作成されます。この支払項目の支払状況は、デフォルト値 (通常 A - 承認済) になります。新しい支払項目は支払グループには含まれません。

- 支払の決済日付の改訂

通常、決済日付は、手形処理で使用され、手形が銀行に渡った日付を示します。決済日の改訂は、1 件の支払、または支払グループのすべての支払に対して行うことができます。

- 伝票の支払項目の削除

伝票の支払を行わない場合、取消機能を使って、その伝票を支払グループから削除できます。削除した伝票の支払状況は、支払処理中から承認済にリセットされます。

- 未処理の支払の削除

支払を行わない場合、取消機能を使って、その支払を支払グループから削除できます。支払グループから伝票の支払項目が削除され、支払状況が処理中から承認済にリセットされます。

- 支払グループ全体の削除

取消機能を使って、支払グループ全体を削除します。ワークテーブルから支払グループが削除され、伝票の支払状況が承認済にリセットされます。

- 支払グループの管理情報の改訂

支払グループの管理情報を変更することにより、支払、支払記録、添付（振込依頼書）、デビット・メモを印刷するプログラムを変更できます。また、グループの支払を印刷する順序を決める順序IDも変更できます。

管理情報は、支払グループを作成する際に、デフォルトの支払手段を使って作成されます。支払の書込み前であれば、この情報は変更可能です。すべての変更は、支払グループ全体に影響します。

書込みプロセスについて

支払を書き込む際に、支払を印刷、または銀行テープにコピーできます。次のいずれかを実行します。

- 支払グループのすべての支払を書き込みます。
- 支払グループの選択した支払を書き込みます。

支払を書き込む際、次の処理が行われます。

- 伝票タイプPK（自動支払）の照合伝票が作成されます。
この支払により、伝票が決済されます。
- 伝票タイプPT（電子資金決済）の照合伝票が作成されます。
- 支払番号が割り当てられます。
- 支払グループの“次の状況”が、WRT（書込み）からUPD（更新）に変更されます。
- 支払グループの管理情報を使って支払が印刷されます。
- 必要に応じて、添付が印刷されます。

注意: 添付(振込依頼書)の印刷は、支払グループの作成プログラム(R04570)によって管理されます。P04572支払フォーマットでは、1件の支払控え当たり10行の明細行が印刷できます。1件の支払控え当たりの明細行の数は、「銀行勘定科目の設定」フォームで変更することもできます。1件の支払控えに対する明細行の数を10行より多く指定した場合には、指定した明細行数に対応できる支払印刷プログラムを使用する必要があります。

支払に対し「銀行勘定科目の設定」フォームで指定した数より多くの明細行があり、R04570の処理オプションが添付の印刷を行うように設定されている場合、支払控えに添付参照の旨が記載され、すべての明細は添付に印刷されます。

R04570の処理オプションで添付の印刷が設定されておらず、しかも単一の支払に対する明細行の数が指定行数より多い場合には、自動支払の書込み/リセット・プログラム(P04572)により、支払控えに指定した数の明細行の印刷、支払の無効化、次の支払控えでの指定した数の明細行の印刷、支払の無効化などの処理が、すべての明細行が印刷されるまで繰り返されます。最後の明細行が印刷された次の支払フォームに、支払総額が印刷されます。

1件の支払当たり最大99の支払控えの印刷が可能です。1件の支払に対して印刷される明細行の数は、各支払控えの明細行数に応じて決まります。たとえば、各支払控えに10行の明細行を印刷する場合、1件の支払当たりの印刷可能な明細行の数は、10(明細行数) × 99(支払控え数)で990行になります。この例で、990より多くの明細行がある場合には、複数の支払が印刷されます。

支払の際、代替受取人に対して支払が作成されます。伝票入力マスター・ビジネス関数(P0400047)のバージョンを指定して、伝票入力の処理オプションで、代替受取人を仕入先とファクタ/代替受取人のどちらにするかを選択します。伝票入力マスター・ビジネス関数プログラムの処理オプションの「デフォルト」タブで、「代替受取人」処理オプションに「1」を入力すると、代替受取人はファクタ/代替受取人に設定されます。この処理オプションをブランクにすると、代替受取人には仕入先番号が使用されます。代替受取人のデフォルト値は、伝票入力時に一時変更できます。

更新処理が実行されるまで、F0411、F0413、またはF0414の各テーブルは更新されません。支払は、F04571、F04572、およびF04573テーブルなどの一時ワークテーブルに保管されたままとなります。

注意: 文字で表した支払金額が印刷プログラムの指定文字数を超えた場合、小切手の支払金額は、文字ではなく数字で印刷されます。

EFT支払グループの支払の書込み

支払手段「T」の支払グループを書き込むと、F04571、F04572、F04573テーブルに加えて支払テーブル(F04572OW)テーブルにもレコードが作成されます。書き込んだ各支払グループに対して、新しいレコードがF04572OWテーブルに作成されます。各支払グループは、メンバーIDフィールド(KNMID)に指定された値により、F04572OWテーブルで一意的に識別されます。

支払のレコード予約

支払のレコード予約とは、支払の書込み前に、支払サイクル用に確保する必要がある支払番号の数を決定するプロセスです。銀行/支店マスター(F0030)テーブルの“次の支払番号”が必要な数だけ増分されます。F0030テーブルには、システム上のすべての銀行口座それぞれに対するレコードが登録されています。支払番号は、銀行口座ごとに予約されます。

支払番号の予約プロセスは、各支払の支払番号が重複するのを防ぐ目的で使用されます。これは、複数のユーザーが1つの銀行口座を使用して同時に支払を行う場合に特に便利です。

レコード予約を利用するには、特殊取扱コード・フィールドを「1」に設定してF0030テーブルをユーザー定義コード00/RRに追加する必要があります。

ユーザー定義コードを設定すると、支払の書込み時に使用する支払番号が決まり、F0030テーブルの次の支払番号フィールドの値がその数だけ増加します。支払サイクルでは、F0030テーブルの次の支払番号が258で、レコード予約プロセスにより30件の支払番号が使用されると判断された場合、次の支払番号は288に更新されます。別のユーザーが同じ銀行口座から支払を書き込む際、次の支払番号は288から始まります。258から287までの支払番号は、これらの番号が予約された支払サイクルにのみ使用されます。

2人のユーザーが同時に支払を書き込んだ場合、支払番号の予約プロセスは最初のユーザーに対してのみ有効となり、2番目のユーザーにはエラー・メッセージが表示されます。最初のユーザーによる支払番号の予約が完了すると、2番目のユーザーが支払番号レコードにアクセスして支払サイクルに必要な支払番号を予約できるようになります。

自動採番を使用した支払ID

支払の書込みプログラム (R04572、R04572A、R04572Cなど) を実行すると、各支払に対して、支払処理の開始から完了後まで引き続き使用される識別用の番号が割り当てられます。この番号は支払ID (PKID) と呼ばれ、F0413およびF0414の両方のテーブルのキーフィールドになっています。この支払IDによって、ある支払の支払項目を別の支払の支払項目と間違わないよう区別できます。

JD Edwards EnterpriseOne買掛金管理システムでは、F0002またはF00021テーブルを使用して、支払ID番号が割り当てられます。1件の支払に関連付けられた各支払項目に番号を割り当てている間、テーブルはロックされます。番号の割当てが完了した時点でロックは解除されます。

支払のリセット・プロセスについて

支払を書き込んだ後、更新の前に、再度書込みを行う必要がある場合があります。たとえば、紙詰まりや、支払番号または支払日付の間違いなどのエラーがあった場合などです。

支払を再度書き込む前に、支払をリセットする必要があります。書込み済の支払では、次の状況がUPD (更新) になっています。

支払をリセットすると次の状況がWRT (書込み) に戻り、問題箇所を修正して再度書き込むことができます。

- 支払を取り消したりリセットしたりする場合、「自動支払処理」メニュー (G0413) から銀行テープ・ファイルのテープへのコピー・プログラム (P0457) にアクセスし、影響のあったテープを特定できます。このプログラムでは、ファイルIDやメンバーIDなどの情報が表示されます。
- 銀行テープに書き込まれた支払をリセットする場合、支払の再書込みを行う前に、銀行テープのレコードを削除する必要があります。

支払をリセットする場合、その支払を無効にするか、または同じ支払番号を使って再度書き込むことができます。

- 新たに始まる支払番号を入力すると、リセットするよう選択した支払の中で、支払番号がその番号より小さい支払すべてが無効になります。
- 自動採番されたデフォルトの支払番号を使用する場合には、レコードは書き込まれずに、支払は無効になります。

無効になった支払は、F0411テーブルの更新を行う際に処理されます。これらのレコードは、支払を総勘定元帳に転記する際に表示されます。

支払グループの処理プログラムの処理オプションで、F0911テーブルに保管されている無効になった支払を処理するように設定できます。

処理済の支払の削除プロセスについて

支払を書き込んでから更新を行うまでの間に、現行の支払サイクルから1つまたはすべての支払を削除する必要がある場合があります。そのためには、支払を取り消します。システムによって次の処理が行われます。

- 支払が無効にされます。
- 支払グループから伝票の支払項目が削除されます。
- 伝票の支払状況が、処理中(＃)から承認済(A)にリセットされます。

その後、伝票を変更して、別の機会に支払を処理できます。

支払を取り消す場合、「銀行テープ・ファイルのテープへのコピー - 銀行テープの処理」フォームで影響を受けたテープを特定できます。このフォームには、ファイルIDおよびメンバーIDが表示されるので、取り消す支払を選択することが可能です。

銀行テープに書き込まれた支払を取り消す場合、再度支払処理を行う前に、銀行テープのレコードを削除する必要があります。

支払の更新プロセスについて

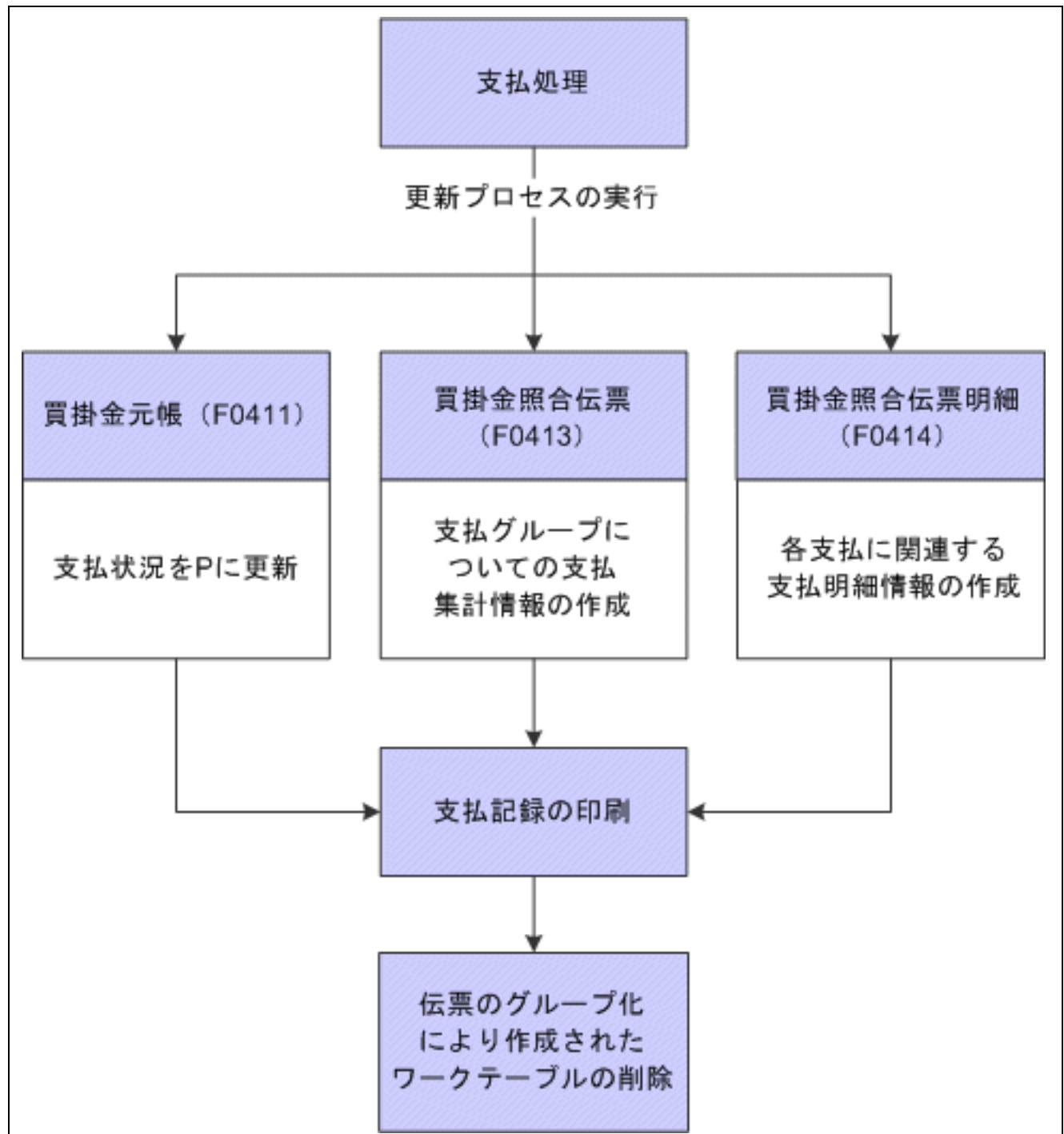
支払の書込み後、F0411テーブルを更新して、支払の取引レコードと支払記録を作成する必要があります。支払の更新は、支払グループの次の状況がUPD(更新)の場合にのみ実行できます。

F0411テーブルを更新する際、次の処理が行われます。

- 無効になった支払が処理されます。
- 伝票の支払状況が支払処理中(＃)から支払済(P)に変更され、未決済金額がゼロに設定されます。
- 支払記録が印刷されます。
- 次のワークテーブルの支払情報がF0413およびF0414テーブルにコピーされます。
- F04571
- F04572
- F04573
- 支払のために伝票をグループ化した際に作成されたワークテーブルのレコードが削除されます。

銀行テープのレコードは、削除するまでテーブルに残る点に留意してください。

次の図は、買掛金元帳テーブル(F0411)の更新時に行われる処理を示しています。



買掛金元帳の更新

買掛金元帳を更新したら、支払を総勘定元帳に転記できます。別の方法として、支払グループの処理プログラムの処理オプションで、買掛金元帳の更新後に支払を総勘定元帳に自動的に転記するよう設定することもできます。転記の処理中に、(借)買掛金勘定/(貸)支払銀行勘定の仕訳が作成されます。

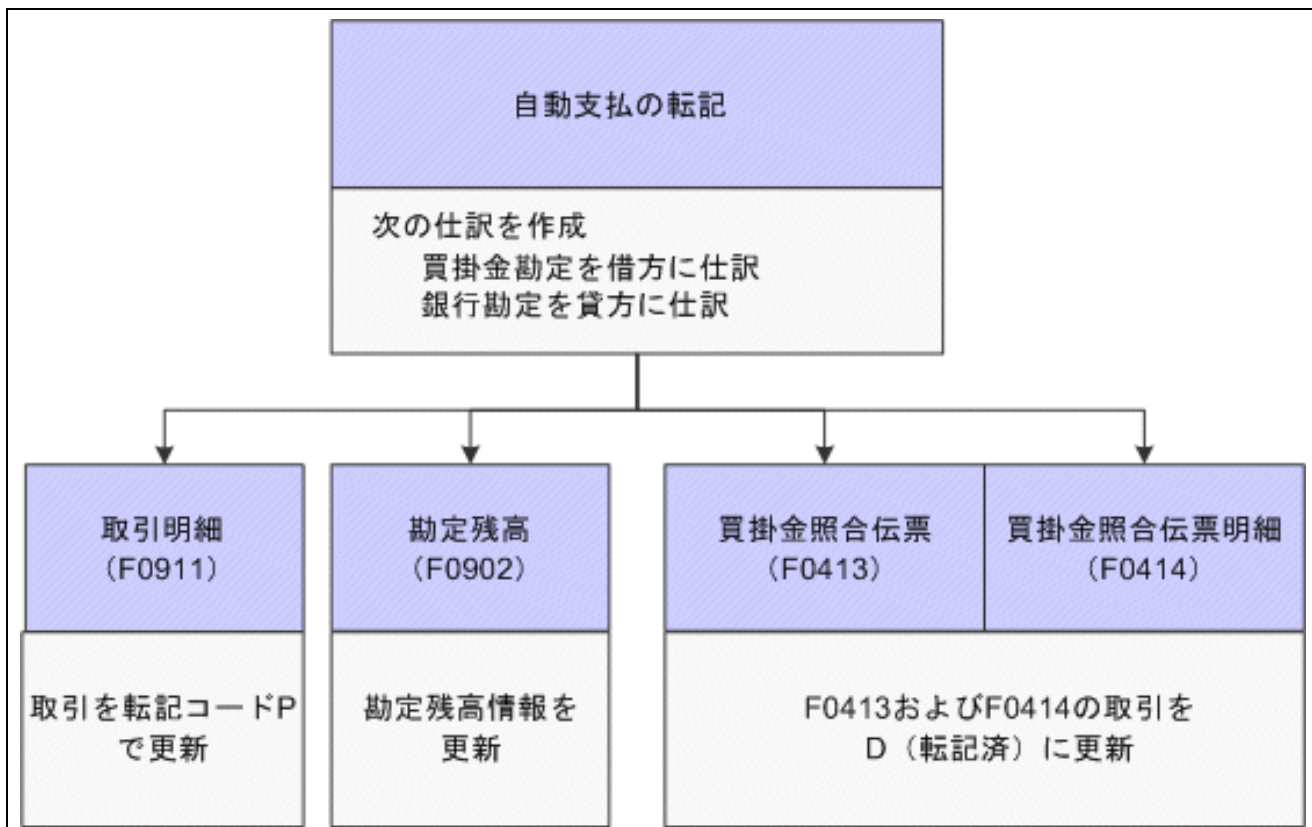
支払の確認、承認、および転記

買掛金元帳に自動支払を更新したら、その精度を確認できます。管理者承認を行う場合、総勘定元帳への転記前に、支払バッチの承認を行うことができます。

自動支払を転記すると、その支払に対する仕訳((借)買掛金勘定/(貸)支払勘定(銀行預金や手形など))が作成されます。伝票転記の際に貸方に計上された買掛金勘定が、借方に計上され、伝票タイプPKおよびPTの仕訳が作成されます。これにより、買掛金勘定の貸借の均衡が保たれます。自動支払の転記により、F0911テーブルにレコードが作成されます。

支払グループの処理プログラムの処理オプションを使って、F0411テーブルの更新後に、自動的に支払を総勘定元帳へ転記するよう設定できます。

次の図は、支払がF0911テーブルへ転記される際の処理を示しています。



自動支払の転記プロセス

支払グループの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
支払グループの処理	W04571A	<p>「自動支払処理」(G0413)、「支払グループの処理」レコードを選択し、「ロー」メニューから次のいずれか1つを選択します。</p> <p>支払グループ全体を削除するには、「元に戻す」を選択します。</p> <p>支払グループの書込みを行うには、「書込」を選択します。</p> <p>支払グループを更新するには、「更新」を選択します。</p> <p>書込み済の支払グループをリセットするには、「リセット」を選択します。</p>	支払グループを選択して、確認、取消、書込み、更新、またはリセットを行います。
支払グループの処理 - 書込み状況	W04572WA	<p>「支払グループの処理」フォームで、「選択」をクリックします。</p>	<p>支払グループから支払を選択して書込みを行うには、「ロー」メニューの「書込み」を選択します。</p> <p>受取人を選択して、次の状況が書込みの支払の内容を確認します。</p> <p>支払グループから支払を選択して書込みを行います。</p>
支払明細の処理	W04573A	<p>「支払グループの処理 - 書込み状況」フォームで、「選択」をクリックします。</p>	次の状況が書込みの伝票を選択して、内容を確認します。
支払明細	W04573C	<p>「支払明細の処理」フォームで、「選択」をクリックします。</p>	次の状況が書込みの支払に関連付けられた伝票情報を確認します。
支払見出し明細 - 書込み状況	W04572WC	<p>「支払グループの処理」の「書込み状況」フォームで、「ロー」メニューの「明細」を選択します。</p> <p>支払グループから支払を削除するには、「ロー」メニューの「元に戻す」を選択します。</p>	<p>次の状況が書込みの各支払の集計情報を確認します。</p> <p>支払グループから削除する支払を選択します。</p>
支払グループの処理 - 更新状況	W04572UB	<p>「支払グループの処理」フォームで、「選択」をクリックします。</p>	次の状況が更新の支払情報を確認します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
支払見出し明細 - 更新状況	W04572UA	「支払グループの処理 - 更新状況」フォームで、「ロー」メニューの「明細」を選択します。	次の状況が更新の各支払の集計情報を確認します。
支払の分割	W04573B	「支払明細の処理」フォームで、「ロー」メニューの「分割」を選択します。	次の状況が書込みまたは更新の支払を分割します。 参照: 第 10 章、「自動支払処理」、「支払の分割」、171 ページ
決済日付の改訂	W04572WB	「支払グループの処理 - 書込み状況」フォームで、「フォーム」メニューの「決済日付」を選択します。	次の状況が書込みの支払の決済日付を改訂します。 「一括更新する決済日付」フィールドを使って、グループの全支払の決済日付を確認します。 「日付のロード」をクリックすると決済日付を更新できます。 参照: 第 10 章、「自動支払処理」、「支払の決済日付の改訂」、171 ページ
支払の書込み	W04572A	「支払グループの処理」フォームで、「ロー」メニューの「書込」を選択します。	支払グループの書込みを行います。 参照: 第 10 章、「自動支払処理」、「支払の書込み」、172 ページ
支払のリセット	W04572B	「支払グループの処理」フォームで、「ロー」メニューの「リセット」を選択します。	支払をリセットします。 次の支払番号をリセットしない場合、無効な支払が作成されます。
支払グループの改訂	W04571C	「支払グループの処理」フォームで、「ロー」メニューの「支払グループ」を選択します。	支払グループの管理情報を改訂します。 参照: 第 10 章、「自動支払処理」、「支払グループの管理情報の改訂」、172 ページ
銀行テープ・ファイルのテープへのコピー - 銀行テープの処理	W0457A	「自動支払処理」(G0413)、「銀行テープ・ファイルのテープへのコピー」 「銀行テープ・ファイルのテープへのコピー - 銀行テープの処理」フォームで、「削除」をクリックします。	銀行テープの支払処理をリセットします。

支払グループの処理 (P04571) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷

印刷プログラムのデフォルト・バージョン

印刷プログラムで使用するバージョンを指定します。バージョン番号を入力するか、またはオプションを空白にしてデフォルトのバージョンZJDE0001を使用します。

支払グループ出力

支払グループ(PCG)の出力構成を指定します。支払グループごと、または銀行勘定ごとに1つのスプール・ファイルをプリンタに送信する方法と、複数の支払グループを1つのスプール・ファイルにまとめて送信する方法のどちらも可能です。値は次のとおりです。

空白: 支払グループごとに個別のファイルを送信する。

1: 銀行勘定ごとに個別のファイルを送信する。

2: 複数の支払グループを1つのスプール・ファイルにまとめて送信する。

スプール・ファイルの保存(将来使用)

印刷後に、スプール・ファイルのコピーを保存するかどうかを指定します。このオプションは、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアではまだ使用できません。値は次のとおりです。

空白: スプール・ファイルを保存しない。

1: スプール・ファイルを保存する。

スプール・ファイルの保留(将来使用)

スプール・ファイルを保留にするかどうかを指定します。保留にすると、印刷前に手動による解除が必要となります。このオプションは、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアではまだ使用できません。値は次のとおりです。

空白: スプール・ファイルを保留にしない。

1: スプール・ファイルを保留にする。

更新

支払明細プログラムのデフォルト・バージョン

支払明細プログラムのバージョンを指定します。特定のバージョン番号を入力するか、またはオプションを空白にしてデフォルトのバージョンZJDE0001を使用します。

無効支払の転記

無効の支払を総勘定元帳に転記するかどうかを指定します。無効の支払には、調整小切手やリセットされた支払が含まれます。また、無効支払には、無効と印刷された小切手も含まれます。こうすることにより、前の控えから続けて追加情報を控えに記載できます。値は次のとおりです。

空白: 無効支払を総勘定元帳に転記しない。

1: 無効支払を総勘定元帳に転記する。

転記プログラムの送信

支払の更新後に自動的に支払の転記を行う場合は、「1」を入力します。

表示

ビジネスユニットの表示

支払グループに割り当てられたビジネスユニットを表示するかどうかを指定します。「1」を入力すると、「支払グループの処理」フォームに「ビジネスユニット」フィールドが表示されます。「事前ロード値の指定」処理オプションの「ビジネスユニット」フィールドに値を入力することで、特定のビジネスユニットの検索ができます。

注意: このフィールドは、支払グループの作成プログラム (R04570) が、ビジネスユニット別に支払グループを処理するように設定されている場合に使用できます。

値は次のとおりです。

ブランク:「ビジネスユニット」フィールドを表示しない。

1:「ビジネスユニット」フィールドを表示する。

状況が「書込み」の支払グループ

選択条件の次状況を表示する場合は、1を入力します。選択条件は「支払グループの処理」フォームで変更できます。

状況が「更新」の支払グループ

選択条件の次状況を表示する場合は、1を入力します。選択条件は「支払グループの処理」フォームで変更できます。

3. 表示する銀行勘定科目

選択条件の「銀行勘定科目」のデフォルト値を入力します。選択条件は「支払グループの処理」フォームで変更できます。特定の銀行勘定科目の番号を入力するか、またはブランクのままにして、すべての銀行勘定科目を表示します。

入力者

支払グループの作成プログラムを実行するユーザーのユーザーIDを入力すると、そのユーザー(入力者)の支払グループのみが表示されます。支払グループの作成プログラムの「取引入力者」フィールド(データ項目TORG)の値と同じ値を入力してください。この処理オプションに入力した値は、「支払グループの処理」フォームのQBE行で変更できます。

この処理オプションをブランクにすると、すべての取引入力者について検索が行われます。

支払グループ・バージョン

支払グループの作成に使用したバージョンを入力すると、そのバージョンで作成された支払グループのみが表示されます。選択条件は「支払グループの処理」フォームのQBE行で変更できます。

この処理オプションをブランクにすると、すべてのバージョンについて検索が行われます。

ビジネスユニット

支払グループの作成プログラムにより、支払グループに対して最初に割り当てられたビジネスユニットを入力すると、そのビジネスユニットに対して作成された支払グループのみが表示されます。選択条件は「支払グループの処理」フォームのQBE行で変更できます。

この処理オプションをブランクにすると、すべてのビジネスユニットについて検索が行われます。

注意: この処理オプションは、支払グループの作成プログラムが、ビジネスユニット別に支払グループを処理するように設定されている場合に使用できます。これに加え、「ビジネスユニットの表示」処理オプションで「1」を入力していないと、この処理オプションは使用できません。

支払手段

支払グループの作成プログラムにより、支払グループに対して最初に割り当てられた支払手段を入力すると、その支払手段で作成された支払グループのみが表示されます。選択条件は「支払グループの処理」フォームのQBE行で変更できます。特定の支払手段(データ項目PYIN)、または「1」を入力します。

通貨コード

この処理オプションをblankにすると、すべての支払手段について検索が行われます。

支払グループの作成プログラムにより、支払グループに対して最初に割り当てられた支払通貨を入力すると、その通貨コードで作成された支払グループのみが表示されます。選択条件は「支払グループの処理」フォームのQBE行で変更できます。

この処理オプションをblankにすると、すべての支払通貨について検索が行われます。

代替通貨金額の表示

支払グループの金額を代替通貨に換算して表示する場合は、「1」を入力します。

注意: この換算は表示のためだけに行われ、「支払グループの処理」フォームの金額表示にのみ影響します。外貨の支払を書き込むには、「通貨」タブの処理オプションを指定してください。

代替通貨の有効日付

代替通貨の為替レートの有効日を入力するか、またはblankのままにしてシステム日付を使用します。

通貨**有効日付の指定**

外貨または代替通貨の支払を書き込む際に使用する為替レートを取得する日付を指定します。この処理オプションをblankにすると、支払の元帳日付が使用されます。

外貨額ではなく伝票の国内通貨額を使って支払グループを作成する場合、支払日付の為替レートに基づいて為替差損益が計算されます。この場合、国内通貨で支払が行われます。外貨支払ではありません。

注意: 為替レート・テーブル (F0015) に、入力した有効日付に対応する為替レートが存在しない場合、伝票の為替レートが使用されるため、為替差損益は発生しません。

使用する為替レートの指定

外貨支払を書き込む際に、伝票の為替レートを使用する場合は、「1」を入力します。特定の有効日の為替レートを使用する場合は、この処理オプションをblankにします。

処理**オンライン処理**

オンラインで支払を処理する場合は、「1」を入力します。この処理オプションをblankにすると、バッチ処理のジョブが印刷および更新されます。

注意: サーバーのバッチ・ジョブのオブジェクト構成マネージャ (OCM) のマッピングは、この処理オプションによって上書きされることはありません。ローカルで実行されるバッチ・ジョブのみに影響があります。

BACS

この処理オプションでは、銀行自動決済システム (BACS) の処理日付の入力を可能にするかどうかを指定します。BACSは、イギリスで使用されている電子資金決済方法です。

1. BACS処理日付

BACS処理日付の入力を可能にする場合は「1」を入力します。

支払の分割

「支払の分割」フォームにアクセスします。

支払グループの処理 - 支払の分割

OK(O) 取消(L) ツール(T)





伝票No./タイプ/会社

1580

PV

00001

支払項目

001

請求書No.

17984

支払金額

5,500.00

支払金額の入力

総額

割引実施額

「支払の分割」フォーム


支払の決済日付の改訂

「決済日付の改訂」フォームにアクセスします。

支払グループの処理 - 決済日付の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)






銀行勘定科目

1.1110.BEAR

Bear Creek National Bank

バージョン

XJDED0C1

合計金額

24,776.00

支払件数

2

通貨

USD

一括更新する決済日付

レコード 1 - 2

グリッドのカスタマイズ

受取人 No.

受取人 名称

支払 金額

決済 日付

1001

AB Common

10,000.00

4344

Universal Incorporated

14,776.00

「決済日付の改訂」フォーム

決済日付

入金または支払金額が銀行勘定の借方または貸方に計上された日付を入力します。銀行が支払を決済した日付ではありません。手動で支払を行う場合に、「決済日付」フィールドを表示するように処理オプションで指定しておく、ここで決済日付を手入力できます。

支払グループの管理情報の改訂

「支払グループの改訂」フォームにアクセスします。

支払	銀行ファイル作成ユーザー定義コード・テーブル(04/PP)に設定されている値を入力し、買掛金支払の印刷に使用するプログラムを指定します。
記録	支払明細プログラム・ユーザー定義コード・テーブル(04/PR)に設定されている値を入力し、買掛金支払記録の印刷に使用するプログラムを指定します。
添付	添付プログラム - 支払ユーザー定義コード・テーブル(04/PA)に設定されている値を入力し、買掛金支払を処理する際に添付の印刷に使用するプログラムを指定します。
デビット・メモ	デビット・メモ印刷プログラム・ユーザー定義コード・テーブル(04/PD)に設定されている値を入力し、買掛金支払を処理する際にデビット・メモの印刷に使用するプログラムを指定します。
支払日付	取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。一般会計の会社固定情報テーブルにより、各会計期間の日付範囲が指定されます。14期間まで使用できます。この処理オプションをブランクにすると、現在の日付が使用されます。
次の支払No.	指定の銀行勘定で処理する次の支払番号を入力します。買掛管理の支払処理で、このフィールドは自動的に更新されます。 デフォルトは、銀行/支店マスター(F0030)の該当する銀行勘定レコードの値です。

支払の書込み

「支払の書込み」フォームにアクセスします。

支払グループの処理 - 支払の書込み

OK(O) 取消(L) ツール(T)





レコード 1 - 1

銀行 勘定科目	支払 * 日付	次の * 支払No.
<input checked="" type="radio"/> 1.1110.BEAR	2009/03/05	5048

「支払の書込み」フォーム

次の支払No.	指定の銀行勘定で処理する次の支払番号を入力します。買掛管理の支払処理で、このフィールドは自動的に更新されます。 デフォルトは、F0030テーブルの該当する銀行勘定レコードの値です。
---------	---

自動支払と伝票の無効化

この項では、自動支払および伝票の無効化の概要と、その方法について説明します。

自動支払と伝票の無効化プロセスについて

支払レコードの転記状況を見て、支払が転記済かどうかを判断できます。転記状況は、次のコードで示されます。

- ブランク: 支払の転記または無効化は行われていません。
- D: 支払は転記済です。
- P: 支払の転記でエラーが発生し、銀行勘定に元帳仕訳が書き込まれました。

支払金額がない場合、その支払レコードは無効になっていると判断できます。

転記済の支払または伝票を無効にする際に、元のバッチは未処理に戻されます。次の処理が行われるよう、バッチを再転記する必要があります。

- 無効になった支払は、現金勘定の借方と、買掛金勘定の貸方に記入されます。
- 無効になった伝票は、買掛金勘定の借方と、配賦勘定の貸方に記入されます。

未転記の支払は、処理オプションの設定に応じて、無効にすることも削除することもできます。

支払の無効化は、更新の後にを行います。転記済と未転記のどちらの支払も無効にすることができます。支払を無効にすると、次の処理が行われます。

- 買掛金照合伝票明細テーブル (F0414) に、伝票タイプ PO (無効支払) の照合伝票が作成されます。
この照合伝票の合計金額は無効にした支払の金額と同額で、その支払状況は P (支払済) に設定されます。
- 当初伝票が未決済に戻され、支払状況が A (承認済) にリセットされます。
- 支払の国内通貨金額と外貨建て金額の両方が取り消され、複数通貨の支払が無効にされます。

注意: 手動残高調整プログラム (P09131) または銀行テープと残高調整ファイルの照合プログラム (R09510) で調整済の支払は無効にできません。調整済の支払は、P09131 プログラムを使って未調整に戻してから無効にする必要があります。

自動支払とその伝票の無効化

支払を無効にした場合に、その伝票が別の支払サイクルで支払われないように、支払とそれに関連する伝票の両方を無効にする必要があります。支払と関連する伝票の両方を無効にする際、次の処理が行われます。

- F0413 テーブルのレコードの支払金額が削除されます。
- F0414 テーブルに、無効にした支払の PO レコードが作成されます。
- F0411 テーブルに、伝票タイプ PE (支払金額の変更) の調整伝票が作成されます。

この調整伝票の合計金額は無効にした支払の金額と同額で、その支払状況は P (支払済) に設定されます。

この手順で未転記の伝票を無効にすることはできません。未転記の伝票を選択した場合、エラー・メッセージが表示され、支払のみが無効化されます。未転記の伝票を無効にするには、まずその伝票を転記する必要があります。伝票を転記したら、買掛管理標準伝票入力プログラムを使用して伝票を無効にします。支払済の未転記伝票は削除できません。

重要: JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで作成された伝票を、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムを使用して無効にしないでください。JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで作成した伝票は、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで取り消す必要があります。この伝票をJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムで無効にすると、購買データの整合性に問題が発生する可能性があります。買掛管理標準伝票入力プログラムの処理オプションの「購買」タブの「伝票削除」処理オプションで、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで作成された伝票を無効にしようとした場合に警告またはエラー・メッセージが表示されるよう設定できます。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで作成された伝票が未払いの場合、その伝票を取り消すことができます。JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで作成された伝票が支払済の場合には、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで伝票の取消を行う前に、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムで支払を無効にする必要があります。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「伝票の作成」、「伝票の作成」

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「銀行勘定科目の残高調整」、「調整済取引の未調整取引への変更」

自動支払と伝票の無効化に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
支払の処理	W0413MB	「自動支払処理」(G0413)、 「支払の無効」	無効にする支払を特定 します。
支払の無効	W0413VA	「支払の処理」フォームで、 「ロー」メニューの「支払の 無効」を選択します。	支払と、必要に応じて伝票 を無効にします。 伝票を1つ選択して「伝票 を無効にする」チェックボッ クスを選択すると、その伝 票だけが無効になります。 伝票を選択せずに「伝票を 無効にする」チェックボッ クスを選択すると、グリッドの 1番上に表示された伝票の みが無効になります。

自動支払と伝票の無効化

「支払の無効」フォームにアクセスします。

支払の無効 - 支払の無効

OK(O) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

受取人No.	4360	Allen Supplies	POSTED
支払No./タイプ	1	PN	銀行勘定科目 61000.1110.BEAF
支払金額	2,250.00	バッチ番号	6485
支払日付	2005/07/15		
通貨	USD	為替レート	

無効日付 2005/07/15 ☐ 伝票を無効にする

レコード 1-2 グリッド

<input type="checkbox"/>		伝票タイプ	伝票番号	支払項目	伝票会社	支払金額	割引実施額
<input type="checkbox"/>		PV	3193	001	61000	2,250.00	

「支払の無効」フォーム

ディスクへの支払のコピー

この項では、ディスクへの支払のコピーの概要と、次の方法について説明します。

- 銀行テープ・ファイルのテープへのコピー (P0457) の処理オプションの設定
- テープ・テーブルの状況と詳細の確認および変更
- 銀行ファイルのフロッピー・ディスクへのコピー (P0457D) の処理オプションの設定
- テープ・テーブルのディスクへのコピー

支払をディスクにコピーするプロセスについて

支払を書き込む際、支払手段として電子フォーマットを使用できます。その場合、支払を書き込むと、レポートが印刷されるかわりに銀行テープ・テーブルが作成されます。金融機関に情報を送付するには、作成されたテーブルをディスクにコピーする必要があります。

ディスクに支払をコピーするプロセスには、次の作業が含まれます。

- テープ・テーブルの状況と詳細の確認および変更
- テープ・テーブルのディスクへのコピー

通常、テープ・テーブルの詳細は、経営情報システム(MIS)部門であらかじめ設定されています。別途指示がないかぎり、この情報は変更しないでください。ただし、フォーマット仕様の多くは、テーブルをディスクへコピーする前に変更できます。

テーブルを削除しないかぎり、ディスクへのコピーは繰り返し行うことができます。たとえば、取引金融機関がオリジナルのディスクを紛失した場合などに、再コピーが必要となります。

新しい銀行テープ・テーブルを作成する際、既存のテーブルは上書きされません。支払テープ・テーブル(F04572OW)は、複数のテーブルから構成されています。つまり、各バージョン(支払グループ)はそれぞれ別のテーブルになります。テーブルのレコードは自動的に削除されることはありません。そのかわりに、「銀行テープの処理」フォームでレコードを削除する必要があります。銀行がディスクを受け取ったことを確認するまで、レコードは削除しないでください。

その他のオプション

テープ・テーブルのコピーには、特定のユーザー向けに、次のオプションが用意されています。

- IBMシステム・コマンドを使って、テープ・テーブルを表示できます。テーブルIDはF04572T、メンバーIDはAP00000390のように、テーブルIDとメンバーIDを指定する必要があります。
- テープ・テーブルの情報は標準フォーマットで保存されます。テープ・テーブルをテープやディスクにコピーするかわりに、通信回線を使って取引先金融機関にデータをアップロードすることもできます。
- 銀行自動決済システム(BACS)のメンバー企業は、テープまたはディスクにコピーする前に銀行テープを承認できます。「銀行テープの処理」フォームで、「ロー」メニューの「承認」を選択します。「ロー」メニューのこの選択肢は、銀行テープ・ファイルのテープへのコピー・プログラム(P0457)の処理オプションで、BACSフォーマットを表示するように設定してある場合にのみ選択できます。

ディスクへの支払のコピーに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
銀行テープの処理	W0457A	「自動支払処理」(G0413)、 「銀行テープ・ファイルの テープへのコピー」	既存のレコードの選択 を行います。
テープ情報の更新	W0457C	「銀行テープの処理」フォー ムで、レコードを選んで「選 択」をクリックします。	テープ情報に修正を加 えます。
銀行ディスク書込み	W0457DA	「銀行テープの処理」フォー ムで、「ロー」メニューの 「ディスク」を選択します。	銀行テープ・ファイルをデ ィスクにコピーします。

銀行テープ・ファイルのテープへのコピー(P0457)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

BACS

BACSフォーマットの表示 BACSフォーマットを表示する場合は、「1」を入力します。

プログラム

代替処理プログラム(将来使用)

使用する代替プログラムの名称を入力します。この処理オプションを空白にすると、プログラムJ0457Tが使用されます。

注意: BACS処理が有効になっている場合は、この処理オプションは無視されます。

バージョン

バージョン

使用する銀行ファイルのフロッピーディスクへのコピー・プログラム(P0457D)のバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

銀行ファイルのフロッピーディスクへのコピー(P0457D)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

1. レコード長

出力ファイルのレコード長を指定します。最高1,500文字まで指定できます。空白にすると、元のレコード長で出力テーブルが作成されます。

2. 改行の挿入

各レコードの末尾で強制改行を挿入するかどうかを指定します。空白にすると、出力ファイルは、複数の個別のレコードではなく、1つの長い文字列にフォーマットされます。

3. デフォルトのファイル・パス/ファイル名

出力ファイルのデフォルトのパスとファイル名を指定します。パスとファイル名は、ファイルを格納するコンピュータのオペレーティング・システムのファイル構造および命名規則に従う必要があります。

たとえば、出力ファイルをローカル・マシンのCドライブに格納する場合は、ディレクトリ・パスを「C:¥FolderName¥FileName.txt」のように指定します。出力ファイルをネットワーク・マシンのフォルダに格納する場合は、ネットワーク・パスを「¥¥MachineName¥FolderName¥FileName」のように指定します。

この処理オプションを空白にすると、ファイル・パスとファイル名には「A:¥DTALSV」が使用されます。

注意: Microsoft Windowsのクライアント以外にファイルを格納しないでください。

データ

1. 事前定義文字(ユーザー定義コード04/RC)を1対1で置換する

特殊文字を置換するかどうかを指定します。特殊文字を置換するように指定すると、置換文字ユーザー定義コード(04/RC)が読み込まれ、その値に基づいて単一文字が置換されます。次に、特殊文字UDC(04/SC)が読み込まれ、その値に基づいて特殊文字が置換されます。値は次のとおりです。

空白: 置換を行わない。

1: 置換を行う。

注意: P0457とP03B571のプログラムでは、ユーザー定義コード04/RCの記述01フィールドの最初の文字だけが、記述02フィールドの最初の文字に置き換えられます。UDCが1対複数モードでマッピングされていても、最初の文字以外は置換されません。UDC 04/RCを使用している他のプログラムでは、UDCが1対複数でマッピングされていれば複数の文字に置き換えられます。

2. すべての英字を大文字にする

レコードのすべての英字を大文字にするかどうかを指定します。この処理オプションを空白にすると、大文字にはされません。

3. 文字(ユーザー定義コード04/SC)の置換

フィールドやテーブルに設定されている文字の中で、UDC 04/SCで定義されている文字と一致するものを、指定した文字または空白に置き換えるかどうかを指定します。特定の文字に置き換えるには、その文字を処理オプションに入力します。特殊文字を空白に置き換える場合は、処理オプションを空白のままにしておきます。

注意: UDC 04/SCに定義されている文字は、指定した文字または空白のどちらかに必ず置き換えられます。文字を一切置き換えない場合は、UDC 04/SCを空白にする必要があります。

テープ・テーブルの状況と詳細の確認および変更

「テープ情報の更新」フォームにアクセスします。

銀行テープ・ファイルのテープへのコピー - テープ情報の更新

OK(O) 取消(L) ツール(T)

テーブル	F04572T	メンバーID	OW00000000
ファイル名	BTRAN	メディア	TAP01
レコード長	1500	テープ密度	1600
新ボリューム	000001	新所有者ID	
ブロック・サイズ	940	ラベル名	

「テープ情報の更新」フォーム

テープ・テーブルのディスクへのコピー

「銀行ディスク書込み」フォームにアクセスします。

パス/ファイル名	ファイルを書き込む場所を指定します。
新規ファイルの作成	テーブルにすでに存在するレコードを削除して、新規レコードと置き換える場合に選択します。
レコードの追加	テーブルにすでに存在するレコードに、新規レコードを追加する場合に選択します。

第 11 章

EDI送信による支払の処理

この章では、アウトバウンド(送信)の電子データ交換(EDI)による支払処理の概要と次の方法について説明します。

- 送信支払トランザクションの転送
- 処理済トランザクションの更新
- 処理済EDI送信支払データの削除

EDI送信による支払処理について

買掛金の支払トランザクションを処理して、EDIインターフェイス・テーブルに保管することにより、EDI 820 伝送を取引先(銀行など)に直接送信できます。EDI支払は、自動支払を作成する場合と同じ手順で作成します。実際に小切手を印刷して仕入先に郵送するかわりに、仕入先の取引銀行に支払を電子データで送信します。

EDI支払を作成すると、次の買掛金ワークテーブルとEDI支払ワークテーブルが更新されます。

- F04571: 買掛金支払処理 - 見出しテーブル
- F04572: 買掛金支払処理 - 集計テーブル
- F04573: 買掛金支払処理 - 明細テーブル
- F47056W: EDI支払オーダー見出し - ワークテーブル
- F470561W: EDI支払オーダー銀行名称と住所 - ワークテーブル
- F470562W: EDI支払オーダー仕入先名称と住所 - ワークテーブル
- F470563W: EDI支払オーダー受取人名称と住所 - ワークテーブル
- F47057W: EDI支払オーダー送金通知 - ワークテーブル

EDI支払を作成した後に、次の作業も行う必要があります。

- 送信支払トランザクションの転送
- 送信データの更新プログラム(R47058)の実行
- 処理済EDI送信支払データの削除

関連項目:

第 7 章、「バッチ伝票の処理」、115ページ

送信支払トランザクションの転送

この項では、EDI送信ファイルへのコピー・プログラム(R47057)の概要と、次の方法について説明します。

- レポートの実行
- データ選択の設定

EDI送信ファイルへのコピー・プログラムについて

自動支払処理を実行したら、EDIワークテーブルからEDIインターフェイス・テーブルに支払トランザクションをコピーして、変換ソフトウェアで使えるようにする必要があります。

EDI送信ファイルへのコピー・プログラムでは、次のEDI支払インターフェイス・テーブルに支払トランザクションがコピーされます。

- F47056: EDI支払オーダー見出し - 送信
- F470561: EDI支払オーダー銀行名称と住所 - 送信
- F470562: EDI支払オーダー仕入先名称と住所 - 送信
- F470563: EDI支払オーダー受取人名称と住所 - 送信
- F47057: EDI支払オーダー送金通知 - 送信

重要: レポートの各セクションには、様々なファイルのデータが使用されます。EDI送信ファイルへのコピー・プログラムを実行する際、前述のテーブルすべてに共通のフィールドのみをデータ選択の対象とする必要があります。そうしないと、選択したすべてのデータがレポートに出力されない場合があります。

支払トランザクションがEDI支払インターフェイスの各テーブルにコピーされる際、EDIワークテーブル内の対応するトランザクション・レコードの処理済(Y/N)フィールド(EDSP)の値が「Y」に更新され、そのトランザクションは処理済として記録されます。これによって、処理済のレコードのコピーを防止できます。

EDI送信ファイルへのコピーレポートの実行

「送金支払オーダー」(G47266)の「EDI送信ファイルへのコピー」を選択します。

EDI送信ファイルへのコピーレポートのデータ選択の設定

EDI送信トランザクションの処理では、次の5つのワークテーブルが使用されます。

- F47056W: EDI支払オーダー見出し - ワークテーブル
- F470561W: EDI支払オーダー銀行名称と住所 - ワークテーブル
- F470562W: EDI支払オーダー仕入先名称と住所 - ワークテーブル
- F470563W: EDI支払オーダー受取人名称と住所 - ワークテーブル
- F47057W: EDI支払オーダー送金通知 - ワークテーブル

次のフィールドは、EDI送信ファイルへのコピー・プログラム(R47057)で使用される5つのテーブルに共通するフィールドで、これらのフィールドに対してのみデータ選択またはデータ順序を設定します。他のフィールドにデータ選択やデータ順序を設定すると、レポートの作成が中止され、エラー・メッセージが表示されます。

- EDI伝票会社

- EDI伝票番号
- EDI伝票タイプ
- EDI行番号
- EDI処理状況
- EDIバッチ番号
- バッチ番号
- バッチ・タイプ
- 伝票会社
- 会社
- ビジネスユニット
- 支払/項目番号
- 照合伝票タイプ
- 伝票支払項目
- 住所番号
- 取引入力者
- ユーザーID
- プログラムID
- ワークステーションID
- 更新日付
- 更新時刻

5つのワークテーブルすべてに共通するフィールドは他にもありますが、これらのフィールドは見出しワークテーブルと明細ワークテーブルのどちらのフィールドであるかによって値が異なります。そのため、これらのフィールドには、データ選択を設定しないでください。データ選択の設定には、前述の共通フィールドだけを使用してください。

処理済トランザクションの更新

この項では、送信データの更新プログラム(R47058)の概要と、このプログラムの実行方法について説明します。

送信データの更新プログラムについて

送信データの更新プログラムは、取引先からEDI支払データを受信したことが通知された時点で実行します。

送信データの更新プログラムを実行すると、EDI支払インターフェイス・テーブル(F47056、F470561、F470562、F470563、F47057)の支払トランザクション・レコードの処理済(Y/N)フィールド(EDPSP)の値が「Y」に更新されます。これにより、変換ソフトウェアによって同じトランザクションが再度処理されるのを防止できます。

送信データの更新プログラムの実行

「送金支払オーダー」(G47266)の「送信データの更新」を選択します。

処理済EDI送信支払データの削除

この項では、EDIファイル削除レポート(R47059)の概要と、レポートの実行方法について説明します。

EDIファイル削除レポートについて

EDI支払トランザクションの処理が正常に完了したら、EDIファイル削除レポート(R47059)を実行して、処理した支払トランザクションをEDI送信テーブルから削除できます。処理済のEDI支払トランザクションは、削除されるまで、システム47のテーブルに保管されます。

EDI送信支払データを削除すると、処理済のレコードがすべて削除されます。つまり、処理済(Y/N)フィールド(EDSP)の値が「Y」に設定されているレコードが、次のEDI支払インターフェイス・テーブルから削除されます。

- EDI支払オーダー見出し - 送信(F47056)
- EDI支払オーダー銀行名称と住所 - 送信(F470561)
- EDI支払オーダー仕入先名称と住所 - 送信(F470562)
- EDI支払オーダー受取人名称と住所 - 送信(F470563)
- EDI支払オーダー送金通知 - 送信(F47057)

重要: このプログラムの実行では、削除されたトランザクションは除去テーブルにコピーされません。トランザクションは、システムから完全に消去されます。

EDIファイル削除レポートの実行

「送金支払オーダー」(G47266)の「EDIファイルの除去」を選択します。

第 12 章

支払手形の処理

この章では、手形処理の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 支払済手形の決済
- 決済済手形の転記

注意: アルゼンチンおよび日本には、支払手形および支払の先送りの機能が用意されています。

手形の処理について

手形は、債務に対する支払を約束するものです。手形支払の伝票が処理されると、支払人の取引銀行が手形を処理し、指定日に受取人の取引銀行に支払額を振り込む旨を通知する手形伝票が受取人に送られます。

手形を作成すると、当初伝票が当初手形伝票に変更され、支払状況D(手形受取済)が割り当てられます。手形の作成は、自動支払処理の支払書込みと買掛金元帳の更新の特定機能を使用して行われます。

支払書込み機能を使用して、次の処理が実行されます。

- 支払グループの“次の状況”がWRT(書込み)からUPD(更新)に変更されます。
- 支払グループの制御情報を使用して手形が印刷されます。

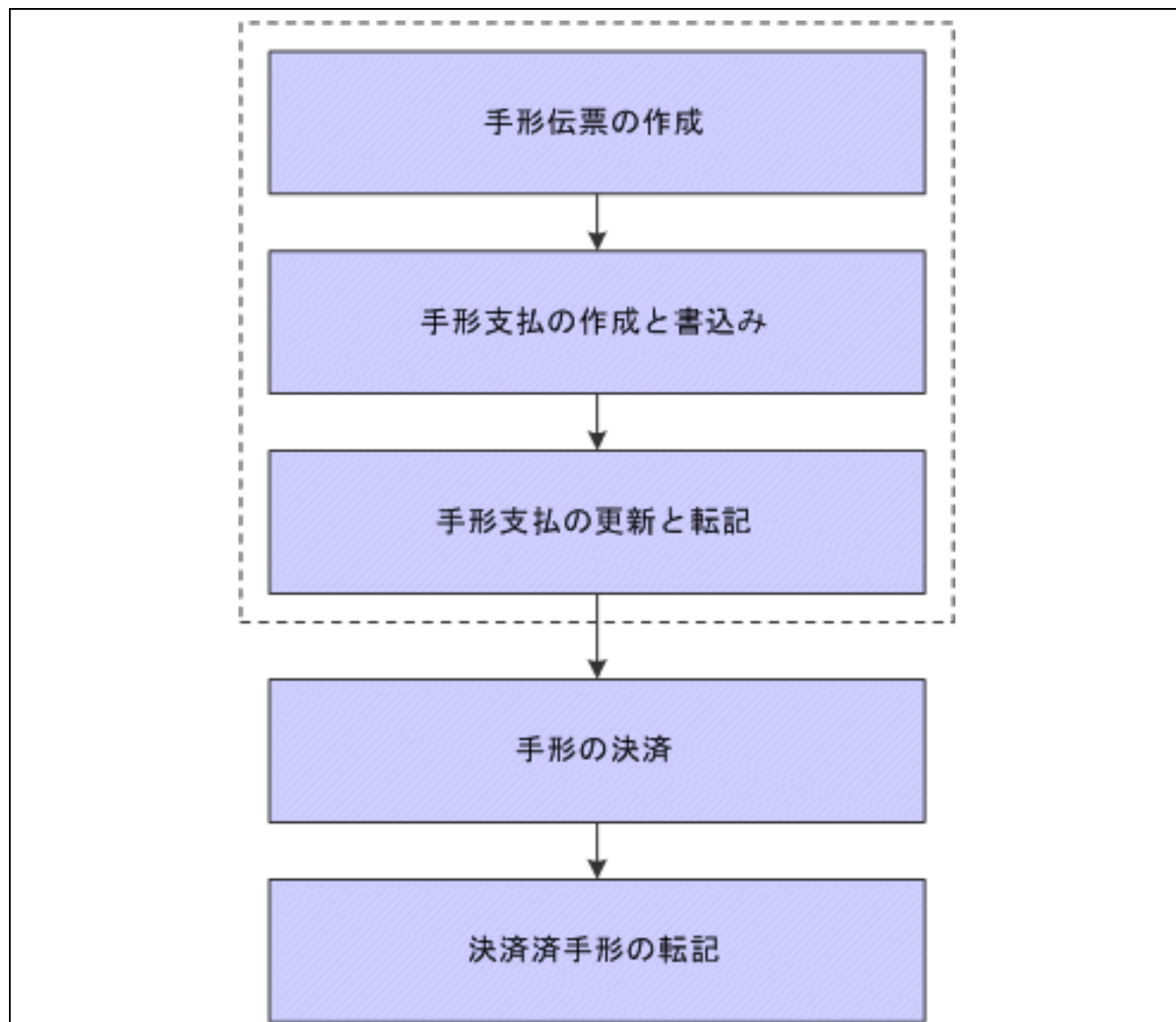
買掛金元帳の更新機能を使用して、次の処理が実行されます。

- 伝票タイプがP1の照合伝票が作成され、これにより当初伝票が決済済になります。
- 伝票タイプがP1で支払状況がD(手形受取済)の当初伝票が作成されます。

この伝票は当初伝票と差し替えられる手形です。

銀行が手形を処理して債務の支払が行われた後、手形の照会/選択プログラム(P04260)を使用して支払済の手形を決済し、支払手形の転記プログラム(R04803)を実行して決済済の手形を転記します。

次の図は、手形の処理プロセスを示しています。



手形の処理プロセス

手形支払の例

次の表は、伝票タイプと伝票番号を使って当初伝票に関連するレコードをグループ化する方法を示しています。この表の例では、2件の伝票が1件の手形に差し替えられます。各行は買掛管理のテーブルに作成される新しいレコードを示しています。

作業	伝票タイプ	伝票番号	金額	照合伝票タイプ	照合伝票番号
伝票の 入力	PV	456	50,000	なし	なし
	PV	457	50,000		

作業	伝票タイプ	伝票番号	金額	照合伝票タイプ	照合伝票番号
伝票の 決済	PV	456	50,000	P1	155
	PV	457	50,000	P1	155
手形の 作成	P1	155	100,000	なし	なし

支払済手形の無効化

なんらかの理由で支払済の手形を無効にする必要がある場合があります。たとえば、支払手形の転記プログラム (R04803) を実行した際に、エラーが発生した場合などです。

支払済手形を無効にする場合は、次の作業を行う必要があります。

1. 支払の無効プログラム (P0413M) を使用して手形を無効にします。
2. 仕訳を入力して銀行勘定の借方と支払手形勘定貸方にレコードを作成します。

支払を無効にしても自動的に逆仕訳は作成されないため、ユーザーがこの仕訳を作成する必要があります。

支払済手形の検討

仕入先元帳照会プログラム (P0411)、または仕入先支払照会プログラム (P0413M) を使用して支払済の手形を検討できます。

銀行が手形の支払番号を決定するため、同じ支払番号で別の仕入先へ支払った手形が存在する可能性があります。この場合、仕入先元帳照会プログラムで仕入先番号を指定して検索し、手形を照会すると、見出しに入力した仕入先に属するものは1つだけであるにもかかわらず、同じ支払番号の取引すべてが表示されます。このため、詳細を確認する際に「仕入先元帳照会」フォームで取引を選択することはお勧めしません。支払済手形の詳細を確認する際は、仕入先支払照会プログラムの使用をお勧めします。

関連項目:

[第 10 章、「自動支払処理」、「支払の書込み」、172 ページ](#)

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 支払手形の処理に必要な AAI (自動仕訳) の設定

参照: [第 2 章、「買掛管理システムの設定」、「買掛管理の AAI \(自動仕訳\) の設定」、17 ページ](#)

- 支払手形の処理に必要なユーザー定義コードの設定

参照: [第 2 章、「買掛管理システムの設定」、「買掛管理のユーザー定義コード \(UDC\) の設定」、10 ページ](#)

支払済手形の決済

この項では、支払済手形の決済の概要と、その方法について説明します。

支払済手形の決済方法について

手形を作成すると、手形伝票が銀行に送られます。手形が支払われたことがわかった時点で、手形を決済して総勘定元帳に転記します。手形を決済するには、手形の照会/選択プログラム(P04260)を使用して、決済する手形を選択します。手形の照会/選択プログラムでは、銀行勘定科目別に手形の一覧が表示されます。手形を選択したら、支払状況をD(手形受取済)から#(選択済)に変更します。

支払済手形の決済に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
支払手形の処理 - 照会/選択	W04260A	「自動支払処理」(G0413)、 「手形の照会/選択」	支払済手形の検討、選択、または選択解除を行います。

支払済手形の決済

「支払手形の処理 - 照会/選択」フォームにアクセスします。

決済済手形の転記

この項では、決済済手形の転記の概要と、次の方法について説明します。

- ・支払手形の転記プログラムの実行
- ・支払手形の転記(R04803)の処理オプションの設定

決済済手形の転記処理について

手形が支払われ決済された後、支払手形の転記プログラムを使用して総勘定元帳に転記します。この処理により、手形の支払状況は#(選択済)からP(支払済)に変更されます。これを受け、(借)支払手形/(貸)銀行勘定の仕訳が作成、転記され、転記レポートが印刷されます。

支払手形の転記プログラムの実行

「自動支払処理」(G0413)の「支払済手形の転記」を選択します。

支払手形の転記(R04803)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

プロセス

1. 支払完了日
支払完了日付を指定します。手形の日付がこの日付以前の未転記の手形がすべて処理されます。この処理オプションを空白にすると、現在の日付が使用されます。
2. テスト/最終モード
このプログラムを最終モードで実行してレポートおよび仕訳の作成を行うには「1」を入力します。空白にするとテスト・モードで実行され、レポートのみが作成されます。仕訳は作成されません。
3. 集計仕訳
集計仕訳を作成するには「1」を入力します。明細仕訳を作成する場合は空白にします。
4. 元帳日付
支払手形の仕訳の元帳日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、現在の日付が使用されます。
5. バッチ・ステータス
「買掛管理固定情報」フォームの「管理者承認」チェックボックスの設定に基づいてバッチ状況を割り当てます。値は次のとおりです。
空白: 承認済状況をバッチに割り当てます。
1: 「買掛管理固定情報」フォームの「管理者承認」チェックボックスの設定に基づいてバッチ状況を割り当てます。

通貨

1. 為替レートの一時的変更
支払手形の仕訳に適用する一時変更為替レートを指定します。この処理オプションを空白にすると、デフォルトの為替レートが使用されます。

第 13 章

手入力支払の処理

この章では、手入力支払の処理に関する概要と次の方法について説明します。

- 手入力支払（伝票照合あり）の入力
- 手入力支払（伝票照合なし）の入力
- 手入力支払の印刷
- 手入力支払の削除および無効化

注意: アルゼンチンおよびブラジルには、それぞれの国に固有の手入力支払機能が用意されています。

手入力支払の処理について

至急の支払が必要な場合は、次の支払サイクルまで待つ必要はありません。伝票の受領、未受領にかかわらず、支払を手入力できます。次のどちらの場合でも、手入力で支払処理を行うことができます。

- 伝票がある場合
- 伝票がない場合

既存の伝票に対して支払を入力するか、支払入力時に伝票を作成するかによって、支払の伝票タイプとバッチ・タイプは次のようになります。

伝票がある場合の支払

次に、伝票がある場合の支払を示します。

買掛伝票タイプ	PV
テーブル・ロー見出し	PR（定期伝票）
支払伝票タイプ	PN
バッチ・タイプ	M

伝票がない場合の支払

次に、伝票がない場合の支払を示します。

買掛伝票タイプ	PM
支払伝票タイプ	PN
バッチ・タイプ	W

手作業による支払入力プログラムでは、次の元帳テーブルに伝票および支払情報が保存されます。

- 買掛金元帳 (F0411)
- 買掛金照合伝票 (F0413)
- 買掛金照合伝票明細 (F0414)
- 取引明細 (F0911)

未転記の手入力支払の改訂

未転記の手入力支払の金額は変更できますが、支払対象の伝票は変更できません。たとえば、当初、伝票1001(伝票タイプPV)と照合した支払を伝票1002(伝票タイプPV)と照合することはできません。ただし、その支払を削除して、新しく入力した支払を別の伝票と照合することはできます。

重要: 支払額以外の詳細グリッドの情報を変更した場合は、支払を変更しているのではなく伝票を変更していることになります。支払が転記されない恐れがあります。支払情報を変更する場合は、支払を削除して始めからやりなおしてください。

手入力支払の検討

オンラインで手入力支払を検討するには、支払の検討プログラム(P0011)を使用します。レポート形式で支払を検討するには、支払仕訳帳レポート(R04311)を印刷します。このレポートは、チェック用および貸借一致確認用として使用します。総勘定元帳に貸借不一致の問題があり、詳しく調べる必要がある場合には、レポートを参照すると便利です。

手入力支払の承認と転記

転記前に管理者の承認が必要な場合は、支払の手動入力後に検討して承認します。支払の承認後、総勘定元帳への転記プログラム(R09801)を使用し、支払を総勘定元帳に転記します。

手入力支払を転記すると、買掛金のF0911テーブルに支払入力および相殺入力の仕訳が作成されます。伝票タイプPNの支払レコードも作成されます。通常、伝票の入力時に貸方に計上された買掛金勘定の仕訳が借方計上されます。

注意: 伝票照合なしで手入力した支払を転記した場合、為替差損益レコードは作成されません。このタイプのトランザクションは、伝票と小切手支払の組合せと判断されます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「財務取引の転記」

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「バッチ承認と転記セキュリティの設定」

付録 C、「JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理レポート」、「R04311 - 支払仕訳帳」、256ページ

手入力支払（伝票照合あり）の入力

この項では、手入力支払（伝票照合あり）の入力に関する概要と、次の方法について説明します。

- 支払入力（伝票照合あり）プログラム（P0413M）の処理オプション設定
- 手入力支払（伝票照合あり）の入力
- 手入力支払の支払項目の選択

手入力支払（伝票照合あり）について

すでに入力した伝票に対して手入力で支払を作成するには、伝票照合のある手入力支払の入力を行います。また、小切手を印刷するかどうかを指定します。印刷しない場合は、手作業で支払を行う必要があります。

システムでは、手入力支払に必要なレコード（支払番号）の予約、支払レコードの作成、伝票の支払状況の更新、および伝票の未決済金額の減額が行われます。「支払の手動入力」フォームの「小切手の印刷」チェックボックスで、小切手を印刷するかどうかを指定します。適用する支払手段や印刷プログラムのバージョン番号などは、「印刷」タブの処理オプションで指定できます。

手作業による支払入力を効率的に行うために、選択した支払項目の合計金額が自動的に計算されるように処理オプションで設定できます。支払項目を選択すると、支払合計額（割引がある場合は割引額を差し引いた金額）が自動的に入力されます。

注意: 処理オプションが支払金額を自動計算するように設定されている場合、当初選択した支払項目に後から支払項目を追加するときは、「支払金額」フィールドの値をクリアしないでください。かわりに、「フォーム」メニューの「支払項目」を選択します。「未払項目の選択」フォームで、支払項目を選択して「選択」をクリックします。「支払の手動入力」フォームで追加した支払項目を含む支払金額が再計算されます。

支払金額を手入力するように処理オプションが設定されている場合、支払項目を追加するには、「支払金額」フィールドの値をクリアします。「フォーム」メニューの「支払項目」を選択します。「未払項目の選択」フォームで、支払項目を選択して「選択」をクリックします。「支払の手動入力」フォームで新しい支払金額を入力します。

重要: 支払金額を一時変更すると、処理オプションも一時変更されます。支払金額は再計算されません。さらに変更を加える場合は、手作業で入力する必要があります。

支払金額は手入力することもできます。伝票の全額または一部分を指定して支払うことができます。手作業で支払金額を入力する場合は、詳細グリッドにカーソルを移動する前に必ず見出し領域に金額を入力してください。選択した各伝票に対する支払金額が計算されます。

「未払項目の選択」フォームの使い方

手入力で支払う伝票を選択するには、「未払項目の選択」フォームを使用します。このフォームを使用する際は、次のガイドラインに従ってください。

- 手入力で支払う支払項目を選択する際に、フォーム上で連続表示されていない複数の支払項目を選択するには、[Ctrl]キーを押しながら各支払項目をクリックします。
- 「未払項目の選択」フォームには、「集計」チェックボックスがあります。このチェックボックスを選択すると、伝票番号別に支払が表示されます。1件の手入力支払に、集計済と未集計両方の支払項目を混在させることはできません。それぞれ別の支払として処理する必要があります。

- 支払項目を選択して「選択」をクリックすると、伝票支払状況がZに変わります。これにより、再び支払に選択されることを防ぎます。

手入力支払(伝票照合あり)の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
支払の処理	W0413MB	「支払処理」(G0412)、「支払入力(伝票照合あり)」	手動による支払を行う仕入先番号のデフォルト値を入力し、検討または削除する既存の手入力支払を検出します。
支払の手動入力	W0413MA	「支払の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	支払情報を入力します。栽培業者管理情報のある伝票を選択すると、栽培業者管理フィールドに自動的に読み込まれます。
未払項目の選択	W0413ME	「支払の手動入力」フォームで、「フォーム」メニューの「支払項目」を選択します。	手入力で支払う支払項目を選択します。

支払入力(伝票照合あり)(P0413M)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト処理

1. 未決済支払項目の表示形式

「未払項目の選択」フォームで未払項目を表示する形式を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 未払項目が明細モードで表示されます。各支払項目が表示されます。

1: 未払項目が集計モードで表示されます。伝票番号と支払期日別に支払項目が表示されます。複数の支払項目を持つ伝票の各支払項目フィールドには、*が表示されます。伝票の支払項目の数を表示するには、「未払項目の選択」フォームの「集計」チェックボックスの選択を解除します。

注意: 「集計」チェックボックスは「仕入先元帳照会」フォームにもあります。ただし、このフォームで「集計」を選択した場合は、支払項目カラムはフォームの詳細グリッドに表示されません。

2. 支払番号の割当て

「銀行勘定科目の設定」フォームで指定の銀行勘定科目に対して設定された「支払番号 - 自動採番」フィールドの値に基づいて支払番号を割り当てる場合は、「1」を入力します。このフィールドは、「自動支払設定」メニュー(G04411)の「銀行勘定科目情報」から確認できます。

「支払の手動入力」フォームの「支払番号」フィールドを手入力するには、この処理オプションをブランクにします。

3. 支払金額の入力

選択した支払項目から支払金額を自動計算するには「1」を入力します。「支払の手動入力」フォームの「支払金額」フィールドを手入力するには、この処理オプションをブランクにします。

注意: 支払金額を手作業で入力する場合は、「フォーム」メニューから「支払項目」を選択して、支払を行う項目を選択する前に支払金額を入力する必要があります。

表示

1. 決済日付フィールドの表示

「支払の手動入力」フォームに「決済日付」フィールドを表示するには「1」を入力します。その場合、更新は手作業で行う必要があります。これは銀行が支払を処理する予定日付で、ヨーロッパの企業で使用されます。

処理

1. 手形入力オプションの表示

「支払の手動入力」フォームに「手形」チェックボックスを表示するには「1」を入力します。手形は、買掛伝票と同様に様々な通貨で決済できます。

注意: 「手形」のチェックボックスを選択した場合、支払タイプはPNからP1に変更されます。

2. 重複番号エラーメッセージ

同じ銀行勘定科目で重複する支払番号が入力されたときに警告メッセージを表示するには、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにした場合、エラー・メッセージが表示されます。

3. マイナスの支払額

マイナスの支払額を許可するかどうかを指定します。国によっては、未決済のデビット・メモは認められません。この場合、仕入先の小切手番号を使用して仕入先からの返金を記録するためにマイナスの支払額を入力します。仕入先の小切手をマイナス支払として転記すると、適切な勘定科目が正しい金額で更新されます。値は次のとおりです。

ブランク: マイナスの支払額は許可されません。

1: マイナスの支払額が許可されます。

4. 未転記自動支払の削除

未転記の自動支払の削除を許可するには「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、未転記の自動支払は削除されません。これらの支払は無効にすることができます。

注意: 未転記の自動支払を削除した場合、それらすべてのレコードはシステムから物理的に削除されます。監査証跡は残りません。削除ではなく無効にした場合は、その支払に対して伝票タイプPOの伝票が作成され、証跡はシステムに残ります。

5. 未転記支払(手入力)の削除

未転記の手入力支払の削除を許可するには「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、未転記の手入力支払は削除されません。これらの支払は無効にすることができます。

注意: 未転記の手入力支払を削除した場合、それらすべてのレコードはテーブルから物理的に削除されます。監査証跡は残りません。支払を無効にすると、伝票タイプPOの照合伝票が作成されます。この場合、監査証跡はシステムに残ります。

通貨

1. 代替支払

「フォーム」メニューの「代替支払」オプションを使用可能にするには「1」を入力します。「代替通貨入力」フォームを使うと、伝票の国内通貨/外貨以外の通貨で支払を実行できます。たとえば、伝票は外貨のカナダ・ドル(CAD)で入力され、国内通貨が米ドル(USD)だとします。この場合、カナダ・ドルや米ドル以外の通貨、たとえばユーロ(EUR)で支払うことができます。

2. 為替レート日付

為替レートの有効日付が、会社固定情報の総勘定元帳レポート期間と同一の期間内にあることを検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 検証は実行されず、すべての日付が許可されます。

1: 検証が実行され、有効日付が同じ総勘定元帳レポート期間にない場合は警告メッセージが表示されます。

3. 為替レート許容限度

為替レートの許容限度を指定します。支払入力中に、為替レート・テーブル(F0015)の為替レートを手動で一時変更できます。為替レート許容限度額の処理オプションでは、F0015テーブルの為替レートと比べて、どの程度異なる値を入力できるか、変更限度を指定します。

有効値は、F0015テーブルの為替レートに対するパーセント値(整数)です。たとえば、「5」を入力した場合、F0015テーブルの為替レートのプラスまたはマイナス5%の範囲内で為替レートを一時変更できます。

印刷

この処理オプションでは、手入力支払の印刷に関する変数を指定します。

1. 支払手段

支払手段を指定します。この処理オプションに入力する値によって、支払作成時に使用する印刷プログラムが決まります。

各支払手段には印刷プログラム番号が割り当てられています。割り当てられた印刷プログラムを表示するには、「自動支払設定」メニュー(G04411)の「支払手段デフォルト」を選択します。支払 - デフォルト印刷/更新テーブル(F0417)には、支払手段および割り当てられた印刷プログラムの情報が保存されています。たとえば、この処理オプションをブランクにすると、F0417テーブルのブランク値に割り当てられた印刷プログラムが使用されます。

2. 印刷プログラムのバージョン番号

印刷プログラムのバージョン番号を指定します。

有効なバージョン番号を表示するには、「システム・アドミニストレーション・ツール」メニュー(GH9011)の「バッチ・バージョン」を選択します。「バッチ・プログラムID」フィールドに印刷プログラム番号を入力して、「検索」をクリックします。使用可能なすべてのバージョンが表示されます。

この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

3. 印刷フィールド値の保持

「支払の手動入力」フォームの「小切手の印刷」チェックボックスの状況を変更するまで同じ状況にしておくかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 同じ状況で保持しない。同じバッチで最後に入力したレコードのこのチェックボックスの設定にかかわらず、次に「支払の手動入力」フォームを開く際、「小切手の印刷」チェックボックスの選択は解除されます。

1: 同じ状況で保持する。同じバッチのレコードであるかぎり、このチェックボックスの状況は初期設定時と同じ状態で保存されます。

無効

1. 購買オーダーのある伝票 支払の無効プログラムを使用する際に、購買オーダーのある伝票の削除に対する対処方法を指定します。値は次のとおりです。

blank: 購買オーダーのある伝票の無効化を許可し、メッセージを表示しない。

- 1: 警告メッセージを表示する。
- 2: エラー・メッセージを表示する。

注意: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムで当初入力した伝票の改訂または無効化を JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムで行うと、購買オーダー明細テーブル (F4311) の整合性が損なわれる可能性があります。

照会

1. 「OK」ボタンと「削除」ボタンの無効化

この処理オプションでは、支払の検討時に「支払の手動入力」フォームの「OK」ボタンおよび「削除」ボタンがグレー表示されるように設定できます。これにより、既存のレコードが変更されるのを防ぐことができます。手入力支払を検討するには、「仕入先および伝票の入力」メニュー (G0411) の「仕入先支払照会」を選択するか、または「支払処理」メニュー (G0412) の「支払入力 (伝票照合あり)」を選択します。値は次のとおりです。

blank: 検討時に「OK」と「削除」ボタンを使用可能にする。

- 1: 検討時に「OK」ボタンと「削除」ボタンをグレー表示する。

注意: この処理オプションに「1」を入力しても、初回支払の入力時は「OK」および「削除」ボタンは使用可能な状態になります。

相殺

1. 相殺プログラムのバージョン番号

使用する相殺プログラムのバージョン番号を指定します。この処理オプションを blank にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

手入力支払 (伝票照合あり) の入力

「支払の手動入力」フォームにアクセスします。

支払入力(伝票照合あり) - 支払の手動入力

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

支払番号	1002	前回支払		バッチ番号	7869
受取人番号 *	3480	Digger Enterprises		<input type="checkbox"/> 支払の印刷	
銀行口座番号	1.1110.FIB	First Interstate Bank			
支払金額	500.00	備考			
支払日付 *	2005/06/06			<input type="checkbox"/> 手形	
通貨コード	USD	為替レート		基本	USD <input type="checkbox"/> 外貨

レコード 1 - 1

伝票 タイプ	伝票 番号	会社	支払 項目	請求書 No.	期日	住所 番号	未決済 金額	支払 金額	割引 可能額

差額 500.00

「支払の手動入力」フォーム

支払番号

照合伝票(入金、支払、調整、返金など)の番号を入力します。当初伝票(データ項目DOC)を、請求書や伝票などの照合伝票(データ項目DOCM)で消し込みます。

異なる仕入先に対しては、支払番号を重複して使うことができます。次の組合せは、固有である必要があります。

支払番号

仕入先番号

銀行口座番号

手入力で作成した小切手や手形に、自動的に番号を割り当てるように処理オプションを設定できます。これにより、手入力/自動入力にかかわらず、すべての小切手および手形に連続する番号が割り当てられます。

受取人番号

仕入先または受取人の住所録番号を入力します。支払処理に代替受取人を使用している場合、仕入先ではなく受取人の住所録番号を入力する必要があります。

「未払項目の選択」フォームにアクセスすると、入力した番号が受取人番号としてみなされ、その番号が「受取人No.」フィールドに読み込まれます。表示する支払項目を決定するために、買掛金元帳テーブル(F0411)で、受取人番号フィールドの値が入力した番号と一致するすべての支払項目が検索されます。

参照: 第 13 章、「手入力支払の処理」、「手入力支払の支払項目の選択」、199ページ

決済日付

入金または支払金額が銀行勘定の借方または貸方に計上された日付を入力します。銀行が支払を決済した日付ではありません。自動支払の場合、このフィールドは自動的に入力されます。手動で支払を行う場合に、「決済日付」フィールドを表示するように処理オプションで指定しておくと、このフォーム上で決済日付を手入力できます。

支払金額	支払額を入力します。 適切な処理オプションを設定した状態でこのフィールドを空白にすると、「未払項目の選択」フォームで選択した支払項目が追加され、支払合計額（割引がある場合は割引額を差し引いた金額）が自動的に表示されます。
契約コード	栽培業者情報のある伝票を選択した場合、契約コードが表示されます。
区画コード	栽培業者情報のある伝票を選択した場合、区画を特定する栽培区画（F40G02）テーブルの値が表示されます。
収穫期	栽培業者情報のある伝票を選択した場合、収穫期を特定する収穫/栽培収穫（F40G03）テーブルの値が表示されます。
収穫サフィックス	栽培業者情報のある伝票を選択した場合、収穫に関する追加情報が表示されます。
契約ID	栽培業者情報のある伝票を選択した場合、契約番号が表示されます。
収穫ID	栽培業者情報のある伝票を選択した場合、収穫貯蔵用のコンテナ番号が表示されます。

手入力支払の支払項目の選択

「未払項目の選択」フォームにアクセスします。

支払入力(伝票照合あり) - 未払項目の選択

選択(S) 検索(O) 閉じる(L) ツール(T)

✓

🔍

✗

🔧

受取人No.

3480

Digger Enterprises

レコード 1 - 3

グリッドのカスタマイズ

	支払 タイプ	伝票 番号	伝票 会社	支払 項目	期日	未決済 金額	割引 実施額	為替 レート	通貨 コード	会社	支払 状況
<input type="checkbox"/>	PV		3110 00200	001	2004/12/01	112,500.00			USD	00200	A
<input type="checkbox"/>	PV		3109 00200	001	2004/12/31	80,000.00			USD	00200	A
<input type="checkbox"/>	PV		7624 00001	002	2005/07/15	200.00			USD	00200	A

☒ 集計

「未払項目の選択」フォーム

手入力で支払う伝票支払項目を選択し、「選択」をクリックします。

受取人番号フィールド(PYE)の住所録番号が「支払の手動入力」フォームに入力した番号と一致するすべての伝票支払項目が表示されます。

たとえば、仕入先番号4343の住所録レコードを設定し、「ファクタ/代替受取人」フィールドに「4242」と入力するとします。また、仕入先番号4141を設定し、その仕入先の「ファクタ/代替受取人」フィールドに「4242」と入力します。

住所録番号4242を使用して手入力支払を入力した場合、F0411テーブルの受取人番号フィールドの値が4242のすべての未払項目が表示されます。仕入先4343、4141および4242に対するすべての未払項目が含まれます。

住所録番号4343または4141使用して手入力支払を入力した場合、買掛金元帳テーブル(F0411)における仕入先4343および4141に対する支払項目の受取人番号フィールドの値が4242であるため、未払項目は表示されません。

注意: 伝票入力MBFプログラム(P0400047)の「代替受取人」処理オプションの設定によって、支払項目に対する受取人番号フィールドの住所録番号は、仕入先番号か代替受取人番号になります。

参照: 第 6 章、「買掛管理伝票の処理」、「伝票入力MBF(P0400047)の処理オプションの設定」、87 ページ

手入力支払(伝票照合なし)の入力

この項では、既存伝票のない手入力支払の入力の概要、事前設定、およびその入力方法について説明します。

既存伝票のない支払の入力について

既存の伝票がない場合に手入力支払を作成するには、伝票照合なしで手動による支払入力を行います。発注時または納品受取時にこの入力を行う場合もあります。複数の仕入先請求書に対して複数の支払項目を入力できますが、すべての支払項目に同じ請求書番号を使用する必要があります。

伝票と支払は、両方ともWタイプのバッチで作成されます。伝票と一致する伝票会社が割り当てられます。伝票番号の入力には次のいずれかの方法を選べます。

- 支払伝票番号を手入力する。
- 支払伝票番号が、自動採番によって割り当てられるようにする。

支払は、手作業でも自動的に印刷することもできます。自動的に支払を印刷する場合は、転記前に印刷する必要があります。

「勘定科目情報」フォームが表示される前に支払レコードの取消を選択すると、Wタイプのバッチには伝票レコードと支払レコードが存在する必要があるという警告メッセージが「伝票入力 - 支払情報」フォームに表示されます。警告を受けた後に取消を再びクリックすると、「仕入先元帳照会」フォームが表示されます。この場合、伝票レコードも支払レコードも作成されません。

伝票入力プログラム(P0411)、またはスピード伝票入力プログラム(P0411SV)を使用すると、伝票照合なしの手入力支払の入力ができます。

スピード伝票入力プログラムを使用した手入力支払の入力には、いくつかの制約があります。次の処理は実行できません。

- 手入力支払の変更、削除、または無効化
- 複数の支払項目や複数の仕入先請求書の入力
- モデル仕訳の作成または利用
- 銀行勘定科目の一時変更

伝票入力プログラムと支払入力(伝票照合なし)プログラム、および、スピード伝票入力プログラムとスピード支払入力プログラムでは、それぞれ処理オプションが同一です。

事前設定

手入力支払を作成するには、支払入力(伝票照合なし)の「手作業での支払」タブと、スピード支払入力の「支払」タブで、それぞれ適切な処理オプションを設定します。この設定をしないと伝票レコードのみが作成されます。支払レコードは生成されません。

参照: 第 6 章、「買掛管理伝票の処理」、「標準伝票入力(P0411)の処理オプションの設定」、80ページ

参照: 第 6 章、「買掛管理伝票の処理」、「スピード伝票入力(P0411SV)の処理オプションの設定」、94ページ

手入力支払(伝票照合なし)に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕入先元帳照会	W0411G	「支払処理」(G0412)、「支払入力(伝票照合なし)」	既存の伝票を確認し、支払を行う伝票が作成されていないことを確認します。
伝票入力 - 支払情報	W0411A	「仕入先元帳照会」フォームで、「追加」をクリックします。	伝票情報を入力します。 参照: 第 6 章、「買掛管理伝票の処理」、「標準伝票の入力」、89ページ
支払情報	W0411D	「伝票入力 - 支払情報」フォームで「OK」をクリックします。	支払番号と支払日付を入力します。
勘定科目情報	W0411K	「支払情報」フォームで「OK」をクリックします。	伝票の勘定科目情報を入力します。
スピード伝票入力	W0411SVA	「支払処理」(G0412)、「スピード支払入力」	スピード入力を使用して、伝票照合なしの手入力支払を入力します。

手入力支払(伝票照合なし)の入力

「伝票入力 - 支払情報」フォームにアクセスします。

伝票情報を入力して「OK」をクリックすると、次のフォームが表示されます。

支払入力(伝票照合なし) - 支払情報

OK(O) 取消(L) ツール(T)

支払日付	2008/11/26
支払No.	5038
支払金額	10,000.00

「支払情報」フォーム

請求書日付

仕入先からの請求書の日付を入力します。

	伝票のデフォルト日付は元帳日付です。
備考	支払控えに印刷する備考を入力します。
受取人No.	受取人の住所録番号を入力します。
支払日付	様々なタイプの正味支払指示に関連付けられた日付を入力します。この日付は、給与小切手、仮払、銀行自動振込通知、給与支払通知（現金）、または保証請求払い戻しに関連します。
支払No.	照合伝票（入金、支払、調整、返金など）の番号を入力します。当初伝票（DOC）を、請求書や伝票などの照合伝票（DOCM）で消し込みます。 異なる仕入先に対しては、支払番号を重複して使うことができます。次の組合せは、固有である必要があります。 支払番号 仕入先番号 銀行口座番号 処理オプションの設定により、銀行/支店マスター（F0030）の銀行勘定科目の次の支払番号を表示することができます。

手入力支払の印刷

この項では、手入力支払の印刷の概要と、その方法について説明します。

手入力支払の印刷方法について

通常、手入力支払の印刷は支払を入力する際に行います。ただし、支払が未転記であれば、印刷はいつでも実行できます。次のプログラムから手入力支払を印刷できます。

- 支払入力（伝票照合なし）（P0411）
- 支払入力（伝票照合あり）（P0413M）

「支払の手動入力」フォームで「フォーム」メニューの「印刷」オプションを使用すれば、UPDATEモードで「OK」ボタンが無効になっていても支払を印刷できます。たとえば、伝票照合（Wタイプのバッチ）のない手入力支払について問い合わせる場合、このオプションを使用できます。このタイプのバッチでは「OK」ボタンが無効になっているため、支払の印刷に「印刷」チェックボックスは使用できません。支払を印刷するには、かわりに「印刷」オプションを使用します。

注意: 追加モードでは「印刷」オプションは無効です。

「小切手の印刷」チェックボックスを選択すると、次のレポートが順番に実行されます。

1. 支払グループの作成（R04570M）
2. 自動支払 - ドライバ印刷（R04571）
3. 自動支払（小切手 - 標準形式）（R04572）

手入力支払に関連する銀行勘定科目が添付を印刷するように設定されている場合、買掛小切手処理 - 特殊小切手添付レポート（R04573）も実行されます。

デビット・メモの支払がある場合、支払デビット・メモの印刷レポート(R04574)も実行されます。

支払入力(伝票照合あり)プログラムの「印刷プログラムのバージョン番号」処理オプションで使用する印刷プログラムのバージョンを指定できます。支払入力(伝票照合なし)プログラム、または支払入力(伝票照合あり)プログラムのどちらを使って支払の印刷を実行するかにかかわらず、適用する印刷プログラムのバージョンは前述の方法で指定します。

手入力支払の印刷に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
支払の処理	W0413MB	「支払処理」(G0412)、「支払入力(伝票照合あり)」	印刷する支払を検索し、選択します。
支払の手動入力	W0413MA	「支払の処理」フォームで「選択」をクリックします。	「小切手の印刷」チェックボックスを選択して支払を印刷します。
仕入先元帳照会	W0411G	「支払処理」(G0412)、「支払入力(伝票照合なし)」	印刷する支払を検索し、選択します。
支払項目履歴の処理	W0414A	「仕入先元帳照会」フォームで、「支払履歴」を選択します。	印刷する支払を選択します。
支払の手動入力	W0413MA	「支払項目履歴の処理」フォームで、「ロー」メニューの「支払」を選択します。	「小切手の印刷」チェックボックスを選択して支払を印刷します。

手入力支払の印刷

「支払の処理」または「仕入先元帳照会」フォームにアクセスします。

手入力支払の削除および無効化

この項では、手入力支払の削除および無効化の概要と、その方法について説明します。

手入力支払の削除および無効化方法について

伝票照合なし、または伝票照合ありの手入力支払を削除する場合は、支払の無効プログラムを使用します。支払をシステムから削除するには、削除または無効にします。支払を無効にした場合は監査証跡が作成されますが、削除した場合には証跡は作成されません。

手入力支払が転記されている場合は、無効化処理のみが可能となります。転記済の手入力支払を無効にすると、次の処理が実行されます。

- バッチ状況が承認済に戻され、支払バッチが再オープンされます。これにより、逆仕訳を転記できるようになります。
- 伝票の支払状況がAに戻され、当初の未決済金額が「未決済金額」フィールドに入力され、支払に関連した伝票が再オープンされます。

手入力支払が未転記の場合は、支払を無効化または削除できます。ただし、すべての手入力支払の監査証跡を残しておく場合は、支払入力(伝票照合あり)プログラムの「未転記支払(手入力)の削除」処理オプションを使用して未転記支払の削除を禁止できます。この処理オプションで「1」を入力すると、未転記の支払を削除できます。この処理オプションを空白にした場合、未転記の手入力支払を削除しようとするとエラーが表示されます。

未転記の手入力支払を無効にすると、次の処理が実行されます。

- 支払を転記した際に、支払の仕訳と無効化のための逆仕訳の両方が作成されます。
- 支払状況がAに戻され、当初の未決済金額が「未決済金額」フィールドに入力され、支払に関連した伝票が再オープンされます。

未転記の手入力支払を削除すると、次の処理が実行されます。

- システムから支払レコードが完全に削除されます。
- 支払状況がAに戻され、当初の未決済金額が「未決済金額」フィールドに入力され、支払に関連した伝票が再オープンされます。

支払に関連する伝票の無効化

手入力支払の無効化を選択すると、同時に関連する伝票も無効にできます。関連する伝票を無効にする場合は、次のガイドラインが適用されます。

- 支払と伝票の両方が未転記の場合、支払は無効化され、伝票は削除されます。
- 支払は転記済で伝票が未転記の場合、支払は無効化されますが、伝票を無効にしようとしても、少なくとも1つの伝票が無効化されないという内容のエラーが発生します。このエラーにより、無効になった支払に関連する伝票を削除したり、関連する伝票が存在しない支払の監査証跡が残ったりすることを妨げます。
- 支払は未転記で伝票が転記済の場合は、支払も伝票も無効化されます。

注意: 未転記の支払を削除する際に、関連する伝票は無効化できません。伝票の無効化は、支払の削除とは別に行う必要があります。

支払入力(伝票照合なし)プログラムを使用した支払の無効化

伝票照合なしの手入力支払を無効にするには、支払の無効プログラムの他に、支払入力(伝票照合なし)プログラムも使用できます。

支払入力(伝票照合なし)プログラムを使用して支払を無効にする際は、同時に伝票を無効にするオプションが常に選択されています。

伝票照合なしの支払では、伝票が同じバッチに存在するため、支払と伝票の転記済状況は常に同じです。

支払と伝票が未転記の場合は、次の処理が実行されます。

- 転記した際に支払が無効化され、無効化のための逆仕訳が作成されます。
- 伝票の支払状況がAに戻され、当初の未決済金額が「未決済金額」フィールドに入力され、支払に関連した伝票が再オープンされます。

注意: 支払入力(伝票照合あり)プログラムの「未転記支払(手入力)の削除」処理オプションが空白の場合は、伝票と支払の両方が削除されます。

支払と伝票の両方が転記済の場合は、次の処理が実行されます。

- 転記した際に支払が無効化され、無効化のための逆仕訳が作成されます。

- ・ 転記した際に伝票が無効化され、無効化のための逆仕訳が作成されます。

事前設定

支払入力(伝票照合あり)または支払入力(伝票照合なし)プログラムで未転記の手入力支払を削除する場合は、支払入力(伝票照合あり)プログラムの処理オプションの「処理」タブにある「未転記支払(手入力)の削除」処理オプションが、支払を削除できるように設定されていることを確認してください。

手入力支払(伝票照合あり/なし)の削除および無効化に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
支払の処理	W0413MB	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「支払処理」(G0412)、 「支払の無効」 ・ 「支払処理」(G0412)、 「支払入力(伝票照合なし)」 	無効にする支払を検索し、選択します。また、このフォームからは支払を削除することもできます。
支払の無効	W0413VA	「支払の処理」フォームで、「ロー」メニューの「支払の無効」を選択します。	支払および必要に応じて支払に関連する伝票を無効にします。また、支払の元帳日付がデフォルト日付として適用されているため、「無効日付」フィールドを変更することもできます。
支払無効の確認	W0413VB	「支払の無効」フォームで「OK」をクリックします。	支払の無効化を続行することを認証します。

手入力支払の無効化

「支払の無効」フォームにアクセスします。

無効日付

無効化したトランザクションを転記する会計期間を特定する日付を入力します。会計期間は、会社固定情報テーブル(F0010)で設定します。

支払の元帳日付が、無効日付のデフォルト日付として使用されます。前の期間に支払を発行した場合、前期間の再オープンを避けるために「無効日付」を変更する必要がある場合があります。

伝票を無効にする

関連する伝票を削除する場合に選択します。

第 14 章

プラス支払の使い方

この章では、プラス支払プロセスの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- プラス支払テキスト・ファイルの作成
- プラス支払テキスト・ファイルのコピー

プラス支払について

テクノロジーの進化に伴い、不正な取引に使用される偽造小切手や偽装IDがより巧妙化しています。このような状況に対応するために、企業などの組織では、小切手詐欺への防衛策を慣例化する必要が生じています。プラス支払の機能を使用して、小切手の支払を行うかどうかの判断に銀行などの金融機関が使用できる小切手情報のファイルを作成し、詐欺行為から業務を守ることができます。

プラス支払の使用時には、当日中に印刷された各小切手の小切手番号、日付、金額、口座番号などの情報を含む、銀行用のファイルを作成します。銀行では、小切手の情報と、受信したファイルの情報が比較され、整合しない小切手がある場合、支払は行われません。

プラス支払テキスト・ファイルの作成プログラム(R04586)を実行して、銀行に送信するテキスト・ファイルを作成します。このプログラムを実行した後に、テキスト・ファイル処理プログラム(P007101)を使用して、テキスト・ファイルを自分のPCの指定の場所にコピーします。テキスト・ファイルがコピーできたら、銀行で使用されているフォーマットでそのファイルを保存します。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- すべての支払グループが更新済であること
- すべての手入力支払が入力済であること
- すべての必要な支払が無効化されていること
- プラス支払で使用する各銀行勘定について、口座番号と銀行/支店コードが入力されていること

プラス支払テキスト・ファイルの作成

この項では、プラス支払テキスト・ファイルの作成の概要と、次の方法について説明します。

- プラス支払テキスト・ファイルの作成プログラムの実行
- プラス支払テキスト・ファイルの作成 (R04586) の処理オプションの設定

プラス支払テキスト・ファイルの作成プログラムについて

各営業日の終わりに、プラス支払テキスト・ファイルの作成プログラムを実行して、銀行に送信するプラス支払テキスト・ファイルを作成します。このプログラムを実行すると、買掛金照合伝票テーブル (F0413) から支払レコードが選択され、テキスト処理見出しテーブル (F007101) とテキスト処理明細テーブル (F007111) にそれらのレコードのデータが入力されます。

F0413テーブルから選択されるレコードは、次の条件を満たしている必要があります。

- 支払日が、プラス支払テキスト・ファイルの作成プログラムの「終了日付」処理オプションで指定した日付と同じかそれより前である。
- まだ無効化されていない支払の場合、プラス支払フラグ・フィールド (GFL7) の値がblankである。
支払がテキスト・ファイルに書き込まれ、プラス支払フラグ・フィールドの値が1に変更されます。このプログラムを次に実行する際には、この支払は処理対象に含まれません。
- 無効化された支払の場合、プラス支払フラグ・フィールドの値が1またはblankである。
- 無効化済の支払のプラス支払フラグ・フィールドの値「1」は、その支払がプラス支払テキスト・ファイルに書き込まれた後で無効化されたことを示す。
- 無効化済の支払のプラス支払フラグ・フィールドの値「blank」は、その支払がまだ一度もプラス支払テキスト・ファイルに書き込まれていないことを示す。

支払が無効化済としてテキスト・ファイルに書き込まれ、プラス支払フラグ・フィールドの値が2に変更されます。このプログラムを次に実行する際には、この支払は処理対象に含まれません。

各銀行のプラス支払テキスト・ファイルについて1つの見出しレコードがF007101テーブルに作成され、そのレコードには次の情報が含まれます。

- レコード・タイプ・コード
このコードは、レコードが見出し、明細、監査証跡のいずれであるかを示します。値1は見出しレコード、2は明細レコード、3は監査証跡レコードであることを示します。
- 銀行/支店コード、経路コード
- 会社名
プラス支払テキスト・ファイルの作成プログラムの「会社名」処理オプションで指定した値が使用されます。
- 作成日付
- 作成時刻

プラス支払テキスト・ファイル内の支払当たり1つの明細レコードがF007111テーブルに作成され、各支払には次の情報が含まれます。

- レコード・タイプ・コード
- 銀行口座番号
- 小切手番号
- 受取人名

プラス支払テキスト・ファイルの作成プログラムの「受取人名」処理オプションで指定した値が使用されます。

- 小切手金額
- 通貨コード
- 小切手日付
- 無効日付
- 状況

F007101テーブルとF007111テーブルに作成された情報の一覧を含むレポートも作成されます。このレポートには、レポート上の各カラムの見出しが含まれているため、プラス支払テキスト・ファイルのデータを検討する際には、それらを検索キーとして使用できます。

プラス支払テキスト・ファイルの作成プログラムの実行後には、テキスト・ファイル処理プログラムを使用して、テキスト・ファイルを自分のPC内の指定された場所にコピーします。これによって、銀行の要件に沿ったフォーマットでテキスト・ファイルを保存し、銀行に送信できます。

プラス支払テキスト・ファイルの作成プログラムの実行

「自動支払処理」(G0413)の「プラス支払テキスト・ファイルの作成」を選択します。

「支払処理」(G0412)の「プラス支払テキスト・ファイルの作成」を選択します。

プラス支払テキスト・ファイルの作成(R04586)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理オプション

1. 終了日付

プラス支払処理の終了日付を指定します。この日付以前の支払で、プラス支払テキスト・ファイルに含まれていないすべての支払が処理されます。この処理オプションを空白にすると、現在の日付が使用されます。

2. 会社名

プラス支払テキスト・ファイルで会社名として使用される名称を指定します。値は次のとおりです。

空白: 会社固定情報テーブル(F0010)に指定されている会社の名前を使用します。

1: 会社の住所録レコードの名称フィールドに指定されている値を使用します。

2: 会社の住所録レコードの郵送宛名フィールドに指定されている値を使用します。

3. 受取人名

プラス支払テキスト・ファイルで受取人名として使用される名称を指定します。値は次のとおりです。

空白: 受取人の住所録レコードの名称フィールドに指定されている値を使用します。

1: 受取人の住所録レコードの郵送宛名フィールドに指定されている値を使用します。

プラス支払テキスト・ファイルのコピー

この項では、プラス支払テキスト・ファイルのコピーの概要について説明します。

テキスト・ファイル処理プログラムについて

プラス支払テキスト・ファイルの作成プログラム (R04586) を実行してテキスト・ファイルを作成した後、そのテキスト・ファイルを自分のPCの指定された場所にコピーします。テキスト・ファイルのコピーを実行する際には、ファイル名とパスの他に、既存のテキスト・ファイルを上書きするかどうかも指定してください。

テキスト・ファイルのコピーが完了したら、銀行の要件に合わせたフォーマットで保存し、銀行に送信できます。

テキスト・ファイル処理プログラムには、「自動支払処理」メニュー (G0413) または「支払処理」メニュー (G0412) からアクセスできます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「テキスト・ファイル処理の利用」

第 15 章

基準日レポートの作成

この章では、基準日処理の概要と、次の方法について説明します。

- 日付ファイルの作成
- 基準日未決済買掛金集計レポートの実行
- 基準日買掛金明細(備考付き)レポートの実行
- 基準日未決済買掛金明細(年齢調べ付き)レポートの実行

基準日処理について

基準日処理の機能によって、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの集計/明細レポートを、レポートの実行時の日付ではなく、指定した日付で実行できます。このように作成したレポートを、期末に作成する総勘定元帳の勘定残高のレポートの補助として使用できます。当期末のデータ入力が必要な期間の最初の数日までかかって行われたり、期末日の前に次の期間のデータ入力が始まる場合があるため、基準日のデータとリアルタイムのデータには大きな差異があります。

これらのレポートを印刷し、検討するには、日付ファイルの作成レポート(R04901A)を実行して、指定した日付を基準とするF0411テーブルの正確なデータを取得する必要があります。指定した期間のファイルを作成すると、その期間の買掛取引の未決済残高と買掛金勘定の残高を比較できます。すべての取引が総勘定元帳に転記済みであり、勘定残高が正しく更新されていれば、この2つの残高は一致します。

日付ファイルで指定されている期間であれば、どの期間についてもレポートを実行できるため、基準日レポートを会計監査に活用できます。

また、基準日レポートは、データに関する問題の解決にも有効です。

日付ファイルの作成

この項では、日付ファイルの作成レポートの概要と、次の方法について説明します。

- 日付ファイルの作成レポートの実行
- 日付ファイルの作成(R04901A)の処理オプションの設定

日付ファイルの作成レポートについて

基準日レポートを実行するには、まず日付テーブルを作成する必要があります。システム内の処理では、最初の処理オプションで指定した日付と、すべての買掛取引の元帳日付が比較されます。伝票の未決済金額は、その伝票の、元帳日付の時間枠内での総額、調整額、および支払取引に基づいて計算されます。

日付ファイルの作成レポートを実行すると、処理オプションが適切に設定されている場合には、次の3つのワークテーブルが更新されます。

- F0411Aテーブル (F0411テーブルに基づく)
- F0413Aテーブル (F0413テーブルに基づく)
- F0414Aテーブル (F0414テーブルに基づく)

指定した日付の支払情報を含むカスタム・レポートを作成するには、F0413AテーブルとF0414テーブルを使用します。

未決済項目のみを更新する場合、システム内の処理では、「基準日」処理オプションで入力した日付とレコードの元帳日付が次のように比較されます。

- 伝票の元帳日付が、入力した日付より後の場合、F0411Aテーブルは更新されません。
- 伝票の元帳日付が、入力した日付と同じかそれ以前の場合、伝票はテーブルに書き込まれますが、伝票の未決済金額を算出するには、調整額レコード (伝票の無効化を含む) と支払レコードを計算に含める必要があります。
- 調整額や支払レコードの元帳日付が、入力した日付より後の場合、そのレコードは未決済金額の計算には含まれません。

伝票の未決済金額は、総額と同じです。

- 調整レコードまたは支払レコードの元帳日付が、入力した日付と同じかそれより前の場合は、調整額または支払額が伝票の総額から差し引かれて更新されます。これにより伝票の総額は未決済になります。

未決済の項目のみを更新する場合、レコードはF0411Aテーブルのみに書き込まれます。F0411テーブルに未決済の金額がある場合、支払状況は自動的にA (承認済) に設定されます。

未決済レコードと支払済レコードの両方をワークテーブルに更新する場合でも、入力した日付との比較は行われますが、入力した日付と同じかそれより前の元帳日付のある支払レコードも、F0413AテーブルとF0414Aテーブルに合せて更新されます。F0411テーブルに未決済金額が存在しない場合、支払状況は自動的にP (支払済) に設定されます。

次の場合にかぎり、支払済のレコードをワークテーブルに更新する必要があります。

- 実行中のレポートに支払済情報を含める場合
- レポートに前払済の伝票を含める場合

支払レコードの元帳日付が伝票の元帳日付よりも前の場合、伝票は前払とみなされます。未決済と支払済の両方のワークテーブルを作成する場合は、未決済レコードのみを対象とする場合より処理時間がかかります。

注意: 処理時間を確保するために、日付ファイルの作成レポートは営業時間外に実行してください。

日付ファイルの作成レポートの実行

「期末処理」(G0421) の「日付ファイルの生成」を選択します。

日付ファイルの作成 (R04901A) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

1. 基準日

基準日を指定します。この処理オプションをblankにすると、現在の日付が使用されます。

2. 更新オプション

次のテーブルに更新するレコードを指定します。

- F0411A
- F0413A
- F0414A

値は次のとおりです。

blank: 未決済のレコードのみをF0411Aテーブルに更新します。

1: 未決済レコードと支払済レコードをF0411Aテーブルに更新します。また、支払済の項目に関連する支払レコードをF0413AテーブルとF0414Aテーブルに更新します。

注意: 支払済のレコードを更新対象に含めると、処理にかかる時間が長くなります。

3. 前払の備考

前払をF0411Aテーブルに更新する場合に、前払の“備考”フィールドがどのように入力されるかを指定します。前払とは、元帳日付が基準日より後であり、支払が基準日より前に行われた伝票です。値は次のとおりです。

blank: 当初の備考フィールドの値が書き込まれます。

1: 支払タイプと支払番号で前払の備考が上書きされます。

基準日未決済買掛金集計レポートの実行

このレポートによって、指定した日付時点での各仕入先の集計情報と年齢調べ情報を収集できます。

この項では、事前設定および次の方法について説明します。

- 基準日未決済買掛金集計レポートの作成
- 基準日未決済買掛金集計レポート(R04413C)の処理オプションの設定

事前設定

日付ファイルの作成レポートを使用して正しい基準日の日付テーブルを作成したことを確認してください。

基準日未決済買掛金集計レポートの作成

「期末処理」(G0421)で、「未決済買掛金集計レポート」、「基準日未決済買掛金集計レポート」の順に選択します。

基準日未決済買掛金集計レポート(R04413C)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

年齢調べ

1. 年齢調べ設定

F0009テーブルから年齢調べ設定を取得するための、年齢調べ処理オプションにかわる方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 処理オプションに設定されている情報に基づいて年齢調べが行われます。

1: 固定情報の経過日数を使用して支払期日を基準に取引の年齢調べを行います。

2. 日付タイプ

「年齢調べ設定」処理オプションを、年齢調べ処理オプションを使用するように設定した場合に、未決済残高の年齢調べがどの伝票日付で行われるかを指定します。この日付と年齢調べ日付の比較によって、各取引に該当する年齢調べ期間が決定されます。

買掛管理固定情報の設定に基づいて年齢調べを行うように指定した場合、この処理オプションは無視され、支払期日が使用されます。値は次のとおりです。

ブランクまたはD: 支払期日

G: 元帳日付

I: 請求書日付

3. 年齢調べ方法

年齢調べ処理オプションを使用するように設定した場合に、年齢調べに使用される期間を指定します。

買掛管理固定情報の設定に基づいて年齢調べを行うように指定した場合、この処理オプションは無視されます。値は次のとおりです。

ブランクまたは1: 経過日数

2: 会計期間

3: カレンダー月

4. 経過日数

年齢調べカテゴリ1、年齢調べカテゴリ2、年齢調べカテゴリ3、年齢調べカテゴリ4、年齢調べカテゴリ5

年齢調べの間隔を指定します。たとえば、各「年齢調べカテゴリ」処理オプションに指定した値が30、0、30、60、90である場合、レポートの5つの年齢調べカラムは、「現行」、「1から30」、「31から60」、「61から90」、「91から」になります。

これらの処理オプションは、年齢調べ処理オプションを使用するために「年齢調べ設定」処理オプションをブランクにした場合と、経過日数を使用するために「年齢調べ方法」処理オプションをブランクにした場合にのみ適用されます。

5. マイナス金額の年齢調べ

該当する年齢調べカラムに対して貸方の消込を行うには、「1」を入力します。「現行」年齢調べカラムに対して貸方の消込を行うには、この処理オプションをブランクにします。

印刷

1. 支払の保留

支払保留中の仕入先をレポート対象から除外するには、「1」を入力します。すべての仕入先を対象にレポートを実行するには、この処理オプションをブランクにします。

基準日買掛金明細(備考付き)レポートの実行

この項では、基準日買掛金明細(備考付き)レポートの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 基準日買掛金明細(備考付き)レポートの作成
- 基準日買掛金明細(備考付き)レポート(R04423C)の処理オプションの設定

基準日買掛金明細(備考付き)レポートについて

指定した日付時点での買掛金元帳の情報を検討するには、基準日買掛金明細(備考付き)レポートを実行します。

このレポートを問題解決のツールとして使用します。たとえば、このレポートを使用して、総勘定元帳の買掛金期末残高と買掛金取引残高を比較できます。

このレポートには、処理オプションで指定した基準日と、日付テーブルの作成時に指定した日付時点での情報が含まれます。

事前設定

日付ファイルの作成レポートを使用して正しい基準日の日付テーブルを作成したことを確認してください。

基準日買掛金明細(備考付き)レポートの作成

「期末処理」(G0421)で、「未決済買掛金明細レポート」、「基準日買掛金明細 - 備考付き」の順に選択します。

基準日買掛金明細(備考付き)(R04423C)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷

1. 支払の保留

支払保留中の仕入先をレポート対象から除外するには、「1」を入力します。

2. 定期伝票情報

定期伝票情報を印刷するには、「1」を入力します。

3. 支払残回数

「定期伝票情報」処理オプションで、定期情報を印刷するように設定した場合は、レポートでハイライト表示する支払残回数を指定します。支払残回数が指定回数以下の伝票の場合、支払残回数の横に3つのアスタリスク(***)が印刷されます。

4. 支払情報

レポートに支払情報を印刷するには、「1」を入力します。

5. 支払金額を当初の合計に含める

「支払情報」処理オプションが支払情報を印刷するように設定されている場合に、当初金額のカラム合計に支払金額を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 支払金額を合計に含めません。

1: 支払金額を合計に含めます。

基準日未決済買掛金明細(年齢調べ付き)レポートの実行

この項では、基準日未決済買掛金明細(年齢調べ付き)レポートの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 基準日未決済買掛金明細(年齢調べ付き)レポートの作成
- 基準日未決済買掛金明細(年齢調べ付き)レポート(R04423D)の処理オプションの設定

基準日未決済買掛金明細(年齢調べ付き)レポートについて

指定した日付時点での買掛金元帳の情報を検討するには、基準日未決済買掛金明細(年齢調べ付き)レポートを実行します。

このレポートを問題解決のツールとして使用します。たとえば、このレポートを使用して、総勘定元帳の買掛金期末残高と買掛金取引残高を比較できます。

このレポートには、処理オプションで指定した基準日と、日付テーブルの作成時に指定した日付時点での情報が含まれます。

事前設定

日付ファイルの作成レポートを使用して正しい基準日の日付テーブルを作成したことを確認してください。

基準日未決済買掛金明細(年齢調べ付き)レポートの作成

「期末処理」(G0421)メニューで、「未決済買掛金明細レポート」、「基準日未決済買掛金明細 - 年齢調べ付き」の順に選択します。

基準日未決済買掛金明細(年齢調べ付き)(R04423D)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

年齢調べ

1. 年齢調べ設定

F0009テーブルから年齢調べ設定を取得するための、年齢調べ処理オプションにかわる方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 処理オプションに設定されている情報に基づいて年齢調べが行われます。

1: 買掛管理固定情報の経過日数を使用して支払期日を基準に取引の年齢調べを行います。

2. 日付タイプ

年齢調べオプションを使用するように「年齢調べ設定」処理オプションを設定した場合に、未決済残高の年齢調べに使用される伝票の日付を指定します。この日付と年齢調べ日付を比較して、各取引が該当する年齢調べ期間が決定されます。値は次のとおりです。

ブランクまたはD: 支払期日を使用して伝票の年齢調べを実行します。

G: 元帳日付を使用して伝票の年齢調べを実行します。

I: 請求書日付を使用して伝票の年齢調べを実行します。

3. 年齢調べ方法

年齢調べ処理オプションを使用するように設定した場合に、年齢調べに使用される期間を指定します。

買掛管理固定情報の設定に基づいて年齢調べを行うよう指定した場合、この処理オプションは無視されます。値は次のとおりです。

ブランクまたは1: 経過日数

2: 会計期間

3: カレンダー月

4. 経過日数

年齢調べカテゴリ1、年齢調べカテゴリ2、年齢調べカテゴリ3、年齢調べカテゴリ4

前述の処理オプションを使用して、年齢調べの間隔を指定します。たとえば、各「年齢調べカテゴリ」処理オプションに指定した値が30、0、30、60である場合、レポートの4つの年齢調べカラムは、「現行」、「1から30」、「31から60」、「61から」になります。

これらの処理オプションは、年齢調べ処理オプションを使用するために「年齢調べ設定」処理オプションをブランクにした場合と、経過日数を使用するために「年齢調べ方法」処理オプションをブランクにした場合にのみ適用されます。

5. マイナス金額の年齢調べ

マイナス金額の年齢調べを行う方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「現行」年齢調べカラムに対して貸方の消込を行います。

1: マイナス金額の年齢調べを行います。

印刷

1. 支払の保留

支払保留中の仕入先をレポート対象から除外するかどうかを指定します。仕入先の保留状況は、F0401テーブルの支払保留コードで指定されています。値は次のとおりです。

ブランク: すべての仕入先を印刷します。

1: 支払保留の仕入先を除外します。

2. 定期伝票情報

定期伝票情報を印刷するには、「1」を入力します。

3. 支払残回数

「定期伝票情報」処理オプションで、定期情報を印刷するように設定した場合は、レポートでハイライト表示する支払残回数を指定します。支払残回数が指定回数以下の伝票の場合、支払残回数の横に3つのアスタリスク (***) が印刷されます。

4. 支払情報

レポートに支払情報を印刷するには、「1」を入力します。

**5. 支払金額を当初の合計
に含める**

「支払情報」処理オプションが支払情報を印刷するように設定されている場合に、当初金額のカラム合計に支払金額を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 支払金額を合計に含めません。

1: 支払金額を合計に含めます。

第 16 章

買掛管理データの整合性検証

この章では、買掛管理の整合性レポートの概要と、次の方法について説明します。

- 買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)レポートの実行
- 買掛金元帳 - 総勘定元帳(支払)レポートの実行
- 買掛金元帳 - 総勘定元帳(勘定科目)レポートの実行
- 支払 - 買掛金(更新)レポートの実行
- 貸借不一致の訂正

買掛管理の整合性レポートについて

整合性レポートによって特定されたデータの問題や不一致を解決することにより、システム間の整合性を保つことができます。これらのレポートを使用して、買掛金データと総勘定元帳データが一致していることや、買掛金取引の支払状況が正しいことを確認します。

整合性レポートは現行日付でのみ実行できます。整合性レポートには、基準日機能はありません。つまり、月末など特定の日付を指定してレポートを実行し、その日付時点でのデータの整合性は確認できません。

整合性レポートの実行時には、次のガイドラインに従ってください。

- 整合性レポートは、一度に1つだけ実行します。
- 正確なデータが得られるように、他のユーザーがシステムを使用していないときに実行します。
- 会計システムのデータの精度を保つために、整合性レポートは毎週実行します。
- 新規ソフトウェアの導入時に伴うシステム移行期間中、または導入初期のユーザー教育期間中は、必要に応じて実行します。

買掛管理の整合性レポートによって検証できるのは、転記済の取引のみです。

買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)レポートの実行

この項では、買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)レポートの概要と、印刷方法について説明します。

買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)レポートについて

買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)レポート(R04701)により、F0411テーブルの各バッチの総額と、それに対応するF0911テーブルのバッチの金額が照合され、不整合があった場合には、その差額がレポートに出力されます。F0411テーブルとF0911テーブル間でデータが一致しない場合は、仕入先/顧客合計 - 勘定科目別レポート(R09450)を補足の検証ツールとして使用します。

注意: (ITA) bolle doganaliが前払伝票として入力されている場合、元帳と関税貸方勘定の貸借は一致しません。

買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)レポートによって、無効な支払状況が割り当てられている支払項目がないかどうかや、未決済および支払済の取引に対して正しい支払状況が割り当てられているのかも確認されます。

このレポートには、伝票照合なしで入力された支払(バッチ・タイプW)のバッチは含まれません。このタイプのバッチの整合性をテストするには、買掛金元帳 - 総勘定元帳(支払)レポート(R04702A)を実行します。

買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)レポートでは、次の2種類の整合性テストが実行されます。

- 残高テスト
- 支払状況テスト

残高テスト

残高テストでは、各バッチに対して次の比較が実行されます。

- F0411テーブルの総額とF0911テーブルの総額の比較
- 買掛金の金額と自動相殺額の比較
- 前回の買掛金金額と総勘定元帳金額の比較

これらの金額の差額はゼロ、つまり金額が一致している必要があります。金額が一致している場合、レポートはブランクになります。一致していない場合には、レポートにバッチの合計が表示されます。

伝票の総額が計算される際、為替差損益の金額は加算されません。また関連する支払取引の総額に対して、割引実施額が加算されたり、割引損失額が差し引かれたりすることはありません。

伝票の課税対象額に付加価値税が加算され、取引に対して課される使用税が差し引かれます。また、総額に変更がある場合、未転記のPE(照合伝票タイプ)取引の付加価値税も加算されます。

支払状況テスト

支払状況テストでは、バッチの全支払項目の支払状況が確認されます。伝票に未決済金額がない場合、支払状況は“支払済”となります。未決済金額がある場合は、“保留”または“承認済”です。未決済金額と支払状況が一致しない場合、取引が整合性レポートに印刷されます。

買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)レポートの印刷

「期末処理」(G0421)の「買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)」を選択します。

買掛金元帳 - 総勘定元帳(支払)レポートの実行

この項では、買掛金元帳 - 総勘定元帳(支払)レポートの概要と、印刷方法について説明します。

買掛金元帳 – 総勘定元帳(支払)レポートについて

買掛金元帳 – 総勘定元帳(支払)レポート(R04702A)では、F0414の支払の各バッチの金額と、それに対応するF0911のバッチの金額が一致しているかどうかを確認され、不整合があった場合は、差額がレポートに印刷されます。

このテストでは、各バッチに対して次の比較が実行されます。

- F0414テーブルの総額とF0911テーブルの総額の比較
- 買掛金の金額と自動相殺額の比較
- 前回の買掛金金額と総勘定元帳金額の比較

これらの金額の差額はゼロ、つまり支払額が一致している必要があります。金額が一致している場合、レポートはブランクになります。一致していない場合には、レポートにバッチの合計が表示されます。

総勘定元帳には相殺勘定科目がないため、総額が計算される際、為替差損益は無視されます。

照合伝票なしで作成された支払(タイプW)には伝票と支払両方の情報が含まれているため、このタイプのバッチで見つかった整合性上の問題点は、他のバッチとは異なる形でレポートに出力されます。レポートの各カラムには、次の情報が出力されます。

- 総額カラム

支払額と伝票金額が一致しない場合、このカラムに、どちらの金額が大きいかを示したエラー・メッセージとともに、差額が印刷されます。

- 分配額カラム

分配額間に不一致がある場合、F0911テーブルの金額に不整合があることを示すエラー・メッセージと差額が印刷されます。

- 自動相殺額カラム

自動相殺額間に不一致がある場合、F0911テーブルの金額に不整合があることを示すエラー・メッセージと差額が印刷されます。

買掛金元帳 – 総勘定元帳(支払)レポートの印刷

「期末処理」(G0421)の「買掛金元帳 – 総勘定元帳(支払)」を選択します。

買掛金元帳 – 総勘定元帳(勘定科目)レポートの実行

この項では、買掛金元帳 – 総勘定元帳(勘定科目)レポート(R047001A)の概要と、その印刷方法について説明します。

買掛金元帳 – 総勘定元帳(勘定科目)レポートについて

買掛金元帳 – 総勘定元帳(勘定科目)整合性レポートでは、F0411テーブルの転記済未決済金額とF0902テーブルの買掛金相手勘定の残高を比較できます。F0411テーブルの未決済金額には、税額や割引額は含まれません。

具体的には、次が実行されます。

- 各勘定科目に対するF0411テーブルの未決済金額の集計。(伝票の相手勘定コードは、AAI(自動仕訳)項目PCに対応する買掛金勘定を示します。)
- 総勘定元帳の金額と、それに対応する買掛金勘定の金額の比較。

これらの金額の差額はゼロ、つまり金額が一致している必要があります。金額が一致しない場合は、該当する相手勘定の合計が整合性レポートに印刷されます。レポートに印刷される勘定科目は、AAI(自動仕訳)によって制御されます。

- F0902テーブルの勘定科目と関連しない相手勘定コードの合計の印刷。

これは通常、AAIがない、変更されている、または無効な勘定科目を示している場合に実行されます。

買掛金元帳 - 総勘定元帳(勘定科目)整合性レポートでは、前年度からの繰越残高が現行年度の実績に追加されます。つまり、元帳の年度締め以前年度の繰越残高が含まれるため、買掛金元帳 - 総勘定元帳(勘定科目)レポートを実行する前に、前年度の元帳の年度締め処理を実行する必要があります。

買掛金元帳 - 総勘定元帳(勘定科目)レポートの印刷

「期末処理」(G0421)の「買掛金 - 総勘定元帳(勘定科目)」を選択します。

支払 - 買掛金(更新)レポートの実行

この項では、支払 - 買掛金(更新)レポートの概要と次の方法について説明します。

- 支払 - 買掛金(更新)レポートの印刷
- 支払 - 買掛金(更新)(R04713)の処理オプションの設定

支払 - 買掛金(更新)レポートについて

支払 - 買掛金(更新)レポートを実行して、F0414テーブルの支払金額と、F0411テーブルのバッチに対する転記済みまたは未転記の支払金額を比較します。このレポートを実行すると、次の処理が行われます。

- F0411テーブルの伝票バッチごとの総額とF0414テーブルのバッチの支払金額の比較。
金額が一致しない場合、F0411テーブルの未決済金額カラムと調整差額カラムの差額が印刷されます。
- F0411テーブルの伝票バッチごとの総額とF0414テーブルのバッチの支払総額の比較。
金額が一致しない場合、調整差額カラムの差額が印刷されます。

レポートをテスト・モードで実行して、エラーがないかを確認します。不整合があった場合は、F0411テーブルの金額が正しく、F0414テーブルの金額が間違いであることを確認します。次に、レポートを最終モードで実行し、調整仕訳を作成してF0414テーブルの金額を修正します。

支払 - 買掛金(更新)レポートの印刷

「期末処理」(G0421)の「支払 - 買掛金(更新)」を選択します。

支払 - 買掛金(更新)(R04713)の処理オプションの設定

処理オプションは導入時に設定されますが、レポートを実行する前に設定を変更できます。

処理

処理

レポートを最終モードで実行してF0414テーブルに調整仕訳を作成するには「1」を入力します。

貸借不一致の訂正

整合性レポートを実行した結果、エラーがあった場合には修正する必要があります。

レポート金額の不一致

買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)レポート、または買掛金元帳 - 総勘定元帳(勘定科目)レポートの実行時に、金額の不一致を示すエラー・メッセージが表示される場合があります。これらのレポートは、F0411テーブルとF0911テーブル(買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票))、またはF0902テーブル(買掛金元帳 - 総勘定元帳(勘定科目))のデータが比較されます。このエラーは通常、未転記の買掛金バッチが原因で表示されます。

金額の不一致を訂正するには、すべての買掛金バッチを転記します。

次の例は、取引が転記されないかぎり、整合性レポートに貸借不一致の額が表示される原因を示しています。

たとえば、金額1000の伝票(伝票番号1234)を入力して転記した場合、システム・データは次のように表示されます。

- 伝票タイプ = PV(伝票)
- 総額 = 1,000(F0411)
- 未決済金額 = 1,000(F0411)
- 転記コード = D(F0411)
- 金額 = 1,000(F0902)

F0411テーブルの未決済金額とF0902テーブルの金額は、貸借が一致しています。

伝票1234を無効にすると、システム・データは次のように表示されます。

- 伝票タイプ = PV(伝票)
- 総額 = ブランク(ゼロ)(F0411)
- 未決済金額 = ブランク(ゼロ)(F0411)
- 転記コード = D(F0411)
- 金額 = 1,000(F0902)

この場合、未決済金額がゼロ、F0902テーブルの金額が1,000のため、整合性レポートには貸借不一致として金額が表示されます。

不整合を訂正するには、無効化した取引を転記します。システム・データは次のように表示されます。

- 照合伝票タイプ = PE(伝票金額の変更)
- 総額 = -1,000(F0411)
- 未決済金額 = ブランク(ゼロ)(F0411)

- ・ 転記コード = D (F0411)
- ・ 金額 = ブランク (ゼロ) (F0902)

F0902テーブルの金額がF0411テーブルの-1,000で消し込まれます。F0411テーブルの未決済金額とF0902テーブルの金額が一致します(両方ともゼロ)。

自動相殺仕訳がなく、貸借不一致の状態でバッチが転記された場合

貸借不一致の状態でバッチが転記されたことを示すエラー・メッセージが表示される場合があります。このエラーは買掛金元帳 - 総勘定元帳(勘定科目)レポートにのみ表示されます。転記中に停電などの原因でシステムがダウンしたり、同時に複数の転記プログラムを実行したりすると、このエラーが発生することがあります。

エラーを修正するには必要な相殺入力を特定し、貸借を一致させる仕訳を作成してバッチを転記します。

買掛金勘定科目に無効な仕訳が転記された場合

無効な仕訳が転記されたことを示すエラー・メッセージが表示される場合があります。このエラーは、買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)レポート、または買掛金元帳 - 総勘定元帳(勘定科目)レポートの実行時に発生します。通常、買掛金勘定(転記編集コード = M)には、伝票タイプAE(自動作成)で自動的に作成された仕訳のみが含まれます。この勘定科目に手動入力された伝票(仕訳など)がある場合に、貸借不一致の問題が発生する可能性があります。

このエラーを修正するには、次の処理を行います。

- ・ 該当の仕訳を特定し、訂正または無効にします。
- ・ 訂正または無効にした仕訳を転記します。

データ・レコードが破損した場合

データ・レコードが破損したことを示すエラーが表示される場合があります。このエラーは、ハードウェアの障害など様々な理由によって、すべての買掛管理の整合性レポートで発生する可能性があります。

F0411テーブルのレコードが破損している場合、ユーティリティ・プログラムを使ったデータの削除が必要になることがあります。ユーティリティ・プログラムの使用に関する詳細は、システム管理者に問い合わせてください。F0902テーブルのレコードが破損している場合は、取引明細の再転記が必要になることがあります。

相手勘定コードが変更された場合

相手勘定コードが変更されたことを示すエラーが表示される場合があります。このエラーは買掛金元帳 - 総勘定元帳(勘定科目)レポートにのみ表示されます。伝票が割り当てられている相手勘定コードが変更され、変更前の相手勘定コードを持った買掛金元帳レコードに対応するコードが見つからない場合にエラーになります。

このエラーが発生すると、変更前の相手勘定コードを持った伝票の合計と、AAI(自動仕訳)にない、変更前の項目PCyyyy (yyyy = 相手勘定コード)がレポートの勘定科目カラムに印刷されます。

対応するレコードがないため、このレポートには総勘定元帳残高は印刷されません。

このエラーを修正するには、次のいずれかの処理を行います。

- ・ 買掛金の金額に設定されている変更前の相手勘定コードを、新しい相手勘定コードに変更します。
- ・ 変更前の相手勘定コードを持つ未決済伝票がすべて支払済になるまでは、元のコードに設定を戻します。

買掛金勘定が変更された場合

買掛金勘定が変更されたことを示すエラー・メッセージが表示される場合があります。このエラーは買掛金元帳 - 総勘定元帳(勘定科目)レポートにのみ表示されます。伝票の相手勘定コードが設定されている買掛金勘定のAAI(自動仕訳)を変更した場合に発生するエラーです。相手勘定コードと元の勘定科目コードの関連が失われるため、F0902テーブルで該当するレコードの検出ができなくなります。

残高カラムの金額より大きい明細カラムの金額が印刷されます。差額は変更前の買掛金勘定の残高に等しくなるはずですが。

この問題を修正するには、変更前の買掛金相手勘定の合計額を特定し、手動で追加入力して残高を一致させます。

F0411テーブルとF0414テーブルの貸借不一致の場合

F0411テーブルとF0414テーブルの貸借が不一致であることを示すエラー・メッセージが表示される場合があります。このエラーは、買掛金元帳 - 総勘定元帳(支払)レポートのバッチ・タイプがW(照合なし)の場合にのみ発生します。考えられる原因は次のとおりです。

- ・取引を無効にしたが、それに関連する取引が無効化されていない。
- ・転記処理中に停電などの問題が発生し、処理が正常に完了しなかった。
- ・データ・レコードの破損。

貸借の不一致を修正するには、支払仕訳帳と一般仕訳帳のレポートを印刷し、間違った金額を特定します。

レコード破損による問題を解決するには、データ・ファイル・ユーティリティ・プログラムの実行が必要な場合があります。詳細はシステム管理者に問い合せてください。

総勘定元帳の貸借不一致の場合

総勘定元帳取引の貸借が不一致であることを示すエラー・メッセージが表示される場合があります。このエラーは、買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)レポートと、買掛金元帳 - 総勘定元帳(支払)レポート(バッチ・タイプWのみ)で発生します。分配額または自動相殺金額のどちらかに問題がある可能性があります。次のような原因が考えられます。

- ・未転記の買掛金バッチがある。

取引の貸借を一致させるには、すべての買掛金バッチを転記します。

- ・仕訳の無効化が正しく行われなかった。

仕訳を無効にする際に誤ったプログラムを使用した可能性があります。たとえば、仕訳を無効にする際に、支払の無効(P0413M)プログラムではなく、仕訳入力(P0911)プログラムを使用した場合、データの整合性が損なわれます。データ・ファイル・ユーティリティを使って、レコードを元の状態にリセットする必要がある場合があります。その後で、正しいプログラムを使用して対象の取引を無効にします。データ・ファイル・ユーティリティの利用に関する詳細は、システム管理者に問い合せてください。

- ・転記処理(分配額のみ)中にシステムがダウンするなどの問題が発生した。

この問題を修正するには、バッチを再転記します。

- ・自動相殺仕訳がなく、貸借不一致の状態ではバッチが転記された。
- ・無効な仕訳が買掛金勘定に転記された。
- ・データ・レコードが破損した。
- ・買掛金勘定が変更された。

- 伝票入力時に費用勘定が伝票金額と一致しないまま終了した。

第 17 章

買掛金レコードの除去

この章では、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムから支払済レコードを除去する方法、事前設定、支払済買掛金レコードの除去プログラムの実行方法について説明します。

支払済レコードを買掛管理システムから除去する方法について

システムのディスク・スペースを十分に確保するためには、支払済買掛金レコードを定期的に除去する必要があります。買掛金レコードを除去する際には、次の処理を行うバッチ・プログラムを実行します。

- 次の条件に該当する場合に、買掛金元帳 (F0411)、買掛金照合伝票 (F0413)、買掛金照合伝票明細 (F0414) の各テーブルから支払済取引を削除するバッチ・プログラム
 - 取引の元帳日付が、「総勘定元帳除去日付」処理オプションで指定した基準日と同じかそれより前である。
 - 未決済金額がゼロである。
- レコードの支払日付が処理オプションで指定した支払日付以前の場合は、買掛金照合伝票テーブルから支払集計情報を削除するバッチ・プログラム
- すべての未払いの手形を削除するバッチ・プログラム

手形伝票タイプP1には元帳日付または未決済金額がないため、すべての手形が削除されます。これを防ぐには、データ選択を使用して、伝票タイプがP1で支払状況がDの伝票を除外します。

- 除去済レコードを次のテーブルにコピーするバッチ・プログラム
 - F0411P (買掛金元帳除去)
 - F0413P (買掛金照合伝票除去)
 - F0414P (買掛金照合伝票明細除去)

レポート用にこれらのテーブルをシステムに保存したり、他のメディアにコピーしたりすることもできます。テーブルをシステムに保存したまま再度除去を行うと、新たに除去されたレコードが既存のテーブルに追加されます。

重要: JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムなどの、他のシステムで必要とされる可能性がある買掛金元帳情報は除去しないでください。

システム管理者が担当する処理

買掛金レコードの除去に関する次の処理については、システム管理者による対応が必要となります。

- 買掛金レコードを除去したら、システム管理者にファイルの再編成を依頼してください。

これによってレコードが整理され、システム・ディスクの空き領域が最大化され、システムの処理速度が向上し、テーブルのインデックスが再構築されます。

- 買掛金レコードの除去時に、関連する仕訳は自動的に削除されません。

F0911テーブルの除去については、システム管理者と計画を立ててください。

- 除去済レコードのテーブルをシステムから削除するには、データベース管理者と相談してください。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- F0411テーブル、F0413テーブル、F0414テーブルのバックアップ
- 年累計伝票金額の更新

参照: 第 5 章、「仕入先情報の入力」、「年累計伝票金額の確認」、66ページ

支払済買掛金レコードの除去

この項では、次の方法について説明します。

- 支払済買掛金レコードの除去プログラムの実行
- 支払済買掛金レコードの除去のデータ選択とデータ順序の設定
- 支払済買掛金レコードの除去 (R04800) の処理オプションの設定

支払済買掛金レコードの除去プログラムの実行

「買掛管理システムの上級/技術的操作」(G0431)の「支払済み買掛金レコードの除去」を選択します。

支払済買掛金レコードの除去のデータ選択とデータ順序の設定

支払済買掛金レコードの除去プログラムのデータ選択とデータ順序の設定は、次のガイドラインに沿って行ってください。

データ選択

定期伝票が除去されないようにするには、支払回数をゼロに設定します。

未払の手形が除去されないようにするには、伝票タイプがP1で支払状況がDの伝票を除外します。

データ順序

支払済レコードの除去時に予想外の結果が返されることを防ぐため、次のデータ順序は変更しないでください。

1. 伝票会社
2. 伝票番号
3. 伝票タイプ

支払済買掛金レコードの除去 (R04800) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

選択

1. 総勘定元帳除去日付 F0411テーブル、F0413テーブル、F0414テーブルから除去するレコードを選択する際に使用される元帳日付を指定します。

付録 A

バッチ入力テーブルへの伝票取引のマッピング

この付録では、次のバッチ処理テーブルのフィールドのマッピングについて説明します。

- 伝票アップロード (F0411Z1)
- 仕訳アップロード (F0911Z1)

伝票アップロード・テーブル (F0411Z1) のフィールドのマッピング

この項では、F0411Z1テーブルの必須、任意、または無視されるフィールドの一覧を記載します。また、この他に割引と支払処理に必須のフィールドの一覧も記載します。

必須フィールド

F0411Z1テーブルの必須フィールドを次の表に示します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-ユーザーID	VLEDUS	文字	10	伝票のバッチ処理を実行する人のユーザーIDか、またはワーク・センターでメッセージを受け取る人のユーザーIDを入力します。このフィールドと、トランザクション番号 (VLEDTN)、バッチ番号 (VLEDBT)、行番号 (VLEDLN) の各フィールドを組み合わせ、特定の伝票を一意に識別します。
EDI-トランザクション番号	VLEDTN	文字	22	トランザクションを相互参照できるように、ソース・システムの伝票番号を入力します。 行番号 (VLEDLN) と組み合わせ、個々のトランザクションを識別します。トランザクション番号が変わるたびに、伝票が新しくなります。行番号が異なる場合を除き、1つのバッチに同じ番号のトランザクションを置くことはできません。 割り当てた番号が買掛金元帳 (F0411) テーブルにすでにある場合は、エラーになります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 行番号	VLEDLN	数値	7	取引に複数の支払項目が含まれている場合にのみ支払項目番号を入力します。トランザクションに支払項目が1つしかない場合は、このフィールドはブランクにすることができます。 このフィールドとトランザクション番号 (VLEDTN) を組み合わせて、伝票の各支払項目を識別します。
EDI - 処理済	VLEDSP	文字	1	このフィールドはブランクにしてください。 このフィールドには、バッチ処理を使用してトランザクションが正常に処理されたかどうかを示す値が表示されます。ブランクまたは0 (ゼロ) は、トランザクションが未処理か、またはエラーが発生したことを示します。トランザクションが正常に処理されると、このフィールドの値は「1」に変更されます。
EDI - トランザクション・アクション	VLEDTC	文字	1	このフィールドには「A」を入力します。その他の値は無効です。
EDI - トランザクション・タイプ	VLEDTR	文字	1	このフィールドには「V」(伝票) を入力します。 トランザクション・タイプを特定するコードです。
EDI - バッチ番号	VLEDBT	文字	15	処理するトランザクションをグループ化する番号を入力します。 この値と、トランザクション番号 (VLEDTN)、ユーザーID (VLEDUS)、行番号 (VLEDLN) を組み合わせて、特定のバッチに含まれるトランザクションを一意に識別します。このフィールドはレベル区切りとしても使用され、この値が変わるたびにJD Edwards EnterpriseOneのバッチ番号が新しく割り当てられます。一度に処理するトランザクション・グループごとにバッチ番号を割り当てると、パフォーマンスが向上します。
住所番号	VLAN8	数値	8	伝票トランザクションに関連付けられている仕入先の住所録番号を入力します。 F0101テーブルにある番号を入力する必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
元帳日付	VLDGJ	日付	6	<p>データベースと同じ日付形式で元帳日付を入力します。データベースによって、グレゴリオ暦の日付形式 (yymmdd) が入力できる場合と、ユリウス暦の日付形式が必要な場合があります。</p> <p>ユリウス暦の日付は、cyyddd (cは世紀数下1桁) という形式で表します。日付が20世紀の場合は「0」(ゼロ)、21世紀の場合は「1」を入力します。たとえば、1999年6月1日はユリウス暦では099152になります。2004年6月1日は104153になります (2004年はうるう年で2月29日があるためです)。</p> <p>別の方法として、このフィールドを空白にして、VLDGM (mm)、VLDGD (dd)、VLDGY (yy)、VLDG# (cc) の各フィールドに月/日/年/世紀の形式で値を入力することもできます。西暦上2桁フィールド (VLDG#) には年度の上2桁を入力します。たとえば、1999年の場合は「19」、2005年の場合は「20」と入力します。</p>
会社	VLCO	文字	5	<p>伝票が属する会社の番号を入力します。</p> <p>F0010テーブルに存在し、適切な貸借対照表を保持した企業を表す番号を入力する必要があります。</p>
相手勘定	VLGLC	文字	4	<p>このフィールドの値と、会社番号 (VLCO) を組み合わせることにより、トランザクションを転記する先の買掛金勘定が決まります。AAI項目PCyyyy (yyyyは相手勘定フィールドの値) で設定した勘定科目が、転記処理で使用されます。AAI項目は、会社ごとに、または会社「00000」(デフォルトの相手勘定) に対して設定できます。</p> <p>トランザクションによって異なる相手勘定を設定する場合にのみ、このフィールドに入力します。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
総額	VLAG	数値	15	<p>データベースと同じ形式で金額を入力します。データベースによって、小数を入力できる場合とできない場合があります。</p> <p>外貨建て(通貨モードF)でトランザクションを入力するときは、このフィールドをブランクにして、外貨建て金額フィールド(VLACR)を使用します。</p> <p>通貨モード3でトランザクションを処理するときは、総額フィールドと外貨建て金額フィールドの両方に値を入力する必要があります。</p>
銀行勘定科目	VLGLBA	数値	8	<p>伝票の支払を行う銀行勘定を入力します。勘定科目コードは、ビジネスユニット/主科目/補助科目の形式で入力します。このフィールドをブランクにすると、指定した会社のAAI項目PBに設定された銀行勘定科目が使用されます。その会社のAAI項目が見つからない場合は、会社「00000」のAAIが使用されます。</p> <p>別の方法として、伝票の支払を行う銀行勘定の略式ID(GMAID)を入力することもできます。略式IDはF0901テーブルにあります。</p>
ビジネスユニット	VLMCU	文字	12	<p>伝票が属するビジネスユニットを入力します。このフィールドには、F0006テーブルにある値を入力する必要があります。このフィールドをブランクにすると、仕入先の住所録レコードのセキュリティ・ビジネスユニット・フィールド(MCU)の値が使用されます。</p>

割引処理の追加必須フィールド

伝票の割引処理用に必要なF0411Z1テーブルのフィールドを次の表に示します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
支払条件コード	VLPTC	文字	3	<p>支払条件コードを入力するか、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>このフィールドに入力した値は、支払条件テーブル (F0014) のレコードと照合されます。支払条件に割引の計算が設定されている場合、設定に従って F0401 テーブルの割引可能額 (VLADSC)、割引期日 (VLDDNJ)、支払期日 (VLDDJ) の各フィールドが更新されます。</p> <p>このフィールドがブランクで、F0401 テーブルに仕入先に対する支払条件が設定されている場合、仕入先マスターの支払条件を使用して割引額と割引期日が計算されます。</p>
割引可能額	VLADSC	数値	15	<p>支払条件コード・フィールド (VLPTC) に値を入力した場合は、このフィールドはブランクのままにします。支払条件コード・フィールド (VLPTC) の値に基づいて割引額と割引期日が計算されます。支払条件コード・フィールドがブランクの場合、F0401 テーブルに仕入先に対する支払条件が設定されていれば、その支払条件を使用して割引額と割引期日が計算されます。</p> <p>支払条件コードを入力しなかった場合は、データベースと同じ形式で割引額を入力します。データベースによって、小数を入力できる場合とできない場合があります。割引額を入力するときは、必ず割引期日 (VLDDNJ) も指定する必要があります。</p> <p>割引率 (%) は入力できません。たとえば、米ドルを使用する場合、「.05」と入力すると、割引額は5セントとみなされます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
支払期日	VLDDJ	日付	6	<p>支払条件コード・フィールド(VLPTC)に値を入力した場合は、このフィールドはブランクのままにします。割引があるかないかにかかわらず、このフィールドによって伝票の支払期日が特定されます。伝票の処理時に支払期日が自動的に計算されます。支払条件コード・フィールドがブランクの場合、F0401テーブルに仕入先の支払条件が設定されていれば、その支払条件を使用して支払期日(VLDDJ)が決められます。</p> <p>支払条件を使用しない場合は、データベースと同じ日付形式で支払期日を入力します。入力例については、元帳日付(VLDGJ)のデータ項目を参照してください。</p> <p>別の方法として、このフィールドをブランクにして、VLDDM(mm)、VLDDD(dd)、VLDDY(yy)、およびVLDD#(cc)の各フィールドに月/日/年/世紀の形式で値を入力することもできます。西暦上2桁フィールド(VLDD#)には年度の上2桁を入力します。たとえば、1999年の場合は「19」、2005年の場合は「20」と入力します。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
割引期日	VLDDNJ	日付	6	<p>支払条件コード・フィールド(VLPTC)に値を入力した場合は、このフィールドはブランクのままにします。このフィールドは、支払の発行時に割引を適用できる最後の日付を示します。このフィールドには、伝票を処理するときに支払条件の定義に従って値が自動的に入力されます。支払条件コード・フィールド(VLPTC)がブランクの場合、F0401テーブルに仕入先の支払条件が設定されていれば、その支払条件を使用して割引可能額(VLADSC)、割引期日(VLDDNJ)、支払期日(VLDDJ)の各フィールドの値が決められます。</p> <p>支払条件を使用せずに割引可能額を使用する場合は、データベースと同じ日付形式で日付を入力します。入力例については、元帳日付(VLDGJ)のデータ項目を参照してください。</p> <p>別の方法として、このフィールドをブランクにして、VLDDNM(mm)、VLDDND(dd)、VLDDNY(yy)、およびVLDDN#(cc)の各フィールドに月/日/年/世紀の形式で値を入力することもできます。西暦上2桁フィールド(VLDDN#)には年度の上2桁を入力します。たとえば、1999年の場合は「19」、2005年の場合は「20」と入力します。</p>
バッチ・ファイル 割引処理フラグ	VLEDDH	文字	1	このフィールドに「1」を入力して、伝票に割引を適用します。
割引実施額	VLADSA	数値	15	このフィールドはブランクにしてください。支払が発行され、割引が実施される時点で、F0401テーブルのこのフィールドが更新されます。

支払処理の追加必須フィールド

伝票アップロード・テーブル(F0411Z1)の次のフィールドは、支払処理を行うために必須のフィールドです。支払済の各伝票が次の2つの支払条件に適合していれば、それらの伝票を処理してアップロードできます。

- 1件の伝票で認められる支払は1件だけです。
- 支払金額が、伝票の合計金額になっている必要があります。

この支払情報に基づいて、F0413テーブルとF0414テーブルが更新されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
照合伝票番号	VLDOCM	数値	8	支払済の伝票を処理するには、伝票の決済に使用した支払番号を入力します。

バッチ伝票処理の任意フィールド

F0411Z1テーブルには、バッチ伝票処理に最初の2つの表とともに使用する任意のフィールドがあります。これらのフィールドを使用して、伝票に関する情報を追加できます。

次のフィールドをブランクにすると、値が自動的に割り当てられます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 処理済明細行数	VLEDDL	数値	5	特定のトランザクションに含まれる明細行の数を指定します。これは、参照用のフィールドです。
伝票番号	VLOKCO	数値	8	このフィールドはブランクにしてください。このフィールドがブランクの場合、システム04の自動採番を使用して、F0411テーブルの取引を識別する伝票番号が自動的に割り当てられます。 このフィールドに値を入力する場合は、F0411テーブルに存在しない値を入力します。既存の値を入力すると、取引が重複しているとみなされ、処理されません。また、このフィールドに値を入力する場合は、F0911Z1テーブルの対応するフィールドにも同じ値を入力する必要があります。
伝票タイプ	VLDCT	文字	2	このフィールドはブランクにしてください。このフィールドをブランクにすると、伝票入力MBF処理オプション・プログラム(P0400047)の処理オプションにより、取引のタイプを指定する値が決められます。 このフィールドに値を入力する場合は、ユーザー定義コード00/DT(伝票タイプ - すべての伝票)とユーザー定義コード00/DV(伝票タイプ - 買掛伝票のみ)の両方に設定されている値を入力する必要があります。また、このフィールドに値を入力する場合は、F0911Z1テーブルの対応するフィールドにも同じ値を入力する必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
伝票会社	VLKCO	文字	5	<p>取引を行った会社を識別するコードを入力します。このフィールドは、トランザクション番号を会社別に区別する場合にのみ使用します。ブランクにすると、会社フィールド(VLKCO)に入力した値が割り当てられます。</p> <p>このフィールドに値を入力する場合、F0010テーブルに存在する値を入力してください。このフィールドに値を入力する場合は、F0911Z1テーブルの対応するフィールドにも同じ値を入力する必要があります。</p>
伝票支払項目	VLSFX	文字	3	<p>このフィールドはブランクにしてください。このフィールドをブランクにすると、伝票の支払項目番号を表す「001」で始まる番号が支払項目に割り当てられます。複数の支払項目がある取引を指定する場合は、行番号フィールド(VLEDLN)を使用します。</p> <p>トランザクション番号と行番号の組合せが重複していると、支払項目フィールドが指定されているかどうかに関係なく、以降の取引はすべて無視されます。</p>
支払項目変更番号	VLSFXE	数値	2	<p>このフィールドはブランクにしてください。このフィールドは、レコードを処理してF0411テーブルに保存する別のシステムにより更新されます。</p>
調整伝票タイプ	VLDCTA	文字	2	<p>このフィールドはブランクにしてください。処理済伝票が変更または無効にされたときに更新されたコードが割り当てられます。</p>
受取人住所番号	VLPYE	数値	8	<p>仕入先以外の受取人に支払を行う場合に使用する住所番号を入力します。このフィールドには、F0101テーブルにある値を入力する必要があります。</p>
承認者住所番号	VLSNTO	数値	8	<p>支払伝票を承認する権限のある担当者の住所番号を入力します。この番号は受取人の承認と併用されるため、受取人承認フィールドに有効な値が入力されている必要があります。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
請求書日付	VLDIVJ	日付	6	<p>データベースと同じ日付形式で請求書日付を入力します。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、元帳日付が使用されます。入力例については、元帳日付 (VLDGJ) の説明を参照してください。</p> <p>また、このフィールドをブランクにして、VLDIVM (mm)、VLDIVD (dd)、VLDIVY (yy)、VLDIV# (cc) の各フィールドに月/日/年/世紀の形式で値を入力することもできます。西暦上2桁フィールド (VLDIV#) に年度の上2桁を入力します。たとえば、1999年の場合は「19」、2005年の場合は「20」と入力します。</p>
会計年度	VLFY	数値	2	<p>このフィールドはブランクにしてください。このフィールドには、元帳日付と該当の会社に基づいて伝票の会計年度を示す値が割り当てられます。</p>
西暦上2桁	VLCTRY	数値	2	<p>このフィールドはブランクにしてください。このフィールドには、元帳日付と該当の会社に基づいて伝票の西暦上2桁を示す値が割り当てられます。</p>
期間	VLPN	数値	2	<p>このフィールドはブランクにしてください。このフィールドには、元帳日付と該当の会社に基づいて伝票の会計期間を示す値が割り当てられます。</p>
バッチ番号	VLICU	数値	8	<p>このフィールドはブランクにしてください。ブランクにすると、システム00の自動採番を使用してバッチ番号が作成され、同時に処理される伝票がグループ化されます。</p>
バッチ・タイプ	VLICUT	文字	2	<p>このフィールドに値を入力する場合は、取引のタイプが伝票であることを示す「V」(伝票)を入力する必要があります。このフィールドをブランクにすると、伝票を処理した時点で、「V」に更新されます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
バッチ日付	VLDICJ	日付	6	<p>このフィールドをブランクにすると、バッチ処理プログラムが実行された日付がバッチが処理された日付として使用されます。値を入力する場合は、データベースと同じ日付形式で入力します。入力形式の例については、元帳日付(VLDGJ)フィールドの説明を参照してください。</p> <p>別の方法として、このフィールドをブランクにして、VLDICM(mm)、VLDICD(dd)、VLDICY(yy)、VLDIC#(cc)の各フィールドに月/日/年/世紀の形式で値を入力することもできます。西暦上2桁フィールド(VLDIC#)に年度の上2桁を入力します。たとえば、1999年の場合は「19」、2005年の場合は「20」と入力します。</p>
仕訳の貸借一致	VLBALJ	文字	1	<p>このフィールドはブランクにしてください。該当する取引に関連する仕訳の金額と伝票の総額の貸借が一致するかどうかを示すコードが割り当てられます。</p>
支払状況コード	VLPST	文字	1	<p>このフィールドをブランクにすると、伝票入力MBF処理オプション・プログラム(P0400047)の処理オプションの値に従って、伝票が未決済、支払済、保留中のいずれであるかを示す値が入力されます。処理オプションが設定されていない場合は、データ辞書項目PSTのデフォルト値が使用されます。</p> <p>ユーザー定義コード00/PS(支払状況)に設定されている値を入力する必要があります。</p>
未決済金額	VLAAP	数値	15	<p>このフィールドはブランクにしてください。総額フィールド(VLAG)の値で未決済金額フィールド(VLAAP)が自動的に更新され、伝票の未決済金額が表示されます。</p> <p>このアプリケーションでは一部支払済の伝票の処理は行われません。このフィールドに値を入力するとエラー・メッセージが表示され、取引は処理されていません。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
転記コード	VLPOST	文字	1	<p>このフィールドはblankにしてください。</p> <p>このフィールドは、総勘定元帳への転記プログラム(R09801)により伝票の転記状況を示すコードに更新されます。</p> <p>すでに過去のデータを仕訳入力として処理している場合は、関連する取引をF0911Z1テーブルに作成し、買掛金勘定を配賦勘定として使用する必要があります。その場合、取引を転記しても、会計処理には影響しません。</p> <p>貸借の一致しない(F0911Z1テーブルに対応する情報がない)転記済伝票取引を処理する場合は、このフィールドに「D」を入力します。ただし、この値を入力すると、今後これらの取引を無効にすることができなくなり、買掛金バッチ整合性レポートに不整合が生じます。</p>
主科目	VLOBJ	文字	6	<p>このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。</p>
補助科目	VLSUB	文字	8	<p>このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。</p>
補助元帳タイプ	VLSBLT	文字	1	<p>このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。</p>
補助元帳	VLSBL	文字	8	<p>このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。</p>
無効フラグ	VLVOD	文字	1	<p>このフィールドはblankにしてください。</p> <p>伝票を無効にしたときに、伝票が無効にされたことを示すコードが割り当てられます。</p>
伝票会社(当初オーダー)	VLODOC	文字	8	<p>このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。</p> <p>このフィールドをblankにすると、F0411テーブルの伝票会社フィールドに割り当てられた値に自動的に更新されます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
当初伝票タイプ	VLOKCO	文字	2	このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。 このフィールドをブランクにすると、F0411テーブルの伝票タイプ・フィールドに割り当てられた値に自動的に更新されます。
当初伝票	VLODOC	文字	5	このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。 このフィールドをブランクにすると、F0411の伝票タイプ・フィールドに割り当てられた値に自動的に更新されます。
当初伝票支払項目	VLOSFY	文字	3	このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。
支払取扱コード	VLCRC	文字	3	ユーザー定義コード00/HC(特殊取扱コード)に設定されている値を入力して、支払処理用に分離する伝票や情報を追加する伝票を指定します。
仕入先請求書番号	VLVINV	文字	25	仕入先の請求書を示す番号を入力します。このフィールドに入力された値は、対応するF0411テーブルのレコードに書き込まれます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。
伝票会社(購買オーダー)	VLPKCO	文字	5	このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。
購買オーダー	VLPO	文字	8	このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。
伝票タイプ-購買オーダー	VLPDCT	文字	2	このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。
行番号	VLLNID	数値	6	このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
オーダー・サフィックス	VLSFXO	文字	3	このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。
参照	VLVR01	文字	25	このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。
区画	VLUNIT	文字	8	このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。
ビジネスユニット2	VLMCU2	文字	12	このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。
備考	VLRMK	文字	30	伝票に関する説明を入力します。処理オプションの設定に応じて、このフィールドが支払に印刷されることがあります。
定期頻度	VLRF	文字	2	伝票が定期的に再作成される場合にのみ、伝票を作成する頻度を示すコードを入力します。定期的な情報を使用して作成する伝票のタイプは、「RR」になります。定期頻度フィールドには、ユーザー定義コードH00/RF(定期頻度)に設定されている値を入力する必要があります。
定期支払回数	VLDRF	数値	3	伝票が定期的に再作成される場合にのみ、再作成を行う回数を入力します。定期的な情報を使用して作成する伝票のタイプは、「RR」になります。定期頻度フィールドには、ユーザー定義コードH00/RF(定期頻度)に設定されている値を入力する必要があります。 「1」を入力すると、新しい伝票は作成されません。
数量	VLU	数値	15	このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。伝票に対して入力した値はすべてF0411テーブルに書き込まれます。
単位	VLUM	文字	2	単位を示すコードを入力します。入力する値は、ユーザー定義コード00/UM(単位)に存在している必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
支払手段	VLRYIN	文字	1	伝票の支払のタイプを示すコードを入力します。ユーザー定義コード00/PY(支払手段)に設定されている値を入力する必要があります。このフィールドを空白にすると、伝票の処理時にF0401テーブルの対応する値に更新されます。
住所録カテゴリ・コード07	VLAC07	文字	3	伝票が該当する1099のタイプを示すコードを入力します。このフィールドの値を使用して1099が処理されます。1099フォームの対応する値に一致し、ユーザー定義コード01/07に設定されている値を入力する必要があります。
1099処理	VLTNN	文字	1	伝票が1099処理の対象であることを示すコードを入力します。このコードは、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアでは使用できません。
略式品目番号	VLITM	数値	8	在庫品目を示す数値を入力します。このフィールドに入力した値はすべて無視されます。このフィールドに入力する値の妥当性はチェックされません。
取引入力者	VLTORG	文字	10	このフィールドは取引の処理時に更新されます。このフィールドは空白にしてください。
ユーザーID	VLUSER	文字	10	このフィールドは取引の処理時に更新されます。このフィールドは空白にしてください。
プログラムID	VLPID	文字	10	このフィールドは取引の処理時に更新されます。このフィールドは空白にしてください。
更新日付	VLUPMJ	日付	6	このフィールドは取引の処理時に更新されます。このフィールドは空白にしてください。
最終更新時刻	VLUPMT	数値	6	このフィールドは取引の処理時に更新されます。このフィールドは空白にしてください。
ワーク・ステーションID	VLJOBN	文字	10	このフィールドは取引の処理時に更新されます。このフィールドは空白にしてください。

無視されるフィールド

次の表に示すF0411Z1テーブルのフィールドは無視されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
レコード・タイプ	VLEDTY	文字	1
レコード順序	VLEDSQ	数値	2
EDI-伝票タイプ	VLEDCT	文字	2
EDI-トランザクション・セット 番号	VLEDTS	文字	6
EDI-変換フォーマット	VLEDFT	文字	10
EDI-伝送日付	VLEDDT	日付	6
EDI-送受信インディケータ	VLEDER	文字	1
バッチ・ファイル-取引明細 レコード作成	VLEDGL	文字	1
ユーザー住所番号	VLEDAN	数値	8
略式ID	VLAID2	文字	8
銀行/支店(コード)	VLBAID	数値	8
作業順序番号	VLOPSQ	数値	5
制御/計算書フィールド	VLCTL	文字	13
決済済	VLFNLP	文字	1
税率/税域3-源泉徴収	VLTXA3	文字	10
税目コード3-源泉徴収	VLEXR3	文字	2
売掛/買掛-その他コード1	VLRP1	文字	1
売掛/買掛-その他コード2	VLRP2	文字	1
コード	VLRP3	文字	1
実績通貨換算レート	VLHCRR	数値	15
実績日付-ユリウス暦	VLHDGJ	日付	6
実績日付-月	VLHDGM	数値	2
実績日付-日	VLHDGD	数値	2

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
実績日付 - 年	VLHDGY	数値	2
実績日付 - 世紀	VLHDG#	数値	2

ユーザー予約フィールド

F0411Z1テーブルのユーザー用予約フィールドを次の表に示します。これらのフィールドは、JD Edwards EnterpriseOneプログラムで更新されたり、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムのフォームに表示されたりすることはありません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
ユーザー予約コード	VLURC1	文字	3	3文字以内の英数字を入力します。
ユーザー予約日付	VLURDT	日付	6	このフィールドには、日付を入力します。 データベースで使用可能な形式で指定します。 日付の入力例については、元帳日付 (VLGDJ) の説明を参照してください。
ユーザー予約金額	VLURAT	数値	15	このフィールドには、金額を入力します。 データベースで使用可能な形式で指定します。
ユーザー予約番号	VLURAB	数値	8	8桁以内の数字を入力します。
ユーザー予約参照	VLURRF	文字	15	15文字以内の英数字を入力します。

仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)のフィールドのマッピング

この項では、バッチ伝票の処理に必要なF0911Z1テーブルの必須フィールドと、JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムを使用するための必須フィールドの一覧を記載します。

必須フィールド

次の表には、ユーザーが入力する必要がある必須フィールドのみを示します。残りの必須フィールドには、F0411Z1テーブルの情報に基づいて値がロードされます。

これらのフィールドには、F0411Z1テーブルの対応する各フィールドに入力した値と同じ値を入力する必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
EDI-ユーザーID	VNEDUS	文字	10
EDI-トランザクション番号	VNEDTN	文字	22
EDI-処理済	VNEDSP	文字	1
EDI-トランザクション・アクション	VNEDTC	文字	1
EDI-トランザクション・タイプ	VNEDTR	文字	1
EDI-バッチ番号	VNEDBT	文字	15
EDI-行番号	VNEDLN	数値	7
伝票会社	VNKCO	文字	5
伝票タイプ	VNDCT	文字	2
伝票番号	VNDOC	数値	8
バッチ番号	VNICU	数値	8
バッチ・タイプ	VNICUT	文字	1
元帳日付	VNDGJ	日付	6
勘定科目番号	VNANI	数値	29
勘定科目モード	VNAM	数値	1
元帳タイプ	VNLT	文字	2
金額	VNAA	数値	15

収益性分析システムの必須フィールド

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システム(システム16)を使用する場合は、次の表に示すF0911Z1テーブルのその他のフィールドの入力が必要です。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
コスト・オブジェクト・タイプ1から4	VNABT1 VNABT2 VNABT3 VNABT4	文字	1	最大で4つまでのコスト・オブジェクト・タイプを入力します。これらのフィールドを使用して、対応するコスト・オブジェクト・フィールド(VNABR1からVNABR4)に入力した値が編集されます。このフィールドのどれか1つに値を入力した場合は、対応するコスト・オブジェクト・フィールドにも値を入力する必要があります。このフィールドには、F1620テーブルにある値を入力する必要があります。
コスト・オブジェクト1から4	VNABR1 VNABR2 VNABR3 VNABR4	文字	12	最大で4つまでのコスト・オブジェクトを入力します。コスト・オブジェクトの各フィールドに入力する値は、対応するコスト・オブジェクト・タイプ(VNABT1からVNABT4)の編集ルールに準拠している必要があります。
転記コード1から10	VNPM01から VNPM10	文字	1	これらのフィールドはブランクにします。
品目番号	VNITM	数値	8	このフィールドに値を入力すると、入力値はF4101テーブルと照合されます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「バッチ仕訳処理のフィールドのマッピング」

付録 B

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理の標準ワークフロー

この付録では、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの標準ワークフローについて説明します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Workflow Tools Guide

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理の標準ワークフロー

この項では、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理の標準ワークフローについて説明します。

伝票のバッチ承認

この項では、伝票のバッチ承認ワークフローについて説明します。

内容

ワークフローの概要	ユーザーが伝票のバッチを作成すると、指定されたバッチ承認者にワークフロー・メッセージが送信されます。承認者がバッチ状況をA(承認済)に変更しないとバッチ状況はP(保留)のまま、バッチを転記できません。
ワークフロー・トリガー	ユーザーによる伝票のバッチの作成。
ワークフロー処理	承認者は、ワーク・センターでメッセージを受け取り、バッチを承認します。承認者がワーク・センターでメッセージを選択すると、「バッチの処理」フォームが表示されます。承認者はバッチを確認し、「ロー」メニューの「バッチ承認」を選択してバッチを承認します。

ワークフロー・オブジェクト

システム	04
ワークフロー・オブジェクト名	JDEVBCCHAPR
オブジェクトID	W041016A、W041016A、W041017A、W0411A、W0411K、W0411SVA
イベント記述/関数名	Postボタンがクリックされました。
順序/行番号	49、28、31、26、85、31

付録 C

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理レポート

この付録では、買掛管理レポートの概要について説明し、次の情報を提供します。

- 全レポートの一覧表
- 主なレポートの詳細

注意: 多数の国向けに、各国固有の買掛管理レポートが用意されています。

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理のすべてのレポート

次の表に、買掛管理レポートをレポートID順に示します。

仕入先の残高についてのレポートも作成できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理 9.0 製品ガイド、「売掛管理レポートの印刷」、「顧客/仕入先残高レポートの印刷」

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R00311A 住所録例外レポート	銀行/支店マスター (F0030) に銀行/支店コードや口座番号などの該当する銀行口座情報がない JD Edwards EnterpriseOne 住所録システムの仕入先を表示します。支払手段が T または B の場合のみ、仕入先が検討されます。このプログラムを実行してもデータは更新されません。例外レポートを実行して、例外のレコードが検出された場合には、次のいずれかの処理を行う必要があります。 <ul style="list-style-type: none">• 銀行口座相互参照プログラム (P0030A) を使用して、不足している銀行口座情報を入力します。• 仕入先の支払手段を銀行口座情報を必須としない手段に変更する。	「自動支払設定」(G04411)、「住所録例外レポート」
R04305 伝票仕訳帳	伝票仕訳情報をオンラインで表示せずに、印刷したフォーマットで検討します。	「仕入先および伝票の入力」(G0411)、「伝票仕訳帳」
R04311 支払仕訳帳	支払仕訳情報をオンラインで表示せずに、印刷したフォーマットで検討します。	「支払処理」(G0412)、「支払仕訳帳」

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R04413 買掛金集計レポート	未決済伝票残高や年齢調べに関する集計情報を検討します。	「買掛管理レポート」(G0414)、「未決済買掛金集計レポート」、「買掛金集計レポート」 「期末処理」(G0421)、「未決済買掛金集計レポート」、「買掛金集計レポート」
R04413C 基準日未決済買掛金集計レポート	指定した日付時点での未決済伝票残高に関する集計情報を検討します。	「期末処理」(G0421)、「未決済買掛金集計レポート」、「基準日未決済買掛金集計レポート」 「買掛管理レポート」(G0414)、「未決済買掛金集計レポート」、「基準日未決済買掛金集計レポート」
R04423A 仕入先別買掛金明細 - 備考/金額付き	伝票情報の詳細を検討します。このレポートには、仕入先の各伝票が表示され、正味金額、支払期日、および備考が含まれます。	「買掛管理レポート」(G0414)、「未決済買掛金明細レポート」、「買掛金明細 - 備考付き」 「期末処理」(G0421)、「未決済買掛金明細レポート」、「買掛金明細 - 備考付き」
R04423B 買掛金明細 - 年齢調べ付き	年齢調べ情報とともに詳しい伝票情報を検討します。	「買掛管理レポート」(G0414)、「未決済買掛金明細レポート」、「買掛金明細 - 年齢調べ付き」
R04423C 仕入先別基準日買掛金明細	指定した日付時点での詳しい買掛金情報を検討します。	「期末処理」(G0421)、「未決済買掛金明細レポート」、「基準日買掛金明細 - 備考付き」 「買掛管理レポート」(G0414)、「未決済買掛金明細レポート」、「基準日買掛金明細 - 備考付き」
R04423D 基準日未決済買掛金明細 - 年齢調べ付き	指定した日付時点での詳しい買掛金情報を年齢調べ情報とともに検討します。	「期末処理」(G0421)、「未決済買掛金明細レポート」、「基準日未決済買掛金明細 - 年齢調べ付き」 「買掛管理レポート」(G0414)、「未決済買掛金明細レポート」、「基準日未決済買掛金明細 - 年齢調べ付き」
R04424 支払明細	支払済の伝票を識別できます。	「買掛管理レポート」(G0414)、「支払明細」
R04428A 買掛金明細 - 承認者別備考付き	仕入先の支払期日、費用仮勘定、および未決済金額を表示します。このレポートには、承認者番号別に仕入先が表示されます。	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「伝票明細レポート」、「承認者別買掛金明細(備考)」

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R04428B 買掛金明細 - 承認者別年齢調べ付き	仕入先の支払期日、費用仮勘定、未決済金額、および年齢調べ情報を表示します。このレポートには、承認者番号別に仕入先が表示されます。	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「伝票明細レポート」、「承認者別買掛金明細(年齢調べ)」
R04431 支払予定レポート	支払に必要な金額と銀行口座残高を確定できます。また、現在の予定だけでなく、将来の支払予定も検討できます。	「自動支払処理」(G0413)、「支払予定レポート」、「支払予定レポート」
R04578 支払分析レポート	支払グループの現在のすべての支払を検討します。このレポートの処理オプションを使用して、各支払の支払項目も表示できます。	「自動支払処理」(G0413)、「支払分析レポート」
R04601 重複と考えられる支払	重複する支払を特定します。	「買掛管理レポート」(G0414)、「重複の疑いのある支払」
R04602 仕入先分析	仕入先の取引履歴を検討します。	「買掛管理レポート」(G0414)、「仕入先分析」
R09313 支払記録	支払記録の追加コピーを印刷します。	「買掛管理レポート」(G0414)、「支払記録」
R09450 仕入先/顧客合計 - 勘定科目別	F0911テーブルから勘定科目の明細情報と仕入先別の合計を検討します。	「買掛管理レポート」(G0414)、「勘定科目別仕入先/顧客合計」

整合性レポート

次の表に、整合性レポートをレポートID順に示します。

R047001A 買掛金元帳と総勘定元帳の整合性(勘定科目)	F0411テーブルの転記済未決済金額とF0902テーブルの買掛金相手勘定の残高を比較します。	「期末処理」(G0421)、「買掛金 - 総勘定元帳(勘定科目)」
R04701 買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)	F0411テーブルの各バッチの総額と、それに対応するF0911テーブルのバッチの金額が一致しているかどうかを確認します。また、無効な支払状況の支払項目がないかも確認できます。	「期末処理」(G0421)、「買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)」
R04702A 支払と総勘定元帳の整合性(バッチ別)	F0414テーブルの支払金額の各バッチと、それに対応するF0911テーブルの金額のバッチが一致しているかどうかを確認します。	「期末処理」(G0421)、「買掛金元帳 - 総勘定元帳(支払)」

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理の主なレポート

一部のレポートについて、処理オプションの情報などをより詳細に説明します。この付録では、これらのレポートをレポートID順に示します。

R04305 – 伝票仕訳帳

通常、伝票仕訳情報はオンラインで検討します。より詳細な分析が必要な場合には、仕訳の印刷物を活用します。印刷した仕訳帳は、貸借不一致の解決に役立ちます。

伝票仕訳帳に表示される税額は、支払項目の税目コードおよび税率/税域に基づいて計算されます。

このレポートには、F0411テーブルとF0911テーブルの取引が一覧表示されます。F0018テーブルからの税額を確認するには、仮払税額の処理オプションを「1」に設定します。税額は、伝票が転記された場合のみ、レポートに表示されます。

このバッチ処理の処理時間は、レコードの数によって異なります。

次のテーブルには、このレポートで使用される略語カラム見出しが示されています。

略語カラム見出し	説明
Ty	伝票タイプ
PC	転記コード
LT	元帳タイプ
PS	支払状況
PI	支払手段

伝票仕訳帳 (R04305) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷オプション

勘定科目コードのフォーマット

印刷する勘定科目コードを指定します。有効値は次のとおりです。

ブランク: 入力時の番号

1: 勘定科目コード

2: 略式ID

3: 自由形式勘定科目

仮払税額

F0018テーブルからの転記済仮払税額を印刷するには、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、F0411テーブルからの税額のみが印刷されます。

R04311 – 支払仕訳帳

支払仕訳帳を印刷して、支払をオンラインではなく印刷フォーマットで検討します。

バッチの中に未転記の取引があると、バッチ別の合計額は総勘定元帳の残高と一致しません。これは、仕訳の相手科目がまだ作成されていないためです。取引が転記済にもかかわらず合計額が残高と一致しない場合は、問題の原因を特定して修正する必要があります。

このバッチ・レポートの処理時間は、F0411テーブル、買掛金照合伝票 (F0413) テーブル、および買掛金照合伝票明細 (F0414) テーブルに保存されている履歴件数によって異なります。

支払仕訳帳のデータ選択

このプログラムのデモ・バージョンで、F0413テーブルおよびF0414テーブル全体が印刷されます。日付、ユーザーID、またはその他の基準を基に、選択を絞り込むことができます。

このプログラムのユーザーIDは、支払レコードから取り込まれます。したがって、あるユーザーが入力し別のユーザーによって支払われている伝票がある場合に、ユーザーIDで絞り込むには、伝票を支払ったユーザーのIDを選択する必要があります。

支払仕訳帳 (R04311) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

ZJDEまたはXJDEのプレフィックスを持つJD Edwards EnterpriseOneのデモ・バージョンは、修正しないでください。これらのバージョンをコピーするか、または新規のバージョンを作成して、バージョン番号、バージョン・タイトル、オプションのプロンプト表示、セキュリティ、処理オプションなどの値を変更します。

印刷

1. 勘定科目コードのフォーマット

支払仕訳帳で印刷する勘定科目コードを指定します。

ブランク: 入力時の番号を印刷する。

1: 勘定科目コードを印刷する。

2: 略式IDを印刷する。

3: 自由形式コードを印刷する。

R04413 - 買掛金集計レポート

買掛金集計レポートを使用して、未決済残高および年齢調べに関する集計情報を検討します。このレポートには各仕入先に対する未決済総額が印刷されます。

このプログラムの「年齢調べ設定」処理オプションを使用して、伝票の年齢調べを開始する日付タイプとレポートに表示する年齢調べカテゴリを指定できます。

「年齢調べ設定」処理オプションをブランクにすると、残りの年齢調べ処理オプションで指定した情報が自動的に使用され、買掛管理固定情報の年齢調べ情報が上書きされます。年齢調べは、支払期日、請求書日付、または元帳日付と次のいずれかの方法を使って指定できます。

- 経過日数
- 会計期間
- カレンダー

「年齢調べ設定」処理オプションに「1」を入力すると、買掛管理固定情報で指定された年齢調べ情報が使用されます。買掛管理固定情報では、年齢調べレポートのカラムの各間隔の日数を指定します。たとえば「30、60、90、120、それ以上」という日数で間隔を設定できます。

このレポートには、F0101テーブルとF0411テーブルの情報が使用されます。

このレポートの処理時間は、F0101テーブルおよびF0411テーブルに保存されている取引の数によって異なります。ピーク時を避けてこのレポートを実行することをお勧めします。

買掛金集計レポート(R04413)のデータ順序

レポート合計は、次のデータ順序に基づきます。

1. 会社
2. 住所番号

このレポートのデータ順序は変更しないでください。

買掛金集計レポート(R04413)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

年齢調べ

このタブのデフォルト設定を変更しない場合は、買掛管理固定情報の年齢調べ設定が取り込まれます。最初の処理オプションでデフォルトの1をブランクに変更すると、このタブで入力した値が取り込まれます。

- 1. 年齢調べ設定**

一般会計固定情報テーブル(F0009)の設定を取り込むには、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、このプログラムの処理オプションから年齢調べ情報が取り込まれます。
- 2. 年齢調べ日付**

未決済残高の年齢調べに使用する日付を指定します。処理オプションの日付と伝票の日付を比較して、各取引に該当する年齢調べカテゴリが決定されます。この処理オプションをブランクにすると、現在の日付と伝票の日付を比較して、年齢調べカテゴリが決定されます。
- 3. 日付タイプ**

年齢調べ処理オプションを使用するように設定した場合に、未決済残高の年齢調べがどの伝票日付で行われるかを指定します。この日付と年齢調べ日付を比較して、各取引に該当する年齢調べ期間が決定されます。値は次のとおりです。

ブランクまたはD: 支払期日を使用して伝票の年齢調べを実行します。

G: 元帳日付を使用して伝票の年齢調べを実行します。

I: 請求書日付を使用して伝票の年齢調べを実行します。
- 4. 年齢調べ方法**

年齢調べ処理オプションを使用するように設定した場合に、年齢調べに使用される期間を指定します。

「年齢調べ設定」処理オプションで買掛管理固定情報から年齢調べ設定を取り込むように設定した場合、これらの値は無視されます。値は次のとおりです。

ブランクまたは1: 経過日数

2: 会計期間

3: カレンダー月
- 5. 経過日数(年齢調べカテゴリ1から5)**

5つの年齢調べカテゴリ処理オプションにそれぞれ年齢調べ間隔を指定します。これら5つの処理オプションを使用して、レポートの5つの年齢調べカラムが決定されます。たとえば、これら5つの処理オプションに指定された

経過日数が30-、0、30、60、90である場合、レポートの5つの年齢調べカラムは、“現行”、“1から30”、“31から60”、“61から90”、“90から”になります。

これらの処理オプションは、「年齢調べ設定」および「年齢調べ方法」処理オプションがブランクの場合にのみ適用されます。

- 6. マイナス金額の年齢調べ** 該当する年齢調べカラムに対して貸方の消込を行うには、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、年齢調べカラム“現行”に対して貸方の消込が行われます。

印刷

- 1. 支払の保留** 支払保留中の仕入先をレポート対象から除外するには、「1」を入力します。仕入先の保留状況は、F0401テーブルの支払保留コード・フィールドで指定されています。

R04423A – 仕入先別買掛金明細 – 備考/金額付き

このレポートを使用して、1つまたは複数の仕入先の詳しい伝票情報を表示します。このレポートには、各伝票の支払項目、正味金額、支払期日、および備考が未決済金額や年齢調べ情報とともに表示されます。次のいずれかのバージョンを印刷してください。

- 未決済買掛金明細 – 備考/金額付き
- 未決済買掛金明細 – 備考付き
- 未決済買掛金明細 – 定期頻度付き
- 仕入先支払情報

このレポートには、F0101テーブルとF0411テーブルの情報が使用されます。

このレポートの処理時間は、F0101テーブルおよびF0411テーブルに保存されている取引の数によって異なります。ピーク時を避けてこのレポートを実行することをお勧めします。

仕入先別買掛金明細 – 備考/金額付きのデータ選択

“仕入先別未決済買掛金明細 – 備考/金額付き”レポートでは次のデータ選択が必須です。

- 未決済金額がゼロではない。
- 支払項目変更番号がゼロである。

このレポートの必須のデータ選択はいずれも削除しないでください。行くと、エラーが発生する可能性があります。

仕入先別買掛金明細 – 備考/金額付きのデータ順序

“仕入先別買掛金明細 – 備考/金額付き”のレポート合計は、次のデータ順序に基づきます。

1. 会社
2. 住所番号

このレポートのデータ順序は変更しないでください。行くと、エラーが発生する可能性があります。

仕入先別買掛金明細 – 備考/金額付き(R04423A)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷

この処理オプションでは、レポートの印刷オプションを指定します。

- | | |
|-------------------|---|
| 1. 支払の保留 | 支払保留中の仕入先をレポート対象から除外するには、「1」を入力します。仕入先の保留状況は、F0401テーブルの支払保留コード・フィールド(HDPY)で指定されています。 |
| 2. 定期伝票情報 | 定期伝票情報を印刷するには、「1」を入力します。 |
| 3. 支払残回数 | 「定期伝票情報」処理オプションで、定期情報を印刷するように設定した場合は、レポートでハイライト表示する支払残回数を指定します。支払残回数が指定した回数以下である場合、3つのアスタリスク(***)が印刷されます。 |
| 4. 支払情報 | レポートに支払情報を印刷するには、「1」を入力します。 |
| 5. 支払金額を当初の合計に含める | 「支払情報」処理オプションで支払情報を印刷するように設定されている場合に、当初金額のカラム合計に支払金額を含めるには、「1」を入力します。 |

R04423B – 買掛金明細 – 年齢調べ付き

1つまたは複数の仕入先の伝票情報を表示するには、“未決済買掛金明細 – 年齢調べ付き”レポートを印刷します。このレポートには、未決済金額情報とともに年齢調べ情報と支払期日が表示されます。次のいずれかのバージョンを印刷してください。

- 未決済買掛金明細 – 年齢調べ付き
- 未払留保金 – 年齢調べ付き
- 未決済買掛金明細定期頻度 – 年齢調べ付き

このレポートには、F0101テーブルとF0411テーブルの情報が使用されます。このレポートの処理時間は、F0101テーブルおよびF0411テーブルに保存されている取引の数によって異なります。ピーク時を避けてこのレポートを実行することをお勧めします。

買掛金明細 – 年齢調べ付きのデータ選択

“未決済買掛金明細 – 年齢調べ付き”レポートでは次のデータ選択が必須です。

- 未決済金額がゼロではない。
- 支払項目変更番号がゼロである。

買掛金明細 – 年齢調べ付きのデータ順序

買掛金明細 – 年齢調べ付きレポートのレポート合計は、次のデータ順序に基づきます。

1. 会社
2. 住所番号

このレポートのデータ順序は変更しないでください。行うと、エラーが発生する可能性があります。

買掛金明細 – 年齢調べ付き(R04423B)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

年齢調べ

この処理オプションでは、このレポートで使用される年齢調べの基準を指定します。このタブのデフォルト設定を変更しない場合は、買掛管理固定情報の年齢調べ設定が取り込まれます。最初の処理オプションでデフォルトの1を空白に変更すると、このタブで入力した値が取り込まれます。

1. **年齢調べ設定**

一般会計固定情報テーブル(F0009)の設定を取り込むには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、処理オプションで設定された情報に基づいて取引の年齢調べが行われます。
2. **年齢調べ日付**

未決済残高の年齢調べに使用する日付を指定します。処理オプションの日付と伝票の日付を比較して、各取引に該当する年齢調べカテゴリが決定されます。この処理オプションを空白にすると、現在の日付と伝票の日付を比較して、年齢調べカテゴリが決定されます。
3. **日付タイプ**

年齢調べ処理オプションを使用するように設定した場合に、未決済残高の年齢調べに使用される伝票の日付を指定します。この日付と年齢調べ日付を比較して、各取引に該当する年齢調べ期間が決定されます。値は次のとおりです。

空白またはD: 支払期日を使用して伝票の年齢調べを実行します。

G: 元帳日付を使用して伝票の年齢調べを実行します。

I: 請求書日付を使用して伝票の年齢調べを実行します。
4. **年齢調べ方法**

年齢調べ処理オプションを使用するように設定した場合に、年齢調べに使用される期間を指定します。

「年齢調べ設定」処理オプションで買掛管理固定情報の設定に基づいて年齢調べを行うように設定した場合、この処理オプションの値は無視されます。値は次のとおりです。

空白または1: 経過日数

2: 会計期間

3: カレンダー月
5. **経過日数(年齢調べカテゴリ1から5)**

5つの年齢調べカテゴリ処理オプションにそれぞれ年齢調べ間隔を指定します。これら5つの処理オプションを使用して、レポートの5つの年齢調べカラムが決定されます。たとえば、これら5つの処理オプションに指定された経過日数が30、0、30、60、90である場合、レポートの5つの年齢調べカラムは、「現行」、「1から30」、「31から60」、「61から90」、「90から」になります。

これらの処理オプションは、「年齢調べ設定」および「年齢調べ方法」処理オプションが空白の場合にのみ適用されます。
6. **マイナス金額の年齢調べ**

該当する年齢調べカラムに対して貸方の消込を行うには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、年齢調べカラム「現行」に対して貸方の消込が行われます。

印刷

この処理オプションでは、レポートの印刷オプションを指定します。

- | | |
|--------------------------|--|
| 1. 支払の保留 | 支払保留中の仕入先をレポート対象から除外するには、「1」を入力します。仕入先の保留状況は、F0401テーブルの支払保留コード・フィールドで指定されています。 |
| 2. 定期伝票情報 | 定期伝票情報を印刷するには、「1」を入力します。 |
| 3. 支払残回数 | 「定期伝票情報」処理オプションで、定期情報を印刷するように設定した場合は、レポートでハイライト表示する支払残回数を指定します。支払残回数が指定回数以下の伝票の場合、支払残回数の横に3つのアスタリスク (***) が印刷されます。 |
| 4. 支払情報 | レポートに支払情報を印刷するには、「1」を入力します。 |
| 5. 支払金額を当初の合計に含める | 「支払情報」処理オプションで支払情報を印刷するように設定されている場合に、当初金額のカラム合計に支払金額を含めるには、「1」を入力します。 |

R04424 - 支払明細

支払明細レポートには、選択した仕入先に対するすべての支払の伝票明細が表示されます。このレポートを印刷して、支払済の伝票を識別できます。

支払明細レポートを印刷する際、次のテーブルの支払見出しと伝票明細情報が使用されます。

- 住所録マスター (F0101)
- 買掛金照合伝票 (F0413)
- 買掛金照合伝票明細 (F0414)

支払明細のデータ順序

レポート合計は、次の順序に基づきます。

1. 受取人住所番号
2. 支払/項目番号

このレポートのデータ順序は変更しないでください。変更するとエラーが発生する可能性があります。

支払明細 (R04424) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷形式

金額の印刷 レポートの支払額を外貨と国内通貨で印刷するには、「1」を入力します。ブランクの場合は、支払金額のみが表示されます。

ページの印刷 新規ページを各支払番号で開始するには、「1」を入力します。ブランクの場合、新規ページは各受取人で開始されます。

R04428A - 買掛金明細 - 承認者別備考付き

このレポートを使用して、承認者番号別に伝票明細情報を表示します。このレポートには、未決済金額とともに支払期日と費用仮勘定が表示されます。

このレポートは、「未決済買掛金明細 - 年齢調べ付き」レポートに似ています。

買掛金明細 – 承認者別備考付き(R04428A)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷

1. 支払の保留

支払保留中の仕入先をレポート対象から除外するには、「1」を入力します。仕入先の保留状況は、F0401テーブルの支払保留コード・フィールドで指定されています。

R04428B – 買掛金明細 – 承認者別年齢調べ付き

このレポートは、承認者番号別に印刷され、未決済金額とともに支払期日と費用仮勘定が表示されます。このレポートは「買掛金明細 – 承認者別備考付き」に似ていますが、年齢調べ情報の表示が可能です。

買掛金明細 – 承認者別年齢調べ付き(R04428B)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

年齢調べ

1. 年齢調べ設定

一般会計固定情報テーブル(F0009)の設定を取り込むには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、処理オプションで設定された情報に基づいて取引の年齢調べが行われます。

2. 年齢調べ日付

未決済残高の年齢調べに使用する日付を指定します。処理オプションの日付と伝票の日付を比較して、各取引に該当する年齢調べカテゴリが決定されます。この処理オプションを空白にすると、現在の日付と伝票の日付を比較して、年齢調べカテゴリが決定されます。

3. 日付タイプ

年齢調べ処理オプションを使用するように設定した場合に、未決済残高の年齢調べに使用される伝票の日付を指定します。この日付と年齢調べ日付を比較して、各取引に該当する年齢調べ期間が決定されます。値は次のとおりです。

空白またはD: 支払期日を使用して伝票の年齢調べを実行します。

G: 元帳日付を使用して伝票の年齢調べを実行します。

I: 請求書日付を使用して伝票の年齢調べを実行します。

4. 年齢調べ方法

年齢調べ処理オプションを使用するように設定した場合に、年齢調べに使用される期間を指定します。

「年齢調べ設定」処理オプションで買掛管理固定情報の設定に基づいて年齢調べを行うように設定した場合、この処理オプションの値は無視されません。値は次のとおりです。

空白または1: 経過日数

2: 会計期間

3: カレンダー月

5. 経過日数(年齢調べカテゴリ1から5)

5つの年齢調べカテゴリ処理オプションにそれぞれ年齢調べ間隔を指定します。これら5つの処理オプションを使用して、レポートの5つの年齢調べカラムが決定されます。たとえば、これら5つの処理オプションに指定された

経過日数が30-、0、30、60、90である場合、レポートの5つの年齢調べカラムは、“現行”、“1から30”、“31から60”、“61から90”、“90から”になります。

これらの処理オプションは、「年齢調べ設定」および「年齢調べ方法」処理オプションがブランクの場合にのみ適用されます。

6. マイナス金額の年齢調べ 該当する年齢調べカラムに対して貸方の消込を行うには、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、年齢調べカラム“現行”に対して貸方の消込が行われます。

印刷

処理オプションは導入時に設定されますが、プログラムを実行するたびに変更できます。

1. 支払の保留 支払保留中の仕入先をレポート対象から除外するには、「1」を入力します。仕入先の保留状況は、F0401テーブルの支払保留コード・フィールドで指定されています。

R04578 - 支払分析レポート

自動支払処理のどの時点でも、支払分析レポートを印刷して支払が正しく処理されていることを確認できます。このレポートでは、支払が書込み可能か、買掛金元帳への更新が可能かどうかが表示されます。このレポートでは、すべての支払グループのすべての支払が表示されます。

支払分析レポート(R04578)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷オプション

1. 明細伝票情報 レポートに伝票明細情報を印刷するには、「1」を入力します。
2. ビジネスユニット レポートにビジネスユニットを印刷するには、「1」を入力します。この処理オプションは、ビジネスユニット単位で支払グループを処理する場合にのみ適用されます。

R04601 - 重複と考えられる支払

支払処理の前に、重複した伝票の有無を検証できます。伝票の重複を避けるには、伝票入力時に重複の疑いのある伝票に対してエラー・メッセージや警告を表示するように、買掛管理固定情報を設定します。

伝票入力時に仕入先からの請求書番号の重複チェックを行わないように買掛管理固定情報を設定している場合は、“重複と考えられる支払”レポートを印刷してください。

このレポートの情報は、F0411テーブルから取り込まれます。このレポートに表示される伝票は、次のいずれかの基準に該当します。

- 請求書番号が重複している。
- 同じ請求書内で金額が重複している。

このレポートを実行しても、記載された伝票の状況は調整されません。

重複と考えられる支払のデータ順序

レポート合計は、次の順序に基づきます。

1. 住所番号
2. 請求書番号
3. 伝票番号
4. 伝票タイプ
5. 伝票会社
6. 支払項目
7. 支払項目変更番号

このレポートのデータ順序は変更しないでください。行くと、エラーが発生する可能性があります。

重複と考えられる支払 (R04601) の処理オプション

このレポートには、処理オプションはありません。

R04602 - 仕入先分析

このレポートを使用して、仕入先の取引活動を検討します。このレポートでは、仕入先が年累計伝票金額 (税抜総額) の多い順に表示されます。また、前年度分の伝票金額および仕入先マスター・レコードの支払保留フィールドの値も表示されます。

年累計伝票金額のカラムに現行会計年度の活動のみを表示するには、年度締め処理として年累計伝票金額の更新プログラム (R04820A) を実行する必要があります。年累計残高がゼロの仕入先は、このレポートには表示されません。このレポートの情報は、F0401 テーブルから取り込まれます。

参照: 第 5 章、「仕入先情報の入力」、「年累計伝票金額の確認」、66 ページ

仕入先分析のデータ順序

レポート合計は、次の順序に基づきます。

1. 年累計伝票金額
2. 住所番号

このレポートのデータ順序は変更しないでください。行くと、エラーが発生する可能性があります。

仕入先分析 (R04602) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

通貨

通貨

レポートを印刷する際に使用する通貨を入力します。この処理オプションをブランクにすると、米ドル (USD) が使用されます。このオプションは、多通貨オプションが有効な場合のみ使用可能です。

R09313 - 支払記録

監査用に支払記録の追加コピーが必要な場合があります。支払記録レポートは、自動支払処理時に印刷する記録に似ています。ただし、この記録の支払情報は、明細ではなく集計情報です。この記録には複数の控えがある支払や、リセットによって無効となった支払も印刷されます。

支払記録のデータ順序

レポート合計は、次の順序に基づきます。

1. バッチ番号
2. 小切手日付
3. 伝票タイプ
4. 伝票番号
5. 伝票会社
6. 住所番号

このレポートのデータ順序は変更しないでください。行くと、エラーが発生する可能性があります。

支払記録 (R09313) の処理オプション

このレポートには、処理オプションはありません。

R09450 - 仕入先/顧客合計 - 勘定科目別

勘定科目情報に基づいて特定のサービスや製品を提供している仕入先を分析するには、“仕入先/顧客合計 - 勘定科目別”レポートを印刷してください。このレポートには、F0911テーブルからの勘定科目詳細情報と仕入先別の合計が表示されます。

仕入先/顧客合計 - 勘定科目別 (R09450) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

表示

- | | |
|---------------------------|--|
| 1. 印刷する勘定科目コードのタイプ | レポートに印刷する勘定科目コードのタイプを入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 入力時の番号
1: 構造化勘定科目
2: 略式ID
3: 第3勘定科目コード |
| 2. 仕入先/顧客住所の印刷 | 仕入先または顧客の住所を印刷するには、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、仕入先や顧客の住所は印刷されません。 |

JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	<p>取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。</p>
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	<p>サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。</p>
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	<p>クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。</p> <p>“ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。</p>
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

BPEL	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
BPEL PM	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
ビルド構成ファイル	ANTスクリプトを生成するプログラムで 사용되는、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
ビルド・エンジニア	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
ビルド・プログラム	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
ビジネス・アナリスト	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
ビジネス関数	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます（在庫照会、作業オーダー発注など）。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック（Credit Check）や在庫照会（Item Availability）などがあげられます。
ビジネス関数イベント・ルール	“ネームド・イベント・ルール（NER）”の説明を参照してください。
ビジネス・サービス	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
ビジネス・サービス・アーティファクト	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
ビジネス・サービス・クラス・メソッド	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
ビジネス・サービス構成ファイル	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertiesなど（他にもある）の構成ファイルです。
ビジネス・サービス相互参照	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
ビジネス・サービス開発環境	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
ビジネス・サービス開発ツール	JDeveloperという名前でも知られています。
ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

ビジネス・サービス・フレームワーク	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
ビジネス・サービス・ペイロード	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
ビジネス・サービス・プロパティ	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
ビジネス・サービス・プロパティ・キー	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用するユーティリティAPIです。
ビジネス・サービス・プロパティ値	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
ビジネス・サービス・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
ビジネス・サービス・サーバー	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の1つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート	Cビジネス関数で使用する、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
ビジネス・ビュー	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOne テーブル(複数可)から、特定のカラムを選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定のローを選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
セントラル・オブジェクトのマージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル・サーバー	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

	Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。
チャート	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
チェックイン・リポジトリ	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
コネクタ	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間にロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
相殺/相手勘定	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
コントロール・テーブル・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
コントロール・テーブルのマージ	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
関連データ	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
コスト割当	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
原価要素	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
資格証明	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
相互参照ユーティリティ・サービス	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
セグメント間編集	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
cXML	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
データベース資格証明	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
データベース・サーバー	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

データ・ソース・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
デプロイメント・アーティファクト	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
デプロイメント・サーバー	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
明細情報	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
ダイレクト接続	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
DNT (Do Not Translate)	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
2重価格設定	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
重複した公開ビジネス・サービス承認レコード	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
編集コード	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
電子データ交換 (EDI)	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
埋込みイベント・ルール	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
従業員ワーク・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
エンタープライズ・サーバー	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

ESB (Enterprise Service Bus)	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
EnterpriseOne管理者	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
EnterpriseOne資格証明	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
EnterpriseOneオブジェクト	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
EnterpriseOne開発クライアント	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
EnterpriseOne拡張機能	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
EnterpriseOneプロセス	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
EnterpriseOneリソース	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
環境ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
エスカレーション・モニター	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
イベント・ルール	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
明示的トランザクション	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
公開されたメソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
施設、事業所	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
略式コマンド	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
ファイル・サーバー	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけでなく、ネッ

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
最終モード	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
基盤	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBJがあげられます(この他にもあります)。
FTPサーバー	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
見出し情報	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
HTTPアダプタ	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
インスタンス化	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
統合開発者	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
インテグレーション・ポイント(IP)	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
インテグレーション・サーバー	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
整合性テスト	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
インターフェイス・テーブル	“Zテーブル”の説明を参照してください。
内部メソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
インタオペラビリティ・モデル	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
エラー表示の有効化	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
IServerサービス	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
代替ラベル	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
Javaアプリケーション・サーバー	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
JDBNET	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

JDEBASEデータベース・ミドルウェア	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
JDECallObject	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
jde.ini	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
JDEIPC	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
jde.log	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
JDENET	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
JDeveloperプロジェクト	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
JDeveloperワークスペース	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
JMSキュー	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
リスナー・サービス	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
ローカル・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。
ロケーション・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
ロジック・サーバー	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
差し込み印刷ワークベンチ	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
手動コミット・トランザクション	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
マスター・ビジネス関数(MBF)	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
マスター・テーブル	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
照合伝票	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
メディア・ストレージ・オブジェクト	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
メッセージ・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
メッセージング・アダプタ	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
メッセージング・サーバー	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
中間層BPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
監視アプリケーション	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
ネームド・イベント・ルール (NER)	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
Nota Fiscal	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
Nota Fiscal Factura	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
オブジェクト構成マネージャ (OCM)	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
オブジェクト・ライブラリアン	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
オブジェクト・ライブラリアンのマージ	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
オープン・データ・アクセス (ODA)	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

出力ストリーム・アクセス(OSA)	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
パッケージ	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
パッケージ・ビルド	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
パッケージ・ロケーション	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下の子ディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
パッケージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
パスコード・ディレクトリ	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
パターン	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
プリント・サーバー	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
プリステイン環境	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
処理オプション	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールド

	<p>ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。</p>
本稼働用環境	<p>ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。</p>
本稼働レベルのファイル・サーバー	<p>品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。</p>
本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。</p>
プログラム一時修正 (PTF)	<p>JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。</p>
プロジェクト	<p>JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。</p>
プロモーション・パス	<p>ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。</p> <p>11>21>26>28>38>01</p> <p>このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。</p>
プロキシ・サーバー	<p>企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。</p>
公開ビジネス・サービス	<p>EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。</p>
公開ビジネス・サービス識別情報	<p>関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。</p>
公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。</p>
パブリッシュ済テーブル	<p>マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。</p>
パブリッシュ	<p>パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。</p>
プル・レプリケーション	<p>JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクライバとしてセットアップされます。プル・サブスクライバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクライバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。</p>

QBE	Query by Example (例示照会) の略語です。JD Edwards EnterpriseOne では、QBE 行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
リアルタイム・イベント	外部システムで使用するために EnterpriseOne のアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
リフレッシュ	新規リリースや PTF/累積アップデート・リリース (B73.2 や B73.2.1 など) に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOne ソフトウェアまたはそのサブセット (テーブルや業務データなど) を修正する機能です。
レプリケーション・サーバー	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
Rt-Addressing	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
規則	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
見積オーダー	JD Edwards EnterpriseOne 調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。 JD Edwards EnterpriseOne 受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
Secure by Default	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
SSL (Secure Socket Layer)	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSL を使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
SEI 実装	サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI) を宣言するメソッドを実装する Java クラスです。
選択項目	JD Edwards EnterpriseOne メニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して [Enter] キーを押します。
シリアルライズ	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
サーバーワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI)	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言する Java インターフェイスです。
SOA	Service Oriented Architecture の略語です。
ソフトコーディング	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
ソース・リポジトリ	HTTP アダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
スポット・レート	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2 つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

スペックのマージ	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
スペック	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
SSL証明書	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
オフライン処理	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
サブスクリイバ・テーブル	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシャ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリイバ・マシンの識別に使用されます。
スーパークラス	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。
補足データ	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
テーブル・アクセス管理(TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブル変換ディレクタ	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル変換	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル・イベント・ルール	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
ターミナル・サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
3ステップ処理	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

3方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
トランザクション処理 (TP) モニター	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
トランザクション処理方法	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です (開始、コミット、ロールバック、取消など)。
トランザクション・セット	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション (電子データ交換の標準ドキュメント) です。
トリガー	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
トリガーイベント	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
2方向認証	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
2方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
ユーザー識別情報	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
ユーザー一時変更のマージ	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
値オブジェクト	データ構造がデータを渡すのと同様のように入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開 (公開ビジネス・サービスで使用) か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
差異	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。 JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
公開ビジネス・サービスのバージョン	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
バージョン・リストのマージ	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
ビジュアル・アシスト	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
用語一時変更	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
wchar_t	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

Webアプリケーション・サーバー	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
Webサーバー	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
WSDL (Web Service Description Language)	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
WSIL (Web Service Inspection Language)	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
Webサービス・プロキシ基盤	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
Webサービス・ソフトコーディング・レコード	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
WHERE句	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部です。
Windowsターミナル・サーバー	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
ウィザード	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
ワークベンチ	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエントリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
作業日カレンダー	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
ワークフロー	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス (ワークフロー) では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
ワークグループ・サーバー	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
XAPIイベント	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XMLディスパッチ	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XMLリスト	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XMLサービス	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
XMLトランザクション	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
XMLトランザクション・サービス (XTS)	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
Zイベント	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
Zテーブル	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
Zトランザクション	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

索引

数字/記号

00/BT(銀行タイプ・コード) 14
00/DT(伝票タイプ) 12
00/DV(買掛伝票タイプ・コード) 11
00/HC(特殊取扱コード - 支払) 13
00/PS(支払状況コード) 12
00/PY(支払手段) 13
04/RC(置換文字) 14
04/SC(特殊文字) 15
1099処理
 1099買掛金ワークファイル・テーブル
 (F045143) 13
 総勘定元帳方式 20
1099処理コード 13
1つの伝票の改訂 141
AAI(自動仕訳)
 買掛管理の手形処理 20
 買掛金勘定(PC) 18
 検索順序 17
 支払銀行勘定(PB) 17
 設定 17
 総勘定元帳方式の1099(PX) 20
 費用仮伝票(PP) 19
 割引可能額(PKD) 18
 割引損失(PKL) 18
「A/B Additional Information - Revision」
 フォーム(ARG) 55
BACS支払フォーマット 176
corporate trade exchange (CTX) フォー
 マット 38
Customer Connection Webサイト xviii
EDI, 参照: 電子データ交換(EDI)
EDI請求書集計 - 受信(F47044) 125
EDI請求書見出し - 受信(F47041) 125
EDI請求書明細(F47042) 125
EDI送信ファイルへのコピー(R47057)
 使用されるテーブル 182
 データ選択 182
EDIファイルの削除(R47059) 184
EFT支払グループ 161
「Entry Voucher Additional Information」
 フォーム(POL) 80
「Entry Voucher - Payment Information」
 フォーム(POL) 94
F0030(銀行/支店マスター) 25, 59, 63

F0101Z2(住所録 - インタオペラビリ
 ティ) 231
F0101(住所録マスター) 25
F0111(住所録 - 人名録) 25
F0116(日付別住所) 63
F0401M(複数仕入先銀行口座状況) 59
F0401(仕入先マスター) 63
F0411A(基準日買掛金元帳ワークファ
 イル) 212
F0411P(買掛金元帳除去) 227
F0411Z1(伝票アップロード)
 概要 115
 支払処理の必須フィールド 237
 注意事項 117
 任意フィールド 238
 フィールドのマッピング 231
 無視されるフィールド 245
 ユーザー予約フィールド 247
 割引処理の必須フィールド 234
F0411(買掛金元帳) 225
F0413A(基準日買掛金支払見出しワー
 クファイル) 212
F0413P(買掛金照合伝票除去) 227
F0414A(基準日買掛金支払明細ワーク
 ファイル) 212
F0414P(買掛金照合伝票明細除
 去) 227
F0414(買掛金照合伝票明細テーブ
 ル) 225
F0417M仕入先の複数銀行口座タイ
 プ 59
F0417(支払 - デフォルト印刷/更新テー
 ブル) 27
F0450(受取人制御) 25
F045143(1099買掛金ワークファ
 イル) 13
F04571(買掛金支払処理 - 見出し) 148
F04572(買掛金支払処理 - 集計) 148
F04573(買掛金支払処理 - 明細) 148
F0911Z1(仕訳アップロード)
 概要 115
 収益性分析システムの必須フィール
 ド 248
 必須フィールド 247
F47041(EDI請求書見出し - 受信) 125

- F47042(EDI請求書明細) 125
- F47044(EDI請求書集計 - 受信) 125
- F750401(日本住所録タグ・テーブル) 63
- IBANの入力 47
- Oracle Demantra Predictive Trade Planningの統合 116
- P0100043(仕入先マスターMBF処理オプション) 52
- P03B11(標準請求書入力) 74
- P0400047(伝票入力MBF処理オプション) 78, 87
- P04012SS(サプライヤ・セルフサービス)
 - 概要 57
 - 処理オプション 57
- P04012(仕入先マスターの改訂) 51
- P0411SV(スピード伝票入力)
 - 処理オプション 94
 - 「スピード伝票入力」フォーム 80
- P0411S(スピード・リリース)
 - 改訂伝票 139
 - 処理オプション 140
 - 伝票の分割 139
- P0411Z1(バッチ伝票の改訂)
 - 概要 121
 - 処理オプション 122
- P0411(標準伝票入力)
 - 概要 73
 - 「勘定科目情報」フォーム 79
 - 処理オプション 80
 - 「伝票入力 - 支払情報」フォーム 79
 - 「モデル仕訳の検索/選択」フォーム 80
- P0413M(支払入力(伝票照合あり)) 194
- P042002(仮勘定の振替)の処理オプション 101
- P04571(支払グループの処理) 168
- P0457D(銀行ファイルのフロッピーディスクへのコピー) 177
- P0457(銀行テープ・ファイルのテープへのコピー) 176
- PeopleCodeの表記規則 xx
- R00311A(住所録例外レポート)
 - 説明 253
- R03B8101(定期請求書の再作成) 106
- R04110ZA(バッチ伝票処理レポート)の処理オプション 119
- R04305(伝票仕訳帳) 253
 - 概要 256
 - 処理オプション 256
- R04311(支払仕訳帳)
 - 概要 256
 - 処理オプション 257
 - 説明 253
 - 手入力支払の検討 192
- R04413C(基準日未決済買掛金集計レポート)
 - 処理オプション 214
 - 説明 254
- R04413(買掛金集計レポート)
 - 概要 257
 - 処理オプション 258
 - 説明 254
- R04423A(仕入先別買掛金明細 - 備考/金額付き)
 - 概要 259
 - 処理オプション 260
 - 説明 254
- R04423B(買掛金明細 - 年齢調べ付き)
 - 概要 260
 - 処理オプション 261
 - 説明 254
- R04423C(基準日買掛金明細(備考付き)レポート)
 - 概要 215
 - 処理オプション 215
- R04423C(仕入先別基準日買掛金明細)
 - 説明 254
- R04423D(基準日未決済買掛金明細(年齢調べ付き)レポート)
 - 概要 216
 - 処理オプション 216
 - 説明 254
- R04424(支払明細)
 - 概要 262
 - 処理オプション 262
 - 説明 254
- R04428A(買掛金明細 - 承認者別備考付き)
 - 概要 262
 - 処理オプション 263
 - 説明 254
- R04428B(買掛金明細 - 承認者別年齢調べ付き)
 - 概要 263
 - 処理オプション 263
 - 説明 255
- R04431(支払予定レポート)
 - 処理オプション 137
 - 説明 255

- R04570M(支払グループの作成) 202
 - R04570(支払グループの作成)
 - 概要 147
 - 処理オプション 153
 - データ順序の設定 151
 - 明細行の印刷 161
 - R04571(自動支払 - ドライバ印刷) 202
 - R04572J(自動支払 - 下請処理) 43
 - R04572N(自動支払 - 手形フォーマット) 39
 - R04572T2(銀行テープの作成 - CTX
フォーマット) 41
 - R04572(自動支払(小切手 - 標準形
式)) 38, 202
 - R04573(買掛小切手処理 - 特殊小切手
添付) 202
 - R04578(支払分析レポート)
 - 概要 264
 - 処理オプション 264
 - 説明 255
 - R04580(源泉徴収税の計算)
 - 概要 134
 - 処理オプション 136
 - R04586(プラス支払テキスト・ファイルの
作成)
 - 概要 208
 - 処理オプション 209
 - R04601(重複と考えられる支払)
 - 概要 264
 - 説明 255
 - R04602(仕入先分析)
 - 概要 265
 - 処理オプション 265
 - 説明 255
 - R047001A(買掛金元帳 - 総勘定元帳
(勘定科目)) 255
 - 印刷 222
 - 概要 221
 - R04701(買掛金元帳 - 総勘定元帳(当
初伝票)) 255
 - 概要 220
 - R04702A(買掛金元帳 - 総勘定元帳(支
払))
 - 印刷 221
 - 概要 221
 - R04713(支払 - 買掛金(更新))
 - 印刷 222
 - 概要 222
 - 処理オプション 222
 - R04800(支払済買掛金レコードの除去)
 - 概要 227
 - 処理オプション 229
 - データ選択 228
 - R04802(承認者/カテゴリ・コード7)
 - 概要 65
 - 処理オプション 66
 - R04803(支払手形の転記) 188
 - R048101(定期伝票の再作成レポー
ト) 108
 - R04820A(年累計伝票金額の更新)
 - 概要 66
 - 計算方法1 67
 - 計算方法2 67
 - 処理オプション 68
 - R04901A(日付ファイルの作成)
 - 概要 212
 - 処理オプション 212
 - R09313(支払記録)
 - 概要 265
 - 説明 255
 - R09450(仕入先/顧客合計 - 勘定科目
別)
 - 概要 266
 - 処理オプション 266
 - 説明 255
 - R47041(伝票の編集/作成) 128
 - R47052T(銀行テープの作成 - EDIフォー
マット)の処理オプション 42
 - R47057(EDI送信ファイルへのコピー)
使用されるテーブル 182
 - データ選択 182
 - R47058(送信データの更新) 183
 - R47059(EDIファイルの削除) 184
 - 「Work with Voucher Additional
Information」フォーム 80
 - X0450(受取人制御サーバー - 処理オ
プション(A/P Payee Control Server -
Processing Options)) 26
- あ**
- アプリケーションの基礎 xvii
 - アルゼンチン(「A/B Additional Information
- Revision」フォーム) 55
- い**
- イタリア
 - bolle doganali 220
 - SIAコード 47
 - 参照番号 47

伝票の分割 139
「一括更新」フォーム 140, 142
印刷
 受取人制御承認レポート 134
 買掛管理の基準日レポート 211
 制御データに対する変更の印刷 132
印刷順序 29
印刷プログラム
 印刷手段への割当 27

う

受取人制御
 概要 24
 承認レポートの印刷 134
 設定 25
 レコードの除去 134
受取人制御 (F0450) 25
受取人制御サーバー - 処理オプション (A/P Payee Control Server - Processing Options) (X0450) 26
売掛金/買掛金相殺 131

か

買掛管理の整合性レポート 219
買掛金支払処理 - 集計テーブル (F04572) 148
買掛金支払処理 - 見出しテーブル (F04571) 148
買掛金支払処理 - 明細テーブル (F04573) 148
買掛金集計レポート (R04413)
 概要 257
 処理オプション 258
 説明 254
買掛金照合伝票明細テーブル (F0414) 225
買掛金明細 - 承認者別年齢調べ付き (R04428B)
 概要 263
 処理オプション 263
 用途 255
買掛金明細 - 承認者別備考付き (R04428A) 254
 概要 262
 処理オプション 263
買掛金明細 - 年齢調べ付き (R04423B)
 概要 260
 処理オプション 261
買掛金元帳 (F0411)

更新のプロセス・フロー 163
支払の更新 163
承認者番号変更後の更新 65
貸借不一致 225
買掛金元帳 - 総勘定元帳 (勘定科目) (R047001A)
 印刷 222
 概要 221
 用途 255
買掛金元帳 - 総勘定元帳 (支払) (R04702A)
 印刷 221
 概要 221
 用途 255
買掛小切手処理 - 特殊小切手添付 (R04573) 202
買掛伝票タイプ・コード (00/DV) 11
買掛金元帳 - 総勘定元帳 (当初伝票) (R04701) 255
 概要 220
買掛金明細 - 年齢調べ付き (R04423B) 254
カテゴリ・コード07
 概要 65
 変更後のF0411の更新 65
仮勘定の振替 (P042002) 101
仮伝票
 概要 98
 購買オーダー伝票の振替 99
 費用仮伝票のAAI 19
 振替 98, 101
 プロセス・フローの図 99
仮伝票の例 19
「勘定科目情報」フォーム 79
関連ドキュメンテーション xviii

き

基準日買掛金明細 (備考付き) レポート (R04423C)
 概要 215
 処理オプション 215
基準日処理 211
基準日未決済買掛金集計レポート (R04413C)
 処理オプション 214
 説明 254
基準日未決済買掛金明細 (年齢調べ付き) レポート (R04423D) 254
 概要 216
 処理オプション 216

共通フィールド xxii

銀行口座

仕入先の複数銀行口座の設定 59

仕入先レコード・タイプとして使用する 60

レコード・タイプへの設定 61

銀行/支店マスター(F0030) 63

銀行タイプ・コード(00/BT) 14

「銀行ディスク書込み」フォーム 178

銀行テープ作成 - PPD形式

(R04572T1) 39

銀行テープの作成 - CTXフォーマット

(R04572T2) 41

銀行テープの作成 - EDIフォーマット

(R47052T) 42

「銀行テープの処理」フォーム 176

銀行テープ・ファイルのテープへのコピー

(P0457) 176

「銀行テープ・ファイルのテープへのコピー

- 銀行テープの処理」フォーム 167

銀行ファイルのフロッピーディスクへのコ

ピー(P0457D) 177

け

警告 xxi

「決済日付の改訂」フォーム 167, 171

源泉徴収税

源泉徴収税の計算 134

仕入先への支払 135

納税先への支払 135

源泉徴収税の計算(R04580)

概要 134

処理オプション 136

こ

ご意見 xxii

更新

買掛金元帳(F0411) 163

支払 163

固定情報

買掛管理の設定 7

概要 8

ご要望 xxii

コロンビア(外貨で保存される伝票) 106

さ

サプライヤ・セルフサービス(P04012SS)

概要 57

処理オプション 57

「サプライヤ・セルフサービス」フォー
ム 57

参照番号

イタリアにおける入力 47

ノルウェーにおける入力 47

フィンランドにおける入力 47

し

仕入先

銀行口座の設定 55

合計伝票金額の照会 66

サプライヤ・セルフサービス

(P04012SS) 57

「サプライヤ・セルフサービス」フォー

ム 57

仕入先が購買に関する情報を変更で

きるようにする 57

仕入先マスター・レコードの入力 45,

52

事前通知の使い方 49

「住所別銀行口座設定」フォーム 55

設定

源泉徴収対象 49

日本 62

複数の銀行口座 59

「複数仕入先銀行口座タイプの設定」

フォーム 61

仕入先/顧客合計 - 勘定科目別

(R09450)

概要 266

処理オプション 266

説明 255

仕入先分析(R04602)

概要 265

処理オプション 265

説明 255

仕入先別買掛金明細 - 備考/金額付き

(R04423A)

概要 259

処理オプション 260

用途 254

仕入先別基準日買掛金明細

(R04423C) 254

仕入先マスター(F0401) 63

仕入先マスターMBF処理オプション

(P0100043) 52

仕入先マスター情報

改訂 48

概要 48

削除 48

- 仕入先マスターの改訂(P04012) 51
- 「仕入先マスターの処理」フォーム 51, 52
- 仕入先レコード・タイプ 60
- 事前通知状況
 - 「仕入先マスターの改訂」フォームの使い方 49
 - 複数仕入先銀行口座状況テーブル(F0401M)での使用 14
- 自動採番
 - 買掛管理 15
 - 支払ID番号 162
 - 支払グループ 150
- 自動支払(小切手 - 標準形式)(R04572)
 - 処理オプション 38
 - 手入力支払の印刷 202
- 自動支払 - 下請処理(R04572J) 43
- 自動支払処理
 - BACSフォーマットの銀行ファイルの承認 176
 - R04570(支払グループの作成) 147
 - 印刷手段へのプログラムの割当 27
 - 印刷順序 29
 - 買掛金元帳(F0411)の更新 163
 - 概要 145
 - 書込み
 - EFT支払グループ 161
 - 支払グループ 166
 - 電子フォーマットの支払 175
 - 「決済日付の改訂」フォーム 171
 - 再書込みのための支払のリセット 162
- 作成
 - 支払 159
 - 支払グループ 147
- 事前通知コード 33
- 自動支払とその伝票の無効化 173
- 支払グループの確認 159
- 支払グループの更新 166
- 支払グループの削除 166
- 支払グループのデータ順序の設定 151
- 支払サイクルからの支払の削除処理 163
- 「支払の書込み」フォーム 172
- 支払の書込みプロセス 160
- 支払の転記 164
- 支払の取消 166
- 支払の分割 159
- 支払の無効化 173
- 「支払の無効」フォームの使用 174
- 支払のリセット 166
- 支払番号の予約 161
- 支払への会社名出力 32
- 設定 23
 - 代替受取人 161
 - デビット・メモ 159
 - 電子資金決済 33
 - 電子データ交換(EDI)
 - 設定 34
 - 伝票タイプ 146
 - 添付の印刷 161
 - バッチ・タイプ 146
- ビジネスユニット別支払情報の印刷
 - 設定 30
- 未処理支払の改訂 159
- 明細行の印刷 161
- 割引のある伝票の処理 150
- 自動支払処理のバッチ・タイプ 146
- 自動支払 - 手形フォーマット(R04572N) 39
- 自動支払 - ドライバ印刷(R04571) 202
- 支払
 - EFT支払グループの書込み 161
 - 印刷形式 38
 - 会社名出力の設定 32
 - 源泉徴収税額 135
 - 自動 145
 - 自動支払の設定 23
 - 自動処理 145
 - 支払ID番号 162
 - 支払サイクルからの削除 163
 - 支払手段コードの設定 13
 - 「支払の無効」フォームの使用 174
 - 支払番号の予約 161
 - 手入力支払 191
 - 転記処理 164
 - テープへのコピー 175
 - 分割 143
 - 前払の入力 109
 - 無効化 173
 - リセット処理 162
- 支払 - 買掛金(更新)(R04713)
 - 印刷 222
 - 概要 222
 - 処理オプション 222
- 支払記録(R09313) 255, 265
- 支払グループ
 - 書込み 166
 - 確認 159

- 「決済日付の改訂」フォーム 171
 - 更新 166
 - 削除 166
 - 作成 147
 - 自動採番 150
- 「支払グループの改訂」フォーム 172
 - データ順序の設定 151
 - プロセス・フロー 149
 - 元に戻す 166
 - リセット 166
 - レポートの確認 148
- 「支払グループの改訂」フォーム 167, 172
- 支払グループの作成 147
- 支払グループの作成(R04570)
 - 概要 147
 - 処理オプション 153
 - 明細行の印刷 161
- 支払グループの作成(R04570M) 202
- 支払グループの処理(P04571) 168
- 「支払グループの処理 - 書込み状況」フォーム 166
- 「支払グループの処理 - 更新状況」フォーム 166
- 支払グループ編集レポート 148
- 支払手段
 - 印刷プログラムの割当 27
 - 各手段 27
 - プログラムの割当 27
 - レコード・タイプへの設定 61
- 支払手段(00/PY)
 - 概要 13
- 支払状況コード(00/PS) 12
- 支払状況の確認 219
- 支払処理のリセット 162
- 支払仕訳帳(R04311)
 - 印刷 256
 - 概要 256
 - 処理オプション 257
 - 説明 253
 - 手入力支払の検討 192
- 支払済買掛金レコードの除去(R04800) 227, 229
- 支払手形 11
- 支払手形の転記(R04803) 188
- 支払 - デフォルト印刷/更新(F0417)
 - テーブル 27
- 支払入力(伝票照合あり)(P0413M) 194
- 「支払の書込み」フォーム 167, 172
- 支払の書込みプロセス 160
- 「支払の分割」フォーム(P0411S) 140, 143
- 「支払の分割」フォーム(P04572) 167, 171
- 「支払の無効」フォーム 174
- 「支払のリセット」フォーム 167
- 支払フォーマット
 - CTXフォーマット 38
 - EDIフォーマット 38
 - R04572J(自動支払 - 下請処理) 43
 - R04572N(自動支払 - 手形フォーマット) 39
 - R04572T1(銀行テープ作成 - PPD形式) 39
 - R04572T2(銀行テープの作成 - CTXフォーマット) 41
 - R04572(自動支払(小切手 - 標準形式)) 38
 - R47052T(銀行テープの作成 - EDIフォーマット) 42
 - アメリカ仕様の電子支払フォーマット 38
 - 概要 37
 - 下請処理フォーマット 38
 - 標準 38
 - 標準手形フォーマット 38
- 支払分析レポート(R04578)
 - 概要 264
 - 処理オプション 264
 - 説明 255
- 「支払見出し明細 - 書込み状況」フォーム 166
- 「支払見出し明細 - 更新状況」フォーム 167
- 支払明細
 - 支払グループの作成 147
 - 支払手段の設定 27
- 支払明細(R04424) 254
 - 概要 262
 - 処理オプション 262
- 「支払明細の処理」フォーム 166
- 「支払明細」フォーム 166
- 支払予定 137
- 支払予定レポート(R04431)
 - 処理オプション 137
 - 説明 255
- 収益性分析システム
 - F0911Z1テーブルの必須フィールド 248
- 「住所別銀行口座設定」フォーム 55

住所録からの買掛金元帳の更新 65
 「住所録の改訂(日本)」フォーム 64
 住所録マスター(F0101) 25
 住所録例外レポート(R00311A) 253
 照合伝票タイプ・コード 12
 承認者/カテゴリ・コード7の更新(R04802)
 概要 65
 処理オプション 66
 承認者番号
 変更後のF0411の更新 65
 除去
 買掛金レコード 227
 処理済バッチ伝票 124
 処理済支払の削除 163
 仕訳アップロード(F0911Z1)
 バッチ伝票処理の概要 115
 必須フィールド 247
 「仕訳入力プロンプト」フォーム 100

す

スウェーデン
 銀行口座番号 47
 チェック・ディジット 47
 伝票のID番号 91
 スピード伝票入力(P0411SV)
 処理オプション 94
 「スピード伝票入力」フォーム 80
 伝票の入力 76
 「スピード伝票入力」フォーム 80, 95
 スピード・リリース(P0411S)
 処理オプション 140
 スピード・リリースの処理フォーム 140
 伝票の改訂 139
 伝票の分割 139

せ

税
 税仕入先への源泉徴収税の支払 135
 納税先への源泉徴収税の支払 135
 請求書
 貸借不一致での入力 75
 定期 104
 定期の改訂 105
 定期の再作成 106
 定期の取消 106
 割引の入力 74
 制御データの検討と承認
 制御データの変更 132

整合性レポート
 F0411テーブルとF0911テーブルの総額の比較検証 220
 F0414テーブルとF0411テーブルの支払金額の比較 222
 F0414テーブルの金額の訂正 222
 F0911テーブルの支払の検証 221
 買掛金元帳 - 総勘定元帳(当初伝票)(R04701) 220
 貸借不一致の訂正 223
 バッチ・タイプWの整合性テスト 220
 未決済金額と買掛金相手勘定の比較 221
 製品ガイド
 注文 xviii
 設定
 買掛管理の固定情報 8
 支払印刷順序 29
 支払手段 27
 前提知識 xvii

そ

相互参照 xxi
 送信データの更新(R47058) 183

た

貸借不一致請求書 75
 代替受取人 161
 「単一支払項目の更新」フォーム 140, 141

ち

置換文字(04/RC) 14
 注意 xxi
 注意事項 xxi
 重複と考えられる支払(R04601) 255, 264

つ

追加ドキュメンテーション xviii

て

定期請求書
 概要 104
 再作成 106
 取消 106
 定期請求書の再作成(R03B8101) 106
 定期伝票
 改訂 105

- 概要 104
- 再作成 106
- 「定期伝票情報の改訂」フォーム 107
- 取消 106
- 入力 108
- プロセス・フロー 104
- 「定期伝票情報の改訂」フォーム 107
- 定期伝票の再作成レポート
(R048101) 108
- 手形
 - AAI 20
 - 買掛金元帳の更新 185
 - 概要 185
 - 決済済手形の転記 188
 - 支払済手形の決済 188
 - 支払の書込み 185
 - 未払い手形の除去 227
- 手形処理コード 11
- 手形の割合(日本向け設定) 64
- 手入力支払
 - 印刷 202
 - 概要 191
 - 関連伝票の無効化 204
 - 既存伝票なしの手入力支払 200
 - 削除 203
 - スピード伝票入力時の制約 200
 - 手入力支払の承認と転記 192
 - 伝票照合 193
 - 「未払項目の選択」フォーム 193
 - 無効化 203
- 手入力支払の伝票照合 193
- デビット・メモ
 - 支払グループの作成 147
 - 支払手段の設定 27
 - 除外 159
 - 定義と説明 27
 - 入力 75
- 電子資金決済
 - 設定 33
- 電子データ交換(EDI)
 - EDI受信伝票の削除 129
 - EDI受信伝票の転送 127
 - EDI送信ファイルへのコピー
(R47057) 182
 - EDIファイルの削除(R47059) 184
 - 受信伝票のマッピング要件 125
 - 使用されるテーブル 181
 - 設定 34
 - 送信データの更新(R47058) 183
 - 送信トランザクションの処理 181
- 送信ファイルのコピー 182
- 送信ファイルのコピーのためのデータ選択 182
- 伝票の作成 127
- 伝票
 - 3ステップ処理 69
 - EDI処理 125
 - 改訂
 - 自動支払処理のための改訂 139
 - 単一支払項目の改訂 141
 - 定期 105
 - 複数支払項目の改訂 142
 - 未転記 75
 - 仮伝票 98
 - 仮伝票の振替 98
 - 源泉徴収税額の支払 135
 - 源泉徴収税の計算 134
 - 自動支払処理での無効化 173
 - 自動支払のグループ化 147
 - 支払項目の変更 76
 - 支払状況コード(00/PS) 12
 - 支払条件の使用 74
 - 支払伝票の検討 138
 - 支払のための伝票分割 143
 - 「支払の無効」フォームの使用 174
 - スピード伝票入力(P0411SV) 76
 - 税額を表示するレポートの印刷 256
- 設定
 - 仮伝票のAAI 19
 - 仕入先の源泉徴収情報 49
 - 自動採番 15
 - 支払状況コード 12
 - スピード伝票入力(P0411SV)の処理オプション 94
 - 伝票タイプ・コード 11
 - 伝票入力MBF処理オプション
(P0400047) 87
 - 標準伝票入力(P0411)の処理オプション 80
- 定期 104
- 定期取引プロセス・フロー 104
- 定期の再作成 106
- 定期の取消 106
- 伝票タイプ - 買掛伝票のみ
(00/DV) 11
- 伝票入力MBF処理オプション
(P0400047) 78
- 「伝票入力 - 支払情報」フォーム 89
- 伝票の作成および転記時に使用する
テーブル 73

入力

- 仮勘定を使用 98
- 仮伝票 100
- 仕入先情報 52
- スピード伝票 76, 95
- 貸借不一致 75
- 単一仕入先に対する複数伝票 96
- デビット・メモ 75
- 標準伝票 89
- 標準伝票の概要 73
- 複数会社および単一仕入先 97
- 複数仕入先に対する複数伝票 96
- 複数伝票 77
- 複数の会社 78
- 前払 112
- 割引の適用 74
- 年累計金額の更新 66
- バッチ承認の標準ワークフロー 251
- バッチ伝票の処理 115
- 標準伝票入力(P0411) 73
- 「複数伝票の入力」フォーム 80
- 複数の会社 78
- 分割 139
- 前払 109
- 見出し領域と詳細グリッドの概要 74
- 未転記伝票の支払 76
- 未転記の削除 76
- 割引の管理 150
- 伝票アップロード(F0411Z1)
 - 概要 115
 - 支払処理の必須フィールド 237
 - 任意フィールド 238
 - フィールドのマッピング 231
 - 無視されるフィールド 245
 - ユーザー予約フィールド 247
 - 割引処理の必須フィールド 234
- 伝票仕訳帳(R04305)
 - 概要 256
 - 処理オプション 256
 - 説明 253
- 「伝票仕訳振替の処理」フォーム 101
- 伝票タイプ
 - 自動支払処理 146
 - 照合伝票タイプ 12
- 伝票タイプ - すべての伝票(00/DT) 12
- 伝票と請求書の相殺 131
- 伝票入力MBF処理オプション(P0400047)
 - 概要 78
 - 処理オプション 87

- 「伝票入力 - 支払情報」フォーム 79, 89, 108
- 伝票の改訂 139
- 伝票の仮勘定 19
- 伝票の支払条件 74
- 伝票のバッチ処理 117
- 伝票の分割
 - イタリア 139
 - 概要 139
- 伝票の編集/作成(R47041) 128
- 伝票の割引 150
- 添付
 - 支払グループの作成 147
 - 支払手段の設定 27
- デンマーク
 - 銀行口座番号 47
 - チェック・ディジット 47
 - 伝票のID番号 91
- 「テープ情報の更新」フォーム 178
- テープへの支払のコピー 175

と

- ドキュメンテーション
 - 関連 xviii
 - 最新版 xviii
 - ダウンロード xviii
- ドキュメンテーションのダウンロード xviii
- 特殊取扱コード - 支払(00/HC) 13
- 特殊文字(04/SC) 15
- 取引情報の処理 116
- 取引明細テーブル(F0911)(支払転記のプロセス・フロー) 165

に

- 日本
 - F750401(日本住所録タグ・テーブル) 63
 - 仕入先情報の設定 62
 - 「住所録の改訂(日本)」フォーム 64
 - 手形の割合の設定 64
 - 半金半手の支払 64
- 日本住所録タグ・テーブル(F750401) 63
- 日本の受取人住所番号 62
- 日本の手形支払条件 62
- 入力
 - 仕入先レコード 46
 - スピード伝票 95
 - 単一仕入先に対する複数伝票 96
 - 標準伝票 89

複数会社および単一仕入先に対する
伝票 97
複数仕入先に対する複数伝票 96
前払 109

ね

年度締め 66
年度末処理 66
年度末伝票金額 66
年累計伝票金額の更新(R04820A)
概要 66
計算方法1 67
計算方法2 67
処理オプション 68

の

ノルウェー
銀行口座番号 47
参照番号 47
チェック・ディジット 47
伝票のID番号 91

は

バッチ処理
バッチ伝票の検討 121
バッチ伝票の処理 116
バッチ処理のための伝票の送信 116
バッチ処理のための伝票変換 115
バッチ伝票処理レポート(R04110ZA)の
処理オプション 119
バッチ伝票の改訂(P0411Z1)
概要 121
処理オプション 122
バッチ伝票の転記 118
バッチの処理エラー 117
半金半手の支払(日本の手形の割合の
設定) 64

ひ

日付テーブル 212
日付ファイルの作成レポート(R04901A)
概要 212
処理オプション 212
日付別住所(F0116) 63
表記規則 xx
標準請求書入力(P03B11) 74
標準伝票入力(P0411)
概要 73
「勘定科目情報」フォーム 79

処理オプション 80
「伝票入力 - 支払情報」フォーム 79
「モデル仕訳の検索/選択」フォー
ム 80

ふ

フィンランド
銀行口座番号 47
参照番号
受取人ビジネス・コードの入力 47
伝票に対する入力 91
チェック・ディジット 47
付加価値税(伝票仕訳帳の金額の印
刷) 256
「複数会社 - 単一仕入先」フォーム 80,
97
「複数仕入先銀行口座タイプの設定」
フォーム 61
「複数伝票の入力」フォーム 80, 96
プラス支払
概要 207
プラス支払テキスト・ファイルの作成
(R04586) 208
プラス支払テキスト・ファイルの作成
(R04586)
概要 208
処理オプション 209

へ

ベルギー
銀行フロッピーディスクの作成 - ベル
ギー(外国)(R04572T2) 92
伝票入力 92
ペルー向けAAIの設定 18

ほ

ポーランド
74P/IM(関税カテゴリ) 79
「Entry Voucher Additional Information」
フォーム 80
「Entry Voucher - Payment Information」
フォーム 94
「Work with Voucher Additional
Information」フォーム 80

ま

前払
税情報の入力 112
伝票の入力 112

入力 109
マイナス支払項目の決済 112
「前払選択の処理」フォーム 112
例 109
「前払税」フォーム 112
「前払選択の処理」フォーム 112
マスター・ビジネス関数 (MBF) 78

み

「未払項目の選択」フォーム 193

も

モデル仕訳
入力 74
「モデル仕訳の検索/選択」フォーム 80
元帳データに対する買掛管理データの
確認 219

ゆ

ユーザー定義レコード・タイプ 60

れ

レコード・タイプ
仕入先銀行口座の設定 60
支払手段と勘定科目の関係の設
定 61
ユーザー定義コード・テーブル00/BT
の値 62
連絡先情報 xxii

わ

割引計算 74